



2020 - 2027 年度
常陸大宮市文化財保存活用地域計画



茨城県 常陸大宮市教育委員会



はじめに

私たちのふるさと常陸大宮市は、栃木県に接し、福島県にも近い茨城県北西部に位置する、水清く緑豊かな地域です。先人たちは、自分たちが置かれた環境を受け入れ、あるいは活かし、あるいは克服して、生活を営んできました。

文化財の多くは、時代ごとの人びとの必要に応じて生み出されたものです。地域に残る文化財は、私たちのふるさとの歴史そのものであり、その価値を理解しそれを守り伝えてゆくのは、私たち自身しかありません。SNS等の発達によるグローバル化によって、様々な場面で世界的な画一化が進行する現在、地域の歴史的・文化的な個性の重要性は、今後益々高まって行くことでしょう。

しかし、地域住民がこれまで暗黙の裡に必要なこととして保存継承してきた有形・無形の文化財には、地域住民の協議によって、また、無意識のうちに、近年の価値観や已むに已まれぬ社会情勢の中で不要の烙印が押され、失われるものも多いのが現実です。

よりよい文化財の保存継承には、地元住民の理解と愛着が不可欠です。そのためには、地域における文化財の存在意義を住民と共に学び捉え直し、必要性を再確認する作業が必要となります。これまで人々の心のよりどころであり、ふるさとや自分自身の誇りや自信の源でもあった様々な文化財が、無用の長物として持て余される現実は、市の未来のために回避しなければなりません。

当市では、市政の柱として郷土教育の重要性に着目した「郷育立市」を掲げ、平成29年に策定された総合計画の政策プロジェクトや施策を展開しています。また、地域住民による文化財等の地域資源を活用した自主的な地域振興活動も、市の動きに先んじて始まっており、文書館・資料館の調査や、市史編さん事業等による地域に埋もれた貴重な文化財の発見も相次いでいます。

このような動きを継続し、活発化させるため、第1次となる今回の文化財保存活用地域計画の作成に当たっては、まだまだ不十分な文化財の把握と、地域住民及び部署を越えた政策間の連携の強化による文化財の保存活用等に重点を置き、次の段階に向けて一歩足を踏み出すことを目指します。

今回の計画が、市の施策の様々な場面で文化財を活用した有効な手立てとして働き、地域住民に還元され、文化財の愛護と郷土への愛着につながる有効な手段となるよう、実現に向けて努力してまいります。

常陸大宮市教育委員会
教育長 茅根 正憲

目次

はじめに

序章

1. 計画作成の背景と目的	1
2. 文化財保存活用地域計画の位置づけ	3
3. 計画期間	4
4. 対象とする地域資源の定義	5
5. 本計画における地域・地区区分	6

第1章 常陸大宮市の概要

1. 自然的・地理的環境	
1-1 常陸大宮市の位置・面積	7
1-2 地名	8
1-3 地形・地質・水系	11
1-4 気候	16
1-5 植生	17
1-6 景観	18
1-7 自然災害の履歴	19
2. 社会的状況	
2-1 人口動態	21
2-2 産業	22
2-3 土地利用	28
2-4 交通	29
2-5 生活圏	30
3. 歴史的背景	
3-1 先史	31
3-2 古代	33
3-3 中世	34
3-4 近世	35
3-5 近現代	37

第2章 地域資源の把握及び常陸大宮市の文化財の概要と特徴

1. 地域資源把握のための各種調査	39
2. 常陸大宮市の文化財の概要	41
3. 常陸大宮市の文化財の特徴	49
4. 地域資源把握の課題と方策	50

第3章 常陸大宮市の歴史文化の特徴

1. 交わりの地	51
2. 境の地	54
3. 長期にわたる佐竹氏と水戸徳川家の支配	57
4. 特産物がもたらした富と文化と地域間の交流	59
5. 山岳信仰と二十四輩寺院	60

第4章 地域資源の保存・活用に関する課題と方針

1. 地域資源の保存に関する現状と課題	63
2. 地域資源の活用に関する現状と課題	63
3. 地域資源の保存・活用の課題に対する方針	64
4. 関連文化財群に関する事項	66
5. 文化財保存活用区域に関する事項	84

第5章 地域資源の保存・活用に関する措置

1. 地域計画と連携可能な政策と施策 91
2. 地域資源の保存・活用に関する措置 97
3. 関連文化財群の把握・保存・活用に関する措置 102
4. 文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置 108

第6章 推進体制と地域計画の進捗管理

1. 推進体制 111
2. 計画の進捗管理と自己評価の方法 113

巻末資料

1. 文化財把握調査表 117
2. 指定文化財一覧表 123
3. 未指定文化財調査表 126
4. 埋蔵文化財包蔵地一覧表 134
5. ハザードマップと指定文化財分布図 142
6. 地域計画作成に係る資料 143



泉坂下遺跡出土 人面付壺型土器(国重文)

序章

1. 計画作成の背景と目的

私たちのふるさと常陸大宮市ひたちおおみやしには、固有の豊かな自然環境や歴史に育まれた、特徴ある文化や産業・産物、人々のくらしや信仰があります。しかし、あまりにも身近な存在のために、その価値に気付く人は決して多くはありませんでした。

契機は組立式の農村舞台「西塩子の回り舞台」にししおごの復活です。わずか70世帯の西塩子地区住民が、地域活性化の切り札として半世紀の間使われなくなっていた組立舞台の復活に取り組み、舞台公開の公演に3千人もの観客を動員しました。「西塩子の回り舞台」は、ふるさとの歴史・文化を見直すきっかけとなるとともに、文化財には、農村社会の激変によって希薄となっていた地域のつながりを復活させ、人々に自信と誇りを取り戻す力がある、という事実を見せてくれました。

西塩子の地区住民を動かしたのは、すでに進行していた少子高齢化や人口流出等による人口減少がもたらす、地域衰退への危機感です。人口減少が最も顕著な美和地域では、この危機感を強く感じ、市の対応を待

つことなく自分たちの手で何とかしようと、平成23年3月に発生した東日本大震災翌年に、有志による市民団体が結成され、森林資源や中世城郭跡・町並みといった地域資源を活用してめざましい活動を展開しています。このような活動は、他地域の市民にも少なからぬ影響を与え、各地域で市民の自主的な活動が少しずつ始まっています。

そのような中、急速に進行する人口減少や少子高齢化への対策を喫緊の課題として、現行の常陸大宮市総合計画(以下「総合計画」という)が策定され、まちづくりの基本理念として「郷育立市」きょういくりつしを掲げました。これは、ふるさとの歴史・文化・自然を学び舎として人をつくり、まちづくりにつなげるという、郷土教育に重きを置いた考え方であり、総合計画の大綱のひとつに「魅力ある資源を生かした活力と誇りあふれるまち」を掲げ、「誇れるものづくりの推進」や「魅力ある観光の振興」を施策としてあげています。

一方、文化財行政を担う教育委員会では、平成29年



西塩子の回り舞台地芝居公演の来場者

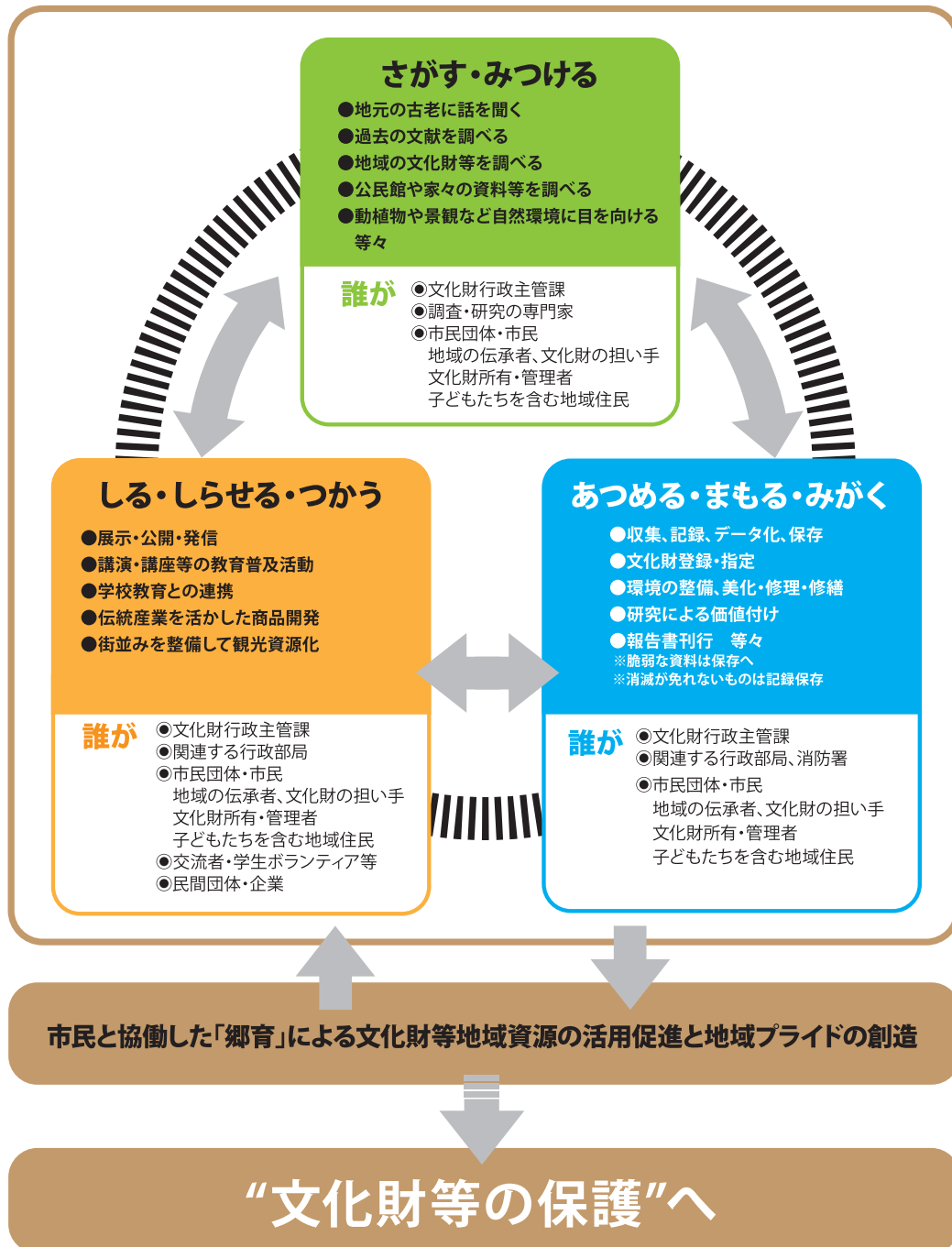
度から本格的に始まった市史編さん事業、同年、出土品が重要文化財、遺跡が国史跡に相次いで指定された泉坂下遺跡^{いずみさかした}の整備、そして、分散して収蔵されている資料の一元化、及び重要文化財等貴重資料の保存・展示に適した施設の整備といった課題に直面しており、それらを実現するための効果的・効率的な方策の検討が求められていました。

これら、文化財行政の課題を市の施策と有機的に融合して、中・長期的な計画を立てるとともに、地域活性化につながる他部署の諸施策と連携を図って文化財等の

活用を進めることを具体的に示し、実行するきわめて有効な手立てとして、「常陸大宮市文化財保存活用地域計画」(以下「地域計画」という)を作成するものです。

まちづくりに文化財行政からアプローチする当地域計画が、文化財の保護につながり、地域を活性化させる新たな好循環のエネルギーとなって、子どもたちへ引き継がれていくことを目指し、**市民と協働した「郷育」による文化財等地域資源の活用促進と地域プライドの創造**を地域計画の目的とします。

図2-1 地域計画の事業イメージと推進体制



2. 文化財保存活用地域計画の位置づけ

文化財保護法第183条の3の規定に基づき、「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」（平成31年3月4日 文化庁）に即した計画とします。

当地域計画は、市の上位計画である総合計画と常陸大宮市教育振興基本計画の下に位置づけられるとともに、国指定文化財の保存活用に関する個別計画や、文化財文化行政に関わるすべての諸施策を包括する

計画です。

また、市の各部署が策定した個別計画のうち、地域の歴史・文化・自然などに関する教育普及・周知に利するもの、文化財等の保全や災害時の対応、及び文化財行政に関わる施設等の整備に関わるもの、文化財を含む様々な地域資源の利活用が可能な施策に言及している個別計画等は表3-1のとおりです。

表 3-1 地域計画と関連する個別計画等

分野	関連する個別計画等	
常陸大宮市総合計画基本計画	子ども子育て・教育・生涯学習	常陸大宮市教育振興基本計画 常陸大宮市教育大綱 常陸大宮市子ども・子育て支援事業計画 常陸大宮市スポーツ推進計画
	医療・福祉・防災	第2期常陸大宮市地域福祉計画 第3次健康常陸大宮21計画 常陸大宮市第7期介護保険事業計画 常陸大宮市地域防災計画
	土地利用・社会基盤・環境・安全対策	常陸大宮市都市計画マスタープラン 常陸大宮市駅周辺開発計画 常陸大宮市住生活基本計画 常陸大宮市空家等対策計画 常陸大宮市地域情報化推進計画 常陸大宮市シティプロモーション指針 常陸大宮市環境基本計画 常陸大宮市公共施設等総合管理計画 森を活かしたまちづくり提言集 地域公共交通網形成計画
	自治・まちづくり	新市まちづくり計画 郷育立市 常陸大宮市の未来を拓くまちづくりプラン—常陸大宮市創生総合戦略— 市民協働のまちづくり指針 常陸大宮市行財政改革大綱 常陸大宮市過疎地域自立促進計画 常陸大宮市地域創生まちづくり指針
	産業・観光	常陸大宮市田園環境整備マスタープラン 常陸大宮市農業振興地域整備計画 常陸大宮市森林整備計画変更計画書

3. 計画期間

計画期間を平成29年度(2017年度)から令和3年度(2021年度)の5年間としている現行の総合計画基本計画に準拠するとともに、次期総合計画基本計画を地域計画に反映し、教育振興基本計画と歩調を合わせるために、**第1次常陸大宮市文化財保存活用地域計画の計画期間を、令和2年度(2020年度)から令和9年**

度(2027年度)の8年間とします。

なお、計画期間の半期4年で事業評価と見直しを行い、第2次地域計画からは、総合計画基本計画と連動させ、計画期間を10年間、事業評価および見直しを5年で行います。(詳細は第6章)

表 4-1 市の上位計画及び計画期間と地域計画

常陸大宮市総合計画

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
基本構想	→														
基本計画	→					→					→				
重点 事業計画	→			→			→			→			→		
	→		→			→			→			→			
	→			→			→			→			→		

常陸大宮市創生総合戦略

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
計画期間 ※随時事業等 見直し	→			→			→			→			→		

常陸大宮市教育振興基本計画

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
計画期間	→					→									
事業評価 ・見直し	→			→			→			→			→		

常陸大宮市文化財保存活用地域計画

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
計画期間			作成	→ 第1次地域計画(8年間)								→ 第2次地域計画(10年間)			
事業評価 ・見直し				→ 4年				→ 4年				→ 5年			

4. 対象とする地域資源の定義

常陸大宮市特有の歴史・文化を育んできた自然環境や社会的環境、そしてその環境の中で生み出された未指定も含む有形・無形の文化財や埋蔵文化財、文化財類型には当てはまらない郷土料理や方言等の生活文化や様々な産業・産物・伝承及び自然環境などを、すべて

の世代の市民が親しみをもって認識する一助となるよう「常陸大宮コレクション(みや・コレ)」と総称します。このうち当地域計画で対象とするのは、人為を及ぼすことが困難な地形・地質・気候などを除く地域資源です。(表5-1)

表5-1 常陸大宮コレクションの定義 ー常陸大宮市の地域資源ー

常陸大宮コレクション「みや・コレ」(常陸大宮市の地域資源)

人の力を及ぼすことが困難な自然環境

平地と山地の境、少雨冷涼な気候、地質、谷津の多い地形、那珂川と久慈川が近付いて流れている など

地域計画で対象とする地域資源

※()内は当市の具体例

文化財保護法で示された文化財

有形文化財	建造物(寺社の建物・間宮家住宅等民家など) 絵画及び彫刻(蒼泉寺板戸絵・各寺仏像など) 工芸品(能面・刀剣など) 書跡類及び典籍類(経典など) 古文書類(区有文書など) 歴史資料(佐竹義昭奉加帳・三大江堰関連資料など)
無形文化財	芸能 工芸技術(西の内紙、漆芸など)
有形の民俗文化財	(組立式舞台・紙漉き用具・絵馬など)
無形の民俗文化財	(祭礼行事・民俗芸能など)
民俗技術	(舟大工・伝統漁法など)
史跡	(泉坂下遺跡・城跡・南郷道・江堰など)
名勝	(庭園・橋・景勝地など)
天然記念物	(鏡岩・巨樹・化石など)
伝統的建造物群	(高部宿など)
文化的景観	(久慈川の災害防備林と美田など)
埋蔵文化財	(古墳・城跡・埋蔵文化財包蔵地など)



その他の地域資源

伝統的な産物	(メノウ・サケ・アユ・那須楮・漆・木材など)
伝統産業	(製紙・養蚕・農業・林業・漁業・製茶・酒造など)
生活文化	(食文化・方言・伝承などの風俗習慣)
景色	(谷津田・里山・まちのたたずまいなど)

5. 本計画における地域・地区区分

本計画における地域及び地区の区分は、平成16年の市制施行以前の町村名を地域とし、昭和30年代の町村

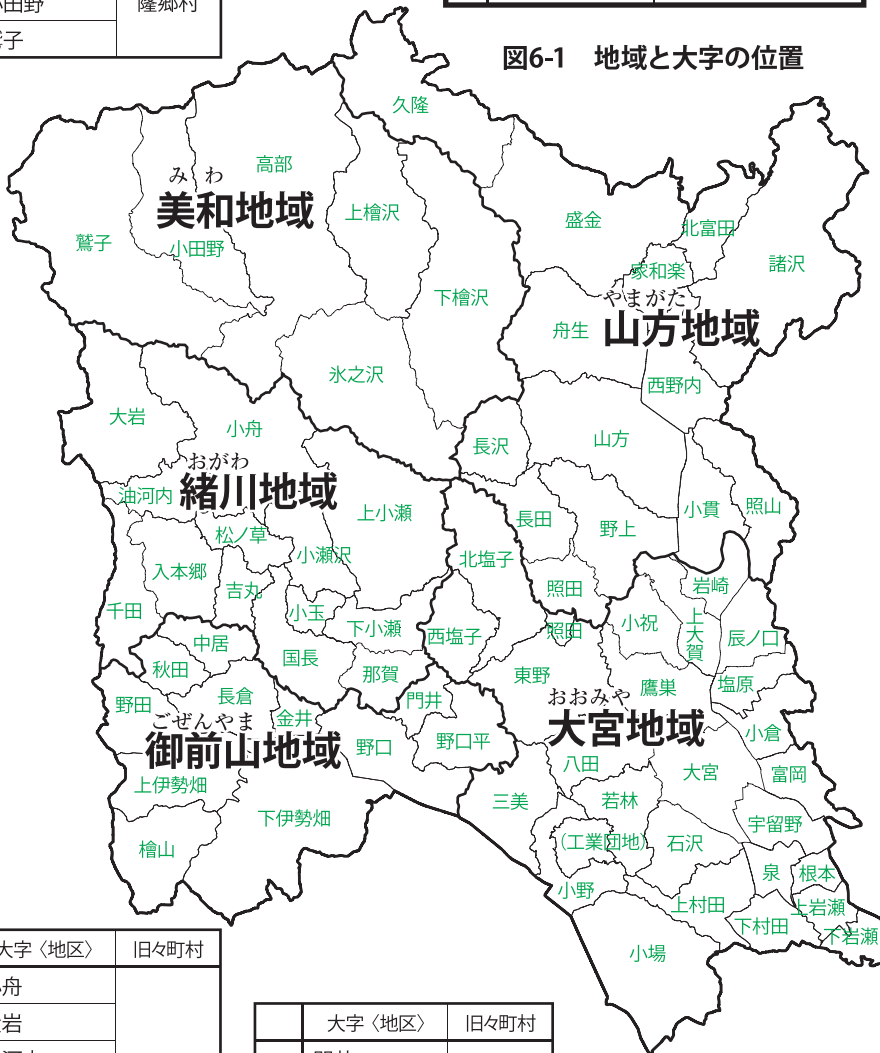
合併以前の町村下の大字名を地区として記載します。

	大字〈地区〉	旧々町村
美和地域	下檜沢	檜沢村
	上檜沢	
	氷之沢	隆郷村
	高部	
	小田野	
	鷺子	

	旧町村〈地域〉	旧町村時に属した郡
常陸大宮市	大宮町	那珂郡
	山方町	那珂郡
	美和村	那珂郡
	緒川村	那珂郡
	御前山村	東茨城郡

	大字〈地区〉	旧々町村
山方地域	諸沢	諸富野村
	北富田	
	西野内	下小川村
	家和楽	
	久隆	山方村
	盛金	
	舟生	
	山方	
	野上	
	小貫	
	照山	世喜村
	照田	塩田村
長田		
長沢		

図6-1 地域と大字の位置



	大字〈地区〉	旧々町村
緒川地域	小舟	八里村
	大岩	
	油河内	
	松ノ草	
	千田	
	入本郷	
	吉丸	小瀬村
	小瀬沢	
	小玉	
	上小瀬	
	下小瀬	
	那賀	
国長		

	大字〈地区〉	旧々町村
御前山地域	門井	野口村
	野口平	
	野口	
	金井	長倉村
	長倉	
	中居	
	秋田	伊勢畑村
	野田	
	下伊勢畑	
上伊勢畑		
檜山		

	大字〈地区〉	旧々町村
大宮地域	辰ノ口	世喜村
	塩原	
	小倉	
	富岡	
	岩崎	
	上大賀	
	小祝	玉川村
	鷹巣	
	東野	
	八田	塩田村
	北塩子	
	西塩子	塩田村
	照田	
	大宮	大宮町
	宇留野	上野村
	泉	
	根本	
	上岩瀬	
	下岩瀬	静村
	下村田	
上村田		
石沢	大場村	
小場		
小野		
三美		

第1章 常陸大宮市の概要

1. 自然的・地理的環境

1-1 常陸大宮市の位置・面積

本市は、茨城県の北西部に位置し、北は久慈郡^{だいご}大子町及び栃木県那須郡那珂川町、東は常陸太田市、南は那珂市及び東茨城郡^{しろさと}城里町、西は栃木県那須郡^{もてぎ}那珂川町と那須烏山市及び芳賀郡茂木町に接しています。

市域は東西約20.8km、南北約26.4km、面積348.45m²で、茨城県で常陸太田市に次ぐ広さを持ち、県の面積の5.7%を占めています。

図7-1 常陸大宮市の位置



(地理院地図 / GSI Maps)



(地理院地図 / GSI Maps)

■地方	関東地方
■都道府県	茨城県
■面積	348.45km ²
■総人口	39,904人
■人口密度	115人/km ² (43位/44)
■人口密度(茨城県)	487.2人/km ² (12位/47)
■人口密度(日本)	335人/km ²

(出典 / 茨城県庁 令和元年(2019年)10月1日現在)

1-2 地名

古代

茨城県内の地名を記した史料で最も古いものは、奈良時代8世紀にまとめられた『常陸国風土記』、次いで平安時代中期10世紀にまとめられた『倭名類聚抄』です。現在の常陸大宮市域は久慈郡と那賀郡に属し(図8-1)、郷名の比定地については、近世より現代まで様々な説がありますが、幕末から明治時代初期に編さんされた『新編常陸国誌』の説に従うと、表8-1となります。

図 8-1
常陸国郡里図



(『県史 8 茨城県の歴史』1997 山川出版 常陸国郡里図に加筆)

表8-1 『新編常陸国誌』による古代の郡・郷及び市内比定地

郡	郷名	市内比定地 * ()内現在の地名
那賀郡	朝妻郷	鷺子、小田野、入檜沢(高部)、高部、上檜沢、下檜沢、氷之沢、大岩、小舟、入本郷、油河内
	那賀(珂)郷	千田、吉丸、松之草、小玉、小瀬沢、下小瀬、法性寺(下小瀬)、上小瀬、国長、那賀、野田、秋田、中居、福岡(中居)、長倉、上路部(金井)、大島(野口)
	川辺郷	野口、野口平、門井、三美、小野、忠中戸(小場)、小場、高野(上村田)
	阿波郷	檜山、上伊勢畑、下伊勢畑
久慈郡	餘部郷	田野(北富田)、諸沢
	河内郷	梶畑・長貫(家和楽)、舟生、山方、押沼生井沢・東谷・釜額(照山)、小貫、辰ノ口
	楊島郷	塩原、小倉、榎村(富岡)
	八部郷	野上、上寺田(長田)、下寺田(照田)、北塩子、西塩子、八田、菅又(若林)、引田、岩崎、上大賀、別所(小祝)、小祝
	真野郷	久慈窪(久慈岡)、上根本横瀬(鷹巣)、東野、部垂(大宮)、宇留野、前小屋(泉)、下根本(根本)
	倭文郷	上岩瀬、下岩瀬、上村田、下村田、石沢

中世

律令制崩壊後から中世にかけて、地名に関する史料として、まとまったものはありません。その中で、14世紀中頃佐竹氏の当主であった義篤が所領を嫡子及び庶子等に配分譲渡するために2度にわたり書き記した「佐竹義篤讓状」(秋田県公文書館蔵 秋田藩家蔵文書)に、現在の地名にもつながる記述を見ることができます(表8-2)。12世紀以降、江戸幕府の成立まで、ほぼ佐竹氏が支配していた当市域を含む茨城県北部は、奥七郡と呼ばれ、常陸大宮市域はそれぞれ川を境とした、那珂東郡・西郡、久慈東郡・西郡に属していました。(図8-2)

図 8-2
13世紀頃の常陸国の支配状況



(『茨城の歴史』佐竹氏支配地に加筆)

表 8-2 佐竹義篤讓状にみえる市内の地名

郡名	郷・村名	市内比定地
那珂西	伊勢畑郷	上伊勢畑、下伊勢畑
那珂東	小庭村	小場
久慈西	塩子郷	北塩子、西塩子
	遠野村	東野
	岩崎郷	岩崎
	別所村	小祝(富谷)
久慈西	小岩井村	小祝
	久慈窪村	久慈岡
	下横瀬村	鷹巣
	上岩瀬郷	上岩瀬
	上村田郷	上村田
	下村田村	下村田

近世～現代

現在、大字名として使われている地名のほとんどは、近世村を単位としており、多くが村名を大字名称に引き継いでいます。しかし、村の名称にも変遷があり、江戸時代に村の合併によって村名が消失した例や、また、たびたび水害に見舞われる川沿いの村が村名に”岡”を付けるなど、少しでも災いを避けるための改称、部垂村のように「尻垂れ」と失笑されるのを村民が嫌い大宮村

への改称を藩に願って認可された例などもあります。また、仏教を排斥した幕末の水戸藩主徳川斉昭の命によって、寺のつく村名の変更を余儀なくされ、下・上寺田村は照田村と長田村に名を改めました。

近世(元禄期)から、現在までの村名等の変遷は、表9-1のとおりです。

表9-1 近世から現代までの村名等の変遷

元禄郷帳(1702)による村名		江戸期に変更のあった村名	明治20年(1886)『地方行政区画便覧』による町村名	明治の大合併(注1)による町村名	昭和の大合併(注2)による町村名と大字名	現在
久慈郡	諸沢村(もろざわむら)	天保13年富根村と盛金村の一部を合して北富田村(きたとみたむら)となる	諸沢村	諸富野村(もろとのむら)	諸沢	常陸大宮市
	田野村(たのむら)		北富田村		北富田 ※一部は大子町	
	西野内村(にしのうちむら)		西ノ内村		西野内	
	梶畑村(かぢはたむら)	天保13年家和楽村(やわらむら)となる	家和楽村	下小川村(しもおがわむら)	家和楽	
	長貴村(ながぬきむら)		久隆村		久隆	
	下小川村(しもおがわむら)	天保13年村名を盛金村と改める	下小川村		盛金 ※一部は大子町	
那珂郡	舟生村(ふにゅうむら)		舟生村	山方村(やまがたむら)	舟生	
	山方村(やまがたむら)		山方村		山方	
	野上村(のがみむら)		野上村		野上	
久慈郡	小貴村(おぬきむら)	天保13年照山村(てるやまむら)となる	小貴村	世喜村(せきむら)	小貴	
	押沼村(おしぬまむら)		照山村		照山	
	生井沢村(なまいざわむら)					
	東谷村(とうやむら)					
	釜額村(かまぬかむら)					
那珂郡	下寺田村(しもてらだむら)	天保13年照田村(てるだむら)と改称	照田村	塩田村(しおたむら)	照田※	
	上寺田村(かみてらだむら)	天保13年長田村(おさだむら)と改称	長田村		長田	
	長沢村(ながさわむら)		長沢村		長沢	
	下檜沢村(しもひざわむら)		下檜沢村	檜沢村(ひざわむら)	下檜沢	
	上檜沢村(かみひざわむら)		上檜沢村		上檜沢	
	氷之沢村(ひのさわむら)		氷之沢村		氷之沢	
	高部村(たかぶむら)		高部村	隆郷村(りゅうごうむら)	高部	
	入檜沢村(いりひざわむら)	天保年中に高部村に合併	小田野村		小田野	
	小田野村(おだのむら)		鷺子村	鷺子村(たづこむら)	鷺子	
	鳥子村(とりごむら)	鷺子村(天保郷帳記載の村名)	小舟村		八里村(やさとむら)	
	小舟村(こぶねむら)	小船村(天保郷帳記載の村名)	大岩村			
	大岩村(おおいわむら)		油河内村			
	油河内村(ゆごうとむら)		松ノ草村			
	松野草村(まつのかさむら)		千田村			
	千田村(せんだむら)		入本郷村			
	入本郷村(いりほんごうむら)		吉丸村			
	吉丸村(よしまるむら)		小瀬沢村			
	小瀬沢村(おせざわむら)		小玉村			
	小玉村(おだまむら)		上小瀬村			
	上小瀬村(かみおせむら)		下小瀬村	小瀬村(おせむら)		
	下小瀬村(しもおせむら)		那賀村			
	法性寺村(ほうしょうじむら)	天保13年下小瀬村に合併	国長村			那賀
	那賀村(なかむら)					国長
	国長村(くにおさむら)					

久慈郡	辰野口村(たつのくちむら)		久慈郡	辰ノ口村	世喜村 (せきむら)	那珂郡大宮町	辰ノ口	常陸大宮市
	塩原村(しおばらむら)			塩原村			塩原	
	小倉村(おぐらむら)			小倉村			小倉	
	櫻村(かしむら)	寛延2年富岡村(とみおかむら)と改称		富岡村			富岡	
那珂郡	岩崎村(いわざきむら)		那珂郡	岩崎村	大賀村 (おおがむら)	那珂郡大宮町	岩崎	常陸大宮市
	久慈窪村(くじくぼむら)	宝暦4年久慈岡村と改称、天保13年上大賀村に合併		上大賀村			上大賀	
	上大賀村(かみおおがむら)			小祝村			小祝	
	小祝村(こいわむら)			鷹巣村			鷹巣	
	別所村(べっしょむら)	天保寛政12年富谷村(とみやむら)と改称、天保13年小祝村に合併		東野村	東野			
	横瀬村(よこせむら)	天保13年鷹巣村(たかすむら)となる		八田村	八田			
	上根本村(かみねもとむら)			若林村	若林			
	東野村(とうのむら)			北塩子村	北塩子			
	八田村(はったむら)			西塩子村	西塩子			
	菅又村(すがまたむら)	天保13年若林村(わかばやし)となる		大宮村	大宮町			
	引田村(ひきたむら)			宇留野村	宇留野			
	北塩子村(きたしおごむら)			泉村	泉			
	西塩子村(にししおごむら)			根本村	根本			
				上岩瀬村	上岩瀬			
	部垂村(へたれむら)	天保14年大宮村(おおみやむら)と改称		下岩瀬村	下岩瀬			
	宇留野村(うるのむら)			下村田村	下村田			
	前小屋村(まえこやむら)			上村田村	上村田			
	下根本村(しもねもとむら)	天保13年根本村(ねもとむら)と改称		石沢村	石沢			
	上岩瀬村(かみいわせむら)			小場村	小場			
	上岩瀬村(かみいわせむら)	文政6年泉村(いずみむら)と改称		小野村	小野			
	下岩瀬村(しもいわせむら)			三美村	三美			
	下村田村(しもむらたむら)			門井村	門井			
	高野村(こうやむら)	天保年間上村田村に合併		野口平村	野口平			
	上村田村(かみむらたむら)			野口村	野口			
	石沢村(いしざむら)			金井村	金井			
	忠中戸村(ちゅうなかどむら)			長倉村	長倉			
	向山村(むこうやまむら)	天保13年小場村に合併		中居村	中居			
	小場村(おばむら)			秋田村	秋田			
	小野村(おのむら)			野田村	野田			
	三美村(さびむら)	明和元年福嶋村(ふくしまむら)と改称、天保13年三美(みよし)村と改称		下伊勢畑村	下伊勢畑			
	門井村(かどいむら)			上伊勢畑村	上伊勢畑			
	野口平村(のぐちたいらむら)			檜山村	檜山			
	大畑村(おおはたむら)	大畑村(天保郷帳にある村名)、天保13年野口村に合併						
	野口村(のぐちむら)							
土路部村(とろべむら)	元禄15年金井(かない)村と改称							
長倉村(ながくらむら)								
中居村(なかいむら)								
福岡村(ふくおかむら)	天保13年中居村に合併							
秋田村(あきたむら)								
野田村(のだむら)								
東茨城郡	下伊勢畑村(しもいせはたむら)	東茨城郡	伊勢畑村(いせはたむら)	東茨城郡御前山村	下伊勢畑	常陸大宮市		
	上伊勢畑村(かみいせはたむら)				上伊勢畑			
	檜山村(ひやまむら)				檜山			

注1/明治22年(1889)市町村制施行 注2/昭和28年(1953)町村合併促進法公布
 ※昭和の大合併時に大字照田の一部は大宮町と合併して大宮町大字照田となり、山方町大字照田と分かれる

1-3 地形・地質・水系

地形【関東平野と山地との境界】

常陸大宮市域は、福島県白河市南部から、筑波山に至る八溝山地を切る那珂川沿いの山裾や久慈山地の南端と、関東平野周縁台地北端の境界部に位置し、概ね北に行くほど標高が高く、南東部が低くなっています。最も高い鷲子山塊の尺丈山の標高は512m、最も低い玉川が久慈川に合流する付近の低位段丘に位置する水田の高さは15～20mほどです。中心市街地は、久慈川と玉川に挟まれた、大宮台地と呼ばれる標高30～50mの舌状の中位段丘上に展開しています。

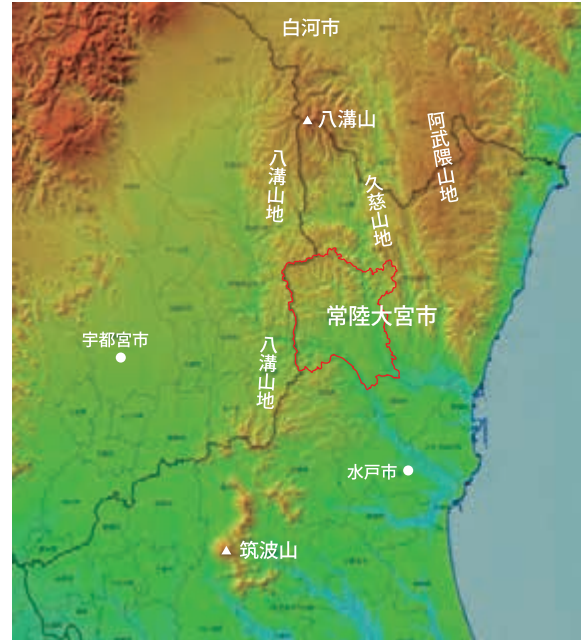
市域の東に久慈川、南に那珂川が、中央部を緒川と玉川が流れ、北西部からその流れに沿って広大で起伏に富んだ山地、丘陵及び畑作地帯と続き、南東部の河川流域の低位段丘には、近世の大規模灌漑施設の整備によって水田地帯が開けています。

市北東域の急峻で水持ちの悪い岩稜の久慈山地を除き、市内の山々は緑が深く水が豊かで、多くの谷川が毛細血管のように市域を流れて那珂川と久慈川の水系を形成しています。

市内各所は、谷川の浸食によって“谷津”^{やっ}とよばれる

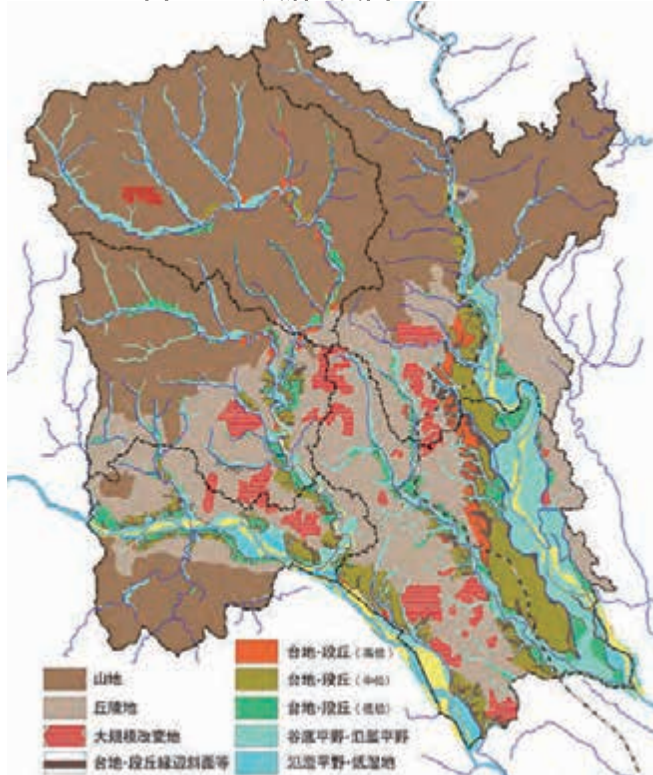
湿地が複雑に発達しており、多くが水田に利用されてきました。市内の農村集落の多くは、この谷津田と高台の居住地と畑及びその背後にある平地林や里山で構成されています。

図 11-2 周辺地形図



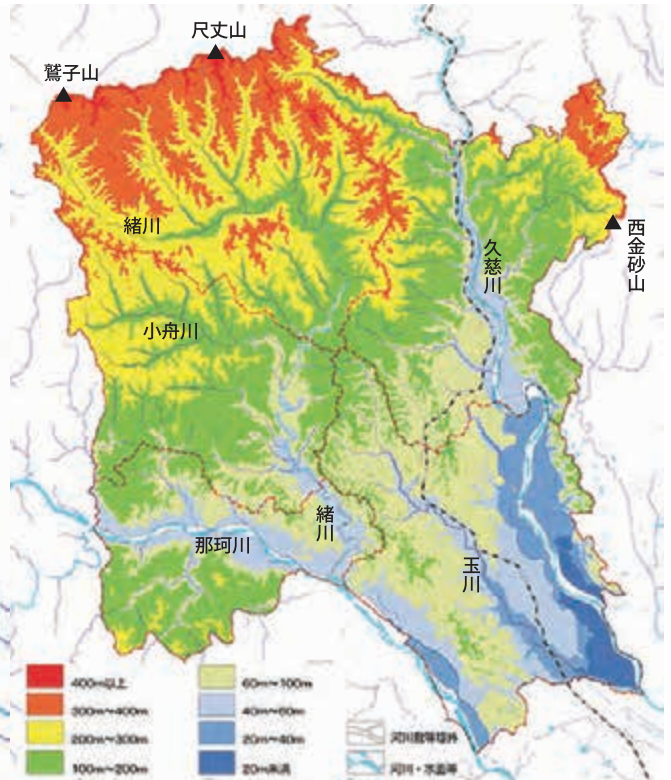
(地理院地図 / GSI Maps)

図 11-1 表層地質図



(常陸大宮市 HP より)

図 11-3 標高図



(常陸大宮市 HP より)

図12-1 地形断面図(距離:高さ=1:10)

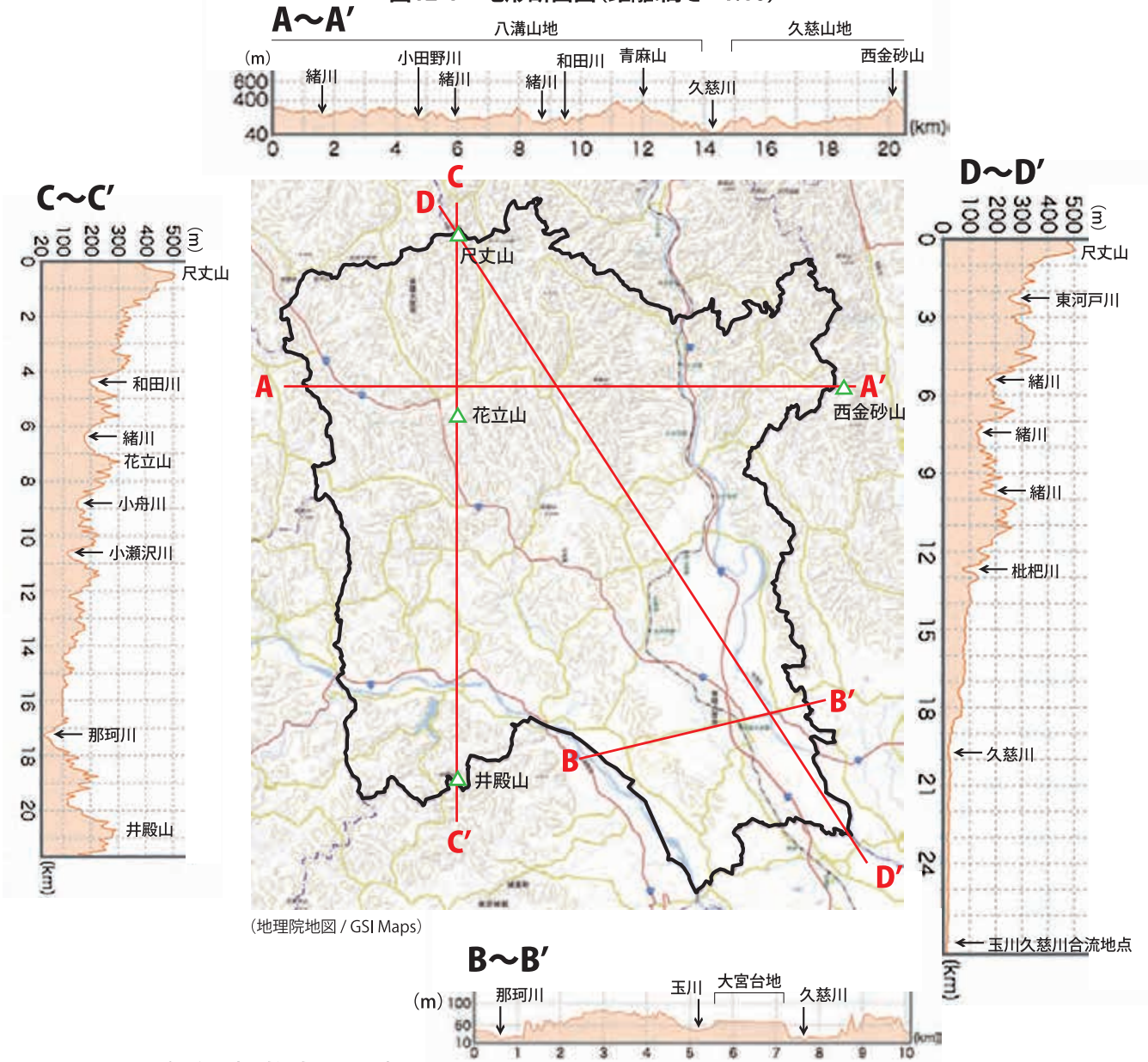
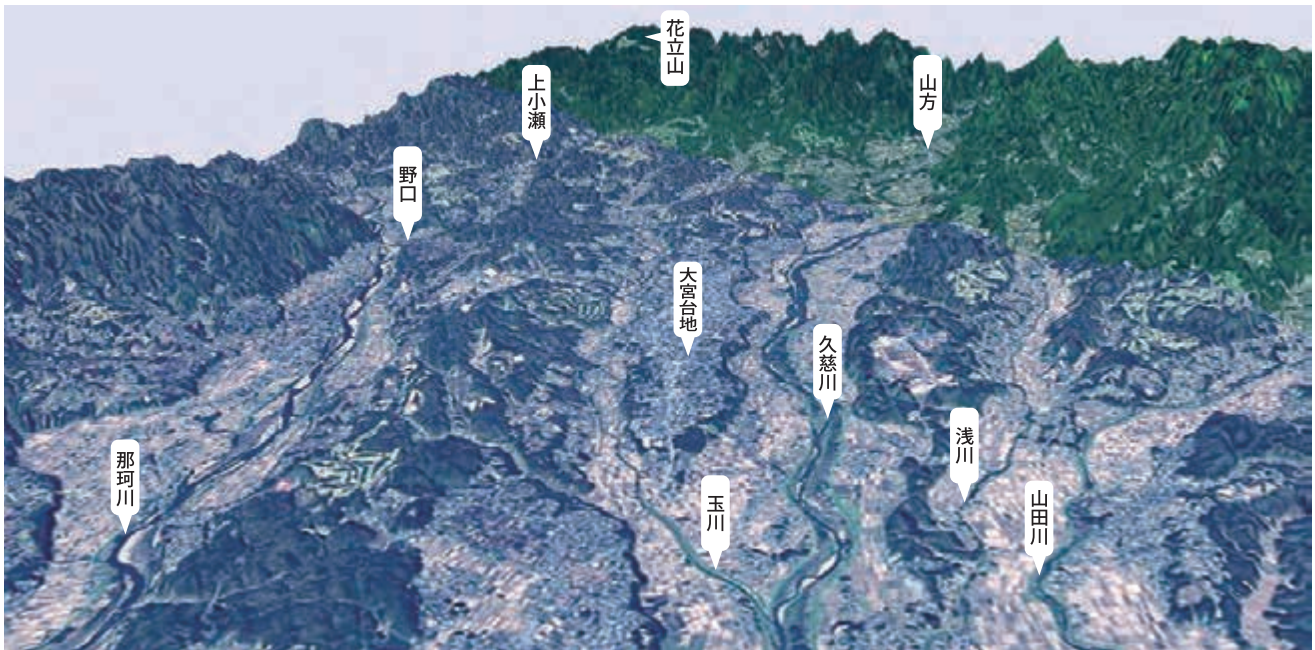


図 12-2 3D 鳥瞰図(距離:高さ=1:5)



(地理院地図 / GSI Maps)

地質【多彩な鉱物の存在】

常陸大宮市の大地は、1億5,000年以上前の海底で堆積した中生代ジュラ紀の地層を基盤として形成され、その上位には、1,700万年以前から300万年前頃に堆積した、新生代第三紀中新世から鮮新世に至る陸や海的环境下で堆積した地層が分布し、さらにその上位には、約30万年前から現在までの間に、久慈川や那珂川が堆積させた地層や関東ローム層など、新生代第四紀の地層が分布します。

堆積環境の変遷を簡潔に示すと、海 → 陸(湖→川) → 海(浅海→深海→浅海) → 陸(一部河川)となります。

特に、新生代新第三紀は、日本列島が大陸から分離し、日本海が形成されるといった日本列島の基礎が形成される時代で、海底火山を含む大規模な火山噴火、基盤の隆起と沈降、巨大地震と断層の形成などが全国規模で頻発していました。この時期に形成された、東隣の常陸太田市を南北に流れる久慈川の支流、山田川と里川沿いにある東西の棚倉断層は、茨城県から山形県酒田市を経て樺太方面に延びる、棚倉構造線とも呼ば

れる大断層で(図13-1)、未だ明確な結論の出ていない地質学上の南西日本と東北日本を分ける構造線であると位置付ける研究者も少なくありません。

その西側の境に位置する常陸大宮市には、大陸縁辺であった時代に海洋プレートが大陸プレートに沈み込むときに剥ぎ取られ付加されたチャートや石灰岩及び、棚倉構造線の活動の影響下で形成された、「大谷石」と同類の火砕流堆積物の凝灰岩層や、市域北東部地域の岩稜を構成する深海の海底火山の溶岩を起源とした男体山火山角礫岩の地層を見ることができます(図14-1・2)。また、近年は稀少なブラックシリカ(黒鉛珪石)の存在も明らかとなりました。

金鉱床の誕生に関係する花崗閃緑岩やヒン岩の貫入、マグマの高熱による堆積岩の変成等が進行するとともに、地殻変動に伴ってできた数多くの断層等の割れ目に沿って石英分を含む熱水が上昇し、徐々に冷え結晶してメノウが形成されるなど、多彩な鉱物が存在します。

図 13-1 日本列島の地体構造

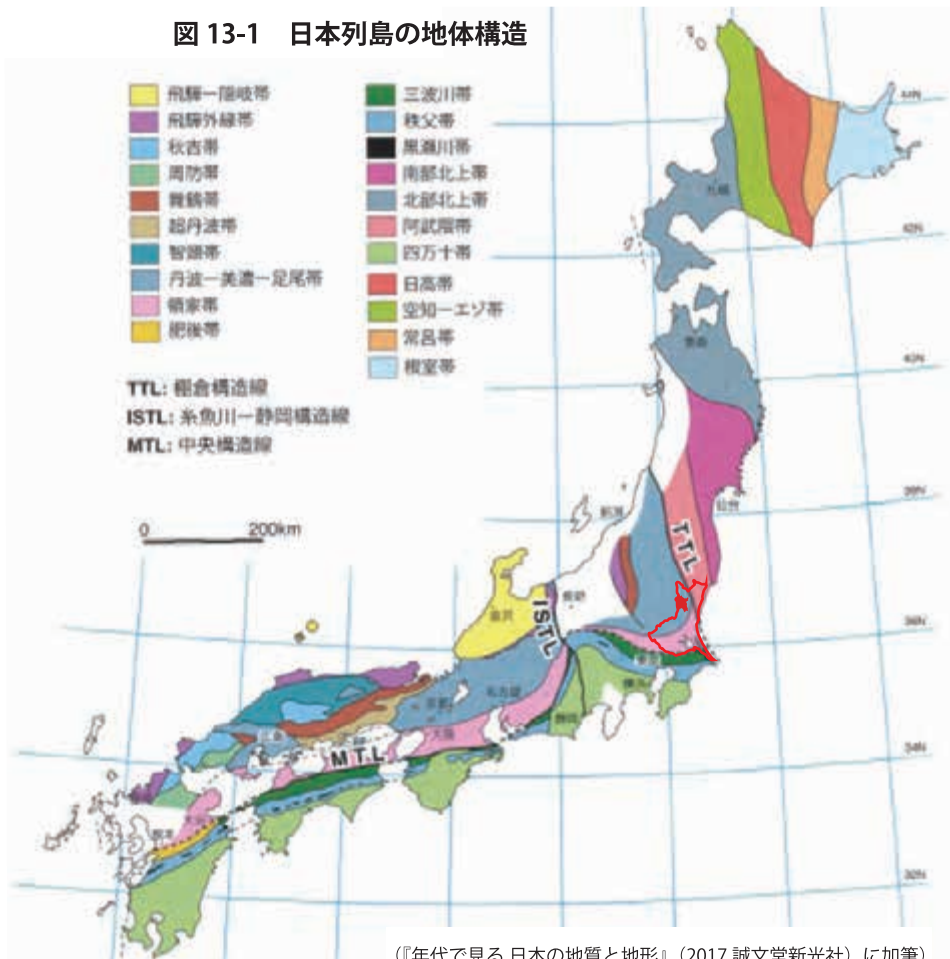
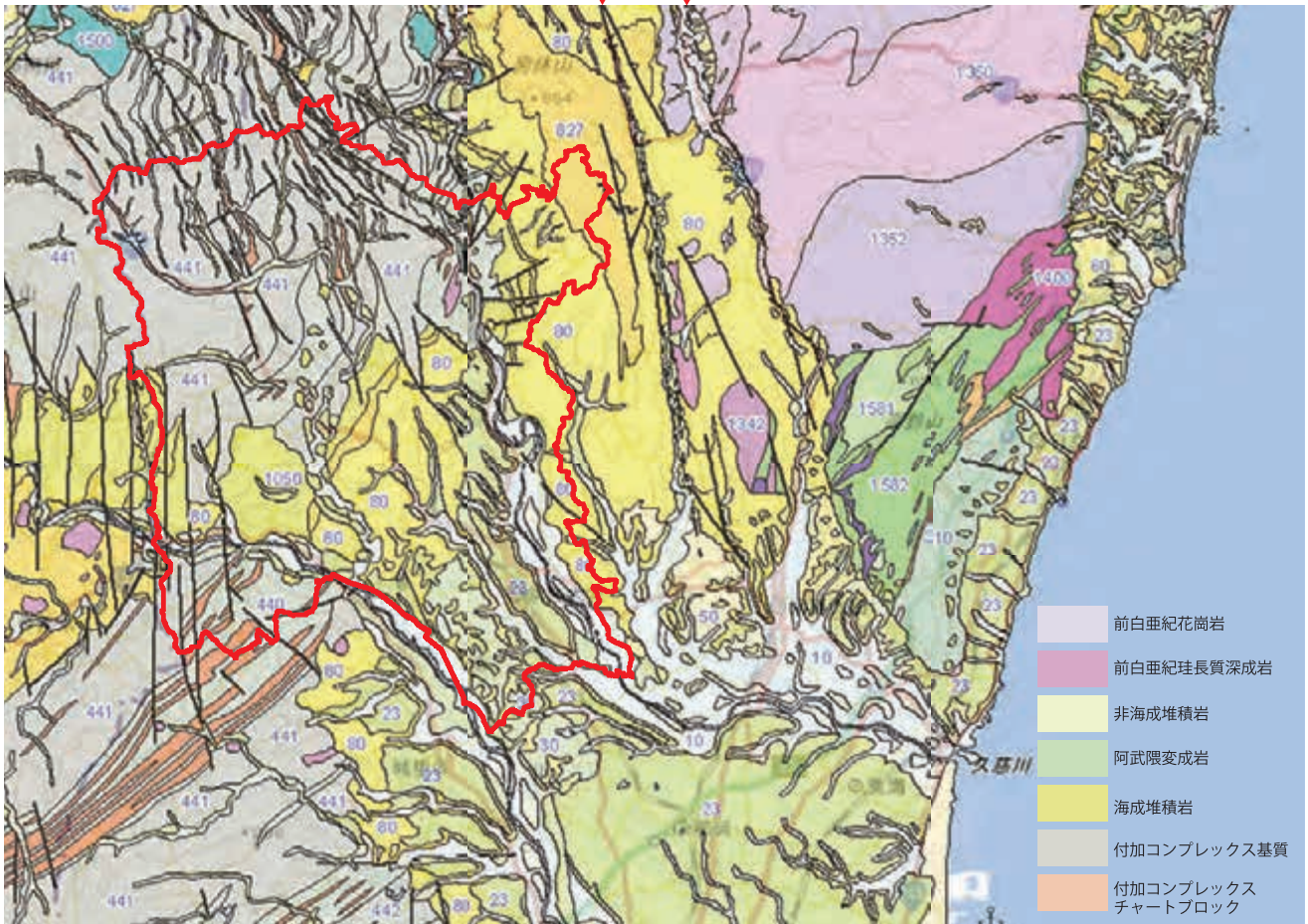


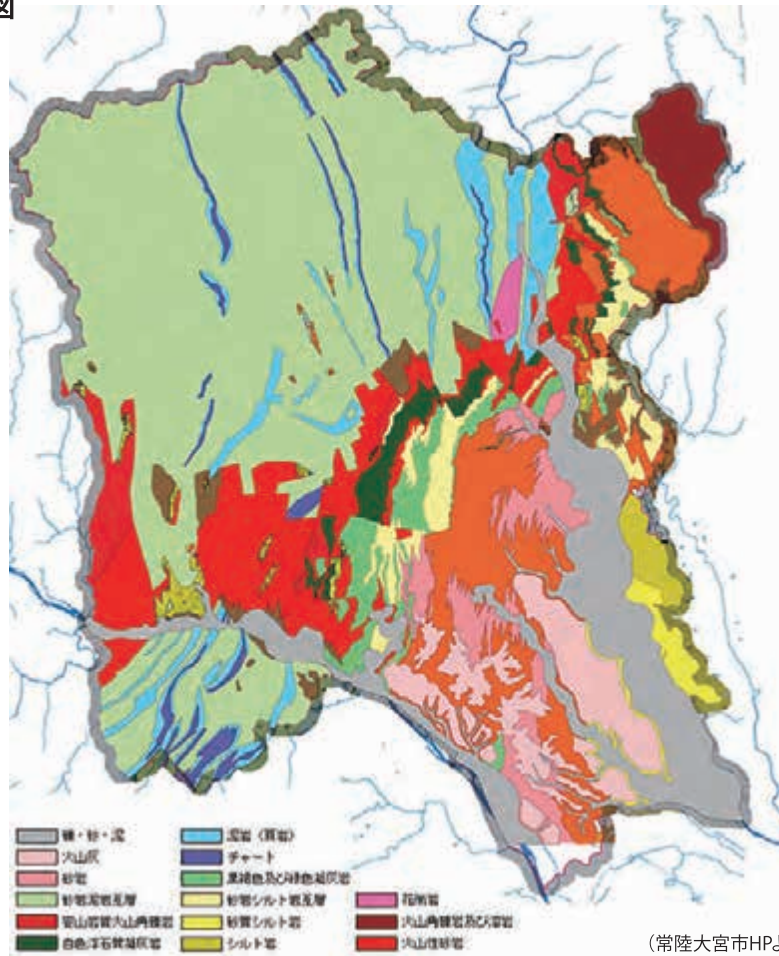
図 14-1 広域地質図

西棚倉断層 東棚倉断層



(産総研シームレス地質図に加筆)

図 14-2 地質図



(常陸大宮市HPより)

水系 【久慈川と那珂川】

市域の水系は、久慈川水系と那珂川水系に分かれます。河川名は、久慈川は奈良時代より変わりませんが、那珂川は古代には粟川あわがわと呼ばれていたようです。ともに古代より、河川及び川に沿った道は、人と物が往来する重要なルートであり、江戸時代初期には、水戸藩三大江堰とよばれる大規模灌漑施設、久慈川の辰ノ口江堰たつのくちと岩崎江堰いわさき、那珂川のおぼ小場江堰が築かれ、いずれも堰が当市域にあります。両河川とも関東を代表する清流で、アユやサケ、モクズガニなど、豊かな資源に恵まれています。

市域の中央を流れる那珂川の支流緒川おがわは、市域内の支流として最も広い流域を持ちます。市北西の栃木県境にある鷲子山とりのこさんに源を發し、美和全域の山々の流れを集めながら東南に流れ、緒川地区上小瀬で西から流れる小舟川こぶねを合わせて南に流れ下り、御前山野口で那珂川と合流します。清らかな山水豊かな緒川や小舟川の上流域が、和紙の主産地となっていました。

市内を流れる久慈川の支流で、最も広い流域面積を持ち『常陸国風土記』にもその名が見える玉川は、中心市街地を形成している大宮台地の西側を流れ、市域南端の那珂市境で久慈川に注ぎます。市域北東部の支流もろざわ諸沢川は、西金砂山にしかなさやまを源として、諸沢にしのうちと西野内地区を流れ下り、山方宿の北端で久慈川に注ぎます。かつては、諸沢川の下流域にあたる諸沢2区や西野内地区で、川水を利用しての紙漉きが盛んにおこなわれており、当地特産の「西の内紙」の名称の由来ともなっています。

両水系の分水嶺は、概ね山方地域と美和地域の境及び緒川・御前山地域と大宮地域の境ですが、大宮地域南西部の三美・小野・小場地区は那珂川水系に属します。

二つの水系の水源地には、それぞれ古くより信仰の対象とされた西金砂山と鷲子山があります。そして、両水系共通の水源地となっているのが、茨城・栃木・福島の三県境にある八溝山で、八溝修験の宗教圏は久慈川・那珂川両河川水系に広がっています。



図 15-1 水系図

(茨城県土木部河川課 HP 掲載図を接合・加筆)

1-4 気候

温暖な平地部と寒暖の差が激しい山間部

茨城県沖の太平洋は、親潮と黒潮の潮目にあたり、茨城県北部の気候は温暖な気候と寒冷な気候の境目です。県全体としては、冬季は少雨乾燥、夏季は多雨多湿の太平洋側気候で比較的温暖ですが、豪雪地域を持たない都道府県としては最北に位置します。

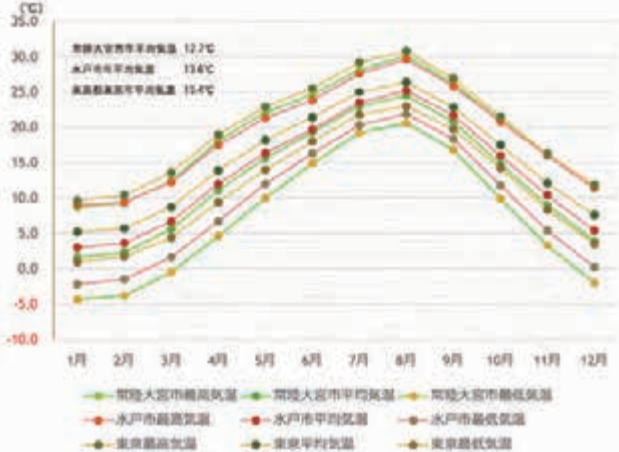
県北部山間地に位置する常陸大宮市は、年間を通じて晴天率が高い地域に属します。年間の寒暖差の平均が8.2℃の東京、9.5℃の水戸市（海寄りの茨城県中部に位置）と比べ、常陸大宮市は11.6℃と大きく、降水量は、雷雨と台風によって夏季から初秋に多く、冬に少なくなっています（図16-1）。

市域でも、標高の低い南東部が比較的温暖なのに

比べ、山がちな北部及び北西部では、年間を通じて気温も1~2℃ほど低く、一日の寒暖差も大きくなっています。そのような市内山間部の気候が、質の高い特産品として著名なコウゾやコンニャクの生育に適するとともに、晴天が続く湿度の低い冬季の、寒暖差が13℃以上ともなる朝晩の冷え込みと日中の暖かさが、白楮やコンニャクの^{しろこうぞ}あらこ荒粉、手漉き和紙の乾燥に適していました。

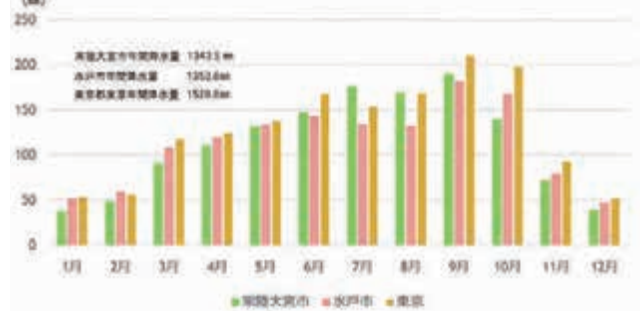
一方、冬季の乾燥は火災の発生を招きやすく、また、夏から秋にかけては、時として来襲する台風等の大雨によって河川が氾濫し、沿岸地域は幾度も被害にあってきました。

図 16-1 月平均気温（統計期間 1981-2010）



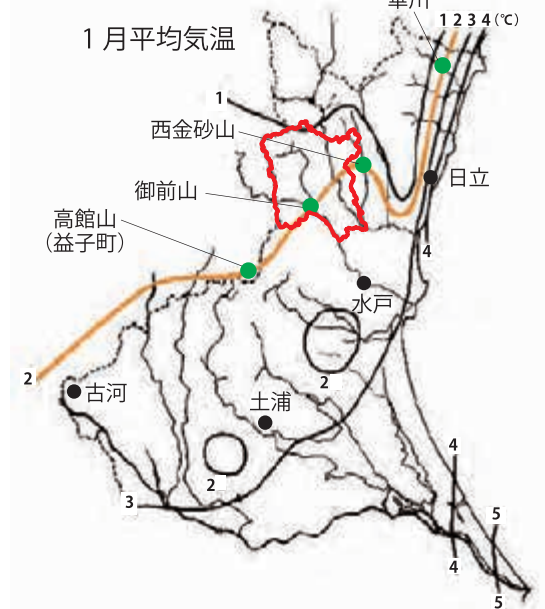
(<http://weather.tame-j.net> データを使用して作成)

図 16-2 月平均降水量（統計期間 1981-2010）



(<http://weather.tame-j.net> データを使用して作成)

図 16-3 気候図



(『茨城県植物誌』(1981 茨城県植物誌刊行会) 掲載図に加筆)



コウゾのヒョヒトリ(表皮取り) 昭和50年頃 山方地域
背後に大量の白楮が干されている

1-5 植生

暖温帯と冷温帯が接する多様な植生

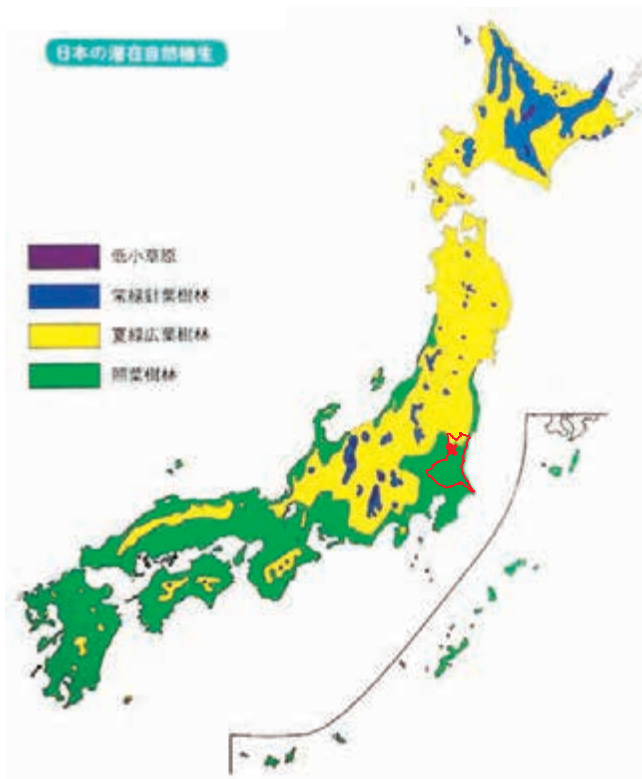
茨城県は、暖温帯の照葉樹林と、冷温帯の落葉広葉樹林(夏緑樹林)が北部で接しており、この2種の樹林が茨城県北で移り変わっています。暖温帯でみられるシイ、タブノキ、カシ、モチノキ、ユズリハ、シロダモなどは、県北へ行くにしたがって減少し、市内山方地域や緒川地域では、シイ、タブがほとんど見られなくなり、カシ類が減って、アカシデ、ウリハダカエデ、クリ、コナラ、ハルニレ、ハンノキなどが現れてきます。

この、暖温帯の樹木が見られる北限である、北茨城市華川、西金砂山、御前山、栃木県高館山(益子町)を線で結ぶと、1月の平均気温が2°Cの線にほぼ一致し、まさに常陸大宮市の上を斜めに通っています(図16-3参照)。当市域は、様々な植物の南限と北限が入り混じ

る多様な植生であり、その環境を生かして、木端^{こばぶ}茸きの屋根材としてのクリや、ナラ・クヌギなどの木炭材としての利用、夏季の紙漉きの粘材としてのウリハダカエデの葉の利用、北限とされるチャノキやコウゾ・コンニャクの栽培を行うとともに、美和地域など市域北西部の冷温帯の地域では、江戸時代からスギ・ヒノキの植林が盛んに行われてきました。

昭和40年代まで、市域の平地林を含む多くの山々にアカマツが生育し、建築材や葉タバコ乾燥の燃料等として盛んに利用されましたが、マツノザイセンチュウによる大規模な松枯れによって、アカマツ林はあまり見られなくなりました。

図 17-1 日本の潜在自然植生図



(『植物なんでも事典』柴田規夫 2019 文一総合出版に加筆)

図 17-2 植生図



(常陸大宮市 HP より)

1-6 景観

ふるさとを思うとき浮かぶ自然景観と文化的景観

常陸大宮市の特徴を示す自然景観は、海底火山の噴火によって形成された巉々たる岩稜でできた男体山や西金砂山に連なる山と、緑深くなだらかな鷲子山塊、地形や季節ごとの気象条件によって河川が見せる様々な景色や現象、自然の植物や生物の群落等です。

人の営みによって作られた文化的景観としては、河川

の災害防備林として整備された竹林、谷津田による稲作、三大江堰整備によって広がった水田、植栽したスギやヒノキの美林、神社のたたずまい、町並み、ソバ畑、集落景観、ウルシやコウゾ等の傾斜地の畑、台地上の広い畑、メノウの採掘跡などがあります。



常陸大宮市南東部、辰ノ口江堰と岩崎江堰の灌漑により広い水田となった久慈川沿岸地域と大宮台地上に広がる市街地(富岡橋上空から北を見る)



ソバ畑(野上)



那珂川と川漁師(野口)



西金砂山から見た市北東部岩稜地域に位置する諸沢地区



ゲンジボタルの乱舞(小倉)

1-7 自然災害の履歴

時として災いをもたらす川

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で震度6強が観測された常陸大宮市では、地割れ、陥没、土砂崩れが各地で起こり、多くの塀や墓石が倒壊、屋根等が損壊した建物も1,000棟以上にのぼりました。しかし、全壊2棟、半壊16棟の大規模被害は、概ね市域南東部の低位段丘上の地域に集中しており、堅固な岩盤上に立地している北西部の美和・緒川地域の建物被害は比較的軽微でした。ちなみに、過去の当地域に関する地震による大規模被害の記録や伝承はありません。

一方、市内を流れる那珂川・久慈川とその支流は、豊かな水と、サケやアユに代表される川のめぐみを与えてくれる一方で、甚大な水害をもたらしてきました。

市の中心部となる市街地は、浸水想定区域より30mほど高い台地上にあり、排水路の整備も進んでいるため水害の危険はほとんどありませんが、水田の広がる大小河川兩岸の低位段丘上の地域は、昔から台風等の大雨による洪水に悩まされてきました。久慈川東岸の檜村は、村名の「かし」が「餓死」に通じるといって忌み、名前だけでも高い地名にと「富岡村」に、同じく久慈窪村が「久慈岡村」にと、江戸時代に村の名を変えています。

人々は、近世より、根が地盤を固め、水流を緩めるとともに流木や土石の流入を防ぐといった役割を果たす、水害防備林としての竹林の整備や、築堤などを行って

減災の努力を続け、近代以降は、国による堤防整備、高度成長期の河川砂利の大量採取による河床低下等によって、大規模な水害の頻度は低くなっていました。しかし、令和元年東日本台風による豪雨では諸河川が増水し、那珂川で2カ所、久慈川で4カ所、市域の堤防が決壊、全壊家屋48棟、床上浸水475棟に及ぶ被害となりました。

また、山地と平地の境に位置する当市は、段丘崖や山裾の谷津で大雨に伴う土石流が発生する危険性があります。地下の土壌により、地滑り危険地域に指定されている場所もあり、過去に高部の東河戸ひがしごうど(天明6年 1786)、戦後も諸沢(昭和40年 1965)で大規模な地滑りが発生し、人家が巻き込まれる被害がありました。天明の豪雨に伴う地滑りで複数の犠牲者を出した東河戸では、地藏石仏や供養塔を建て、供養とともに防災の諫めとしています。

その他の自然災害としては、冷害やひょう害をあげることができません。冷害については、農業用ハウスやマルチ栽培、田植え時期の早期化によって被害が縮小していますが、平成5年の長雨と日照不足による冷夏は、稲を中心として農作物全般に大きな被害を与えました。また、初夏から盛夏にかけて雷を伴いしばしば発生する降ひょうは、当地の農作物に多大な被害をもたらし、特に葉タバコの栽培が盛んだった時代の被害は深刻でした。



東日本大震災による墓地の被害（下町）

発生年月	原因及び被害
明治32年7月 (1899)	台風による大雨で久慈川洪水、世喜村・上野村に被害
明治35年10月 (1902)	台風による豪雨で諸沢川と久慈川、緒川と那珂川氾濫、 下檜沢で死者14名、強風により山方地域北部の4小学校倒壊
大正2年8月 (1913)	台風による大雨で久慈川が出水、小貫の堤防決壊
大正9年10月 (1920)	台風による未曾有の豪雨、通称「国勢調査の大水害」で緒川と那珂川及び諸沢川と久慈川が氾濫、諸沢の地滑りも発生して市域で死者50名以上
昭和13年6月 (1938)	台風の北上に伴う前線の停滞と活発な活動により大豪雨、梅雨の長雨と重なり各地で堤防決壊、久慈川・那珂川氾濫し、大宮地域では死者5名、洪水のため交通途絶、山方地内の土砂崩れで水郡線脱線
昭和16年7月 (1941)	大雨に引き続く台風の襲来により各地の久慈川・那珂川の堤防決壊し氾濫、台地上の大宮市街地も排水不完全のため低地に雨水が流れ込んで多数の住宅が浸水被害
昭和22年9月 (1947)	カスリン台風の停滞による豪雨で久慈川・那珂川の堤防決壊、富岡・宇留野不動下地区浸水被害
昭和41年6月 (1966)	台風4号による大雨で、緒川・那珂川が氾濫、堤防の決壊等により御前山地域被害
昭和61年8月 (1986)	台風10号による豪雨で那珂川及び流域の河川が氾濫、御前山地域で200棟を越す家屋が浸水、久慈川の東岸地域を灌漑する辰ノ口用水路氾濫
平成3年9月 (1991)	台風18号による豪雨で久慈川氾濫、大宮町域で浸水被害
平成10年8月 (1998)	栃木県に降った記録的豪雨のため那珂川が氾濫、御前山地域の流域の家屋が浸水被害
令和元年10月 (2019)	台風19号による豪雨で那珂川・久慈川が増水し、市内複数個所で堤防が決壊、全壊家屋48棟、浸水家屋562棟

※年月ゴシック表記は市域の被害甚大



令和元年東日本台風による洪水被害（左 小倉 久慈川・右 野口 那珂川）

2. 社会的状況

2-1 人口動態

全国的な問題となっている少子高齢化による人口減少は、本市でもたいへん深刻で、戦後の第2次ベビーブーム以降、都市部への人口流失もあり、ほぼ一貫して人口の減少が続き、特に近年はスピードが増しています。平成7年(1995)に49,561人を数えた人口は、20年を経た平成27年(2015)には42,587人にまで減少しており、令和元年(2019)9月には4万人を切りました。このまま減少が続くと、2045年には2015年の人口に比べ、国の減少傾向を上回る約39%(約16,400人)が減少すると推計されています。

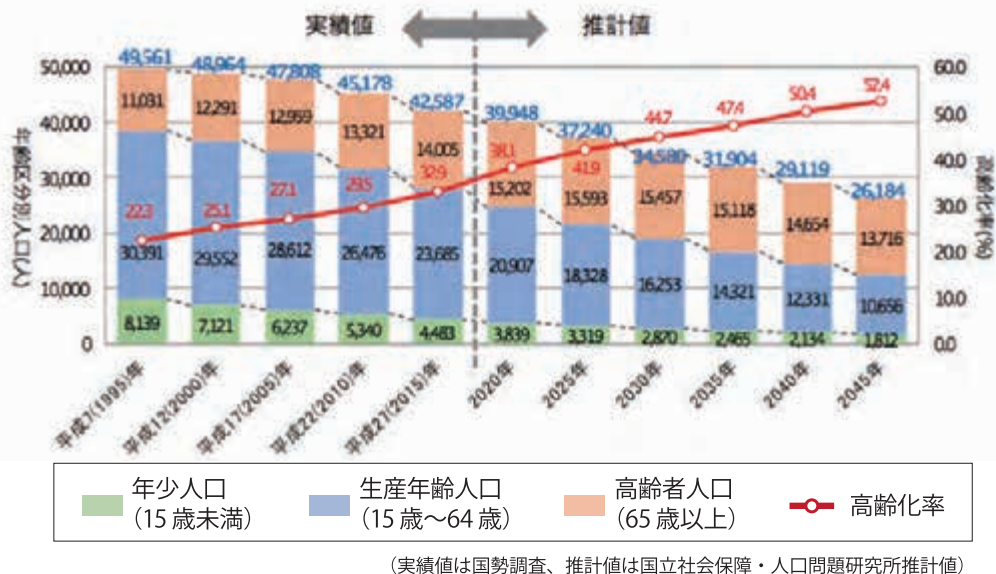
また、本市の2015年の高齢化率は32.9%で、国平均の26.3%を超えており、著しい高齢化の進行を示し

ています。

地域別にみると、市街地のある大宮地域では人口減少のスピードは緩やかで、高齢化率も30%を下回っていますが、山方・緒川・御前山地域は高齢化率38%前後、過去20年間の人口減少率23~27%、美和地域は高齢化率41.5%、人口減少率30%と深刻な状況です。

また、市内の住宅戸数17,970戸のうち高齢者単身世帯は11.3%にあたる2,025戸、空き家は7%の1,278戸にのぼっています(H31 空家等対策計画)。住民の農林業離れとサラリーマン化による地域コミュニティの弱体化とともに、祭礼等の継続や地域で管理してきた文化財等の維持・継承が極めて厳しい状況となっています。

図 21-1 本市の年齢3区分別人口の推移・将来推計



(実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所推計値)

図 21-2 地域別人口・高齢化率の推移

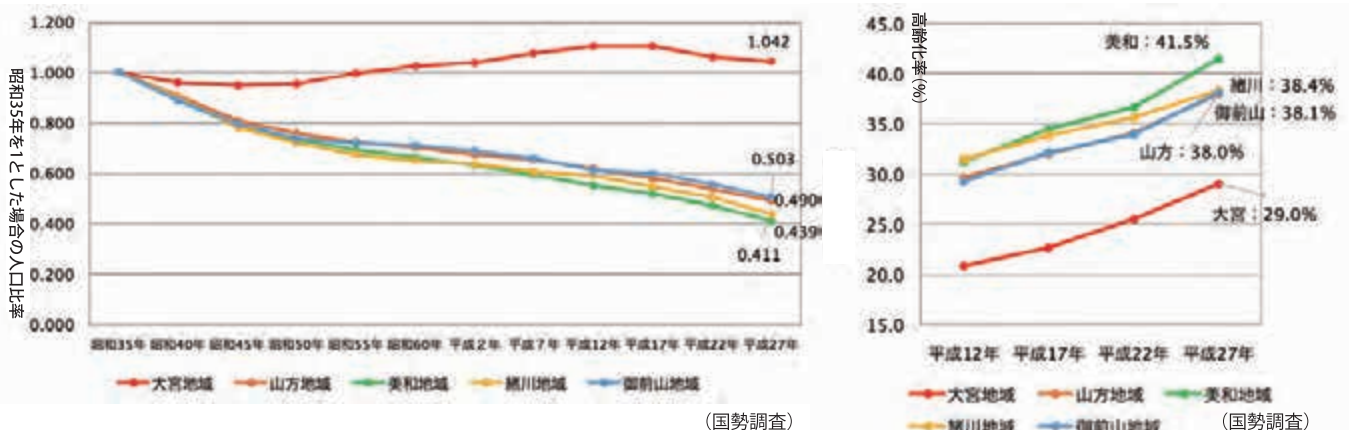
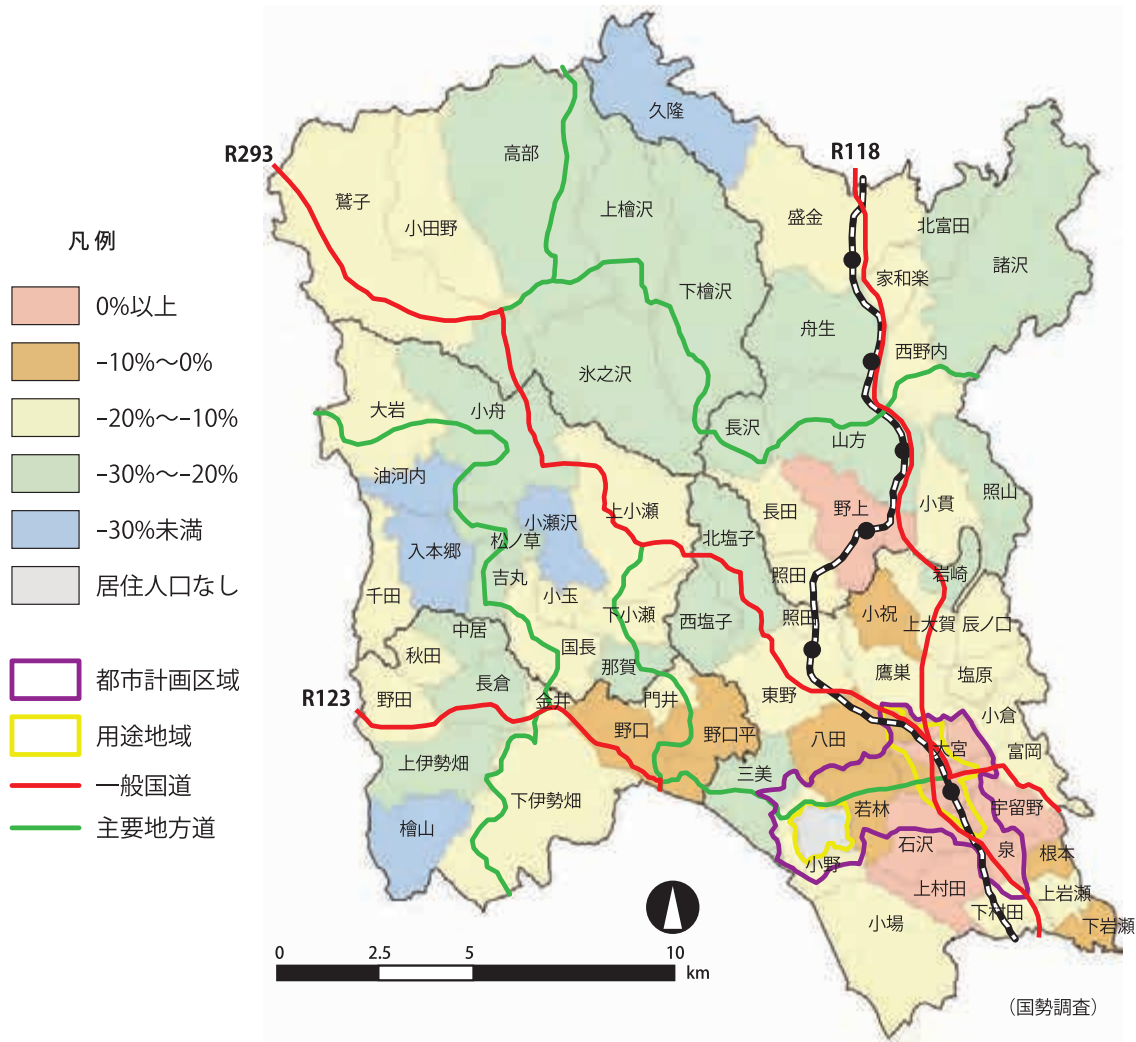


図 22-1 平成 17 年から平成 27 年の地区別人口増減

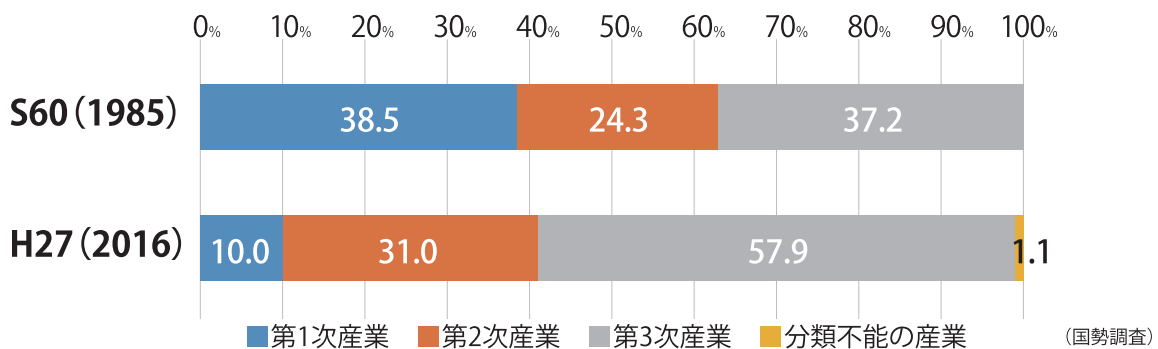


2-2 産業

平成27年(2015)の本市の産業別就業人口の割合をみると、第1次産業(農業1,948人・林業87人)が10.0%(2,035人)、第2次産業(鉱業29人・建設業1,964人・製造業4,321人)31.0%(6,314人)、第3次産業57.9%

(11,778人)となっています。昭和60年(1985)の統計では、第1次産業就業者の割合が38.5%と、第2次産業の24.3%、第3次産業の37.2%より多く、30年程の間に地域社会や社会構造に激変が生じたことが伺えます。

図 22-2 産業別就業者数割合の推移



◆農業

稲作

水稻栽培としては、現在も天水を利用し溜池を備えた谷津田と、江戸時代初期に水戸藩が久慈川と那珂川に設けた三大江堰などの灌漑施設を利用した水田での耕作があります。その他、^{おかぼ}陸稲と呼ばれる畑での稲作も行われています。

葉タバコ・ソバ

市域の山間部は耕地に占める水田面積の割合が低く、畑作が中心で、江戸時代から、東隣の常陸太田市とともに、水府種やだるま種といった在来葉タバコの産地となりました。美和地域を中心に市域全体にわたって平成20年頃まで行われていた栽培も、現在は、見られなくなりました。今も市内には往時の盛況を示すように多くの葉タバコの乾燥小屋が残っています。

ソバはタバコ畑の後作として栽培された作物ですが、近年、茨城県北産のものは薫り高く食味が良いと評価が高まり、「常陸秋そば」の名でブランド化されて需要も多く栽培も盛んです。



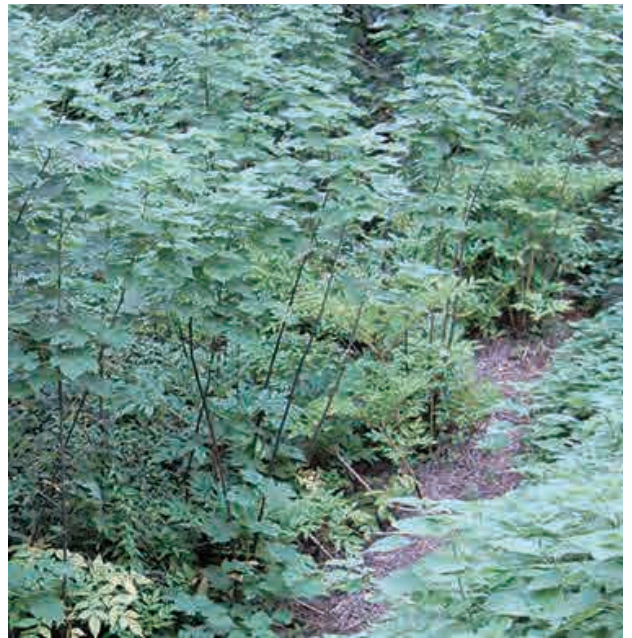
葉タバコ（水府種）の収穫（辰ノ口）

コンニャク・コウゾ

市域北東部の山方地域の諸沢・家和楽・盛金地区は、急峻な山中に位置し、小石混じりの水はけのよい南向きの斜面の畑を好むコンニャクとコウゾ（地域ではコウズ）の産

地でした。コウゾとコンニャクを混植するのが古からの当地域の特徴です。江戸時代後期（18世紀後半）、傷みやすく輸送が困難なコンニャク芋を、輪切りにして乾燥し、臼で搗いて粉とする製法を編み出した中島藤衛門は市域諸沢の出身です。ともに昭和30年頃までは盛んに栽培・加工されましたが、現在、市内の栽培農家はごくわずかです。

また、当地を含む県北西部で栽培・加工されたコウゾは、当地産の和紙の原料となるだけでなく山越えて下野国（現栃木県）那須地方へと運ばれ、利根川東遷によって利根川と直結した、便の良い鬼怒川を下って江戸に運ばれました。そのため、流通名として那須楮と呼ばれて、その名称が定着し、現在に続いています。国内最上級のコウゾとして、本美濃紙や越前奉書など名だたる高級手漉き和紙の原料となっていますが、年々栽培農家が減少し、存続が危ぶまれています。



コウゾとコンニャクの混植（盛金）

養蚕

明治時代以降、貴重な現金収入として養蚕も盛んに行われました。戦中・戦後の食糧不足の時代は、作付け転換によって桑園面積が減少しましたが、昭和30年代半ばの景気好転によって絹製品の需要が伸び、昭和の終わり頃、養蚕が盛んだった大宮地域の畑作地域各所で稚蚕飼育場が整備されました。現在、市内の養蚕農家はわずかですが、県内唯一の稚蚕飼育場が市内塩原地区に

あり、群馬県高崎市にある群馬県稚蚕人工飼育センターから孵化した稚蚕を購入して3令まで育て、隣県の福島、千葉、栃木の養蚕農家にも配蚕しています。



養蚕（辰ノ口）

製茶

当地域の茶の生産の開始時期は不明ですが、石沢にある常弘寺（二十四輩寺院のひとつ）のかつての住職が、京都から茶の苗をもたらし始めたのが始まりとの伝承があります。茨城県北部地域はチャノキの北限といわれ、生垣や畑の境木、傾斜畑の土留め等として植栽され、特産品のひとつとなっていました。江戸時代中期には、奥州向けに茶を商う茶問屋が大宮地域に存在したことが、正徳4年（1714）の「常陸御用日記」（秋田県立図書館佐竹文庫蔵）に記されています。江戸時代後期の文化年間（19C初期）には、京の宇治茶の製法が導入され、江戸表へも出荷されるようになって生産量が伸びました。農家の多くに自家で製茶を行うためのホイロ（土蒸籠ともいう）が設けられており、昭和30年頃まで田植え前の稼ぎのひとつとなっていました。近年は、摘んだ生茶葉の製茶工場への売却や、加工の委託が盛んに行われており、茶摘み風景は当地域の初夏の到来を告げる風景でしたが、東日本大震災による原発事故の影響で茶の摘み取りはすっかり下火となり、県内主要産地のひとつであった製茶業も衰退しています。



手よりの製茶（東富町）

椎茸

椎茸の人工栽培は、明治時代には各地で試みられていました。鷲子地区の川野栄次郎は、川岸に護岸として打ち込んである栗の木の杭に椎茸が生えているのを見て椎茸の栽培を思い立たと伝えられ、明治24年（1891）より、熟練者の雇い入れや各地の講習会への参加、先進地の視察を重ねるほかに、技師の指導を仰ぐなどの努力を重ねて、昭和初年には椎茸の出ているほだ木の木片（種駒）を新しいほだ木に打ち込む方法で、椎茸の発生率を5割以上に引き上げたといえます。栄次郎は村民の求めに応じて技術指導を行ったため、昭和10年前後には、隆郷村（現鷲子地区及び高部地区）は県下一の椎茸産地に成長しました。東日本大震災による原発事故の影響で一時生産量は激減しましたが、現在は再開され、原木にこだわった高品質の椎茸栽培が美和地域と緒川地域を中心として盛んに行われています。



戦前の椎茸販売広告のピラ（鷲子）

◆林業

スギ・ヒノキ

常陸大宮市面積の59%は森林です。中でも、林野率83%の美和地域は、江戸時代から藩有林や分附山(農民個人の持ち山)での植林が盛んで、現在も林野のうち9割がスギ・ヒノキの人工林です。中には、樹齢100年を優に超える人工林もあります。また、その樹皮も屋根材として利用されてきました。国内の木材消費の低迷によって林業従事者が減少しています。

竹材

久慈川や那珂川の水害防備林としてマダケやハチクを植栽し整備した竹林は、現在は久慈川東岸の富岡・小倉・塩原・辰ノ口、西岸の鷹巣・上大賀・岩崎に往時の姿をとどめています。物干竿や竹籠、弓等の材料として需要がありましたが近年は激減し、公園化による整備を行っている一部を除き、荒れた密生状態です。また、里山のマダケやモウソウチクの竹林は、山の管理不足に従って範囲を拡大し、山の荒廃の一因ともなっています。

市内には竹材を扱う業者が複数軒あり、大正天皇及び昭和天皇の大喪の折に設置された竹垣の材は、当市のもものが使用されています。

漆

常陸大宮市と大子町は、岩手県浄法寺に次ぐ漆の産地です。茨城県産漆は透明度が高く、古くから、那珂川を隔てて隣接する城里町の粟野春慶塗や、岐阜県高山の飛騨春慶塗で高い評価を受けてきました。コウゾやコンニャク同様、日当たりと水はけのよい斜面が栽培の適地で、水戸藩も、2代藩主光圀の時代から栽培を奨励し、実もロウソクの原料として利用しましたが、ハゼノキの実を原料とするロウに比べて煤が多く敬遠されてしまいます。

近代以降は、まとまった土地への漆の植林を行うまで、漆掻きに従事する人は少なく、生産量は多くありませんでしたが、近年の文化財建造物への国産漆活用促進によって関心が高まり、生産活動への協力者や植栽面積の増加につながっています。



植林されたウルシ（家和棠）

◆水産漁

川漁

現在、専門の川漁師はいませんが、久慈川・那珂川とも各漁協の組合員が、許可を受けた伝統の漁法で、アユ・サケ・アイソ・モクズガニ等の漁を行っています。

特に那珂川のアユは全国有数の漁獲高を誇り、久慈川とともにアユ釣りの名所となっています。また、那珂川を遡上するサケは、新潟県三面川とともに古来有名で、明治9年(1876)国内で最初の人工ふ化が行われたのも那珂川です。国内河川でのサケの捕獲は法令で禁止されており、増殖事業や調査の目的のため、農水大臣の許可を受けた場合に限り認められています。那珂川は、許可を受けて捕獲されたサケの水産物としての出荷が認められている数少ない河川です。



那珂川のサケのオトリ網漁（野口）

◆鉱業

メノウ

諸沢・北富田地域を中心として、市内各所でメノウの採掘がおこなわれていました。先史時代は石鏃等の石材として利用され、古代以降は『常陸国風土記』にも記述があるように、もっぱら火打石として用いられたと考えられます。江戸時代は“水戸火打ち”と呼ばれ、諸沢・北富田地域を中心として、緒川地域那賀の百観音周辺などからも大量に採掘され、水戸藩の重要な特産品となっています。幕末には、9代藩主斉昭の命により、メノウを使ったガラス製造も行われました。近代になっても採掘は継続し、戦後はアクセサリーとしての利用も図られましたが、平成初年をもって採掘を終了しました。

金

八溝山麓地域は、古代より産金の地として知られており、八溝山を水源のひとつとする那珂川水系の武茂川（栃木県那須郡）や久慈川流域の地域も、佐竹氏の時代から砂金の採取や、金鉱石の採掘がおこなわれ、佐竹領は16世紀末には国内で5本の指に入る産金量を誇りました。

山方地域や大宮地域にも、採掘跡と伝えられる縦・横の坑が数多くあり、山方地域の舟生や久隆では近代まで金鉱石の採掘が行われていました。特に明治29年

(1896)開発に着手した舟生やくまるの薬丸金山は、最盛期の明治35年(1902)から8年間の金の産出量が323kgに及び、「佐渡にも優れる薬丸金山」として、一時期は大隈重信も権利を有した県内最大の金山でした。

しらやいし 白岩石

大谷石と同質の凝灰岩で、建物の基礎や、石倉の材料として大量に採掘された時代があります。諸沢地区の各所にも採掘跡が残っており、神社の鳥居や石臼等に利用されています。また国道293沿いの大宮地域と緒川地域の境にあたる白岩峠付近及び西塩子地区には大規模な採掘跡が残っており、切り出した石を鉄道で輸送するために、玉川村駅まで軌道を通していました。



玉川周辺の赤いメノウ

◆製造業

酒造

現在、茨城県には39の酒蔵があり、関東一の軒数を誇っています。良質の水と米に恵まれた常陸大宮市域にも、昭和40年代まで、大宮地域3軒、山方地域1軒、御前山地域1軒、美和地域2軒の合計7軒もの酒蔵が存在していました。現在も操業しているのは、慶長年間創業と伝えられる山方の「久慈の山」(根本酒造)のみですが、廃業した酒蔵の多くに酒造に用いた施設や用具が残されています。

手漉き和紙

水戸藩最大の産品である紙の製造は、もともと冬期の農家の副業として奨励されたものです。奥久慈産のコウゾが「那須楮」と通称されてしまったように、当地産の様々な紙も鬼怒川を使った流通経路から「那須物」と呼ばれ、水戸藩が和紙の産地であったことはあまり知られていません。

良質のコウゾの栽培に適した当地域は、古代より良質紙の産地であったと考えられますが、巨大消費地江戸の出現と、利根川東遷による利根川と鬼怒川の直結によって、江戸の紙商人の注目するところとなり、17世紀半ばには紙の生産量が一気に伸びます。水戸領北部では、海岸沿いの地域を含む広い範囲で紙漉きが行われていますが、質・量ともに優れていたのは下野国と境を接する常陸

大宮市域で、水戸藩公許の在郷の紙問屋はすべて市域にありました。下野側も、鷲子山麓と烏山の常陸国境地域は当地域と一体の紙産地で、現在も那須烏山市に和紙の工房がありますが、江戸に運ばれた紙の多くは水戸領内で漉き出されたものでした。

「諸国紙日記」(嘉永7年 1854 紙の博物館蔵写本)に書き上げられた、当地から漉き出された紙33種のうち、当地を代表する紙は「西の内」と「程村」です。ちなみに、現在、西の内紙は茨城県側の特産和紙、程村紙は栃木県那須烏山市の特産和紙と認識されています。宝暦4年(1754)に大坂で刊行された『日本山海名物図会』に「国産最上紙五紙」として越前奉書、美濃直紙等とともに西の内と程村が書き上げられており、大名が使う御用紙や役所の公用紙などとしても評価の高いものでした。

しかし、時代が下るにつれて消費者の高級紙指向は低下、需要の落ち込みによって紙価格が下がったうえ、領内紙漉き農家の原料購入時の借金がかさんで粗製乱造もはびこり、献金郷土となっていた多くの紙問屋も幕末の水戸藩の内乱に巻き込まれて、和紙生産は低迷します。

明治23年(1890)から始まった衆議院議員選挙において、西の内と程村が選挙用紙に指定されたことにより、当地の製紙業界に一時活気が戻ります。美濃で優れた製紙法を学び、土佐で工夫された最新の用具を移入するなどして、伝統産業の振興を図りますが、大正15年(1926)



『日本山海名物図会』(宝暦4年 1754)
「およそ日本より紙おほく出る中に越前奉書 美濃ノなをし
関東の西ノ内程村 長門ノ岩国半紙 もっとも上品也」とある

の選挙用紙指定解後は、機械漉きの洋紙に押されて需要は急落、昭和40年前後まで美和・緒川・御前山地域でわずかに行われていた昔ながらの農閑期の紙漉きは終焉

し、専業となった山方地域の2軒のみが西の内紙の伝統を守っています。

2-3 土地利用

土地利用面積の割合は、約6割を山林が占め、農地(田・畑)16%、宅地は4%です(図28-1)。この割合は、市制施行後の平成18年からほとんど変化はなく、田・畑・宅地面積の推移では、田はわずかに減少、畑はわずかに増加し、畑がゆるやかに減少しています(図28-2)。しかし、経営耕地のある農家数と経営耕地面積の変化をみるとその減少傾向は大きく(図28-3・4)、地目としての変化と現状には大きな差があります。市内の耕地全体から見た、高齢化や人口減少に伴う耕作放棄地の増大は一層顕著で、

令和元年度に市の農業委員会が実施した農地パトロール実施に伴う調査では、耕作農地の割合は50.4%にまで減少しています。

市域には、制度上の諸制度が適用される、都市計画区域、農業振興地域、自然公園区域、自然環境保全地域、保安林などの法指定区域が定められており(図28-5)、土地利用には規制がかかっています。また、開発や住宅を含む建造物の建設等にあたっては、埋蔵文化財包蔵地の照会及び手続の徹底を図っています。

図28-1 地目別土地面積の割合

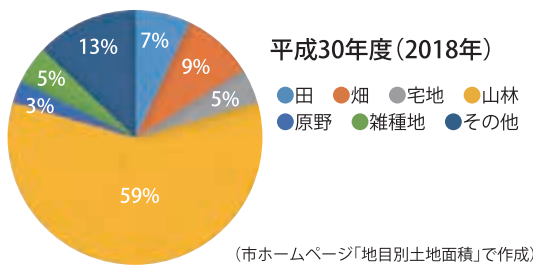


図28-2 田・畑・宅地面積の推移(単位 km²)

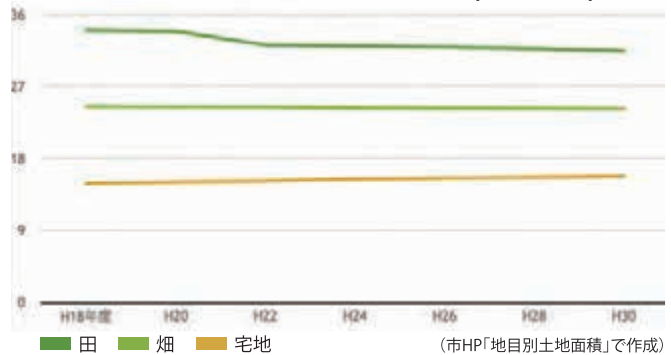


図28-5 法指定区域図

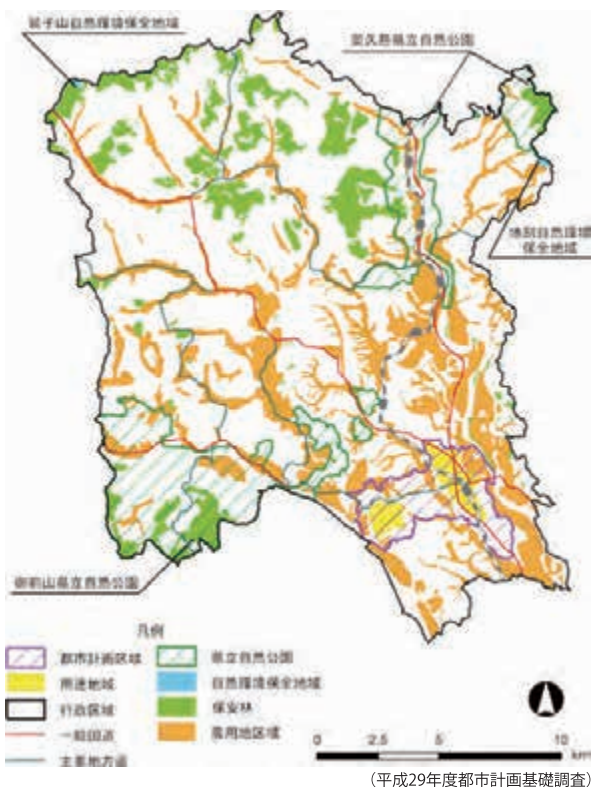


図28-3 経営耕地のある農家数(単位 戸)

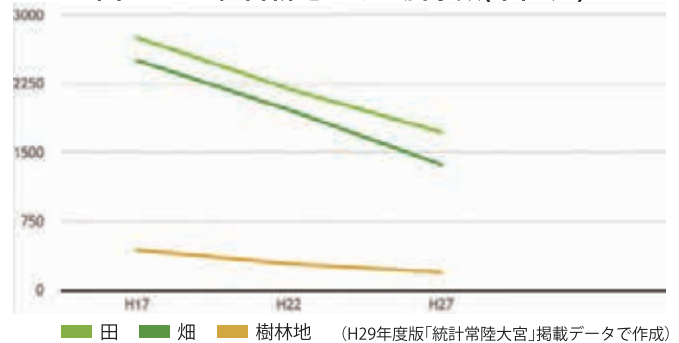
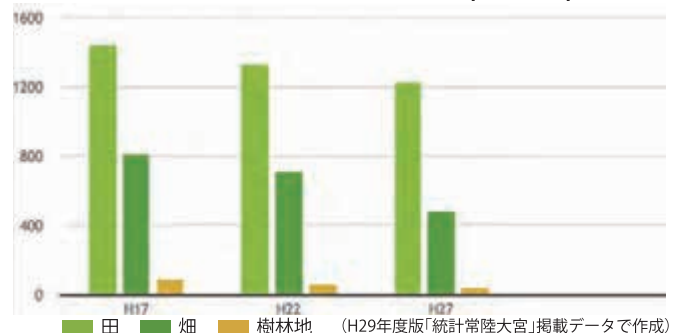


図28-4 経営耕地面積の推移(単位 ha)



2-4 交通

市域東部には、水戸と福島県郡山市を結ぶJR水郡線が南北に敷設されており、南から常陸大宮、玉川村、野上原、山方宿、中舟生、下小川の6つの駅が設けられています。水郡線のルートは、近世の南郷道同様ほぼ久慈川に沿い、水戸―須賀川間は国道118号と並行します。常陸大宮―水戸間の所要時間は35分、水戸―東京間はJR常磐線で約2時間、特急で1時間10分程です。

高速自動車道は首都圏と仙台に通じる常磐自動車道が茨城県を縦断し、最寄りの那珂インターチェンジから常陸大宮市街地まで約20分、国道は、水戸市から福島県須賀川市を經由して会津若松市に至る118号、日立市から常陸太田市、栃木県那珂川町馬頭・さくら市氏家を経由して足利市に至る293号、水戸市から栃木県茂木町を経由して宇都宮市に至る123号があり、このうち、

118号と293号は常陸大宮駅と至近の大宮市街地で交差します。

常陸大宮市と福島県を結ぶ118号は、久慈川に沿って北上し須賀川へ、ここから西に向かって山を越え、阿賀川とその支流に沿って再び北上し会津若松に至ります。

栃木県と当市を結ぶ123号は、水戸街道とも呼ばれており、芳賀郡茂木町で北上を始める那珂川から離れて西に向かい、鬼怒川を渡って宇都宮に入ります。同じく栃木県に向かう293号は、那珂川の支流緒川に沿って北西に向かい、県境の鷲子山の麓を通過して栃木県那須郡那珂川町で那珂川を渡り、鬼怒川沿いのさくら市を経て足利市に至ります。那珂川沿いの那珂川町馬頭から那須烏山市烏山と、鬼怒川沿いのさくら市氏家から塩谷郡高根沢町宝積寺付近が、那珂川と鬼怒川が最も近

図 29-1 広域図



(地理院地図 / GSI Maps)

付いて流れる地域です。

近世的那須道も市域を通っており、そのルートは、概ね水戸城下から123号を北上、野口で市内に入って那珂川沿いを長倉へと進み、ここから123号を離れて長倉宿へと坂を上り北上して油河内、大岩を通して、鷲子で293号に合流して馬頭に至るものでした。ちなみに馬頭を含む下野国武茂郷は水戸領に属します。

バス路線については、旧大宮町に茨城交通バスの営業所があり、かつては旧市街の中心大宮十字や常陸

大宮駅前を拠点発着地として、水戸や栃木県烏山のほか、現市域の主な地区への路線があり、通勤・通学の足となっていました。しかし、近年の自家用車の普及によって利用者が激減したことで、現在ではほとんどの路線が廃止または減便となりました。

一方、常陸大宮-上野間を2時間20分程でつなぐ高速バス路線が開設されて、市街地-東京間移動の利便性は向上しています。

図 30-1 道路網図



(地理院地図 / GSI Maps)

2-5 生活圏

常陸大宮市民の通勤・通学範囲を含む生活圏は、南の水戸方面を中心に、東の常陸太田・日立方面、そして西の栃木県芳賀郡茂木町や那須烏山市方面に広がっています。JR常陸大宮駅や大型店舗等のある市街地は、広い市域の南東端に位置しているため、常陸大宮市民の生活圏は地域によって違いがあり、JR水郡線の

沿線に当たり、昔から栃木方面との交流の薄い山方・大宮地域住民の生活圏は、水戸や常陸太田方面に拡大する傾向がある一方、御前山・緒川・美和地域の西部地区では、隣接する栃木県方面への通勤・通学や買い物、そして通婚が、ごく普通に行われてきました。

3. 歴史的背景

3-1 先史(旧石器時代～古墳時代)

水資源に恵まれ、山・川・野から得る食糧が豊富な上、石器とするのに適した石材も手に入れやすい当市域には、先史時代を通して数多くの遺跡が確認されています。

旧石器時代

現在判明している市内の旧石器時代の遺跡は24か所で、いずれも久慈川・那珂川の河岸段丘上にあります。市内最古の石器は、3万年以上前の硬質頁岩製ナイフ形石器で、大字三美の赤岩遺跡から出土しました。続いて、山方遺跡(山方)の石刃石器群、滝ノ上遺跡(三美)の高原山産黒曜石製搔器、梶巾遺跡(小祝)の尖頭器石器群、小野天神前遺跡(小野)の細石刃核、野上経塚遺跡(野上)等の大型尖頭器、北原遺跡(岩崎)等の本ノ木型尖頭器へと、石器時代の古い段階からはほぼ継続して土地利用が行われていたことがわかります。

採集された石器には、硬質頁岩や黒曜石など搬入された石材製のものもありますが、茨城県を代表する旧石器時代の石材であるトトロ石・メノウ・珪質頁岩は、いずれも常陸大宮市内で産し、石材消費地である県南部や千葉県に搬出されています。

縄文時代

市内で奈良・平安時代の遺跡に次いで多いのが縄文時代の遺跡です。中でも、気候が温暖で安定していた中期の遺跡が多く、当時の拠点集落とみられる大規模な遺跡が存在します。いずれも那珂川や久慈川を望む河岸段丘上に位置し、那珂川沿いの西塙遺跡(野口)・高ノ倉遺跡(小野)・中崎遺跡(三美)・滝ノ上遺跡(三美)、久慈川沿いの東平遺跡(上大賀)・玉川が久慈川に合流する地点の坪井上遺跡(下村田)などがその代表です。

特徴ある遺物としては、西塙遺跡と坪井上遺跡から出土した硬玉製大珠があげられます。特に坪井上遺跡からは、国内最多となる8点もの硬玉製大珠(うち市所蔵7点県指定文化財、個人所有1点市指定文化財)が出土しており、全国的に注目されています。また、特産のメノウやチャートを材料とした石鏃、県北東部で産出する粘板岩を材料とした晩期の石棒・石剣の製作遺跡の存在も想定されています。

後期、晩期と遺跡数が減少する中で、有名な晩期の遺跡は小野天神前遺跡(小野)と泉坂下遺跡(泉)です。いずれも弥生時代中期の再葬墓遺跡と複合しています。



滝ノ上遺跡(三美)

弥生時代

谷津が発達している常陸大宮市域は、天水を利用した小規模な水田開発が容易であり、早い時期から水田稲作が行われたと考えられます。縄文時代晩期の寒冷化が、稲作の受容を促したかもしれません。

当地域が、稲作の開始を指標とする弥生時代に入るのは、2,300年程前の弥生時代中期前半で、当市を代表する遺構である再葬墓が営まれた時代です。再葬墓は、市内で久慈川沿いの泉坂下遺跡(泉 国史跡)^{なか}・中台遺跡(山方)^{だい}、那珂川沿いの小野天神前遺跡(小野)・宿尻遺跡(長倉)^{しゅくじり}の4遺跡が確認されており、このうち泉坂下と小野天神前遺跡からは稀少な人面付土器が、泉坂下遺跡から1点、小野天神前遺跡から3点出土しています。しかし、この時代の生者の痕跡である住居跡等は発見されていません。

再葬墓が営まれた期間は中期後半までの100年ほどで、その後、市内弥生時代の遺跡として顕著に現れるのは、後期後半の十王台式の時代です。^{ふじやま}富士山遺跡(上岩瀬)や、糠塚遺跡・梶巾遺跡(いずれも小祝)など、この時代を代表する集落遺跡が発見されており、薄手で装飾性に富んだ十王台式土器^{じゅうおうだいしき}の優品が出土しています。また、数多くの紡錘車^{ぼうすいしゃ}の出土により、機織りが盛んだったことなどが推測されています。

再葬墓の土器を含めて粉痕は検出されているもの

の、市域の弥生時代を通し、現在のところ当時の水田跡は発見されておらず、今後の調査による検出が期待されます。

古墳時代

常陸大宮市内で主に古墳が確認されているのは南部の大宮地域です。大規模な古墳群は大宮台地上に築造されたとみられ、古い時代からの市街地の形成や、耕地・住宅地等としての利用により消滅が進んでいます。

市域には、上岩瀬の富士山古墳群にあった、県内最古級の4世紀の築造とされる全長約38m^{ぜんちょうこうぼうふん}の前方後方墳から、奈良・平安時代の8～9世紀のものと考えられる横穴墓^{よこ}まで存在します。主な古墳群は、久慈川右岸台地の南から、富士山古墳群(上岩瀬)、大宮旧市街地にある甲神社周辺にあった松吟寺古墳群を含む古墳群(下町・宇留野)、糠塚古墳群(小祝)、そして、台地より低い久慈川の蛇行部に位置する岩崎古墳群(岩崎)。玉川左岸の台地上、現大宮自動車学校敷地内にあった坪井上遺跡と重複した古墳群(下村田)、常陸大宮高校敷地を中心とした富士権現古墳群(田子内町)、段丘崖に営まれた岩欠横穴墓(田子内町)、八田雷神山横穴墓(八田)。玉川右岸台地上には、発掘調査により鉄剣などの副葬品や埴輪が出土した一騎山古墳群(上村田)があり、当時の住居跡も各地で確認されています。



宿尻遺跡弥生再葬墓遺物出土状況(長倉)

3-2 古代

大和政権の出現により中央集権的国家が整備されて道制の下に国郡里が置かれ、政権の支配下にあった当地域も、東海道の属する常陸国(現在の太子町域と常陸大宮市盛金の一部と北富田は太閤検地まで陸奥国)に入り、現在の市域のほとんどは古代を通じて那珂郡と久慈郡の一部からなっていました。

常陸大宮市域の古代の資料には、文献等の文字資料と遺跡があり、前者としては、『常陸国風土記』と『万葉集』、『続日本紀』、そして考古資料の中の文字資料等をあげることができます。

『常陸国風土記』には、久慈郡倭文里しどりのさとの条に、古い時代に機織りがこの里から始まったことや、火打石に適した赤いメノウを産出する玉川のこと、山間部の照山にある鏡岩かがみいわ(県指定天然記念物)に関する逸話等が記述され、『万葉集』には、防人となった久慈郡の若者が、故郷の久慈川を思って詠んだ歌が採録されています。また、『続日本紀』宝亀元年(770)の条に記載のある丈部氏はせつかべしは、市内の中道遺跡なかみち(小野)出土の「丈永私印」の銅印(県立歴史館所蔵 県指定文化財)や、上村田の中小遺跡出土の「丈」烙印・墨書土器らくいん(市指定文化財)に関わ

りある一族と考えられ、文献と出土品がつながる可能性を持つ貴重な資料となっています。

奈良・平安時代の遺跡も数多く、律令制が行き詰まり、墾田の私有を認めた墾田永世私財法が公布された天平15年(743)以降、遺跡が増加する傾向が見られます。近年、開発に伴う発掘調査が実施された、久慈川右岸に位置する上ノ宿遺跡かみのしゆく(宇留野)や北原遺跡(岩崎)は、最盛期である9世紀の50~100という住居跡の多さや、硯すずりや刀子とうすといった出土品から、久慈川の舟運に深く関わる集落と考えられています。また、久慈川を使って久慈郡衙ぐんがが置かれた常陸太田市大里町おおざとへ瓦を供給したとされる瓦窯跡も鷹巣に所在します。

7世紀から9世紀初めにかけて実施された蝦夷征討において、兵士の駐屯地であった常陸国は、陸奥に向かうための陸路が整備されており、『延喜式』に記された官道は、常陸太田市を流れる久慈川の支流 山田川に沿って現在の福島県東白河郡棚倉町に抜けたと想定されています。陸奥に向かう脇道のひとつとして、当市東側の久慈川沿いに北上し、西からの道を合わせる太子町を経、八溝山の東麓やまつり 矢祭町で官道と合流して



上ノ宿遺跡(宇留野)

棚倉に向かう、ほぼ現在の国道118号線に沿う中世の
よりがみみち
依上道の原形となる道がすでにあり、前線基地のひとつとして当地域が機能していた可能性もあります。

当地の産物としては、調として納めた布、また、紙も常陸国にとって重要な貢納品となっています。紙漉きの技術の伝播が、常陸国に移住した高麗からの渡来人によるものかどうかは不明ですが、正倉院文書から、8世紀後半の奈良時代には、常陸国が写経用紙を納めた18の製紙先進国のひとつとなっていたことがわかります。常陸国内で紙を産した地域は、原料となるコウゾの栽培に適した、当地を含む山間部の久慈川・那珂川中流域と考えられ、近世に著名な紙産地となる萌芽をここに見ることができます。

宗教的な環境をみると、延喜式内社として記載されている常陸国28座のうち、那珂郡・久慈郡に各7座と、

他の7郡に比してきわめて多く、市内には久慈郡立野神社たてのに比定される立野神社(上小瀬)があります。また、鷲子山や金砂山、八溝山などを聖なる山として山岳信仰の対象とすることも、平安時代の作とみられる仏像の存在などから、古代までさかのぼると考えられます。

平安時代後期の武将で、奥州を舞台とする前九年の役、後三年の役で有名な八幡太郎源義家の弟、新羅三郎源義光しんらさぶは、後三年の役に駆けつけて義家を助け、戦後、常陸国当地域に進出し、常陸国内の有力豪族だった常陸平氏から妻を得て勢力を伸ばします。常陸における義光の子孫には、後に甲斐源氏とよばれる武田氏の祖と、常陸源氏となる佐竹氏の祖があり、このうち、現在の常陸太田市を本拠とした佐竹氏が、当市域を含む常陸国北部の中世の主役となっていきます。

3-3 中世

茨城県北部地域の中世は、佐竹氏の存在なくして語ることはできません。常陸国北部に足掛りを得た源義光の嫡男義業よしなりが常陸での足場を固め、平安時代後期の12世紀中ごろに、久慈郡佐竹郷(現常陸太田市)に本拠を構え佐竹冠者かじゃと呼ばれた孫の昌義まさよし(1081-1147?)が、太平洋岸から下野国境までの、多珂、久慈東、久慈西、佐都東、佐都西、那珂東、那珂西の奥七郡とよばれた、当地を含む現在の茨城県北部に勢力を拡大し、佐竹氏の祖となりました。常陸大宮市域は、久慈東・西郡、那珂東・西郡域に属します。

佐竹氏は、鎌倉時代の始まりとなる12世紀末の源頼

朝の挙兵に、同じ清和源氏でありながら呼応せず、頼朝に攻められ敗北して勢力が削減された一時期と、その後、室町時代中頃の15世紀初めに、継嗣問題で一族内の意見が対立したことに端を発した、100年に及ぶ山入やまいりの乱による混乱の期間を除き、徳川家康の命による秋田移封までの400年以上の年月、市域の城館主であった在地豪族や佐竹支族の盟主として当地を支配し、政治的にも文化的にも大きな影響を及ぼしました。下野及び奥州と国境を接する当市域には、現在確認されているだけで、大小70余りの中世城館跡があります。

鎌倉末期以降、常陸国守護に任じられるようになった



源氏系図 一巻 (下町甲神社蔵 市指定文化財)

佐竹氏は、家臣とともに京や鎌倉に滞在する機会も多く、洗練された文化・芸術や宗教、一流の文物・人の交流を当地にもたらす役割も担っていたと考えられます。そのような文化的環境が、雪舟と並び称される画人 雪村周継を生み育んだと言えるでしょう。

また、佐竹氏は承久の乱の戦功によって、美濃紙の生産と流通の拠点である美濃国武儀郡山口郷（現岐阜県美濃市）の地頭職を得ました。美濃に赴任して美濃佐竹を名乗った一族は、340年間美濃に住し、京と常陸宗家を仲介する役割を担っただけでなく、当地に美濃の製紙技術を伝えた可能性があります。

当時の宗教的環境に目を転じると、二十四輩寺院が6カ寺も存在する当市域と浄土真宗の関わりや、南北朝期に市内上岩瀬に生まれ、浄土宗中興の祖とされる兼学の学僧 了譽聖罔の存在も特筆すべきことです。

佐竹氏の治世の中で、注目すべき当地の鉱物資源に金があります。栃木県側の八溝山麓武茂（現那須郡那珂川町）で産出した金は、創建時の東大寺大仏の鍍金に用いられたとされていますが、常陸大宮市域を含む久慈川流域は金の産出地で、小規模ながら近代まで採掘がおこなわれていました。最も産出量が多かったのが戦国

期で、佐竹領内は当時国内屈指の金産出量を誇っていました。

山入の乱を終息させ、常陸大宮市街地にあった部垂城が舞台となった兄弟による内紛を制した佐竹氏は、戦国大名化を果たして強大となり、太閤検地によって常陸国54万石余を安堵されます。名実ともに常陸国の支配者となった19代義宣は本拠地を太田から水戸に移して、領国内の再編を行っています。市内小場を本拠としていた小場氏は、現つくば市にある小田城に、長倉の長倉氏は石岡の柿岡城へと家臣団と共に移りました。この折、城主とともに移った寺院の宝物も、長倉氏とともに柿岡に移った善慶寺所蔵の雪村画のように、多くが市域を離れたとみられます。しかし、徳川家康より関ヶ原の戦いで去就を咎められた義宣は、慶長7年（1602）、滞在中の大坂城で出羽国への移封を命ぜられ、およそ500年もの間代々が苦勞して守り育てた常陸に立ち寄ることなく秋田へと向かい、地元を離れて常陸国内各地の城に移っていた小場氏等の支族たちも、義宣に続いて出羽国へと旅立ち、大館など新しい領地に入りました。それぞれの家臣たちも、一族のうち嫡男は秋田へと向かい、二・三男や老人は残って農民となり新しい時代を迎えることとなります。



小場城の外堀断面(小場)

3-4 近世

佐竹氏が秋田に去ってからのち、常陸大宮市域はすべて徳川家康の末子頼房を藩祖とする水戸徳川家の領地となり、それは明治2年の版籍奉還まで260年間続きました。

戦国時代の終息に伴う爆発的な人口増加に対応するため、水戸藩は甲州出身の金山衆 永田茂衛門・勘衛門父子に命じて大規模な灌漑施設の整備を実施し、久慈川の辰ノ口と岩崎、那珂川の小場の3か所に堰を設け、

長大な用水路を整えました。後世、水戸藩^{さんだいえぜき}三大江堰と呼ばれるいずれの堰も常陸大宮市域に設置され、施設の近代化や設置場所の移動はあるものの、用水路の流路のほとんどは江戸時代のもを踏襲しています。

市内を流れる那珂川と久慈川は、物資の輸送に大きな役割を果たし、流域各所に荷の上げ下ろしをするための河岸^{かし}が設けられました。また、両河川は大宮地域で最も接近して流れるため、久慈川を下ってきた水戸へ向かう北からの物資の多くは、大宮台地を陸送して那珂川沿いの小野へと運ばれ、再び舟で水戸城下へと向かいました。奥久慈の産物であったメノウやコンニャクの輸送にも、年貢米などとともに久慈川・那珂川舟運が使われています。また、南北朝期に依上道として史料に現れる久慈川沿いの棚倉への道は、近世に脇街道^{なんごうみち}南郷道として整備され、下野へと続く街道沿いの地域とともに、かつての主要な城下の宿^{しゆく いち}が、市の機能も兼ねた宿場町として発展しました。

山林面積の割合の高い常陸大宮市域は、水戸藩の財政を支えた、紙、メノウ(火打石)、粉コンニャク、葉タバコ、木材などの特産品の産地でした。特に紙は、大消費地江戸の出現と、利根川東遷による鬼怒川との直結によって大量輸送が容易となり、江戸時代初期から生産が急激に増大して、水戸藩の財政の三分の一を支えるまでになります。水戸藩公許の在郷紙問屋のあった小田野、鷺子、上檜沢、下檜沢、大岩、高部、長倉はすべて現在の常陸大宮市域です。また、市内諸沢出身の中島藤衛門が18世紀後半に発明した粉コンニャクや、江戸で使われた火打石の9割を占めたとも言われる「水戸火打ち」の名で流通した当地域産のメノウ、近年まで栽培が盛んだった葉タバコなども、藩に莫大な利益をもたらした代表的な産品です。

2代光圀と9代斉昭の時代には、神仏分離と寺院の改廃を伴う宗教改革を行っています。光圀は、佐竹氏が信仰し各所にあった八幡社を、春日や鹿島、吉田神社に改めさせ、淫祠を廃止するとともに、寺院の整理を行っていますが、歴史ある寺院については仏像や宝物の修理を施すなど保護継承を図りました。しかし、斉昭は「寺」の付く村名を改めさせるほどの徹底した寺院整理を断行したため、明治期の廃仏毀釈と相まって、市域には寺院が少なく、また、貴重な仏像や寺宝、祭礼・年中行事や

土俗的な習俗など、失われたものも少なくないとみられます。

将軍家の一族としてプライドが高く、学問好きで真面目な藩風は領民にも及んでいたようですが、上方や江戸で盛んとなる文化・芸術・娯楽は、速やかに水戸城下にもたらされ、農村の祭礼にも影響を及ぼします。神輿の渡御^{とぎよ}に従う見事な彫刻を施した山車・屋台の製作・保持や祭ばやしの受容はもちろん、近世を通じて相互に影響し合い人気を競ってきた歌舞伎と人形浄瑠璃は、農村祭礼の余興でも人気を博し、常陸大宮市を代表する組立式農村舞台の成立と地芝居一座の結成をみました。また、屋台の彫刻や幕の染色が、市域農村部在住の職人の手によるものであることも注目されます。

幕末の水戸藩は、一部脱藩者が桜田門外の変で大老井伊直弼を殺害して倒幕への扉を開きましたが、天狗諸生の内乱によって自滅の道をたどり、明治新政府への建設的な参加は叶いませんでした。この内乱は、藩内各地に設けられた藩立の庶民教育機関である郷校^{ごうこう}で尊王攘夷思想を学んだ領民にも及び、村内の軋轢や諸産業の停滞等を招きました。



中島藤衛門肖像 (個人蔵)

3-5 近現代

廃藩置県後、紆余曲折を経て現在の茨城県が成立し、常陸大宮市域は那珂郡・久慈郡・東茨城郡の一部となりました。その後、いわゆる明治の大合併によって現市域は1町17村となり、昭和の大合併で2町3村に、そして平成16年10月16日に市制を施行して常陸大宮市が誕生しました。

維新後まもなくの明治期に、市域で起こった大きな事件として小瀬暴動(小瀬一揆)があります。明治政府が実施した地租改正に対して、農民たちの不満が爆発し、県内真壁郡での騒擾に続き、明治9年(1876)12月に当市域の農民らを中心とする凡そ2,000人が小瀬暴動とよばれる地租改正反対一揆を起こしました。一揆の犠牲者7人、死刑3人、1,000人以上の懲役や罰金の処罰者を出した村数は2郡32カ村にのまりました。

江戸時代に盛行した紙生産は、明治になって洋紙の移入や製紙の機械化によって衰退します。宿場町を形成していた紙問屋などの裕福な家々は、酒造業や銀行業、林業などに進出し、高部宿たかぶじゆくに代表される和洋折衷の町並みが作られていきました。また、農村地域では、製紙に代わる産業として、需要や輸出が伸びたコンニャクイモや葉タバコの栽培、養蚕業、林業等が盛んとなります。また、マッチの普及によって火打石の採掘は下火となりますが、諸沢地区や北塩子・西塩子・上小瀬地区に厚く堆

積している大谷石と同質の凝灰岩(白岩石)が建築資材として需要が伸び、玉川村駅まで敷設した鉄路で水郡線へと乗り入れて東京方面にも移出されました。しかし、現在はいずれの産業も衰退して廃業が相次ぎ、人口減少と地域活力の減退がみられます。

舟運に代わる大量輸送を担ったのは鉄道です。水戸と福島県郡山を結ぶJR水郡線は、ほぼ近世の南郷道に沿って磐城棚倉に入り、そのまま北上して郡山に向かいます。水戸～常陸大宮間の開業が大正7年(1918)、山方宿まで延伸したのが大正11年(1922)、大子まで開通したのは昭和2年(1927)、郡山までの全線開通は昭和9年(1934)のことです。久慈川周辺の旧河道の川砂利や碎石などの東京への輸送に現在も活躍しています。那珂川流域にも昭和2年に水戸(赤塚駅)～桂村(御前山駅)間に茨城交通茨城線の鉄路が敷設されましたが、自動車の普及に伴って昭和46年(1971)に全線廃止となりました。

戦後の自動車の普及に伴う道路の整備はめざましく、昭和59年(1984)の大宮、同62年(1987)山方の国道118号バイパス開通や、花立トンネル開削と鷲子バイパス開通による昭和59年の国道293号の整備等によって人の流れと市街地の位置が変化しています。



小瀬一揆義民堂



雪が舞う高部宿（高部）

第2章 地域資源の把握及び常陸大宮市の文化財の概要と特徴

1. 地域資源把握のための各種調査

常陸大宮市域では、旧町村単位での自治体史の編さんや、国・県や当時の市町村といった行政、民間団体や個人などによって、様々な地域資源を把握するための調査が行われ、報告書等の刊行物や映像として記録されています(巻末資料1)。なお、製作した映像は、市ホームページからYoutubeで見ることができます。

今回確認することのできた国や県が実施した調査で取り上げられている市域の地域資源には、茨城県の近世社寺建築調査後の旧美和村のように、報告書に掲載された地域内の文化財を積極的に指定するといった、調査の成果を活用する動きも見られます。また、平成12年度から平成16年度にかけて県が各自治体で実施した、専門家と学生による、寺社の彫刻を中心とした未指定文化財の調査は、これまで知られていなかった文化財の把握に大きく貢献しました(巻末資料3)。

しかし、昭和50年代から平成初年に専門家の協力のもとに行われた自治体史編さん以前は、県等が行った広域調査において、旧自治体ごとの詳細な調査は行われていなかったのが現状です。

自治体史の編さんには、地元の歴史文化に詳しい個人や郷土史研究団体等が協力しており、そのような地域住民の熱意と自主的活動によって実施された調査も多く、団体が発行した機関誌にも貴重な記録が残されています。

歴史民俗資料館や文書館では、旧町村役場所蔵の文書類や民俗資料・考古資料等を引き継ぐとともに、地域の

様々な文化財の所在調査及び収集を随時行っています。また、平成29年より開始した市史編さん事業も連携して資料の把握に努めています。なお、歴史民俗資料館の収蔵品及び旧町村から引き継いだ民俗資料については、収蔵場所も分散しており整理が進んでおらず、点数の把握ができていません。

「各地域の文化財調査状況イメージ」(表39-1)からは、平成16年の町村合併後、分野は限られるものの行政による恒常的な調査が可能となり、市史編さん事業の開始によって、考古・歴史・民俗・自然の専門家による把握と研究が充実したことがわかります。

なお、詳細調査の基礎資料となる、地域ごとの文化財等総合的把握調査の実施状況の概要は表40-1、文化財類型に沿った調査の進捗状況は表40-2のとおりです。ここで明らかとなったのは、近世から近代、特に近代の各類型における調査の不足です。近代の地域資源は、時代的にも身近なために価値を見出しにくいという、自然や公的な建造物等を除き、現在生活している個人に関わるものが多く調査が困難であることが一因となっています。

表の中で「多く分布」となっている種類のものでも、完全な調査は困難であり、把握調査の対象は無尽蔵です。文化財等の総合的把握調査は、郷土史研究会など地域住民の知識と協力なしに実施することはできません。今後も地域住民と連携して、様々な切り口で地域の宝となりうる地域資源の把握を継続していく必要があります。

表 39-1 地域ごとの文化財調査状況イメージ

	1960 (昭和 35)	1970	1980	1990 (平成 2)	2000	2010	2020 (令和 2)
大宮		・町史刊行		・歴史民俗資料館開館 (市歴史民俗資料館 大宮館へ)	・大宮郷土研究会結成		
山方		・町史刊行	・町史(下)刊行	・歴史民俗資料館開館 (市歴史民俗資料館 山方館へ)	・山方郷土史クラブ結成		
美和				・村史刊行		・森と地域の調和を考える会結成	
緒川			・村史刊行				
		・緒川村郷土文化研究会結成					
御前山		・御前山郷土誌刊行		・改訂版 御前山郷土誌刊行	・御前山郷土史研究会		
常陸大宮市					・合併	・文化財担当職員配置(埋文中心)	・歴史民俗資料館(文書館開館後民俗中心)
						・文書館開館(歴史中心)	・市史編さん開始(考古・歴史・民俗・自然)

表 40-1 文化財等総合的把握調査実施状況

	石仏・石塔調査	地名調査	棟札調査	絵馬調査	古文書所在調査	社寺等所蔵品調査
大宮地域	悉皆調査	悉皆調査	一部調査	悉皆調査	一部調査	一部調査
山方地域	悉皆調査	悉皆調査中	一部調査	未調査	一部調査	一部調査
美和地域	一部調査	未調査	一部調査	一部調査	一部調査	一部調査
緒川地域	一部調査	未調査	一部調査	一部調査	一部調査	一部調査
御前山地域	一部調査	悉皆調査	一部調査	未調査	一部調査	一部調査

表 40-2 調査の進捗状況表

		建造物	美術工芸品	無形文化財	民俗文化財	史跡	名勝	天然記念物	文化的景観	伝統的建造物群
大宮地域	先史	×	◎	×	×	◎	×	×	△	×
	古代	×	○	×	×	◎	×	×	×	×
	中世	×	◎	×	×	◎	未	×	×	×
	近世	◎	◎	△	○	○	未	○	○	×
	近代	○	未	△	◎	○	未	○	未	×
山方地域	先史	×	○	×	×	◎	×	×	×	×
	古代	×	△	×	×	○	×	○	×	×
	中世	×	○	×	×	◎	未	×	△	×
	近世	△	○	△	○	○	△	○	未	未
	近代	○	未	○	◎	○	○	△	未	未
美和地域	先史	×	△	×	×	○	×	×	×	×
	古代	×	△	×	×	○	×	×	×	×
	中世	×	◎	×	×	◎	未	○	未	×
	近世	◎	○	△	△	◎	未	○	未	○
	近代	◎	未	△	○	○	○	未	未	○
緒川地域	先史	×	×	×	×	○	×	×	×	×
	古代	×	×	×	×	○	×	×	×	×
	中世	×	○	×	×	◎	未	×	未	×
	近世	◎	○	△	○	○	未	○	未	×
	近代	○	未	△	○	×	未	○	未	未
御前山地域	先史	×	×	×	×	◎	×	×	△	×
	古代	×	×	×	×	◎	×	×	×	×
	中世	×	△	×	×	◎	○	○	未	×
	近世	○	○	△	△	○	未	○	未	△
	近代	△	未	△	◎	×	○	△	未	未

◎多く分布 ○分布 ×存在せず △調査不足 未未調査

2. 常陸大宮市の文化財の概要

常陸大宮市には、令和2年7月現在、国・県・市指定もしくは登録の文化財が122件あります(巻末資料表2)。内訳は、国指定有形1、国指定史跡1、国登録2、県指定有形8、県指定無形1、県指定有形民俗2、県指定天然記念物3、市指定有形60、市指定有形民俗4、市指定無形民俗9、市指定史跡14、市指定天然記念物17の合計122件で、他に国選択1、歴史の道百選の選定1、及びふるさと文化財の森申請1です。(表41-1)

これらのうち、ほとんどを占める市指定文化財は、平

成16年の市制施行時に、すべての旧町村指定文化財を指定当初の類型で市指定文化財に移行したものです。各自治体史の編さんや県等が行った各種調査の中で評価され、指定に至ったものもありますが、指定基準を明確化する必要があります。

そのような状況も踏まえたうえで、特徴ある主な指定文化財を類型ごとに選び、これまでの調査で把握している未指定文化財を含めて次頁以降にまとめました。

表 41-1 指定等文化財の一覧表

2020年7月現在

類 型		国指定・選定	都道府県指定等	市町村指定等	国登録	都道府県登録	市町村登録	合計
有形文化財	建築物	0	1	10	1	0	0	12
	美術工芸品	1	7	50	0	0	0	55
無形文化財		0	1	0	0	0	0	1
民俗文化財	有形	0	2	4	1	0	0	7
	無形	0	0	9	0	0	0	9
記念物	史跡	1	0	14	0	0	0	15
	名勝	0	0	0	0	0	0	0
	天然記念物	0	3	17	0	0	0	19
伝統的建築物群		0	0	0	0	0	0	0
文化的景観		0	0	0	0	0	0	0
指定・登録文化財合計		2	14	104	2	0	0	122
国選定無形文化財		1	—	—	—	—	—	1
歴史の道百選		1	—	—	—	—	—	1
ふるさと文化財の森(申請中)		1	—	—	—	—	—	1

有形文化財

建造物

茨城と栃木の県境に鎮座する鷲子山上神社は、両県にまたがって建つ天明8年(1788)に建立された本殿と、文化12年(1815)に建立された随神門ずいじんもんが、茨城県・栃木県ともに指定した文化財となっています。優美な彫刻が施された本殿の造営には、日光造営に関わった彫物大工の系譜に連なる下野国千本せんぼん(現 栃木県芳賀郡茂木町千本)の石原藤助が関わっています。

また、寛政3年(1791)に建替えられた小田野の吉田八幡神社本殿(市指定文化財)の大工棟梁は、棟札に「野州千本 仙工門」とあります。

高度な技術を持ち関東一円で活躍した野州千本の宮大工たちが、市域の他の社寺の造営に関わった可能性も高く、「西塩子の回り舞台」など組立舞台ほんゆかの本床や、地元鷲子をはじめ那須烏山など、周辺地域の祭礼山車・屋台の彫刻に腕を振るった、市内鷲子地区の彫物大工との関係も注目されます。

高部宿にある間宮家住宅(国登録文化財)は、明治35年(1902)に建設された木造2階一部3階建ての和洋折衷住宅です。高部宿は、白楮・和紙・葉タバコ・木材等の集積地として栄え、当時の面影を残す建物が町

並みを形成しています。市域には、他にも民家を含め貴重な建造物がありますが、調査が進んでおらず把握が不十分です。



鷲子山上神社随神門(鷲子 県指定文化財)

美術工芸品

絵画

戦国時代の画僧、雪村周継は現在の常陸大宮市域で生まれたという説が有力ですが、残念ながら市域に作品は残っていません。絵画としては、鷲子の照願寺蔵の報恩寺本「親鸞聖人伝絵」の江戸初期の写本とされる「親鸞聖人一代絵巻」(4巻)、長倉の蒼泉寺の本堂内の板戸と格天井に、江戸時代後期の喜連川藩(栃木県喜連川市)の狩野派の御用絵師 津村雨林つむらうりんが描いた花鳥画や水墨画が、市指定文化財となっています。また、明治時代に活躍した辰ノ口在住の日本画家 野澤白華のざわはっかとその一門の作品を、市内各所の神社の絵馬に見出すことができます。



親鸞聖人一代絵巻 4巻(鷲子 照願寺蔵 市指定文化財)

彫刻

仏像彫刻については、平安時代に遡ると考えられるものに、三浦神社(小田野)の木像如来立像(未指定)、鷲子山上神社(鷲子)の仏像残欠(未指定)があります。いずれもカヤ材が用いられており、破損も進行しています。

市域にある鎌倉から室町時代の比較的古い仏像等の彫刻は、市内に6カ寺ある二十四輩寺院に数多く所在します。そのうち、鎌倉期に遡るとされるものは、鷲子の照願寺の聖徳太子立像(県指定)と木造阿弥陀如来立像(未指定)、石沢の常弘寺の本尊 木造阿弥陀如来立像(県指定)、室町期のものには、永禄6年(1563)作の常弘寺の木造聖徳太子立像(県指定、P62)のような優品があります。その他二十四輩寺院には室町期の阿弥陀如来像や聖徳太子像、祖師像が数多く蔵されています。

その他特筆すべき仏像には、当地域には珍しい中央仏師の作とみられる国長 阿弥陀院の木造阿弥陀如来脇侍三尊像(県指定 鎌倉時代)、上檜沢 満福寺の薬師如来坐像(市指定 鎌倉時代)等があります。

厳しい寺社の整理を断行した水戸藩2代藩主徳川光圀ですが、由緒ある寺院は手厚く保護し、傷んだ仏像類の修理を積極的に行っています。市内にも、三浦神社(小田野)の不動明王像、妙蓮寺(松山)の七面大明神、しゅうしょういん 種生院(泉)の泉正観世音像いずみしょうかんぜおん(いずれも市指定)に光圀の修理刻銘があります。

また、鎌倉時代のものとされる小ぶりながら優れた愛宕神社(長倉)の木造狛犬一対、佐伯神社(野口)の大永4年(1524)刻銘の木造の狛犬一対(P83 ともに市指定)など、特徴ある狛犬の彫刻もあります。

工芸品と歴史資料

大宮地域の総鎮守 かぶと 甲神社が所蔵する能面6面(県指定)は、佐竹17代当主義篤よしあつの実弟 部垂義元へたれよしもと奉納と伝えられており、能面が定型化する以前の貴重な資料です。また、阿弥陀院(国長)にある永禄12年(1569)銘と元亀4年(1573)銘の銅板製華鬘けまん2点(市指定)も、地方には類例の少ない仏具として注目されます。

歴史資料・古文書類

甲神社(下町)所蔵の源氏系図(市指定)、弘治3年

(1557)に奉納されたさたけよしあきほうがちょう佐竹義昭奉加帳(県指定)のほか、諏訪神社(高部)の嘉慶2年(1388)銘を記す棟札(他の室町期の棟札4枚とともに市指定)を最古として、市域の古社には中世に遡る棟札が散見され、当時の信仰圏や地方支配の状況などを知る貴重な史料となっています。



木造阿弥陀如来脇侍三尊像うち阿弥陀如来像
(国長 阿弥陀院蔵 県指定文化財)



木造狛犬(長倉 愛宕神社 市指定文化財)



諏訪神社棟札(高部 市指定文化財を含む)

ています。

地域に残る古文書には、区有のもの和个人所蔵のものがあります。区有文書は、近世村の庄屋や組頭等を務めていた家から、近代の大字の代表者(現在の区長)へと引き継がれた年貢皆済帳などの文書群で、多くが^{たんす}箆笥(通称区長箆笥)に収納されており、現在も区長宅を回っている文書群があります。個人所蔵の文書には、まれに^{かんとしょう}官途状など中世に遡る史料も含まれています。

考古資料

常陸大宮市の特徴となる文化財として、他地域との交流を示すとともに、豊富で造形的に優れている数多くの考古資料があります。

旧石器から縄文時代の遺物としては、昭和39年(1964)に茨城県で初めて地層確認調査が実施された旧石器時代の遺跡、山方遺跡出土の珪質頁岩製の石核石器(市指定)、全国最多の出土例となる下村田の坪井上遺跡から出土した縄文時代中期の8点の硬玉(ヒスイ)製大珠(7点県指定、個人所有1点市指定)、坪井上遺跡や西塙遺跡(野口)から出土している新潟県特有の火焰土器の仲間の土器などがあります。

珪質頁岩やメノウなど石器の材料となる石が豊富な当地域からは、県南や千葉県を中心とする関東一円に石材が搬出されていると考えられています。また、宝飾品として流通した硬玉(ヒスイ)は、富山との県境となる新潟県糸魚川市の特産で、火焰土器の仲間の出土と

もに、5,000年ほど前の縄文時代中期に新潟方面と交流があったことが想定されています。そのほか、他地域から搬入された遺物としては、栃木県高原文山産とみられる黒曜石や、千葉県銚子産とみられる琥珀^{こはく}があります。

常陸大宮市で最も有名な考古遺物は、弥生時代中期前半に営まれた再葬墓出土の人面付壺形土器で、同時に出土した土器や副葬品の玉とともに、出土品61点が国重要文化財に指定されています。一度埋葬した遺体の骨化を待つ掘り出し、壺に納めて再び埋葬する再葬墓には、ごく稀に土器に人面を表現したものが含まれる特徴があり、現在14遺跡17例が知られています。市域で確認されている、那珂川流域の小野天神前遺跡と長倉の宿尻遺跡(ともに未指定)、久慈川流域の泉坂下遺跡(国指定史跡)と山方の中台遺跡(未指定)の4つの再葬墓遺跡のうち、小野天神前遺跡からは3点(県所有 他出土品とともに県指定)、泉坂下遺跡からは1点の人面付土器が出土しています。

当地域の弥生時代を代表する土器に、十王台式土器があります。茨城県日立市十王台遺跡から出土した弥生時代後期の土器を標識とするこの薄手の土器は、我が国の最末期の弥生土器でありながら縄文を施すなど装飾性に富んだものです。昭和50年代に出版された著名な考古資料の写真集や解説書に掲載されている十王台式土器の多くが、小祝の梶巾遺跡出土の十王台式土器(市指定)です。



©小川忠博

坪井上遺跡(下村田)出土 硬玉製大珠(県指定・市指定文化財)



泉坂下遺跡出土 人面付壺形土器(国重要文化財)

無形文化財

県指定無形文化財であるとともに記録保存を講ずべき無形の文化財となっているものに西の内紙(手漉き和紙)があります。良質のコウゾを産する当地域は、古代より紙を産し写経用紙として都に納める国のひとつでした。江戸時代、大消費地江戸に近いことから急激に生産量が増え、農閑期の副業として、水戸藩第一の産品として藩の財政の三分の一を支えていました。様々な紙を漉き出す中で、当地を代表するのが西の内紙です。市内では、大宮地域を除く全地域で紙漉きが行われてきましたが、現在は山方地域の2軒の紙漉き工房が伝統を守っています。関係者は、地元で栽培・加工して白皮にししろかわたコウゾのみを原料とし、煮熟しゃじゆくに苛性ソーダかせいを用いず、手作業でチリ取りを行う等、伝統的な方法と技術で漉き上

げた紙を「本西の内紙」として位置づけ、「本西の内紙保存会」を結成して技術の保存と向上に努めています。



西の内紙の手漉き作業(山方地域 国選定・県指定)

有形の民俗文化財

下町区所蔵のささら獅子頭3点(県指定)は、下町の祭礼屋台を収蔵する倉から昭和29年(1954)に偶然発見されました。永正14年(1517)の墨書銘があり、東日本特有の一人立ち三匹獅子舞の獅子頭として最古のものです。

また、農村舞台は、県内でも常陸大宮市域でしか確認されていない特徴ある民俗文化財です。全市域の山村地域に、消滅した2棟(長田・小舟)を含む7棟の舞台の存在が確認されており、すべて組立式です。現在組立が行われているのは、最も古い道具に文政3年(1820)の銘を持つ西塩子の回り舞台(県指定)のみで、

下小瀬・門井(市指定)、国長・下檜沢(未指定)とともに、本床、フスマ、幕などの舞台道具と床材等を保存しています。いずれも、人形浄瑠璃と歌舞伎の共用として使用されていたとみられます。

市内各地で行われている祇園などの祭礼において神輿に随行する山車や屋台も、市域各地に所蔵されており、見事な彫刻が施された鷺子の花輪組の屋台(本体は栃木県大田原から購入)と野田の鹿島神社の屋台が市指定文化財となっています。

組立舞台の道具類や祭礼の山車・屋台の製作者は、鷺子在住の彫物大工や下小瀬こうやの紺屋など、地元の職人



ささら獅子頭(下町 県指定)

であることが判明しています。

緒川地域 松之草・吉丸・大岩、御前山地域 中居、美和地域 鷺子、山方地域 諸沢・盛金及び大子町で収集した、コウゾ栽培・加工及び紙漉きに関する民具等253点が「常陸大宮及び周辺地域の和紙生産用具と製品」として国登録有形民俗文化財となっています。これらに

無形の民俗文化財

県内で当市域のみで行われている行事に「六字様ろくじさま（口クッチャマ）」があります。隣接する栃木県那珂川町大那おこな地を除き、美和地域と緒川地域に特有の行事で、多くが盆の直後に行われ、疫病・災厄除けの行事と理解されています。前屋まえやと大具おおが（小舟）集落が共に行っている六字様が、市指定となっています。

また、旧暦の盆直前の7月10日に行われてきた、「オオスケニンギョウ」または「オカシマサマ」とよばれる、麦わらで作った武者姿の人形を子どもたちが集落境に持ち寄る行事は、久慈川流域特有の行事です。

住民の移動が少ない市内山間部の古い神社の祭礼には、頭屋制とうやせいが今も色濃く残っており、祭礼の頭人とうにんとなる家や弓引きの稚児を出す家、祭礼行列に加わる家などが今も守られています。現在は中断していますが、小田野の吉田八幡神社境内にある十二所神社の九頭祭（未指定）は、小田野地区の9軒の旧家が順番に頭人となり、弓引きの少年とともに厳格な精進潔斎を経て祭礼に臨みます。

西金砂山の西麓に位置する諸沢地区は、73年毎に7日間をかけ各地で田楽を行いながら日立市の水木浜みずきはまを往復する大祭礼（大田楽）で有名な西金砂神社（常陸太田市上宮河内に鎮座）の4つある氏子地区のひとつで、7年毎に実施される小祭礼（小田楽）では、実行組織や行列組みなどに古風な祭礼習俗をよく伝えており、「西金砂神社小祭礼における諸沢の祭礼習俗」が市指定となっています。

祭礼を盛り上げるお囃子は、市内各地で伝承され、多くの保存団体が市の無形民俗文化財に指定されています。祭礼の中断や、少子高齢化の進行により、いずれの団体も後継者育成に苦慮していますが、4年に一度行われている鷺子山上神社夏季例大祭（鷺子祇園）で曳き出

は、農閑期の副業として行ってきた当時の在来の古い道具や、等級の付けられた白楮（楮の白皮）、生産された和紙も含まれています。

市域には、様々な講中等が建てた数多くの道標や石仏・石塔はなだてとうげがあり、花立峠道標（市指定）など、洒脱で見事な彫刻が施されたものが散見されます。

される6台の山車や屋台上で演奏される鷺子祭囃子は、若年層への継承も着実に行われています。

久慈川と那珂川が流れる当市域では、舟運が盛んでした。かつては、貨物用、馬も乗る渡し舟、工所用など様々な用途の木造の川舟が舟大工によって造られていましたが、河川交通が途絶えた近年は、笹の葉に似た形状からササブネとよばれた川漁用の舟の製造のみとなりました。那珂川流域最後の舟大工 峯岸進さん（長倉）の「那珂川流域を中心とした川舟の造船技術」は市指定無形民俗文化財です。



伝統を守る舟大工（長倉 市指定）

記念物

史跡

常陸大宮市には、現在、大宮地域158、山方地域35、美和地域39、緒川地域22、御前山地域100の、合計354か所もの遺跡があり(巻末資料表4)、中世城郭等の新規発見により年々件数が増えています。

出土品が重要文化財となっている泉坂下遺跡(泉)は、低位段丘上の水田地帯に位置し、耕土が浅く保存状態が良好であったため弥生時代の再葬墓として初の国史跡に指定されました。

泉坂下遺跡の西側は、江戸時代初期に岩崎用水を開削した段丘崖で、崖の上は久慈川と玉川的作用を受けた大宮台地の南端です。久慈川や玉川を見下ろすこの地域周辺には、縄文時代から近世の灌漑施設まで様々な史跡が密集しています。中世城郭の宇留野城跡(宇留野)と前小屋城跡(泉 いずれも未指定)、硬玉製大珠8点が出土した坪井上遺跡(下村田 未指定)、弥生時代後期の十王台式土器を多数出土した富士山遺跡(上岩瀬 未指定)、県内最古級の4世紀に遡る前方後方墳(開発により消滅)や全長60mの前方後円墳 五所皇神社裏古墳がある富士山古墳群(下村田・上岩瀬 未指定)のほか、戦国時代の画僧 雪村周継が近くに住み画を描くのに用いたと伝えられる 雪村筆洗いの池(下村田 市史跡)も坪井上遺跡の直下に位置しています。

下野国と奥州に接する当市域には、戦国期を中心とした鎌倉から室町時代にかけて、数多くの城が築かれ、近年の調査によってその数は大小70余にも上ります。このうち、市指定史跡は御前山地域の野口城跡と長倉城跡

のみですが、佐竹氏の有力な支族である小場氏の小場城跡、長倉城跡、高部城跡をはじめとする美和地域の中世城郭跡は、地域住民の自主的な活動によって整備が進み、当時の遺構が明らかとなってきています。

奥久慈と呼ばれる山方地域以北の久慈川流域を中心とした県北西地域の、金やメノウといった豊かな鉱物資源は、中世から近現代に至るまで採掘が続けられました。特にメノウは、江戸で使用された火打石の9割を水戸領産出のメノウが占めたといわれるほど大量に江戸へと搬出されたとみられます。諸沢や北富田のほか、市内各地に露天掘りの跡や採掘坑がみられますが、分布調査や史跡指定には至っていません。

名勝

現在、市域に指定や登録を受けた名勝はありませんが、高部宿の元紙問屋で造り酒屋だった岡山家が、三階建ての望楼 喜雨亭とともに明治時代に造営した3,000㎡の庭園 養浩園が、地域住民による整備と令和元年度の文化財庭園保存技術者協議会の研修でよみがえりました。

天然記念物

奈良時代に編さんされた『常陸国風土記』にも記載のある、鏡岩(照山)が県指定となっています。度重なる激しい地殻変動によって断層の破断面が強ク擦り合わされ、摩擦熱で岩石が溶けて、磨いたような鏡面をもつ岩



泉坂下遺跡(泉 国指定)



岡山家養浩園(高部 未指定)



吉田八幡神社の三浦杉(小田野 県指定)

石です。現在は風化が進行していますが、かつては、西金砂神社の祭礼に向かう人々が、この岩に姿を映し身支度を整えたと伝えられています。

樹木としては、平安時代の末頃、九尾の狐退治で有名な相模国の豪族三浦介義明が植えたと伝えられる、小田野の吉田八幡神社参道の石段両側にそびえ立つ三浦杉(県指定)が著名です。また、樹液採取後伐採されることが多く大木となるのは珍しい、樹高15m幹回り215cmもある北富田の大漆(市指定)は、国内屈指の漆産地でもある当地域のシンボリック存在です。

1,700万年以前から300万年前頃の新生代第三紀の当地域は、海や陸の環境で堆積した地層が分布しており、各時代に生息した様々な動植物の化石を見出すことができます。日本地質学会が行った「県の石」選定で、茨城県の化石となった「ステゴロフォドン」は、平成23年(2011)に市内在住の高校生が野上地内で発見した、1,650万年前頃に生息した古いゾウ類ステゴロフォドンのほぼ完ぺきな頭蓋化石です(県立自然博物館蔵)。西塩子所貫^{ところぬき}からは、およそ40万年から2万年ほど前まで生息していたとされるナウマンゾウの臼歯の化石(市指定)が出土しています。

伝統的建造物群

現在、伝統的建造物群として選定されている事例はありませんが、国登録文化財の間宮家住宅や、近世紙問屋で近代に造り酒屋となった國松家・岡山家のほか、古い土蔵や旅館、洋館建ての旧郵便局舎などが連なる高部宿は、コンパクトながら近世から近代にいたる民家が混然一体となった独特の町並みを形成しています。(P.38参照)

文化的景観

現在未選定ですが、大宮地域の久慈川東岸に江戸時代後期より水害防備林として植栽された最大幅30mの竹林と、水戸藩三大江堰のひとつ辰ノ口江堰築造による灌漑で広大な水田地帯となった久慈川沿岸地域の集落、美和地域の森林の8割以上を占めるスギ・ヒノキの人工林等を挙げるすることができます。

文化財の材料

国指定無形文化財の本美濃紙保存会規約に原料として指定されている「茨城県産那須楮」及び著名な奥久慈産漆の産地は、当市北東域を含む久慈川流域です。また、書写材や文化財の修復、工芸品の素材として用いられる、那須楮を原料とした手漉き和紙 西の内紙は、現在当市山方地域のみで生産されています。

なお、漆については家和楽地区の漆林が、ふるさと文化財の森への認定を申請中です。

3. 常陸大宮市の文化財の特徴

前項2の文化財の概要からは、次のような特徴をみることができます。



文化財を継承するための原材料確保の視点からの特徴

コウゾ・和紙・漆・木材など、わが国の美術工芸や建築に必要な原材料の産地



これらの特徴を踏まえて地域資源の把握や調査を進める

4. 地域資源把握の課題と方策

序章1に示したように、当地域計画では、地域資源の「把握」を「さがす・みつける」ととらえ、主な内容を右図のように考えています。

第2章において、国・県及び旧自治体や市がこれまで行ってきた文化財把握のための調査を確認し見直すことで、調査不足の分野や地域が明らかになるとともに、地域資源の把握に関する課題も見えてきました。

恒常的な地域資源の把握には、専門知識を有する職員を配した歴史民俗資料館や文書館の存在が大きく関与しています。また、様々な分野の専門家との連携が必要であるとともに、地域に精通した各地域の郷土史研究団体や地域住民との協働体制の構築も重要

さがす・みつける

- 地元の古老に話を聞く
- 過去の文献を調べる
- 地域の文化財等を調べる
- 公民館や家々の資料等を調べる
- 動植物や景観など自然環境に目を向ける等々

です。これらの課題と、少子高齢化といった社会問題に起因する課題を整理し、方策をまとめたものが表50-1です。

表 50-1 地域資源把握に関する課題と方策

課 題	方 策
社会問題に起因する課題	
地域の高齢化と就業人口の流出による人口減少及び空き家の増加で、個人が所蔵してきた資料が調査不能となり、消滅・散逸が進行している	資料館・文書館及び市史編さん事業を活用した速やかな調査の実行と郷土史研究団体との連携
地域の歴史や風俗・習慣を知る世代の話者が減少し、聞き取り調査が困難となっている	
体制の問題に起因する課題	
職員のみでの考古・歴史・民俗・自然等全分野の対応は困難	大学や博物館等施設及び専門家との協力体制の構築
職員のみでの全市域の悉皆調査は困難	地域住民との協力体制の構築
その他	
市域のみの調査では地域資源の把握が不十分	近隣町村等、関係自治体との協力
民家や個人所有資料の調査が困難	地域に精通した各地域郷土史研究団体との連携
地域住民が地域資源の存在と価値に気づいていない	「みや・コレ」の有効活用
	学校・地域住民と協働した把握調査の実施

第3章 常陸大宮市の歴史文化の特徴

第1章常陸大宮市の概要、及び、第2章常陸大宮市の文化財の概要と特徴から見てきた当市の歴史文化の特徴は、下記のように整理することができます。

常陸大宮市の特徴	具体的内容
1 交わりの地	1 平地と山地
	2 西から流れる那珂川と北から流れる久慈川
	3 温暖気候と寒冷気候
2 境の地	1 西南日本と東北日本を分ける棚倉構造線
	2 奥州・下野との境
	3 境の地の民俗
3 長期にわたる佐竹氏と水戸徳川家の支配	1 佐竹氏がもたらした文化と雪村周継
	2 美濃佐竹氏と紙漉き技術
	3 水戸藩三大江堰の築造
	4 水戸藩の宗教政策による破壊と保護
	5 水戸藩治世下の農村文化—組立式農村舞台の存在—
4 特産物がもたらした富と文化と地域間の交流	1 紙問屋の集中と富の蓄積
	2 在郷の文人
5 山岳信仰と二十四輩寺院	1 聖なる山 西金砂山と鷲子山
	2 親鸞聖人二十四輩寺院の集中

1. 交わりの地

関東平野の東北部の北端と久慈山地の南端及び八溝山地の東端が交わる地であることから、人々がたやすく入ることのできる比較的低い緑豊かな山と台地が広がり、初期稲作に適した谷津が発達していること、西から流れる那珂川と、北から流れる久慈川が最も近づき、川沿いに移動したヒトやモノが交わる地であること、また、温暖気候と寒冷気候が交わる地であることが、楮や和紙、漆、粉コンニャクといった良質の特産品を育てることにつながっています。これらの、様々な地理的条件と自然環境が交わる地であったことから生じた歴史文化が、常陸大宮市の特徴のひとつとなっています。



滝ノ上型土器の公開



関東の阿玉台式と東北の大木式等が入り混じったハイブリッド縄文土器「滝ノ上型土器」

1-1 平地と山地

市の南部で、広大な関東平野と、山地が交わる常陸大宮市は、久慈川と那珂川及びその支流によって形成された河岸段丘や谷津、そして複雑な舌状台地と、人がたやすく入ることのできる幸豊かな緑深い里山で構成されています。

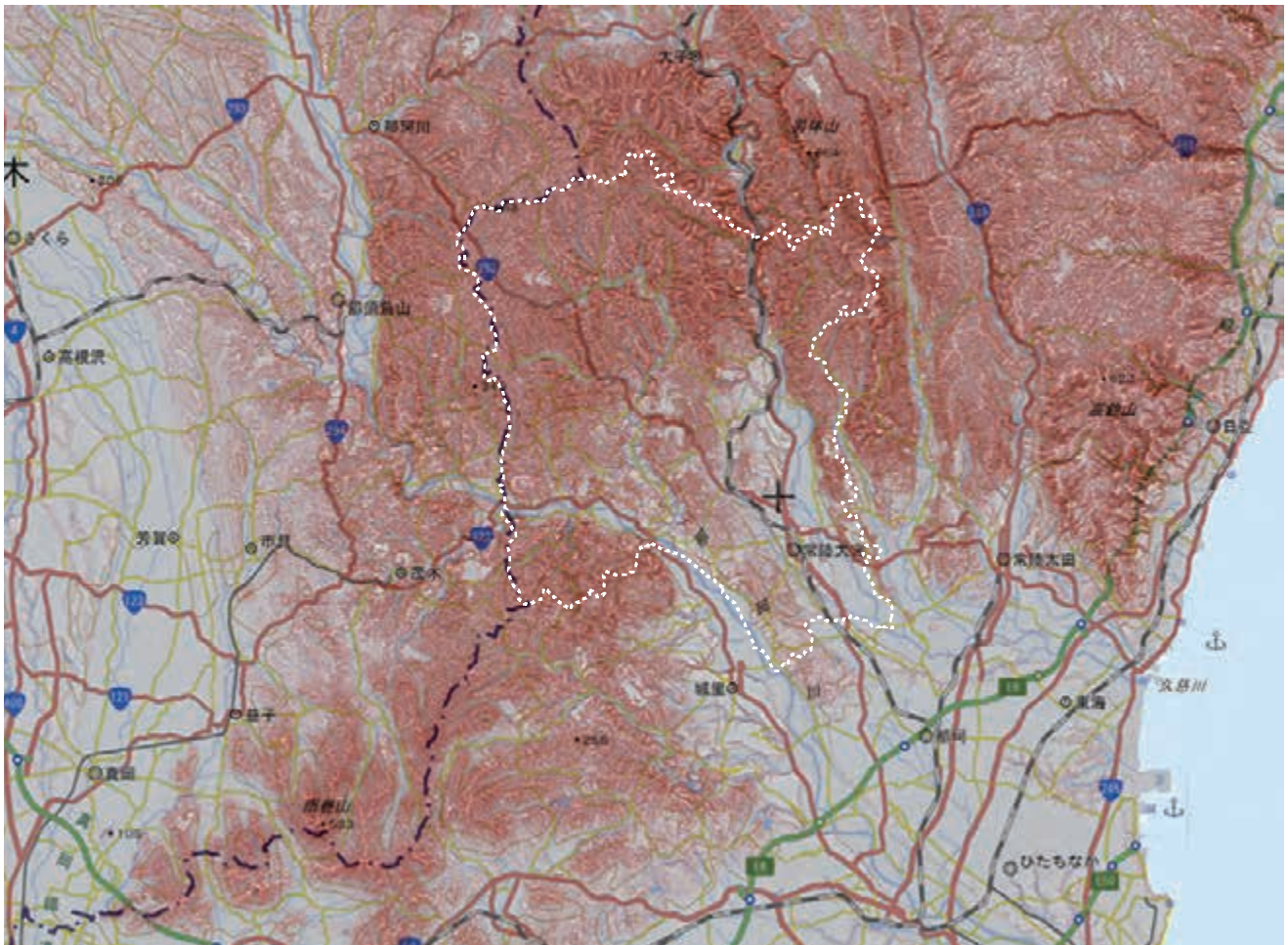
この地に人々が暮らす3万年以上という長い時の流れの間には、人口が激減するような大きな気候変動もあったと考えられますが、多くのサケが遡上する那珂川・久慈川沿岸で、山の幸、川の幸ともに恵まれた自然環境、そして天水を用いた小規模な水田栽培に適した谷津の存在が、東国の弥生時代の始まりといわれる数

少ない再葬墓の4遺跡もの存在と、古墳時代から奈良・平安時代の遺跡の多さに関連すると考えられます。

近年は、人口の減少とコメの消費量の落ち込みによって耕作放棄地が増えています。谷の奥へ奥へと開発された谷津田は、現在も当地を代表する農村景観のひとつです。

また、水戸藩領内の2大河川 久慈川と那珂川が流れる平野のはじまりという立地が、水戸藩三大江堰の堰設置の適地となったことも、平地と山地が交わる当市の特徴を示しています。

図 52-1 赤色立体地図で見る平地と山地



(統合型 GIS データに加筆)

1-2 西から流れる那珂川と北から流れる久慈川

常陸大宮市では、栃木県那須連山を源として市内を東流する那珂川と、福島県南白河地域から南流する久慈川が、市域南部で最も近付いて流れます。当地域が、その河川や川沿いの道を使った人や物資の交差点であったことを彷彿とさせるように、市内の遺跡からは、東北系の土器と関東系の土器、そして栃木県高原山産の

黒曜石や新潟県魚沼地方で作られた火焰土器の仲間、新潟と富山の県境、糸魚川地域で産するヒスイ(硬玉)などが出土しています。中でも、縄文時代中期の拠点集落とみられる坪井上遺跡からは希少な硬玉製大珠が8点も発見されており、ひとつの遺跡からの出土数が国内最多となっています。



西埜遺跡(野口)出土 火焰土器の仲間(未指定)



坪井上遺跡(下村田)出土 火焰式土器の仲間(未指定)

1-3 温暖気候と寒冷気候

日本近海を流れる暖流 黒潮と、寒流 親潮(千島海流)が茨城県沖(常磐沖)の太平洋で出会う影響で、茨城県北部は温暖気候と寒冷気候の交わる地域となっています。栽培植物も、柑橘類やチャノキの太平洋側の北限であるとともにリンゴ栽培の南限であるなど、暖温帯の照葉樹林と冷温帯の落葉広葉樹林(夏緑樹林)が交錯し、植生も豊かです。

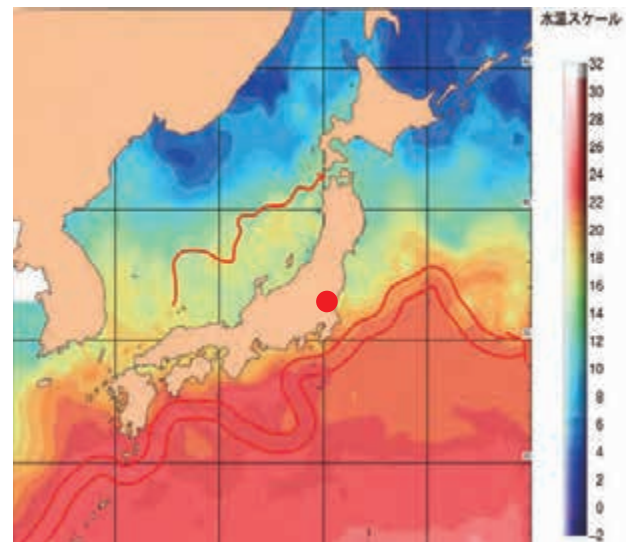
繊維のコウゾや味の濃い作物を育て、晴天が続く湿度が低く寒冷な冬の気候が、白楮やコンニャク芋、手漉き和紙の乾燥に適し、品質の良い特産品を育みました。

日中暑く夜涼しい夏の昼夜の寒暖差が、きめ細かい



紙の天日干し(昭和50年頃 諸沢地区)

図 53-1 表面水温海流合成図



(令和元年12月16日 海上保安庁)

2. 境の地

地質学上の西南日本と東北日本の境とも考えられている棚倉構造線の西側に位置し、その形成過程で生成された様々な鉱物資源が、石器時代から人間に有効な石材として用いられたことによってヒトやモノの交流が生まれたこと、奥州と下野との境に位置することで、古代より戦国時代まで、様々な攻防の前線基地であったこと、下野国境地域では、ヒトとモノの交流によって共通の民俗があるとともに、地域への災厄の侵入を防ぐ独特の行事が存在するなど、地質学的にも歴史地理学的にも境の地であることが要因となった歴史文化が、常陸大宮市の特徴のひとつとなっています。

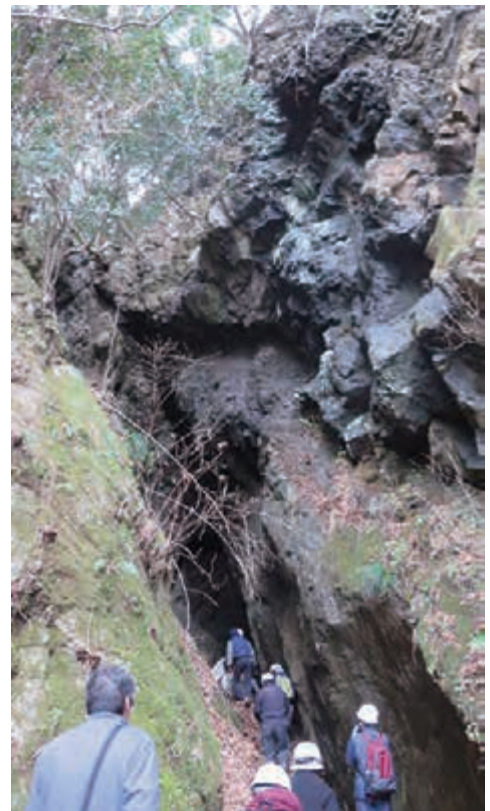
2-1 西南日本と東北日本を分ける棚倉構造線

常陸大宮市東隣の常陸太田市を縦断する棚倉構造線は、茨城県から山形県酒田市を経て樺太方面に延びる東西2本の大断層で、断層間は幅3kmほどの破碎帯です。日本列島の基礎ができた新生代新第三紀に形成され、地質学的な西南日本と東北日本を分ける構造線とも言われています。この断層の形成過程で起こった大規模な地殻変動が、棚倉断層を境として西側に位置する当市域の地質形成にも大きな影響を及ぼし、金やメノウ、チャート、珪質頁岩、凝灰岩などに代表

される、この地を石器時代から現代にいたる人類に有益な鉱物資源に恵まれた地域とし、人と物資の往き来をより活発にしたと考えられます。

表 54-1 常陸大宮の地質層序と地下資源の産出層

地域		久慈川の西側	久慈川の東側	地下資源	
地質年代					
新生代	第四紀	更新世	所貫層 ◆ 約 260 万年前	● 金	
		鮮新世	● 引田層 ◆ 約 340 万年前	● 砂金	
	新第三紀	中新世		瑞龍層	● 火打石 (玉髄・メノウ)
				大門層	▲ 石材 (凝灰岩)
			坂地層	西染層	▲ 石材 (砂礫質凝灰岩)
			玉川層 約 1500 万年	男体山火山角礫岩 ●	★ 亜炭
			桜本層	浅川層	■ 碎石 (硬質砂岩)
			● 小貝野層 ▲ 約 1740 万年	大沢口凝灰岩部層 ▲	▲ 硯石 (粘板岩)
			国長層	北田気層 ▲	♣ マンガン
			八溝層群・益子層群 (笠間ユニット・高取ユニット) 1 億 5000 万年以上前		◆ 山砂
中生代	ジュラ紀				



諸沢地内に残るメノウ採掘坑



諸沢及び北富田地区で産出されるメノウ

2-2 奥州・下野との境

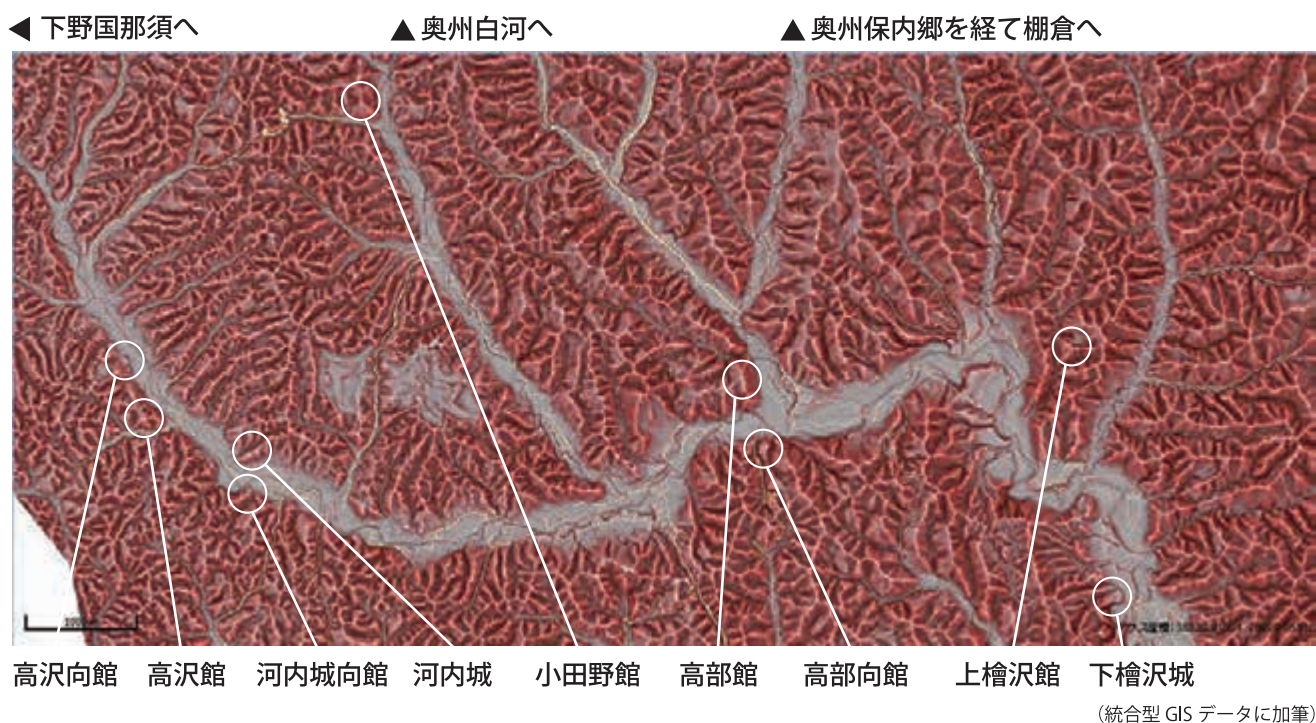
当地は歴史的に、常陸国の最北西として、西は下野国、北は16世紀末の太閤検地で現在の太子町域が常陸国に組み入れられるまで、陸奥国と接する国境の地でもありました。

大和朝廷が6世紀頃までに中部・関東地方を支配下に置いたのに続き、朝廷は奈良時代から平安時代(7～11世紀)まで、阿倍比羅夫や坂上田村麻呂、源頼義・義家らを蝦夷東征のため東北地方に侵攻させました。常陸国は東海道の北端に位置し、蝦夷征伐に向かう兵士らは、当時遠浅の内海だった霞ヶ浦で下船してのち、陸路を奥州に向かったとされています。主なルートは、久慈川の支流 山田川に沿って奥州棚倉に向かう古代の官道と、海沿いに北上し^{なごそ}勿来の関を越えるものであったと思われていますが、近世に南郷道として整備される、久

慈川本流沿いに棚倉町に入る現在の国道118号に沿った道も使用された可能性があります。

下野と奥州、2つの国と国境を接する当市域には、現在把握しているだけで、南北朝の動乱期から戦国期にかけて築かれた大小70余もの城館跡が存在します。平安時代末から常陸国北部で勢力を拡大し、鎌倉時代末期以降には常陸国守護となっていた佐竹氏が、15世紀から16世紀前半まで続いた内乱を制して戦国大名化を果たした戦国期後半には、奥州白河の結城氏や下野那須郡の那須氏等との攻防に備え、奥州や下野に通じる道沿いの城館の整備や新設が行われたとみられます。茨城城郭研究会が行っている、地域の伝承や地名に基づく現地調査によって、山中に残された城館跡の発見が続いています。

図55-1 奥州下野国境付近の谷に沿った道と中世の城跡の分布(美和地域)



2-3 境の地の民俗

境の地は、防御の地であるとともに交流の地でもあります。下野国、現在の栃木県と境を接する地域住民は、生活圈や通婚圏も栃木県に広がっており、市域でも県境地域にのみ見ることのできる民俗があります。

栃木県の有名な郷土食にシモツカレ(スミツカリなども)があります。2月の初午につくる、新巻鮭の頭と節分で撒いた残りの煎大豆、荒くおろした大根や人参と酒かす等を煮込んだ独特の料理で、茨城県内では県西地域でも見ることができますが、県北では、御前山・緒川・美和地域で作られてきました。市域ではツムジツケーリ、ジンドッカエリなどとも呼ばれており、栃木県域と同様、初午に稲荷社や氏神に供えるとともに、甕などに入れて冷暗所で保存し大事に食しました。

一方、その分布状況から、他国から侵入する災いを防ぐ意味合いがあるのでは、と考えられる民俗行事として、六字様とオオスケニンギョウがあります。

「六字様(ロクツチャマ)」は、多数の割り竹を長く垂らした枝に切り紙の桜を飾り付け、灯籠をつけた纏(シナイとも)を作り、当番が担いで集落の一軒一軒を回るといもので、市内でも栃木県に接する美和地域と緒川地域に特有の行事です。「六字様」とは六字の名号「南

無阿弥陀仏」のことで、多くが盆の直後に行われ、疫病・災厄除けの行事と理解されています。行事の用具や関連する石塔には、かつては念仏踊りが伴っていたことを示すものがあります。

また、奥州から流れ下る久慈川流域には、旧暦で盆直前の7月10日夕方に、オオスケニンギョウまたはオカシマサマとよばれる麦わらで作った武者姿の人形を、子どもたちが集落境に持ち寄り、「お一鹿島のお一すけ、鬼に勝ってみーさいなあ」と叫びながら、戦わせたり持参した小麦まんじゅうを交換するなどする行事が行われてきました。

神話で出雲国の国譲りに活躍した軍神 たけみかづちのみこと 武甕槌命を祭神とする鹿島神宮の鎮座地は、蝦夷征伐のために派遣された兵士たちが上陸する常陸国の入り口にあたり、朝廷は制圧した奥州の地域に鹿島神を祀る社を設置していったとされ、東北の太平洋側には鹿島神社が点在しています。「オオスケ」は当地の方言「す助ける(たすける)」から来ており、古代に行われた蝦夷征伐で、当地域住民が鹿島神の援兵となってお助けしたことに由来するとの伝承もあって、災いを地域から排除する虫送りと鹿島信仰が習合した行事と考えられています。



撮影／藤田 稔

オカシマサマ(昭和30年代 鷹巣 未指定)



撮影／藤田 稔

六字様(昭和50年代 小舟地区前屋・大貝 市指定無形民俗)

3. 長期にわたる佐竹氏と水戸徳川氏の支配

当市域を含む茨城県北部の久慈川と那珂川流域の地域は、平安時代の末から関ヶ原の戦い後までの約500年は清和源氏の名門 佐竹氏、そして250年余り続いた江戸時代は水戸徳川家と、ブランド力・統治力ともに備えた一族・領主に、ほぼ一貫して支配されました。佐竹氏が上方からもたらした文化や技術、水戸藩が推し進めた産業振興・宗教・文化等の領国支配政策の影響は、現在常陸大宮市に残る歴史文化の大きな特徴のひとつとなっています。

3-1 佐竹氏がもたらした文化と雪村周継

雪村周継は、「西の雪舟、東の雪村」とも言われる、日本を代表する戦国期の水墨画家で、その画風や精神は、江戸時代の尾形光琳^{おがたこうりん}や酒井抱一^{さかいほういつ}といった、いわゆる琳派^{りんぱ}の画家たちに多大な影響を与えました。西暦1500年前後に生まれ、福島県三春で80余歳の生涯を閉じたとされています。江戸時代に編まれた画伝『本朝^{ほんちょう}画史^{がし}』には、「佐竹一族の長子として生まれたが、家督を弟に譲って出家し画僧となった」とあり、生地は、下村田地区に雪村伝説が残る常陸大宮市域とする説が有力です。

雪村は、戦で荒れ果てた都など西国を訪れることはなく、会津や鎌倉・小田原等に旅立つ40歳前後まで、常陸国内で画を学んだと考えられています。南北朝期

以降、東国の有力守護大名となっていた佐竹氏は、京を訪れる機会も多く、様々な文化を常陸国北部にもたらしたと考えられます。雪村が若い頃修業したとされる常陸太田市増井^{ましい}の正宗寺^{しょうじゅうじ}など、佐竹氏ゆかりの社寺には、優れた絵画や書跡・彫刻・工芸品等が納められており、雪村はそのような環境の中、著名な画家の作品を間近で学び、独自の画風を確立していったとみられます。

常陸大宮市域に残る、長倉の愛宕神社の木造狛犬(市指定)や甲神社の能面(県指定)など、鎌倉・南北朝期から室町時代に至る時代の優れた彫刻や工芸品には、佐竹氏やその一族が、京などから招来したものが含まれている可能性があります。



雪村筆洗いの池(下村田 市指定史跡)

3-2 美濃佐竹氏と紙漉き技術

奈良時代から良質紙を産し、江戸時代に急激に生産量が伸びた当地域の紙生産は、中世にも行われており、奈良興福寺の別当 尋尊じんそんの日記『大乘院寺社雑事記』の文明3年(1471)の記事に、現在の常陸太田市おおかた大方で漉き出されたとみられる「大方紙たいほうし」の記載があります。当地出身の画僧雪村が、常に那須紙(水戸領で産出された紙の近世の流通名)を作画に用いたと記す後世の資料もあり、佐竹氏の秋田移封とともに大方紙の生産がでわ出羽国でも行われていることから、佐竹氏は紙の生産を保護していたとみられます。

12世紀末の源頼朝の挙兵にあたり、同じ清和源氏でありながら同調しなかった佐竹秀義は、所領の多くを没収され勢力をそがれますが、その後許されて御家人に

加えられ、承久の乱(1221)ではその戦功によって美濃の山口郷こうずちのしょうと上有知荘の地頭職を得ています。地頭として美濃に赴任した秀義の三男一族は、戦国時代に常陸に戻るまでの340年間、美濃佐竹氏として居住し、室町幕府の奉公衆となる者もあって、京と常陸宗家を仲介する役割を担います。美濃上有知は古代より評価の高い美濃紙生産の中心地、山口郷は美濃紙の生産と流通の拠点であり、中世の常陸国北部に美濃の製紙技術が伝えられ、発展した可能性があります。近世以降、遠く離れた美濃に奥久慈産楮(流通名 那須楮)が移出されていることも、過去に美濃とのつながりがあったことを示しているのかもしれませんが。

3-3 水戸藩の宗教政策による社寺の整理と保護

水戸藩では、2代藩主光圀と9代藩主斉昭治世の2度にわたり、厳しい社寺改革を断行しています。

光圀は、神仏習合を否定して神仏分離を図り、地域に乱立している小寺・小社を整理して、由緒ある寺院を保護するとともに一村一社制の確立を目指しました。美和地域を例にこの政策の状況を見ると、改革前に存在した寺院数34のうち、残された寺は、満福寺・大山寺(下檜沢)、照願寺・善徳寺(鷺子)、玉泉寺(小田野)のわずかに5か寺(のちに、破却された小田野の寺院跡に引寺により移った藤福寺を加え6か寺)、他の29か寺が破却されました。市内他の地域も同様に、数多くの寺が整理されています。神社の改革は、仏教的な神体(仏像)を神道的な神体(鏡・幣)に改める、社僧(別当)をなくし神職に替える、佐竹氏が信仰した八幡社を潰す、あるいは吉田・鹿島・春日社等に改めるというものでした。

斉昭が行った社寺改革は一層過酷なもので、領内すべての神社を唯一神道に改め、寺院はすべて破却、梵鐘や仏具も没収して鑄潰し、大砲の原料とするというものでした。寺院側の抵抗も激しく、すべては実現しませんでした。先の改革で6か寺となっていた美和地域の寺院のうち、さらに大山寺・玉泉寺・藤福寺の3か寺が破却や焼失の処分を受けています。

これらの政策により、社寺に蔵されていた数多くの貴

重な文化財が、散逸あるいは消滅したであろうことは想像に難くありません。しかし、一方で光圀は、由緒ある寺院には寺領を増やすなどの保護を講じ、優れた仏像には修理を施して保存を図ることも行っており、市内にも光圀修理の刻銘をもつ仏像や神像が散見されます。



光圀の修理銘を持つ泉正観音(泉 市指定)

3-4 水戸藩治世下の農村文化 — 県内唯一の農村舞台の存在 —

水戸城下の泉町には、まだ幼かった末っ子の初代藩主頼房に徳川家康が与えたという伝承を持つ、人形浄瑠璃の一座「大薩摩座」^{おおさつまざ}が芝居小屋を構えて人形浄瑠璃や歌舞伎の興行を行うとともに、藩の庇護のもと興行独占権を有し、領内外の各地でもしばしば興行を打って人気を博していました。このような環境の中で、村々の領民たちも人形浄瑠璃や歌舞伎に親しみ、祭礼の余興に取り入れていきます。

人形浄瑠璃を取り入れた巨大な山車である日立風流物や、祭礼屋台の上で演じられる歌舞伎が知られていますが、常陸大宮市域では、県内唯一、農村舞台での人形浄瑠璃や歌舞伎が行われていました。

市域で確認されている7棟の舞台はすべて組立式で、残っている道具に記された銘や付随する文書から、その発生は江戸時代後期の文政期(1818~1830)頃と考えられ、現存する農村舞台としては最古級です。

農村舞台がなぜ常陸大宮市域にのみ存在するのか、組立式舞台が点在する栃木方面の影響も考えられますが、県境地域に分布が偏っているわけでもなく、その理由は判然としません。しかし、人形浄瑠璃が盛んだった水戸領内の環境のほか、下小瀬や鷺子といった近郷に、巾6間半もの引幕を染めることのできる職人や、腕の良い彫物大工が存在したことも、村々が組立舞台を持つうえで大きなきっかけとなったと考えられます。



花輪組の屋台(鷺子 市指定有形民俗)



下小瀬の舞台大幕(下小瀬 市指定有形民俗)

4. 特産物がもたらした富と文化

水戸藩最大の財源であった紙を扱う藩公許の在郷問屋は、すべて常陸大宮市域に所在し、江戸の紙問屋との取引によって巨額の富を蓄積する者もありました。紙問屋を許される家は、もともと地域の名家で、知識人や文人たちと交流する好学の士も多く、地方に様々な文化をもたらし役割も果たしています。紙の生産に陰りが見える近代以降は、木材や葉タバコといった特産品が地域を支えます。特産品の存在が、山間の地に忽然と現れる趣きある町並みなど、常陸大宮市の歴史文化の特徴を生み出す要素のひとつとなっています。

4-1 紙問屋の集中と富の蓄積

水戸藩の御国産第一とされる産物は紙で、水戸藩の収入のほぼ三分一を占めていました。山方地域北部から大子町にかけての久慈川流域は、特に良質の楮の産地として名高く、西の内や程村といった、上方でも著名な高品質の紙が漉き出されましたが、多くが山を越えればすぐの栃木県側に陸送され、輸送距離が短く、便の良かつ

た鬼怒川水運を使って江戸に運ばれたため、水戸藩を代表する産物だったにもかかわらず、流通名としての那須紙、那須楮の名が定着し、水戸藩が紙の産地であったことは残念ながらあまり知られていません。

藩は元禄元年(1688)に紙を藩の専売としましたが、宝永の改革で廃止となり、宝永4年(1707)水戸城下の6

軒の間屋に紙の流通を任せるとともに、正徳年間(1711～1716)に生産地である小田野・鷺子・下檜沢・上檜沢・大岩に5軒の間屋を許します(在郷間屋)。その後は、紙の生産増加に伴って、高部・野口・長倉にも間屋を認めています。これらの在郷間屋の中には、江戸の著名な紙問屋と巨額の取引を行って富を蓄積し、藩に千両単位の献金ごうしをして郷士となる者や、鷺子の薄井友衛門や下檜沢の小室氏のように大名に金貸しをする者も現れました。

郷士となったことで幕末の水戸藩の内乱に巻き込まれ、藩の後ろ盾も失った在郷の紙問屋は一時停滞し、薄井友衛門家のように当地を去る者もありましたが、郷士でもあった高部宿の3軒の紙問屋や周囲の素封家は、近代以降の和紙需要の低迷に見切りをつけ、取扱品を木材・葉タバコ等に転換するとともに、蓄財をもとに酒造業

や金融業を開始して富を維持し、広大な庭園と望楼を持つ岡山家住宅や和洋折衷の間宮家住宅などに代表される、独特の町並みを残しています。



高部宿 間宮家住宅(高部 国登録)

4-2 在郷の文人

水戸藩公許の紙問屋は、庄屋などを務める地域の有力者でもありました。また、扱う品が紙であるからか、知識人と交わる好学の士が多く、自らも書や漢詩・和歌をたしなみ、文芸活動を支援する在郷の文人でした。資料に残る人物としては、下檜沢村の小室吉伯(?～1829)、大岩村の竹内茂喬(1740～1802)、野口村の関沢政英(1740～1816)が挙げられます。

時代は下りますが、近代になって酒造業を始めた高部宿の岡山家では、3,000㎡もの庭園養浩園と三階建ての望楼喜雨亭を整備します。ここに多くの文人墨客が集い、一種の文化サロンとなっていたといえます。頻繁に江戸を行き来していた裕福な紙問屋は、地方に新しい文化をもたらす役割も果たしていたといえましょう。

5. 山岳信仰と二十四輩寺院

水戸藩による神仏分離と廃仏毀釈により、当地域の古代から中世の宗教的環境を復元することは困難となっていますが、市域の北部の東西に位置する、古代に遡るとみられる山岳信仰の聖地 西金砂山と鷺子山の存在と、市域に6か寺もの集中をみせる二十四輩寺院の存在は、常陸大宮市の歴史文化の特徴として特筆すべきことです。

5-1 聖なる山 西金砂山と鷺子山

常陸大宮市の北部の山地には、東端に西金砂山、西端に鷺子山があり、ともに八溝修験やみぞしゅげんに属する山岳信仰の聖地として古くから信仰されてきました。西金砂山は久慈川の支流、諸沢川・浅川・山田川の水源にあたり、鷺子山は那珂川の支流緒川の水源にあたります。社伝によれば、西金砂山は大同元年(806)に近江国比叡山ひよしの日吉

神社の分霊を、鷺子山はその翌年に阿波国の製紙の神あめのひわしのみこと天日鷺命を、天台僧の宝珠上人ほうじゅしやうにんが勧請したのが始まりとされています。水戸藩の神仏分離政策によって現在は神社と認識されていますが、両社はかつて寺院でもあり平安時代に遡る仏像があったことが確認されています。

鷺子山は、『常陸国風土記』にも下野国との境の大山

と記されており、西金砂山も、山田川沿いに奥州に通じる古代の官道から見て、国境にあるランドマークだったのかもしれない。諸沢の堂平^{どうだいら}に西金砂山の十一面観音を祀った堂宇があったと伝えられているように、両山の麓にあたる市域には、かつて関連する宗教施設等が設けられていた可能性があります。



西金砂神社小祭礼 諸沢地区笠ぬき (諸沢 市指定無形民俗)

5-2 親鸞聖人二十四輩寺院の集中

越後国に配流となった浄土真宗の開祖 親鸞聖人は、許されても京都には戻らず、しばらく常陸国を含む関東で布教を行います。この時弟子となった者のうち、24人の高弟が開基となった寺院を二十四輩寺院とよび、聖人の遺徳を偲んでこれらの寺院を巡拜することが古くから行われてきました。現在、二十四輩寺院を名乗ることが許されている寺院は43カ寺で、そのうちの6カ寺が常陸大宮市域にあります。一つの自治体として

は飛びぬけて最多の集中ぶりですが、その理由はわかっていません。

親鸞聖人が聖徳太子を厚く信仰したことから、これらの寺院の多くや、関連の寺跡と伝えられる地に、聖徳太子像が蔵されています。また、本尊である阿弥陀如来とともに、親鸞聖人像や開基となった個性的な高弟たちの像も多く見ることができます。

図 61-1 常陸大宮市内にある二十四輩寺院

番号	寺院名	宗派	開基	所在地
12番	善徳寺	大谷派	善徳房	常陸大宮市鷺子
16番	寿命寺	本願寺派	穴沢の入信房	常陸大宮市野口
17番	照願寺	大谷派	念信房	常陸大宮市鷺子
19番	法専寺	大谷派	明法房	常陸大宮市東野
20番	常弘寺	本願寺派	慈善房	常陸大宮市石沢
24番	本泉寺	本願寺派	唯円房	常陸大宮市野上



善徳寺本堂 (鷺子 市指定)



木造聖徳太子立像(石沢 常弘寺 県指定)

第4章 地域資源の保存・活用に関する課題と方針

1. 地域資源の保存に関する現状と課題

本地域計画では、地域資源の「保存」を「あつめる・まもる・みがく」と捉えています。

「あつめる」は、単にモノを収集するばかりではなく、常陸大宮市の歴史文化の特徴を示す資料に留意して、資料を取り巻く様々な状況とともに集めることが重要です。また、どこに何があるか、また、かつては何があったかといった情報も対象となります。

「まもる」は、形ある地域資源に関しては防犯・防火とともに各地域資源に適した保存環境の整備を実施し、無形の地域資源に関しては保存・継承に努めるだけでなく、埋蔵文化財包蔵地の範囲の確定や周知、地域の歴史・文化の特徴を示すなど優れた文化財を登録・指定すること、そして、開発や限界集落等の避けられない事情によって保存・継承が困難な地域資源を、文字や映像で記録保存することも、「まもる」一つの手段です。

「みがく」は、修理・修復の実施や、調査・研究を深めることで、地域資源の価値を高め、地域そのものの評価となって保存継承に益します。

この3つの行為は、互いに密接に関係しつつ地域資源の「保存」を進める重要な要素ですが、いずれにも、深刻な人口減少による空家の増大や、生活習慣の急激な変化による地域文化継承の困難が影を落としており、未調査の古

民家の解体や地域の歴史文化に詳しい世代の減少など、資料の収集や調査が年を追うごとに難しくなっています。

ここ10年の間に、常陸大宮市は、東日本大震災と令和元年東日本台風の豪雨による水害という、2つの大きな自然災害に見舞われました。幸い死傷者はなかったものの、建物や農地の被害は甚大で、緊急に設けられた廃棄物集積場には、古い農具なども散見され、失われた古文書類も少なくないと思われます。また、人通りの少ない無人の社寺の石造物が持ち去られる事例や、火災によって文化財を急ぎ持ち出す折に破損が生じるなど、危惧すべき事態も発生しており、地域住民が減少するなかで、防犯・防災といった地域文化財の保存管理は大きな課題です。

一方、行政としては、指定文化財の旧町村ごとの種別等の違いや、指定基準が曖昧である、計画的な修理が行われていないといった状況であり、計画的な指定や修理、文化財所有者の負担軽減、文化財が被災した際の具体的な対応の検討などが課題となっています。

現在、「あつめる・まもる・みがく」の拠点となっている施設は、歴史民俗資料館大宮館と文書館ですが、どちらも廃校等の既存施設を改修した施設です。文化財等を保存展示するにふさわしい立地や環境、施設・設備の整備及び体制の検討が大きな課題となります。

2. 地域資源の活用に関する現状と課題

本地域計画の地域資源の「活用」は、「しる・しらせる・つかう」で示しています。

「しる」は、展示や様々な教育普及活動による学習によって、ふるさとの歴史文化や地域資源の存在を知り・理解すること、「しらせる」は情報発信や周知活動、「つかう」は地域資源を用いた商品開発や観光資源化などです。

これらも、お互いに明確に分ちがたく、補完しあい連携することで、地域住民の誇りを醸成し、地域を活性化する活動への意欲につながるものです。

現在、文書館や歴史民俗資料館、そして文化財担当部署(文化・スポーツグループ)では、企画展や様々な講演

会、地域資源見学ツアー、地域指定文化財の一般公開などを積極的に実施し、毎回盛況ではありますが、参加者はほぼ固定しており、関係地域住民の認知度は高いとは言えず、地域プライドの醸成には道半ばの状況です。

自分たちの身近にありながら、子どもたちにとっては遠く感じられる地域の歴史・文化を理解し、守り・活用すべき地域資源を「見出し」「知る」こと、また、「もっと知りたい」と思うきっかけづくりとなる教育普及や周知活動、また、その活動を拡大・活発化させるための、学校・社会教育との連携や情報発信の手段の充実が大きな課題となります。

常陸大宮市には、和紙や那須椿・漆・メノウ・漣上サケと

いった、特徴ある特産品がありますが、現代人の生活や嗜好に合った製品化があまり進んでおらず、需要の減少によって、伝統的な製造や漁法等の技術のなかには、継承が困難となっているものもあります。

歴史や文化だけでなく、教育委員会では扱いきれない、食やショッピング、スポーツ・レジャーなど、これまで地域資源に関心を示さなかった人々にも親しみやすい切り口で地域資源をとらえ、活用するといった他部署の事業との連携は、地域資源の価値を高めて需要や魅力を引き出し、地

域プライドの醸成や地域活性化など、住民の生活に資する上で重要な課題です。しかし、誤った理解や逸脱した解釈、文化財等の破壊につながる行為や開発を未然に防止する役割を忘れてはなりません。

また、市域を越えて分布する特徴ある地域資源の存在や、保存・活用に関わる市民を巻き込んだ様々な活動、及び、地域資源の有効活用を進めるための拠点施設と体制の整備が、地域資源の把握・保存・活用のいずれにも関わる総合的な課題となっています。

3. 地域資源の保存・活用の課題に対する方針

今期地域計画の目的「市民と協働した『郷育』による文化財等地域資源の活用促進と地域プライドの創造」の達成に向けて、3つの方針を定めます。

まず第1は「現行事業の充実と推進」で、文化財行政の基本となる事業と、現在取り組んでいる市史編さん事業や泉坂下遺跡の史跡整備及び文化財展示施設の整備について、第2章・第4章で示した現状と課題をもとに充実・促進を目指します。第2は「政策間の連携」です。主に地域資源の有効な利活用に関する事業において、他部署や他自治体の政策との連携を図ります。そして第3は「市民の主体性の誘引」です。地域資源の把握・保存・活用のすべてにおいて、市民との連携は重要ですが、さらに地域活性化へと歩を進めるためには、市民が主体性を発揮することが不可欠です。

現在、市内の各地域では、地域活性化の原点である

「ふるさとを大切に思うところ」が、第一次産業従事者の減少によって土地との結びつきが希薄となったことや、地域の人口減少による将来への不安のために揺らいでいます。その漠然とした「ふるさとを大切に思うところ」を、地域住民がふるさとの歴史文化の特徴を「さがす」「しる」「つかう」などの活動を通じて、確固たる「地域プライド」に押し上げることが、協働のまちづくりによる地域活性化への第一歩であり、地域の文化財を「まもる」ことにつながるという視点から、第3の「市民の主体性の誘引」は、本地域計画の方針の柱となるもので、方針1・2もこれを後押しするものです。

前項1・2で述べた地域資源の保存・活用に関する現状と課題を踏まえ、具体的な課題とそれに対する方針を表65-1としてまとめました。

図 64-1 地域計画目的達成のための方針のイメージ

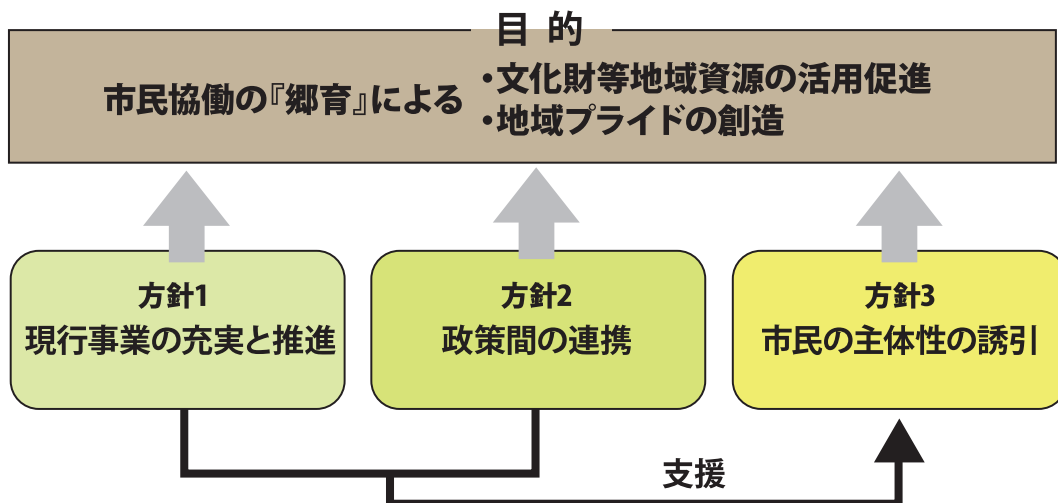


表65-1 地域資源の保存・活用に関する課題と方針

		課 題	方 針
保 存	あつめる		
	収 集	H-1 家の建替や人口の流出・減少による民具や古文書等の消滅・散逸の急激な進行	市民の主体性の誘引 現行事業の充実と推進
		H-2 家の建替・解体等の情報入手の困難	
		H-3 地域資源の由来等を知る世代の減少	
	まもる		
	文 化 財	H-4 文化財指定の基準が明確でなく種別も不統一	現行事業の充実と推進
		H-5 適切な環境整備、計画的な修理・修復が図られていない	
		H-6 所有者・管理者による費用負担が大きく、文化財の修復が進まない	市民の主体性の誘引
		H-7 人口減少による地域所在の有形・無形文化財の保存・継承が困難	
		H-8 需要減少による、那須楮の栽培・加工、伝統漁法、手漉き和紙などの伝統技術継承の危機	
	H-9 埋蔵文化財包蔵地の無断開発	現行事業の充実と推進	
	防 災	H-10 高齢化と人口減少により日常の防犯が行き届かない	市民の主体性の誘引
		H-11 地域資源に対する防犯・防火・防災意識が低く、災害時における文化財救出等の体制や対応が不十分	市民の主体性の誘引 政策間の連携
		H-12 文化財の被災を未然に防ぐ方策や、被災した場合の処置についての検討がなされていない	現行事業の充実と推進
		H-13 防火・防災のための備品や設備が整っていない	
	そ の 他	大量の民具や出土品など市所蔵資料の保管場所の分散と保存環境の不備	現行事業の充実と推進
		H-15 収集・集積したデータを、誰にでもわかりやすく、検索が容易な状態にできていない	
H-16 伝承継承の見込みがなく、断絶もしくは消滅が決定的な技術や行事等がある			
みがく			
調 査 研 究	H-17 把握した多種多様な地域資源に関する調査研究の深化が困難	現行事業の充実と推進	
	H-18 埋蔵文化財整理作業場が、遺物の増加に伴い狭くなっている		
活 用	しる		
	展 示 ・ 教 育 普 及	K-1 何が常陸大宮市の地域資源なのかわからない	政策間の連携
		K-2 歴史民俗資料館大宮館への入館者が少ない	現行事業の充実と推進
		K-3 子どもたちや親子を対象とした事業が少ない	
		K-4 講演会・見学会等への参加者の固定化	
		K-5 学校教育で利用する機会が少ない	現行事業の充実と推進 政策間の連携
	しらせる		
	周 知	K-6 郷土の歴史文化や歴史上の人物が、子どもたちに身近な存在となっていない	現行事業の充実と推進
		K-7 文化財説明板の破損・汚損や未設置がみられ、デザインにも統一性がない	
		K-8 市民や市出身者はもちろん、国内外を意識した、市の歴史文化の特徴と魅力、関連催事について、分かりやすい情報発信ができていない	現行事業の充実と推進 政策間の連携
	つかう		
	活 用	K-9 地域の活性化に有効な、地域資源をうまく活用できていない	政策間の連携
		K-10 那須楮や漉上サケなど、当地の特産品の利用・消費が減少している	
		K-11 地域資源の観光資源としての利活用が進んでいない	市民の主体性の誘引
K-12 地域資源の誤った理解による利用や破損につながる活用がなされる可能性がある		現行事業の充実と推進	

課題	方針
総合的な事項	
S-1 市域を越えて分布する地域資源の把握・保存・活用が困難	政策間の連携
S-2 重文をはじめとする貴重な文化財を安全に保管・展示するとともに、市民協働の調査・研究・教育普及活動を行う拠点となる施設がない	現行事業の充実と推進
S-3 地域管理の社寺が所蔵している仏像や神宝、個人蔵の考古資料等が、保管の安全性から県立歴史館等に寄託され、市内で公開される機会がほとんどない	
S-4 地域の歴史・文化や文化財等を資源として活用するための相談を積極的に受けることのできる拠点が無い	
S-5 文化財等の地域資源を有効に活用するための体制が整っていない	

4. 関連文化財群に関する事項

常陸大宮市の歴史文化の特徴を有する多様な複数の文化財を、関連文化財群として周辺環境も考慮した一つのストーリーでまとめることは、未指定も含む個々の文化財に対する理解を深め、存在意義を高めるとともに、見学コースの設定などの利活用の幅を広げ、保存意識の醸成にもきわめて有効です。

本地域計画では、第3章で示した常陸大宮市の歴史文化の特徴を備えていることを条件として、表66-1のように8つの関連文化財群を設定し、それらの把握・保存・活用に関する課題と方針を付しました。

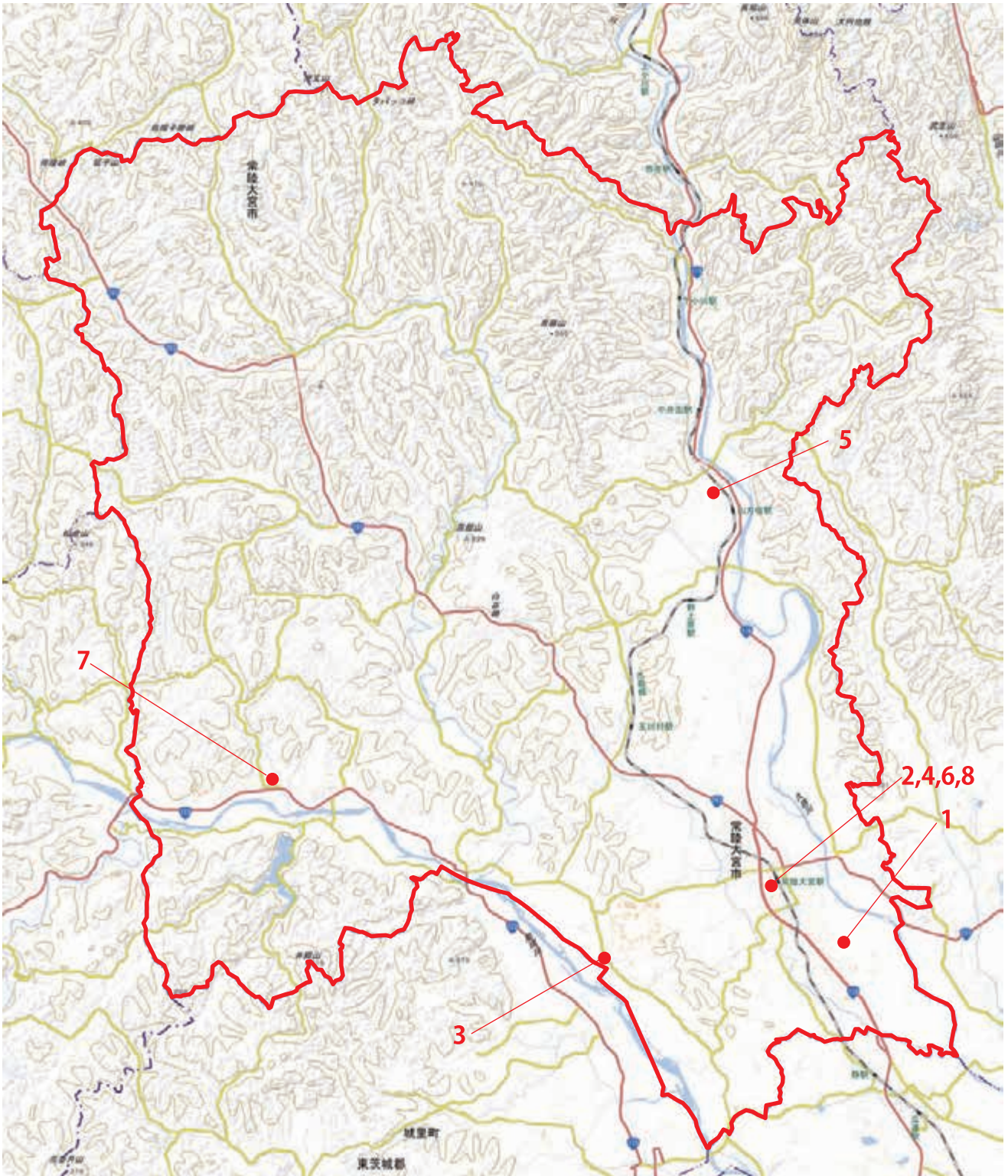
なお、設定した関連文化財群のうち、現在史跡整備を計画している泉坂下遺跡に関わる「①東日本の弥生時代解明のカギをにぎる再葬墓」、及び市民主体の体制が整っている美和地域をモデル地域として取り組む「⑦紙がもたらした経済力と文化」を、本計画期間内に重点的に取り組む事業とします。他の関連文化財群については、将来的な取り組みを目指して、本計画期間内に本格的な措置を講ずるに至らないものも含み、また、今後の地域資源の把握状況によって、関連文化財群及び構成文化財が増加する可能性もあります。

表66-1 常陸大宮市の関連文化財群

歴史文化の特徴		関連文化財群の名称		今期重点
I 交わりの地				
1	平野と山地の交わり	①	東日本の弥生時代解明のカギをにぎる再葬墓	○
		②	江戸時代初期の水戸藩の食糧増産巨大プロジェクト 久慈川と那珂川に建造された三大江堰	
II 境の地				
1	西南日本と東北日本を分ける 棚倉構造線との境	③	棚倉構造線形成期に続く地殻変動に由来する産物「メノウ」	
2	奥州・下野との国境	④	佐竹氏の攻防と市内に残る中世城郭跡及び関連資料	
		⑤	災い来るな! 災厄払う六字様行事とオカシマサマ	
III 長期にわたる佐竹氏と水戸徳川家の支配				
1	水戸藩治世下の農村文化	⑥	農村文化の総合芸術 組立舞台と山車・屋台	
IV 特産物がもたらした富と文化				
1	紙問屋の集中と富の蓄積	⑦	紙がもたらした経済力と文化	○
V 山岳信仰と二十四輩寺院				
1	親鸞聖人二十四輩寺院の集中	⑧	6カ寺もの二十四輩寺院及び関連史跡と文化財	

歴史文化の特徴		
I 交わりの地 / 1 平野と山地の交わり		
関連文化財群の名称		
① 東日本の弥生時代解明のカギをにぎる再葬墓		
関連文化財群の概要		
<p>東日本の弥生時代の黎明期に営まれた再葬墓は、全国の遺跡数が約80と少ない上に、同時代の住居跡等の検出がほとんどないため、当時の人々の暮らしがわからず、再葬墓の分布密度の高い北関東から東北部及び新潟県中越・下越地域は、めざましく解明が進む弥生時代の中で謎多き空白地帯となっています。</p> <p>谷津が発達し、初期の水田稲作に適していた常陸大宮市域で、4遺跡もの再葬墓と稀少な人面付土器4点が発見されたという事実だけでなく、保存状態が良好で出土品も優れている泉坂下遺跡などの調査の進展が、東日本の弥生時代解明につながるのではと、期待されています。</p>		
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	泉坂下遺跡	国史跡
2	泉坂下遺跡出土品	国重文61点を含む有形文化財(考古資料)
3	小野天神前遺跡	未指定史跡
4	小野天神前遺跡出土品	未指定有形文化財(考古資料)
5	中台遺跡	未指定史跡
6	中台遺跡出土品	未指定有形文化財(考古資料)
7	宿尻遺跡	未指定史跡
8	宿尻遺跡出土品	未指定有形文化財(考古資料)

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 耕作中に発見された中台遺跡について全く解明が進んでいない	現行事業の充実と推進
2 小野天神前遺跡の発掘調査が部分的で全貌が明らかでない	
あつめる・まもる・みがく	
3 出土遺物の破損が進行	現行事業の充実と推進
4 重要文化財出土品の保管・展示に対応した施設がない	
しる・しらせる・つかう	
5 遺跡の立地等の条件が悪く、多くの見学者の確保は困難	現行事業の充実と推進
6 市民への周知が不十分	政策間の連携
7 市民と協働した活動が不足	市民の主体性の誘引

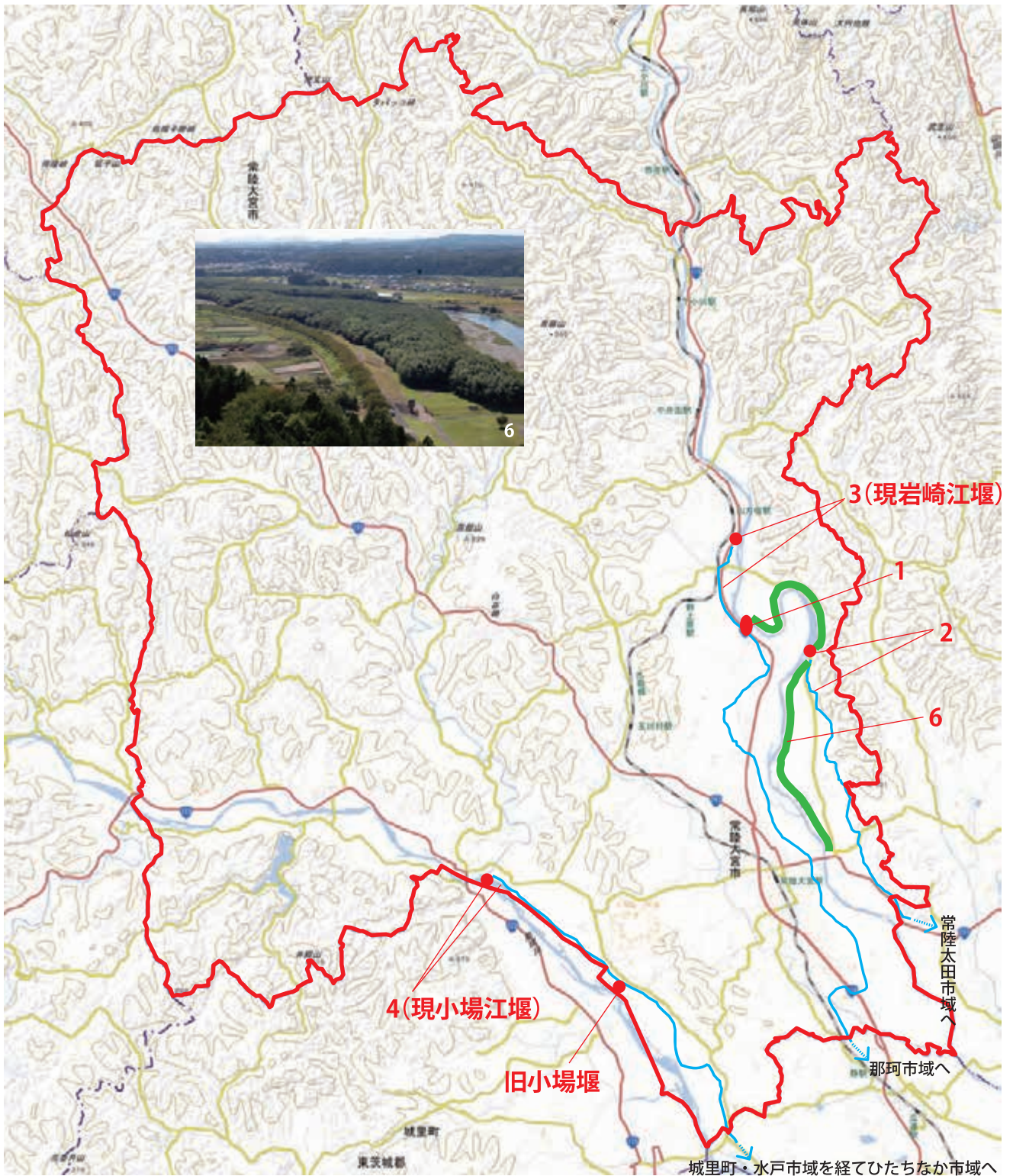


(地理院地図 / GSI Maps)



歴史文化の特徴		
I 交わりの地 / 1 平野と山地の交わり		
関連文化財群の名称		
② 江戸時代初期の水戸藩の食糧増産巨大プロジェクト 久慈川と那珂川に建造された三大江堰		
関連文化財群の概要		
<p>戦国の世から一転して平和となった江戸時代初期は、人口が爆発的に増えた時期でもあります。当時は諸大名にも財力があり、水戸藩でも食糧増産のための巨大灌漑施設の建造を企て、これまでの技術では水量が多く堰き止めることが困難だった領内の大河川、久慈川と那珂川に堰を建造し、長大な用水路を開削しました。後に水戸藩三大江堰と呼ばれる辰ノ口江堰と岩崎江堰、小場江堰です。技術者として建造を任されたのが、甲州の金山衆であった永田茂衛門・勘衛門父子で、三堰とも平野と山地が交わる常陸大宮市域に設けられました。</p>		
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	岩崎江堰の旧取水関連遺構及び旧水路	未指定史跡(灌漑遺構)
2	辰ノ口江堰	未指定(灌漑施設)
3	岩崎江堰	未指定(灌漑施設)
4	小場江堰	未指定(灌漑施設)
5	永田父子及び三大江堰等利水関連文書	未指定有形文化財(古文書類)
6	久慈川の災害防備林	未指定史跡

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 古い遺構に関する調査が不十分	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
あつめる・まもる・みがく	
2 岩崎江堰の古い用水路が残っているのに知られていない	政策間の連携
3 個人蔵の史料の保存・管理に不安がある	現行事業の充実と推進
しる・しらせる・つかう	
4 子どもたちには江堰の仕組みが理解しにくい	現行事業の充実と推進



(地理院地図 / GSI Maps)



1



1



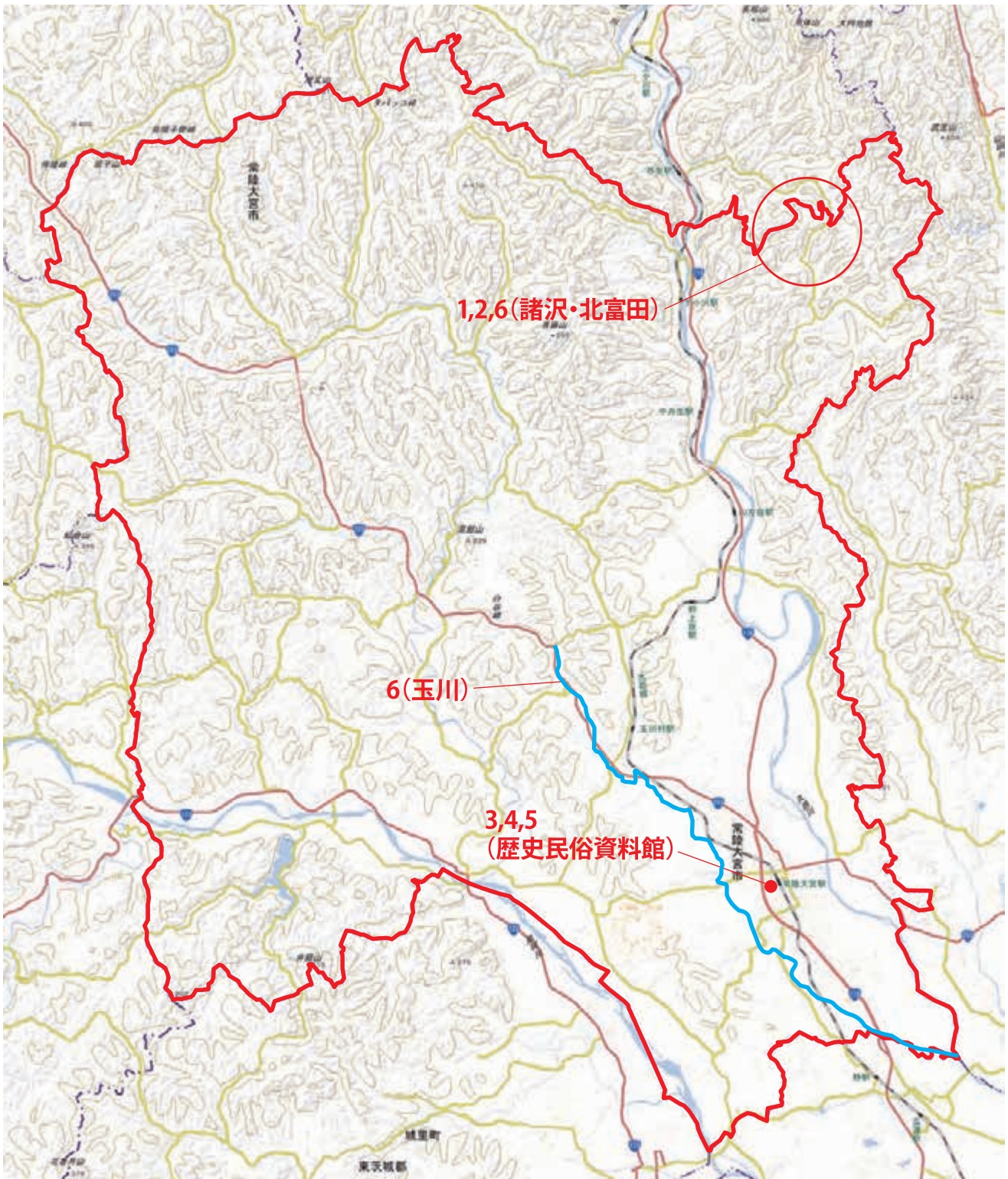
2



辰之口分江全図(部分 個人蔵) 5

歴史文化の特徴																						
Ⅱ 境の地／1 西南日本と東北日本を分ける棚倉構造線との境																						
関連文化財群の名称																						
③ 棚倉構造線形成期に続く地殻変動に由来する産物「メノウ」																						
関連文化財群の概要																						
<p>常陸大宮市域では、広範囲でメノウが産出され、久慈川支流の玉川流域で採取される赤いメノウは、奈良時代に編さんされた『常陸国風土記』に、火打石として優れていると記されています。しかし、当地のメノウの利用は旧石器時代にまでさかのぼり、縄文時代に盛んに作られた美しいメノウ製の石鏃は、周辺地域に流通したとも考えられています。加工しやすく鋭利な石器として優れ広く流通した黒曜石や、古墳時代までアクセサリとして珍重されたヒスイは、利用が途絶えると忘れ去られてしましますが、火打石として評価の高かった当地のメノウは、</p>	<p>近年まで連綿と使用・採掘が続けられてきました。特に、棚倉西断層の西側にあたる、激しい海底火山の活動を彷彿とさせる火山角礫岩が顕著で峻険な岩山中に位置する諸沢北部及び北富田地域は、火打石に適したメノウの鉱脈が豊富で、山中に数多くの採掘跡が残っています。この地から産出されるメノウは白色から灰色で、水戸藩の特産品として水戸火打ちの名でもてはやされ、江戸で用いられた火打石の9割を占めたともいわれています。</p>																					
構成文化財一覧																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>文化財の名称</th> <th>類型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>メノウ採掘跡群</td> <td>未指定史跡</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>男体山火山角礫岩中のメノウ脈</td> <td>未指定天然記念物</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>メノウ採掘用具</td> <td>未指定有形民俗文化財</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>火打石・火打鎌等発火具</td> <td>未指定有形民俗文化財</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>メノウ製の石器</td> <td>未指定有形文化財(考古資料)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>メノウ原石(諸沢・北富田産、玉川産)</td> <td>未指定天然記念物</td> </tr> </tbody> </table>		文化財の名称	類型	1	メノウ採掘跡群	未指定史跡	2	男体山火山角礫岩中のメノウ脈	未指定天然記念物	3	メノウ採掘用具	未指定有形民俗文化財	4	火打石・火打鎌等発火具	未指定有形民俗文化財	5	メノウ製の石器	未指定有形文化財(考古資料)	6	メノウ原石(諸沢・北富田産、玉川産)	未指定天然記念物
	文化財の名称	類型																				
1	メノウ採掘跡群	未指定史跡																				
2	男体山火山角礫岩中のメノウ脈	未指定天然記念物																				
3	メノウ採掘用具	未指定有形民俗文化財																				
4	火打石・火打鎌等発火具	未指定有形民俗文化財																				
5	メノウ製の石器	未指定有形文化財(考古資料)																				
6	メノウ原石(諸沢・北富田産、玉川産)	未指定天然記念物																				

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 近世以前の採掘跡や史料の存在が不明	現行事業の充実と推進
あつめる・まもる・みがく	
2 単分野の調査・研究では不足	現行事業の充実と推進
3 採掘地が隣接の太子町に広がっており、全体的な調査が困難	
しる・しらせる・つかう	
4 メノウ産地であることが知られていない	市民の主体性の誘引
5 メノウの利活用が図られていない	政策間の連携



(地理院地図 / GSI Maps)



歴史文化の特徴	
II 境の地／2 奥州・下野との国境	
関連文化財群の名称	
④ 佐竹氏の攻防と市内に残る中世城郭跡及び関連資料	
関連文化財群の概要	
<p>当市に隣接する、現在の常陸太田市を本拠地とした清和源氏の名門佐竹氏は、平安時代の終わりから徳川氏による天下統一までの約500年間、当地を含む奥七郡とよばれた茨城県北部に君臨しました。しかし、源頼朝の佐竹攻めをはじめとして、南北朝の争乱や一族内の覇権争い、国境を接する奥州白河の結城氏や下野の</p>	<p>那須氏との攻防など、その500年は決して安泰ではありませんでした。太閤検地以前、現在の太子町は奥州白河郡に属しており、常陸大宮市域は、奥州と下野国境に接する国境地域として、数多くの城が築かれ、山中にその姿をよく留めて残っています。</p>
構成文化財一覧	
文化財の名称	類型
1 頼朝軍が佐竹攻めに使ったと伝えられる西金砂山への諸沢道	未指定史跡(参詣道)
2 岩瀬与一太郎諫言図絵馬	未指定有形民俗文化財
3 南郷道	未指定(※文化庁選定「歴史の道百選」)
4 市内中世城郭跡	市指定史跡2カ所(長倉城跡、野口城跡)含む
5 諏訪神社本殿	市指定有形文化財(建造物)
6 高部景義墓	市指定史跡
7 甲神社	未指定有形文化財(建造物)
8 関連中世文書	県指定有形文化財「佐竹義昭奉加帳」、市指定有形文化財「源氏系図」「立原文書」(古文書類)含む
9 関連棟札	市指定有形文化財「諏訪神社棟札」(古文書類)含む
10 山方城跡出土遺物	未指定有形文化財(考古資料)

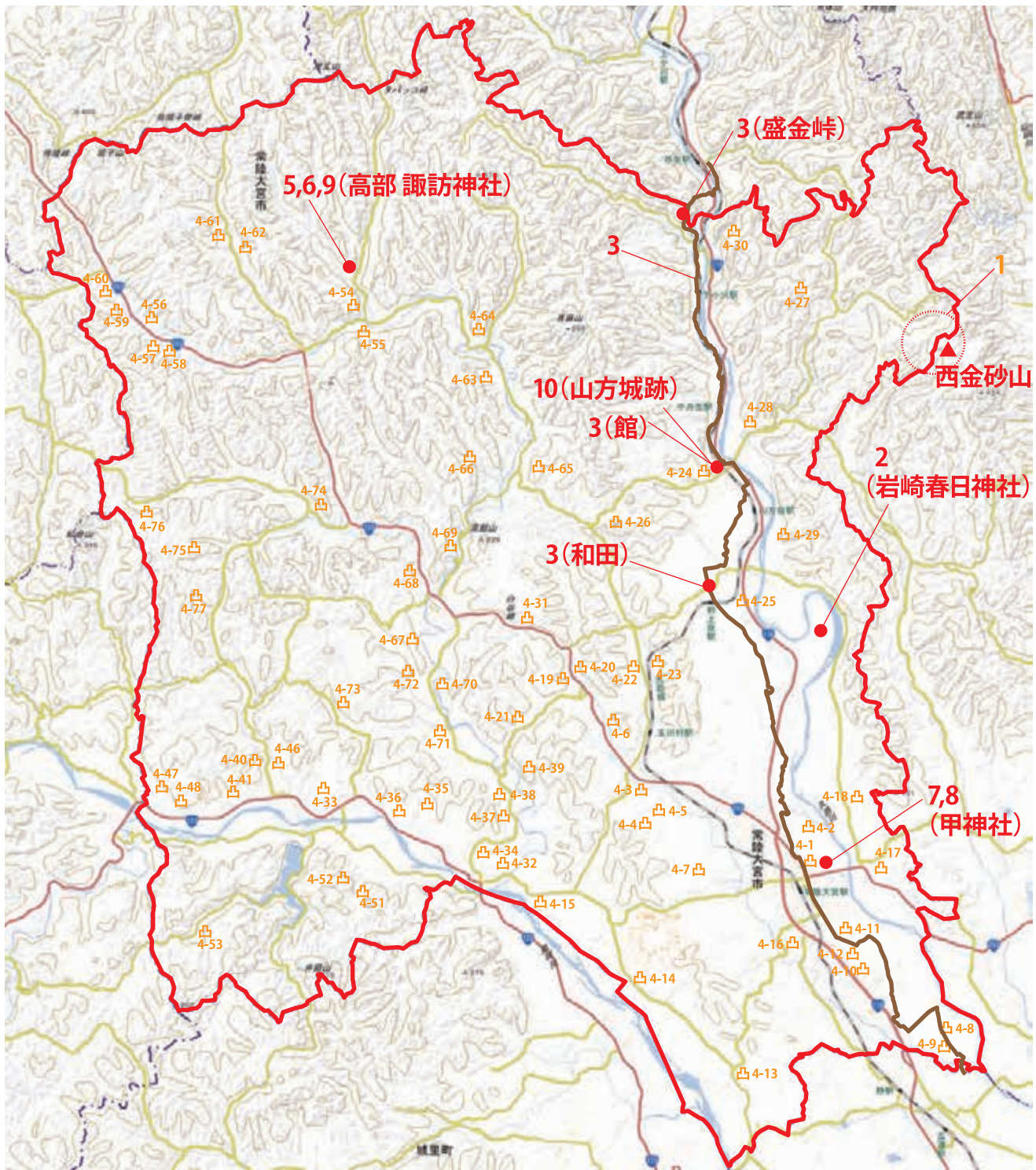
4-市内中世城郭跡

No	城郭等名	地区
1	部直城跡	大宮
2	高波館跡	大宮
3	八田館跡	八田
4	八田砦跡	八田
5	八田向原遺跡	八田
6	東野城跡	東野
7	菅又館跡	菅林
8	岩瀬城跡	上岩瀬
9	下岩瀬館跡	下岩瀬
10	前小屋館跡	泉
11	宇留野城跡	宇留野
12	宇留野古館跡	宇留野
13	小場城跡	小場
14	高ノ倉城跡	小野
15	赤岩遺跡	三美
16	石沢館跡	石沢
17	加志村氏館跡	富岡
18	小倉氏館跡	小倉
19	上小屋遺跡	北塩子
20	向ノ入館跡	北塩子

21	西塩子館跡	西塩子
22	堀の内遺跡	照田
23	原田羽黒館跡	照田
24	山方城跡	山方
25	竜ヶ谷城跡	山方
26	野上小屋場館跡	野上
27	諸沢館跡	諸沢
28	西野内古館城跡	西野内
29	小貫氏館跡	小貫
30	高井釣城跡	盛金
31	長田天神山館跡	長田
32	川野辺城跡	野口
33	大館城跡	野口
34	小屋場館跡	野口
35	大畑館跡	野口
36	田村修理館跡	野口
37	野口平館跡	野口平
38	川ノ辺館跡	野口平
39	越郷館跡	野口平
40	長倉城跡	長倉
41	遊替館跡	長倉

42	田村修理館跡	長倉
43	中田駿河館跡	長倉
44	泉采女館跡	長倉
45	青柳掃部館跡	長倉
46	大沢館跡	長倉
47	網川館跡	野田
48	野田古城	野田
49	古田氏館跡	野田
50	南館跡	秋田
51	下伊勢畑北妻吉跡	下伊勢畑
52	下伊勢畑南妻吉跡	下伊勢畑
53	檜山妻吉跡	檜山
54	高部館跡	高部
55	高部向館跡	高部
56	河内城跡	鷺子
57	河内城向館跡	鷺子
58	河内城向館跡	鷺子
59	高沢館跡	鷺子
60	高沢向館跡	鷺子
61	小田野館跡	小田野
62	小田野御前原館跡	小田野

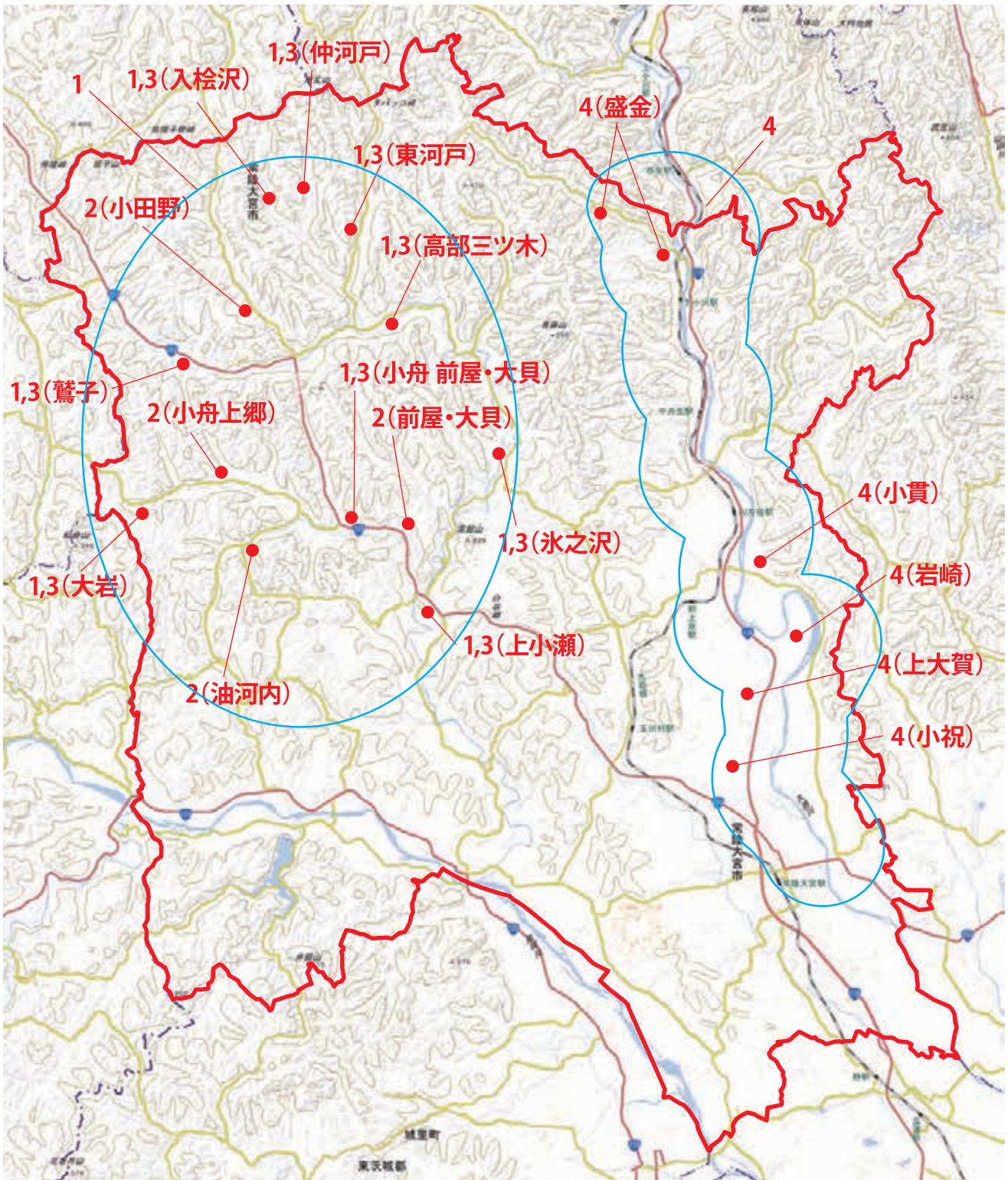
63	下櫛沢城跡	下櫛沢
64	下櫛沢向館跡	下櫛沢
65	上櫛沢館跡	上櫛沢
66	氷之沢館跡	氷之沢
67	小瀬館跡	上小瀬
68	小瀬城跡	上小瀬
69	高瀬城跡	上小瀬
70	川崎城跡	下小瀬
71	川崎向館跡	下小瀬
72	那賀城跡	那賀
73	国長八幡館跡	国長
74	小舟城跡	小舟
75	油河内館跡	油河内
76	大岩館跡	大岩
77	入本館跡	入本郷



課 題	方 針
さがす・みつける	
1 山林の荒廃による城館の縄張り等の調査が困難	市民の主体性の誘引
2 関連宗教施設や文化財についての調査が不足	現行事業の充実と推進
あつめる・まもる・みがく	
3 城跡の保全が困難	現行事業の充実と推進
4 整備した城跡の継続的な除草作業等が困難	市民の主体性の誘引
5 地元に関連史料がほとんど残っていない	現行事業の充実と推進
しる・しらせる・つかう	
6 子どもたちも参加できる周知活動がなされていない	政策間の連携、現行事業の充実と推進
7 城跡の所在地や遺構の見どころがわかりにくい	現行事業の充実と推進

歴史文化の特徴																
II 境の地 / 2 奥州・下野との国境																
関連文化財群の名称																
⑤ 災い来るな! 災厄払う六字様行事とオカシマサマ																
関連文化財群の概要																
<p>六字様とは「南無阿弥陀仏」の六字の名号のことです。この名を冠した行事が、緒川地域と美和地域にのみ分布し、しかも、隣接する栃木県那珂川大那地を除き、常陸大宮市域にしかありません。その多くが、病難除けを祈願するもので、お盆の時期に割り竹に切り紙の桜花を美しく飾り付けた<small>まとい</small>纏を作り、これを持って集落内の石仏・石塔や家々を回ります。</p>	<p>かつては、木製の陽物を持った子どもたちも村回りの一団に加わったといい、関連する石塔からは念仏踊りが行われた様子を伺うことができます。</p> <p>奥州から流れる久慈川沿いには、お盆直前に行われるオカシマサマまたはオオスケニンギョウと呼ばれる麦わら人形を使った虫送り行事があります。</p> <p>どちらも隣国から来る災厄を防いでいるのでしょうか。</p>															
構成文化財一覧																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>文化財の名称</th> <th>類型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>六字様(ロクツチャマ)</td> <td>市指定無形民俗文化財「六字様(前屋・大貝)」含む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>関連石塔</td> <td>未指定有形民俗文化財</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>六字様関連用具及び行事記録類</td> <td>未指定有形民俗文化財</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>オカシマサマ(オオスケニンギョウ)</td> <td>未指定無形民俗文化財</td> </tr> </tbody> </table>		文化財の名称	類型	1	六字様(ロクツチャマ)	市指定無形民俗文化財「六字様(前屋・大貝)」含む	2	関連石塔	未指定有形民俗文化財	3	六字様関連用具及び行事記録類	未指定有形民俗文化財	4	オカシマサマ(オオスケニンギョウ)	未指定無形民俗文化財
	文化財の名称	類型														
1	六字様(ロクツチャマ)	市指定無形民俗文化財「六字様(前屋・大貝)」含む														
2	関連石塔	未指定有形民俗文化財														
3	六字様関連用具及び行事記録類	未指定有形民俗文化財														
4	オカシマサマ(オオスケニンギョウ)	未指定無形民俗文化財														

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 記録映像作成時に把握した調査内容が活字化されていない	現行事業の充実と推進
あつめる・まもる・みがく	
2 人口減少による行事の消滅	市民の主体性の誘引、現行事業の充実と推進
しる・しらせる・つかう	
3 行事の存在や独自性があまり知られていない	現行事業の充実と推進、政策間の連携、市民の主体性の誘引



(地理院地図 / GSI Maps)



大岩

1



油河内

2



入桧沢

3

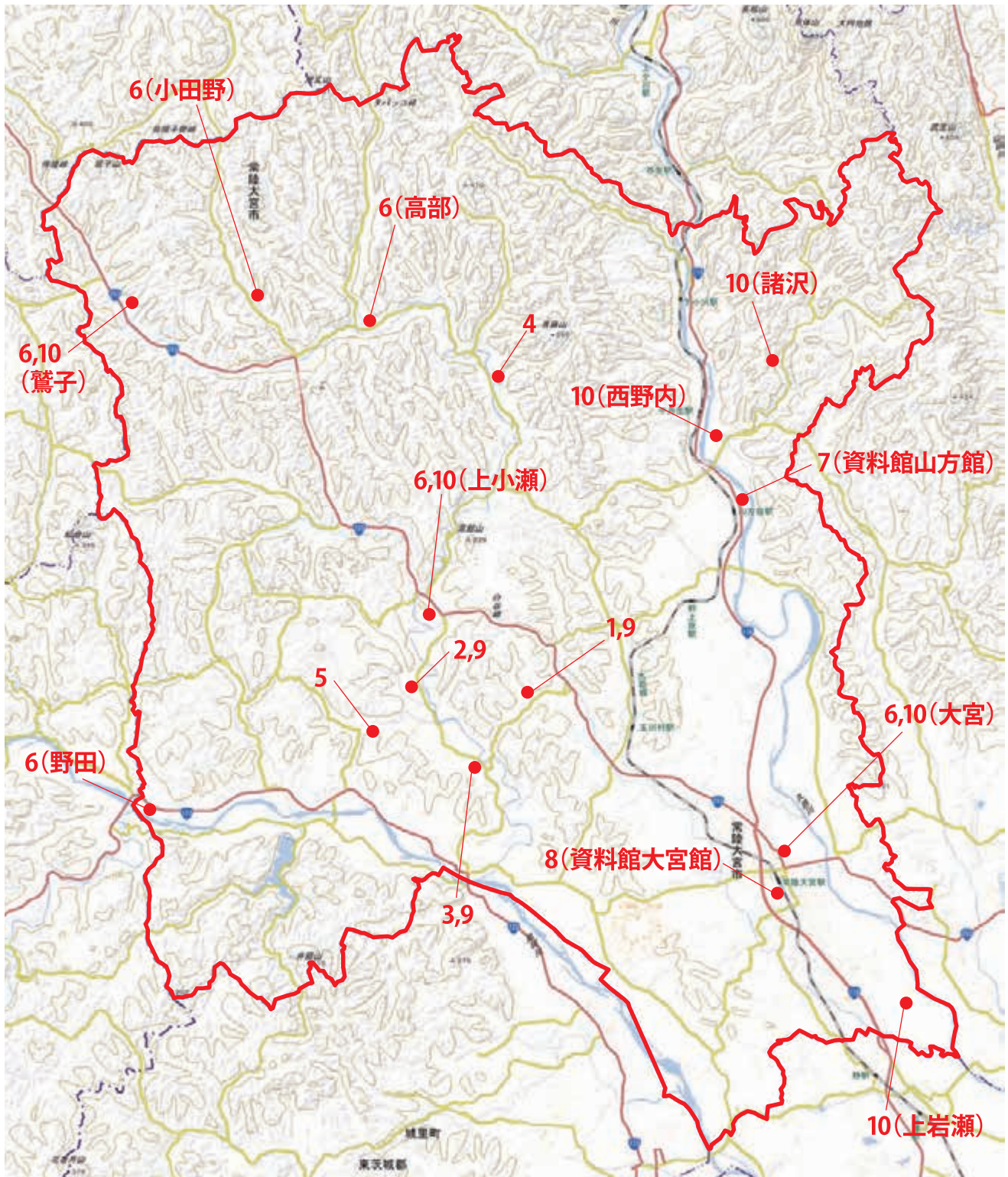


盛金

4

歴史文化の特徴		
Ⅲ 長期にわたる佐竹氏と水戸徳川家の支配／1 水戸藩治世下の農村文化		
関連文化財群の名称		
⑥ 農村文化の総合芸術 組立舞台と山車・屋台		
関連文化財群の概要		
<p>常陸大宮市には、組立が復活した西塩子の回り舞台をはじめとして、消滅した2つを含め、7つもの組立式農村舞台の存在が確認されており、古いものは文政年間の道具が残っています。高い技術で染め上げた幅6間もの大きな引幕や水引幕、見事な彫刻をあしらった本床</p> <p>は、下小瀬や鷺子など周辺農村に住んだ職人の手によるもので、当時の農村の文化力の高さを物語ります。市内各所に残る祭礼屋台や山車の彫刻も、そのような職人の手によって作られ、地域の氏子たちがにぎやかな祭囃子で祭礼を盛り上げてきました。</p>		
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	西塩子の回り舞台	県指定有形民俗文化財
2	下小瀬の舞台	市指定有形民俗文化財
3	門井の舞台	市指定有形民俗文化財
4	下檜沢の舞台	未指定有形民俗文化財
5	国長の舞台	未指定有形民俗文化財
6	山車・屋台	市指定有形民俗文化財「野田の屋台」「花輪組の屋台」含む
7	西野内及び舟生の頭等人形浄瑠璃道具	未指定有形民俗文化財
8	各舞台関連文書	未指定有形民俗文化財(舞台の附)
9	近世の祭礼旗等染色品	未指定有形民俗文化財
10	祭囃子(緒川祭囃子、上岩瀬祭ばやし、西野内祇園囃子、明神ばやし、鷺子祭囃子、諸沢西金砂祭囃子)	市指定無形民俗文化財

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 農村舞台・山車・屋台の分布調査が不十分	現行事業の充実と推進
2 彫刻や染色などの職人に関する調査が行われていない	
あつめる・まもる・みがく	
3 詳細調査を行っていない農村舞台や人形浄瑠璃の道具 等がある	現行事業の充実と推進
4 経済的負担が大きく、屋台や山車の修理修繕が進まない	
しる・しらせる・つかう	
5 公開の機会が限られる	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
6 職人たちの優れた技術を伝えることが困難	政策間の連携



(地理院地図 / GSI Maps)



3



鷺子下郷の屋台

6

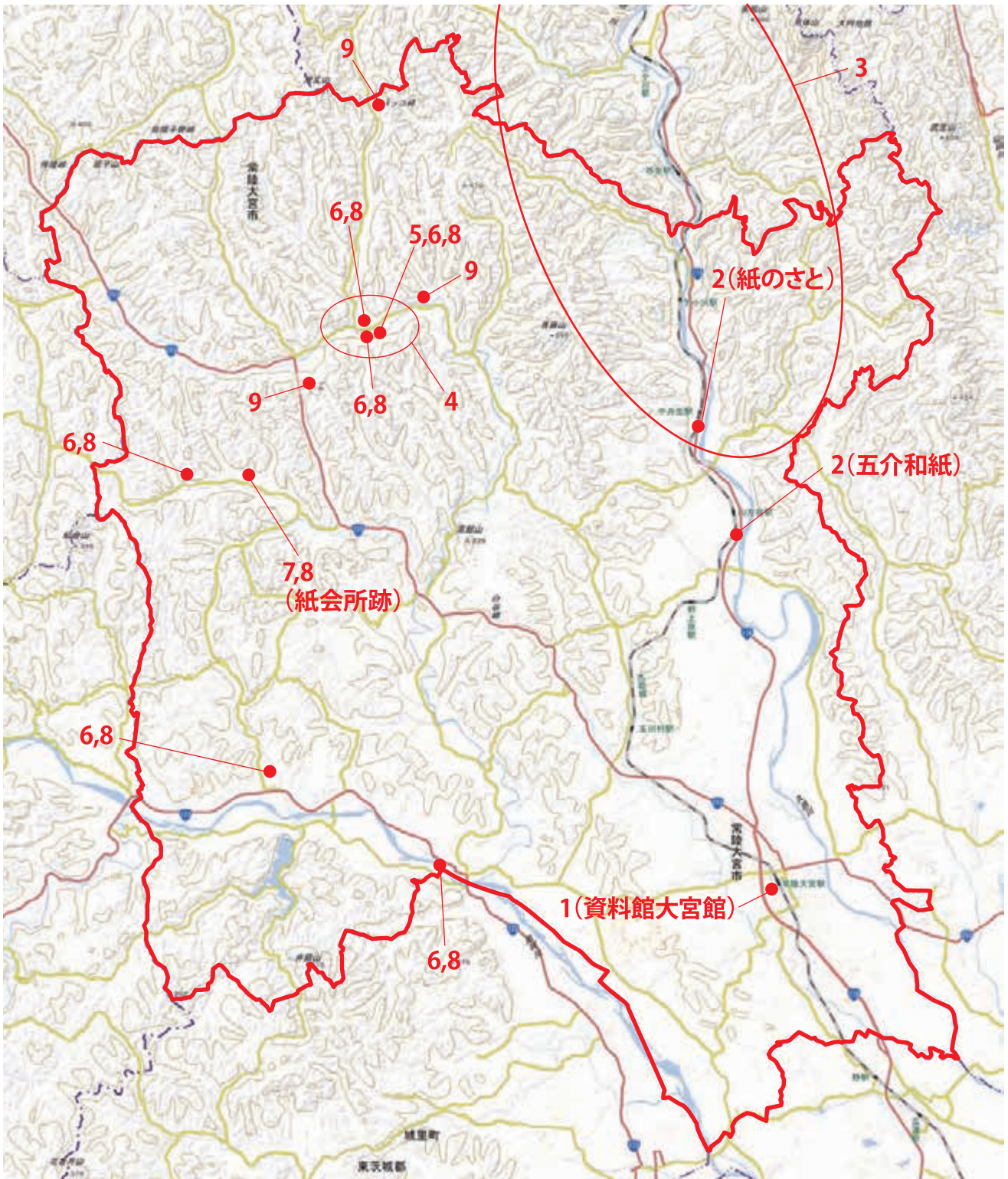


緒川祭囃子

10

歴史文化の特徴	
Ⅳ 特産物がもたらした富と文化／1 紙問屋の集中と富の蓄積	
関連文化財群の名称	
⑦ 紙がもたらした経済力と文化	
関連文化財群の概要	
<p>大宮地域を除く当域は、水戸藩の財政の三分の一を支えた最大の産物、紙の生産地でした。</p> <p>市域には、水戸藩の公許を得た紙問屋が点在し、小津清左衛門など江戸の著名な紙問屋と直結した在地問屋として富を築き、幕末には多くが藩の求めに応じて巨額の献金をして郷土となり、中には隣接藩に大名貸しをする者もありました。</p> <p>紙を扱う商売柄か、水戸藩士や僧侶等の知識層との交</p>	<p>流も盛んで、江戸にも頻繁に行き来し、素養も高く、紙問屋の家の主人は在郷の文人として一目置かれる存在でした。</p> <p>幕末から維新时期にかけては、水戸藩の内乱に巻き込まれ、鷺子の薄井友衛門家のように当地を離れる者もありましたが、明治期にも木材や葉タバコ、酒造業や郵便局・銀行など、他の産物や業種で富を維持し、元紙問屋が3軒もある高部宿には、洋館や、文人との交流を彷彿とさせる三階建ての望楼等が混在する独特の町並みが残っています。</p>
構成文化財一覧 ※植物名はカタカナ、製品名は漢字で表記	
文化財の名称	類型
1 常陸大宮市及び周辺地域の和紙生産用具及び製品	国登録有形民俗文化財
2 西の内紙(手漉和紙)	県指定無形文化財、国選択無形文化財(工芸技術)
3 コウゾの栽培・加工技術	未指定無形民俗文化財(民俗技術)
4 高部宿の町並み	未指定伝統的建造物群
5 喜雨亭及び養浩園	未指定有形文化財(建造物)、名勝(庭園)
6 紙問屋だった旧家	未指定有形民俗文化財(民家)
7 紙会所跡	未指定史跡
8 関連文書	未指定有形文化財(文書類)
9 楮・紙の輸送に用いられた道及び道標	未指定史跡(街道)、未指定有形民俗文化財

課 題	方 針
さがす・みつける	
1 廃業からの経年により和紙製造民具等の収集が困難	現行事業の充実と推進 市民の主体性の誘引
2 紙問屋に関する調査が進んでいない	
3 高部宿を構成する民家等の調査が行われていない	
4 紙産地と紙問屋等を結ぶ昔の道がわからなくなりつつある	
あつめる・まもる・みかく	
5 国登録有形民俗文化財が無人の廃校施設に保管されており不安	現行事業の充実と推進
6 高部宿の民家等の傷みが進行している	現行事業の充実と推進、政策間の連携、市民の主体性の誘引
7 那須楮と本西の内紙生産の後継者が少ない	市民の主体性の誘引
8 まとめたものが記録映像と企画展パンフレットしかない	現行事業の充実と推進
しる・しらせる・つかう	
9 市内外とも西の内紙に対する理解が希薄	市民の主体性の誘引、政策間の連携
10 高部宿の町並みの有効利用が図られていない	現行事業の充実と推進、政策間の連携、市民の主体性の誘引



(地理院地図 / GSI Maps)



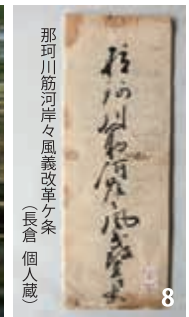
1



コウソ蒸し



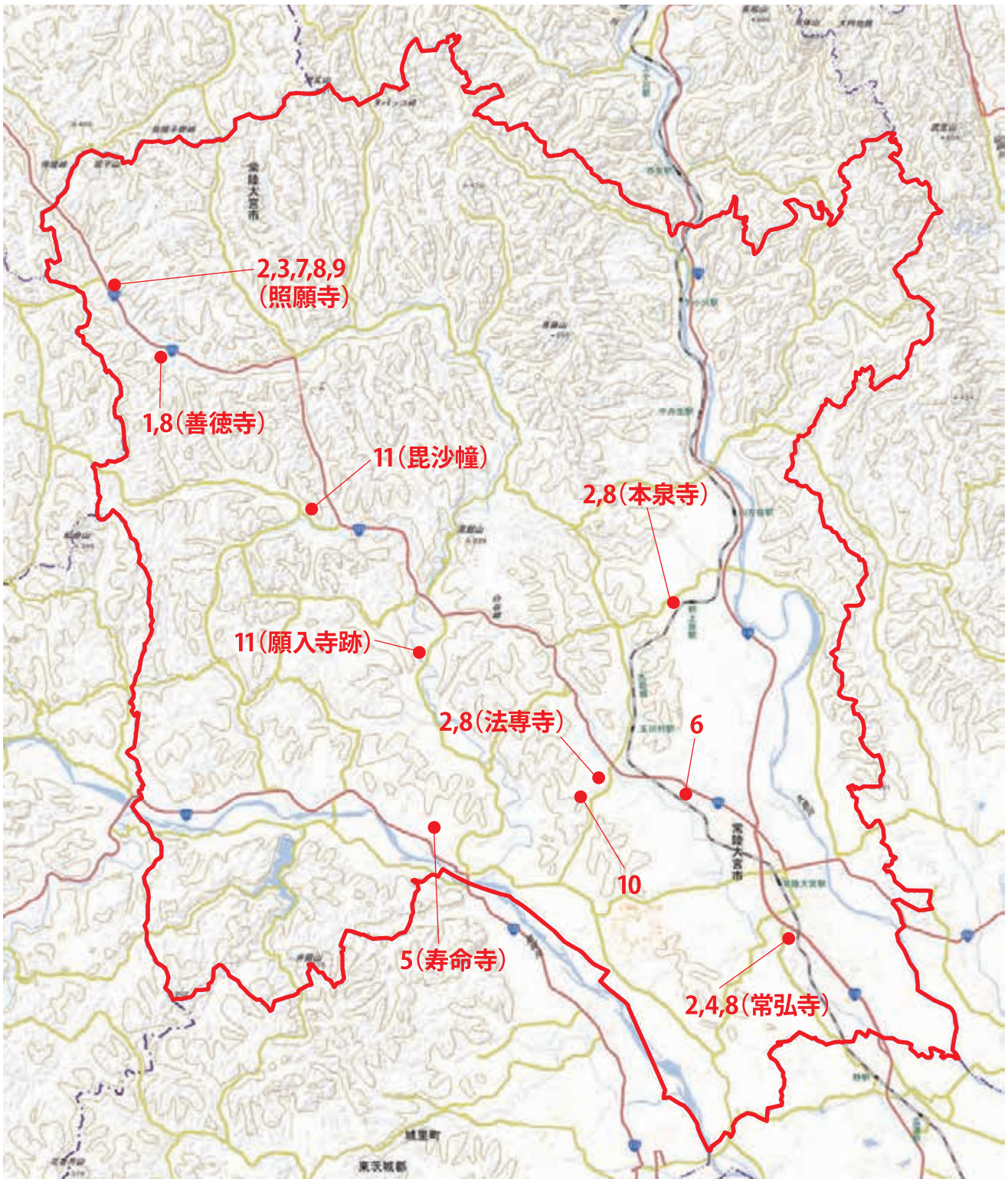
3



那珂川筋河岸々風義改革ケ条
(長倉 個人蔵)

8

歴史文化の特徴		
V 山岳信仰と二十四輩寺院／1 親鸞聖人二十四輩寺院の集中		
関連文化財群の名称		
⑧ 6カ寺もの二十四輩寺院及び関連史跡と文化財		
関連文化財群の概要		
<p>越後国に配流となった浄土真宗の開祖 親鸞は、許されても京都には戻らず、しばらく常陸国を含む関東で布教を行います。この時弟子となった者のうち、24人の高弟が開基となった寺院を二十四輩寺院とよび、聖人の遺徳を偲んでこれらの寺院を巡拝することが古くから行われてきました。</p> <p>現在、二十四輩寺院を名乗ることが許されている寺院は43カ寺で、そのうちの6カ寺が常陸大宮市域にあります。</p>	<p>一つの自治体としては飛びぬけて最多の集中ぶりですが、その理由はわかっていません。</p> <p>親鸞聖人が聖徳太子を厚く信仰したことから、これらの寺院の多くや、関連の寺跡と伝えられる地に聖徳太子像が蔵されています。また、本尊である阿弥陀如来とともに、親鸞聖人像や開基となった個性的な高弟たちの像も多く見ることができます。</p>	
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	善徳寺本堂	市指定有形文化財(建造物)
2	常弘寺・法専寺・本泉寺・照願寺	未指定有形文化財(建造物)
3	聖徳太子立像(照願寺)	県指定有形文化財(彫刻)
4	阿弥陀如来立像・聖徳太子像(常弘寺)	県指定有形文化財(彫刻)
5	聖徳太子立像(寿命寺)	市指定有形文化財(彫刻)
6	聖徳太子立像(南無仏太子 八田)	市指定有形文化財(彫刻)
7	親鸞聖人一代絵巻(4巻)	市指定有形文化財(絵画)
8	各寺院所蔵の未指定の仏像・祖師像及び寺宝	未指定有形文化財(彫刻、絵画、書跡)
9	親鸞聖人見返りのさくら	市指定史跡
10	弁円の墓	未指定史跡
11	二十四輩等寺院跡(毘沙幢、願入寺跡ほか)	未指定史跡
課 題		方 針
さがす・みつける		
1	建物や所蔵文書に関する調査が不十分	現行事業の充実と推進
あつめる・まもる・みがく		
2	修理・修復の必要な指定文化財がある	現行事業の充実と推進
しる・しらせる・つかう		
3	二十四輩寺院が6カ寺もあることが知られていない	現行事業の充実と推進、政策間の連携
4	通常非公開で見学の機会に限られる	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
5	貴重な地域資源であるにもかかわらず有効活用が図られていない	政策間の連携、市民の主体性の誘引



(地理院地図 / GSI Maps)



常弘寺内陣

2



善徳寺 聖徳太子立像



聖徳太子立像及びひ親鸞聖人像

8



9



木造狛犬(野口 佐伯神社 市指定文化財)

5. 文化財保存活用区域に関する事項

当地域計画では、整備検討中の文化財展示施設のサテライト地域とすることを目的に、泉坂下遺跡を中心とした中世城郭跡・岩崎用水路・古墳・了誉聖岡ゆかりの寺院・雪村周継関連伝承地などの史跡が集中する上野・村田地区の一部、及び、和紙や葉タバコ・木材等で富を蓄積した商家の町並みと名園、中世の城跡等が残る高部宿の2区域を設定することに加え、令和元年10月に「歴史の道百選」に追加選定された南郷道についても、南郷道沿いの寺社や史跡等各種文化財とともに文化財保存活用区域として設定します。

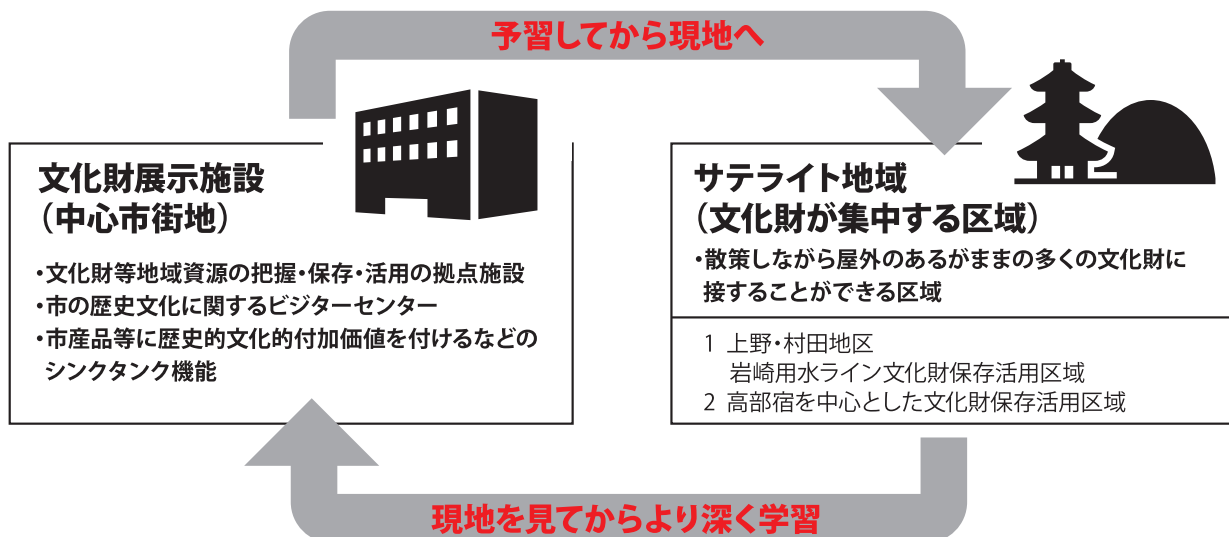
文化財保存活用区域は、常陸大宮市の歴史文化の

特徴を示す文化財が、ライン上、または一定のエリア内にまとまって存在する重要な区域であるとともに、ウォーキングなどのスポーツや健康づくりイベントでの利用がしやすく、幅広い年齢層への地域資源の周知に資するものと考えられます。

なお、泉坂下遺跡周辺の文化財保存活用区域については、史跡としての面積が狭く、低位段丘上の水田地帯に位置し、単独の整備では多くの利用者を見込むことが困難な泉坂下遺跡の整備に連動するものと位置付けます。

文化財保存活用区域の名称	
1	上野・村田地区 岩崎用水ライン文化財保存活用区域 ～泉坂下遺跡の周辺散歩で常陸大宮の5000年をタイムトリップ!～
2	高部宿を中心とした文化財保存活用区域 ～中世の面影遺す山中の町並み～
3	歴史の道百選 南郷道 ～水戸と奥州をつなぐもうひとつの道～

図84-1 文化財展示施設とサテライト地域のイメージ



文化財保存活用区域の名称

1 上野・村田地区 岩崎用水ライン文化財保存活用区域 ～泉坂下遺跡の周辺散歩で常陸大宮の5,000年をタイムトリップ!～

文化財保存活用区域の概要

この地域は、台地の西側を流れる玉川が、東側を流れる久慈川に合流する地点に近く、大宮台地の南先端にあたります。

久慈川に臨む段丘崖上に築かれた中世城郭、宇留野城跡や前小屋城跡から岩崎用水に沿って南に歩けば、人々の信仰の拠り所であった石仏・石塔や、弥生時代の再葬墓遺跡として唯一国史跡となった泉坂下遺跡、住宅地の開発で湮滅した県内最古級の前方後方墳を含む富士山古墳群の一部で前方後円墳の五所皇神社裏古墳。佐竹氏の一族に生まれ戦国期の画人として著名な雪村周継が付近に住し、絵を描くのに使用したと伝わる湧水 雪村筆洗いの池。そして台地上には、ひとつの遺跡

としては国内最多、8個もの硬玉製大珠が出土している縄文時代中期の拠点遺跡坪井上遺跡や、弥生時代後期終末期を飾る美しい十王台式土器の出土で有名な富士山遺跡が所在します。

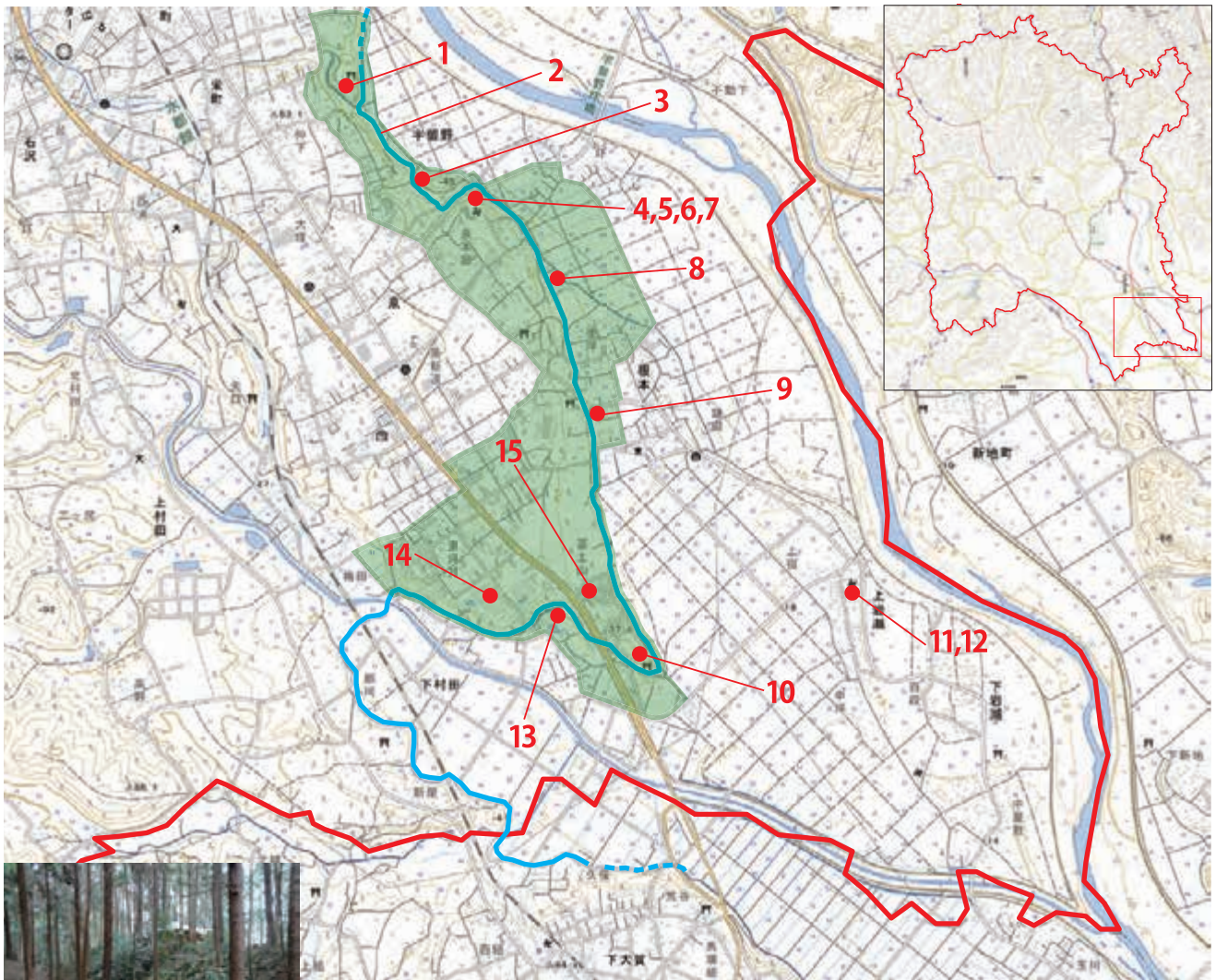
用水路からはずれて少し足を延ばせば、上岩瀬地区には浄土宗中興の祖と讃えられる了誉聖罔の生誕地に建ち、木像や遺墨を所蔵する誕生寺と、わずか5kmほどの散歩で、常陸大宮市の5,000年に思いを馳せることのできる区域です。

歴史の道百選に追加選定された南郷道も一部コースに含まれると考えられますが、当地域のルートは判然としていません。

構成文化財一覧

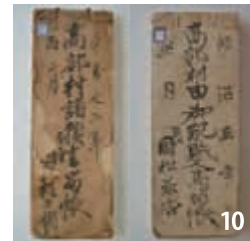
	文化財の名称	類型
1	宇留野城跡(日向神社) ※市指定有形文化財(工芸品) 軍配2 握は県立歴史館寄託	未指定史跡、未指定有形文化財(建造物)
2	岩崎用水路	未指定(灌漑施設)
3	愛宕神社入口 大黒天石仏等	未指定有形民俗文化財
4	前小屋城跡	未指定城跡
5	種生院 ※市指定有形文化財(彫刻) 聖観音は県立歴史館に寄託	未指定有形文化財(建造物)
6	種生院境内及び前小屋城跡の石造物	未指定有形民俗文化財
7	御器井戸と三蔵の滝	(伝説関連地)
8	泉坂下遺跡	国史跡
9	星野宮神社の石仏群	未指定有形民俗文化財
10	五所皇神社裏古墳を含む富士山古墳群	未指定史跡
11	誕生寺所蔵 了誉聖罔禪師座像及び関連資料	市指定有形文化財「了誉聖罔禪師座像」(彫刻)含む、未指定有形文化財(彫刻・歴史資料)、(伝説関連地)
12	誕生寺境内子安講関連石仏群	未指定有形民俗文化財
13	雪村筆洗いの池	市指定史跡
14	坪井上遺跡	未指定史跡
15	富士山遺跡	未指定史跡

課 題	方 針
1 区域内の古墳群や寺社所蔵の文化財等について所在調査が不十分	現行事業の充実と推進
2 個々の構成文化財やこの地域に文化財等が集中する理由についての研究が不足	
3 市指定文化財の日向神社の軍配や種生院の正観音像が県立歴史館に寄託されており見ることができない	
4 防犯・防火などの防災意識が低い	政策間の連携、市民の主体性の誘引
5 地域住民が地域文化財の存在や価値に気付いていない	市民の主体性の誘引
6 整備目的が明確になっていない	現行事業の充実と推進
7 周遊コースがわかりやすく整っていない	現行事業の充実と推進、政策間の連携、市民の主体性の誘引
8 利用者の固定化と減少が懸念される	現行事業の充実と推進、政策間の連携



文化財保存活用区域

文化財保存活用区域の名称		
2	高部宿を中心とした文化財保存活用区域 ～中世の面影遺す山中の町並み～	
文化財保存活用区域の概要		
<p>高部宿は、栃木県に隣接する山間に位置する美和地域の中心です。栃木県那須郡馬頭（現那珂川町）と佐竹氏の有力支族 東家の持ち城のあった山方とを結ぶ街道（現在の県道29号常陸太田那須烏山線の一部）に、金鉱山及び高品質楮の産地と高部宿をつなぐ街道（現在の県道32号太子美和線）が交わる地に発展した宿場町で、江戸時代から近代にいたるまで、和紙・木材・葉タバコ等の集積地として裕福な商家や酒蔵、旅館、飲食店が軒を連ねるとともに、銀行、郵便局、農協といった金融機関も整った、コンパクトな交易地として発展しました。</p> <p>起源は、中世城郭高部館の宿と考えられ、境内に和田川が流れ苔むした石垣上に鎮座する高部地区の鎮守諏</p>	<p>訪神社には、14世紀末から戦国期にかけての棟札5枚が残ります。</p> <p>高部宿の町並みを構成する建物には、西洋建築を取り入れた間宮家住宅や國松家の旧郵便局舎、明治期に建設され酒蔵でもあった國松家・岡山家、そして平塚家、大森家、旧金杉屋旅館などがあり、山中に忽然と現れる独特の景観となっています。多くの文人との交流を偲ばせる三階建ての楼閣 喜雨亭が印象的な岡山家には、和田川と緒川の合流部に画された3,000坪の庭園 養浩園が付随し、この地の豊かさと文化の高さを教えてくれます。</p>	
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	間宮家住宅主屋	国登録有形文化財
2	諏訪神社本殿	市指定有形文化財(建造物)
3	諏訪神社棟札(5枚)・絵馬	市指定有形文化財(歴史資料)・未指定有形民俗文化財
4	高部景義墓	市指定史跡
5	高部館跡	未指定史跡
6	高部向館跡	未指定史跡
7	高部宿の町並み	未指定伝統的建造物群
8	岡山家庭園養浩園及び喜雨亭	未指定名勝、未指定有形文化財(建造物)
9	高部宿に残る酒蔵	未指定有形民俗文化財
10	大森家ほか高部宿各家蔵文書	未指定有形文化財(古文書類)
課 題		方 針
1	保存・活用する町並みの範囲が決まっていない	現行事業の充実と推進
2	個々の構成文化財に関する調査研究が不足	
3	建物の傷みが進行している	
4	いつの時代の町並みの整備を目指すのかわからない	
5	建物等所有者の維持管理の負担が大きい	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
6	町並みの保存と道路拡幅など交通の利便性の両立が困難	政策間の連携
7	町並みの美観や防火に配慮した設備が整っていない	
8	一般公開の機会が限られている	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
9	町並み想定範囲内に空き家がある	政策間の連携、市民の主体性の誘引
10	個人の家の集合体である町並みを整備・公開することは難しい	市民の主体性の誘引
11	行政主導の企画・運営は地域に根付かない	



文化財保存活用区域の名称		
3	歴史の道百選 南郷道 ～水戸と奥州をつなぐもうひとつの道～	
文化財保存活用区域の概要		
<p>令和元年10月に追加選定された歴史の道百選のひとつ。南郷道は、水戸を起点として北上し、那珂市瓜連付近からは久慈川に沿って、常陸大宮市、太子町を経て、南郷と呼ばれた福島県矢祭町・棚倉町地域に向かう約90kmの脇往還です。</p> <p>水戸と南郷を結ぶ街道としては、棚倉西断層に並行する久慈川の支流 山田川沿いの棚倉街道(天下野街道)が幹線として知られていますが、南北朝期に戦乱の舞台となった保内郷(太子町)や瓜連(那珂市)を結ぶ道として、軍勢の移動や所領間の移動に使われた依上道も重要な役割を持ち、江戸時代に脇往還として整備されたものが南郷道と考えられます。その役割は、現在の国道118号線に引き継がれました。</p> <p>市南部の那珂市との境付近の南郷道比定地は明確ではありませんが、関連文化財群はほぼ文化財保存活用区域1と重複します。盛金峠、館(山方城跡付近)、和田などに近世の面影を残す道沿いには、寺社、中世城郭跡、旧宿場(大宮・山方)、数多くの石仏・石塔、そして奥州との往来を彷彿とさせる伝説が残っています。</p>		
構成文化財一覧		
	文化財の名称	類型
1	南郷道(盛金峠、館、和田)	歴史の道百選選定 史跡
2	五大尊 堂宇及び五大尊像	未指定有形文化財(建造物・彫刻)
3	部垂城跡	未指定史跡
4	甲神社・素鷲神社社殿	未指定有形文化財(建造物)
5	佐竹義昭奉加帳(甲神社)	県指定有形文化財(歴史資料)
6	能面6面(甲神社)	県指定有形文化財(工芸品)
7	刀一振・剣一振(甲神社)	市指定有形文化財(工芸品)
8	源氏系図一巻(甲神社)	市指定有形文化財(歴史資料)
9	甲神社御神木、二股竹(甲神社)	市指定天然記念物
10	甲神社所蔵木彫狛犬、棟札、絵馬・奉納額 その他	未指定有形文化財(彫刻・絵画・古文書)
11	稲荷山松吟寺山門	市指定有形文化財(建造物)
12	松吟寺古墳群	未指定史跡
13	大げやき	市指定天然記念物
14	高長寺 十六羅漢等石仏・石塔及び一字一石経	未指定有形民俗文化財
15	山方竜害跡、山方城跡	未指定史跡
16	常安寺 鹿島清秀五輪塔	市指定有形文化財(工芸品)
17	道沿いの石仏・石塔類	未指定有形民俗文化財
18	道沿いの地域に残る坂上田村麻呂、八幡太郎義家、義経・弁慶主従に関する伝説	無形民俗文化財(伝説)
課 題		方 針
1	範囲が広く地域内の文化財等を把握しきれていない	現行事業の充実と推進
2	南郷道が判明していない地域がある	
3	近世の面影を残す選定個所の周辺環境を含めた保存が困難	
4	区域内の文化財の盗難等が心配	政策間の連携、市民の主体性の誘引
5	ルートがわかりにくく環境整備も不十分	現行事業の充実と推進、市民の主体性の誘引
6	南郷道は市域だけで完結していない	政策間の連携
7	周知活動が不足	現行事業の充実と推進、政策間の連携
8	幅広い年齢層など多くの人々に利活用を図ることが困難	政策間の連携、市民の主体性の誘引



第5章 地域資源の保存・活用に関する措置

第2章において地域資源の把握に関する課題と方策を、第4章において保存・活用に関する課題と方針を示しました。ここでは、保存・活用の課題に対する措置を示します。

1. 地域計画と連携可能な政策と施策

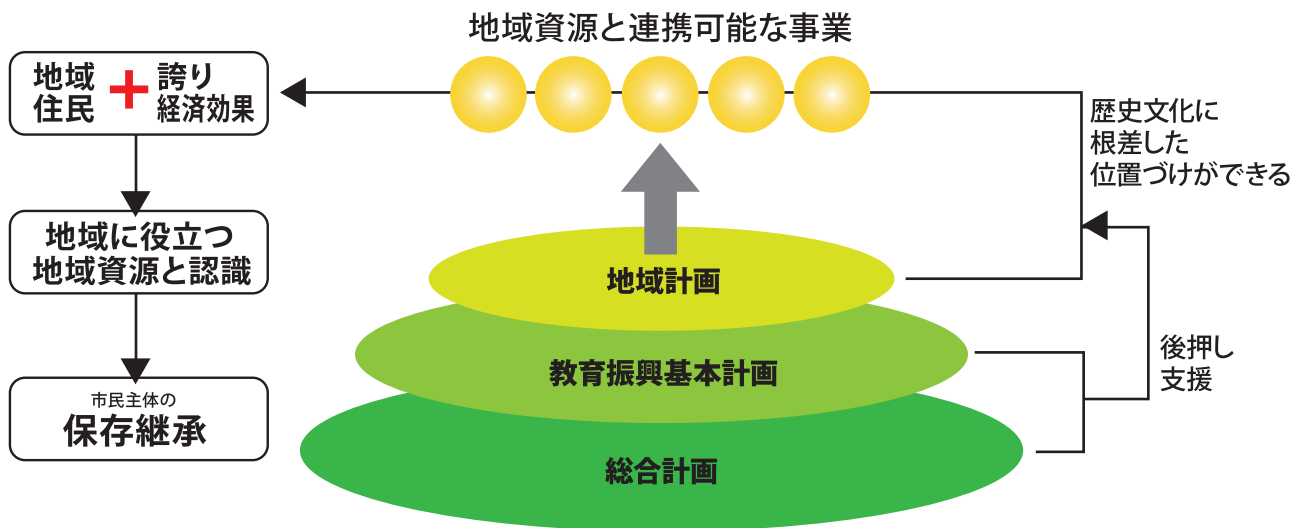
序章1.計画作成の背景と目的で述べたように、市政の柱として「郷育立市」を掲げる常陸大宮市では、市の最上位計画である総合計画の重点事業及び創生総合戦略掲載事業、そして、教育委員会の上位計画となる教育振興基本計画掲載の事業に、当地域計画と連携可能な事業が多数あり、また行政が実施主体となる直営事業だけでなく、地域活性化につながる活動に取り組む市民や企業を行政が支援する事業も含まれています(P.92～96)。

これらの事業を地域資源の活用と結びつけることで、ふるさとの歴史文化に根差した、独自の事業や商品の開発と位置付けることが可能となり、ひいては、採

り上げられた地域資源そのものが、地域に「精神的」「経済的」なプラスとなって、地域の「資源」と認識され、地域住民主体の文化財等地域資源の保存・継承につながっていく重要な要素となります。(図91-1)

これらの事業を、市内に存する地域資源及び本計画における関連文化財群や文化財保存活用区域の構成要素の保存活用の措置(P.97～110)に活用することで、当地域計画が、これらの個別の事業を“文化財をめぐる様々な活動”の中で有機的にまとめ、より効力ある事業に引き上げる役割を果たすものとなり、「郷育立市」に基づく市民協働のまちづくりへの一助となると考えます。

図91-1 地域計画の役割イメージ



地域計画と連携可能な総合計画の重点事業計画(令和元年度～令和3年度)及び創生総合戦略掲載事業(平成30年6月～令和元年度)

	重点事業名	部局・担当課	事業目的	総合戦略	連携可能な内容
大綱1 未来を拓き、自分らしく輝くひとを育むまち					
10	放課後児童健全育成事業	保健福祉部 こども課	就労等により保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、保育所(園)・学校の空き教室等を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて児童の健全育成を図る。	○	郷土学習の提案等
15	子育て支援サイト「ハッピー子育て」運営事業	保健福祉部 こども課	子育て世代に対する情報発信の手段として、WEBサイト・スマホアプリを構築することにより、利用者が必要な情報を得ることができる子育て情報を整備する。	○	親子で参加できる文化財等に関連する体験講座等の情報を発信
22	郷育立市づくり・お宝発見事業	教育委員会 生涯学習課	市の掲げる「郷育立市」に資するため、市内の子どもたちが常陸大宮市の誇れるもの、かけがえのないものを学び、体験することにより、故郷を愛し、慈しむ心を醸成する。参加児童を募集し、年6回の見学・体験講座を実施。	○	素材の提案や、解説・指導などの事業協力
25	アートを活用した地域活性化事業	地域創生部 地域創生課	芸術家によるワークショップ及び作品展示を開催することにより、交流の拡大や魅力あるまちづくりを推進する。また、市内の小学生を対象に、市内外で活動する芸術家によるワークショップを開催することにより、芸術に関する意識の醸成を図り、次世代を担う人材の育成を推進する。	○	文化財建造物や城跡・庭園等を使った作品展示などユニークベニューを検討
大綱2 だれもが安心して暮らせるまち					
33	一般介護予防事業	保健福祉部 長寿福祉課	高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てすることなく、市民主体の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。		地域の歴史文化に関する話者としての調査協力
36	防災対策推進事業	市民生活部 安全まちづくり推進課	常陸大宮市地域防災計画に基づき、災害時における防災活動の円滑化を期するとともに防災機関との協力体制を強化し、併せて市民の防災に関する理解と意識の高揚を図る。防災訓練等を実施。	○	地域文化財の防災や災害時の対応を喚起
37	自主防災組織育成事業	市民生活部 安全まちづくり推進課	市民の防災に関する理解と防災意識の高揚を図り、地震・風水害・火災等の大規模災害が発生、または発生する恐れがある場合に被害を防止し、若しくは軽減し、または予防するため、自主防災組織を育成し、地域防災体制の充実を図る。		地域における地域文化財の防災や災害時の対応を検討

	重点事業名	部局・担当課	事業目的	総合戦略	連携可能な内容
大綱3 自然と調和した快適で安全なまち					
43	常陸大宮駅周辺整備事業	建設部 都市計画課	JR常陸大宮駅周辺を行政関係機能のほか、医療や福祉機能、情報・サービス機能等が蓄積された地域として、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを推進し、住民生活の質の向上とまちの活性化を図る。	○	拠点施設のひとつとして文化財展示施設を提案
44	地域創生まちづくり事業	地域創生部 地域創生課	地域で豊かに生活し続けるため、地域の特性を生かした地域創生まちづくり指針に基づく地域振興を推進する。	○	伝統産業の振興、文化財等地域資源の観光資源化、地域文化の振興等
45	移住促進事業	地域創生部 地域創生課	常陸大宮市への移住・定住(2地域居住含む)希望者に対し、市内の空き家の利用を紹介するほか、都内での移住相談会を開催し、定住人口や交流人口の増加と地域の活性化を図る。	○	空き家となった古民家の活用を提案・促進
48	地域公共交通維持活性化事業	政策審議室 企画政策課	本市の地域特性に応じた持続可能な地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画に基づく事業を推進する。	○	公共交通機関を使った、地域文化財等を巡るコースの創出
55	防犯カメラ設置事業	市民生活部 安全まちづくり推進課	市民等を見守るとともに、身近で発生する街頭犯罪を未然に防止することで、犯罪に対する抑止力を高め、安心して安全に暮らせるまちづくりを推進するため防犯カメラを設置する。	○	地域見守りと貴重な文化財の盗難防止対策のための設置を提案

大綱4 みんなでつくる協働のまち					
57	集落支援事業	地域創生部 地域創生課	人口減少と高齢化の進む集落(41地区)の現状と課題、要望等について把握するとともに、集落の維持・活性化に資する方策などを構築する。集落支援員の配置、農家民泊推進事業の推進。		利活用に有用な文化財等の紹介や活用方法の検討
58	地域おこし協力隊事業	地域創生部 地域創生課	都市住民を地域おこし協力隊として受入れ、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援などに従事してもらい、併せて定住・定着を図りながら地域の活性化を図る。	○	利活用に有用な文化財等の紹介や活用方法の検討
62	市民協働提案事業	市民生活部 市民協働課	市民協働のまちづくり指針の目標を実現するため、市民団体等から提案事業を募集し、市との協働で実施することにより、行政や地域の課題の解決及びより良いまちづくりにつながる事業を推進する。		文化財等地域資源を活用した事業の創設を支援
63	地域間交流事業	地域創生部 地域創生課	他地域との交流を通して、互いの文化の交流、産業の振興及び経済の発展に結びつける。主に豊島区、日野市との交流。	○	祭礼等の見学ツアーや、伝統技術等の体験ツアーなどの創出を支援、伝統産業のコラボレーション提案等
64	友好都市交流事業	地域創生部 地域創生課	友好協定を締結している「秋田県大館市」と、両市がもつ伝統的な産業や文化・地域資源等を活かした多面的な交流や連携を推進することで、地場産業の活性化や交流人口の拡大、それに伴う市内外への当市の魅力発信を図る。	○	大館曲げわっぱと西の内紙・漆のコラボレーション、民俗芸能の交流などの支援等
68	情報収集発信事業	政策審議室 秘書広聴課	常陸大宮市の様々な魅力や情報を収集し、その魅力をより多くの人に効果的に伝えるため、情報発信の基盤を整えるとともに、市民や市外の応援者による情報の収集・発信の流れをつくることを目的とする。茨城放送ラジオ広告、公式SNSの活用。	○	文化財等地域資源の魅力発信とともに、関連催事の情報発信の協力

	重点事業名	部局・担当課	事業目的	総合戦略	連携可能な内容
大綱4 みんなでつくる協働のまち					
69	ふるさと応援基金事業	地域創生部 地域創生課	常陸大宮市の魅力を広く全国に発信することで、市を応援しようとする個人又は団体から寄せられた寄附金をそれぞれの思いを実現するための事業の財源として充てることにより、寄付者と共に魅力あるふるさとづくりを推進する。		返礼品として、祭礼への参加や紙漉ぎ体験などを加えるなどの提案
70	茨城大学地域連携推進事業	市民生活部 市民協働課	常陸大宮市と国立大学法人茨城大学が人的・物的資源の活用により連携協力し、地域の発展と人財の育成を図る。	○	祭礼等への参加や文化財把握調査等への協力による交流人口の増加
大綱5 魅力ある資源を生かした活力と誇りあふれるまち					
71	地域ブランド・6次産業化推進事業	産業観光部 農林振興課	豊かな自然と高い技術のもとに生産される市内の農林畜水産物及び加工品等の地域ブランド化を推進することにより、市産品の生産・販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上に向けた6次産業化を推進する。	○	伝統漁法継承のための那珂川の鮭を村上の塩引き鮭加工技術を用いて製品化するなどの需要拡大
73	起業サポート事業	産業観光部 商工観光課	市と起業支援事業者である商工会、市内金融機関等の連携により、本市において起業を支援する体制を整え、起業希望者への各種支援を行うことにより、起業の促進及び雇用の創出を図る。	○	伝統産業や伝統的農産物の活用、文化財をキャラクターとした商品開発などの提案
75	観光振興事業	産業観光部 商工観光課	本市の誇りである自然的・歴史的資源を保全、活用し、農業や商業との連携を図りながら新たな観光資源を創出するとともに、地域の暮らしやコミュニティに支えられた活力ある観光の振興を図る。		観光資源化可能な文化財等の提案 フィルムコミッションに関連した提案
76	地域振興事業	地域創生部 地域創生課 (各支所)	地域の特性や資源を活かしたイベント等の開催や環境整備をすることにより、交流と賑わいの創出を図り、地域活性化を推進する。	○	中世城郭見学ツアーや高部宿の町並み整備等の提案・支援
79	観光誘客促進事業	産業観光部 商工観光課	交流人口の拡大と地域経済の活性化のため、市への団体旅行の誘致を促進する。		文化財の見学や伝統産業の体験、伝統食を組み合わせたツアー等の企画提案
80	農村集落活性化支援事業	産業観光部 農林振興課	地域の抱える課題解決に向けて地域資源を有効に活用しながら、農業振興を核に地域内の連携強化を促し、道の駅「かわプラザ」を中心とした地域活動の活性化を図る。大賀地域活性化協議会のエゴマ・タケノコ等の6次産業化推進。		水害防備林として整備されている竹林の保存・美化活動の一環としての竹皮利用や、水戸藩三大江堰のひとつ、岩崎江堰の旧用水路の整備を提案
81	未来を創る農業支援事業	産業観光部 農林振興課	本市の農業を活性化し、将来に向けて安全で安心な農林畜産物及び加工品の生産・流通・供給体制の確立と意欲ある農業者の確保・育成を図るため、農業者等が行う積極的な取り組みを支援する。		在来種のコンニャクイモ、楮、漆、トロロアオイの種等、高齢化によって生産継続が危ぶまれる作物の新規生産者開拓の提案

常陸大宮市創生総合戦略等に掲載の連携可能な事業 ※上記重点事業と重複分は除く

	重点事業名	部局・担当課	事業目的	連携可能な内容
魅力策1 「まち」のプラン 見聞発信プロジェクト	「まち」のプラン			
	常陸大宮市浪漫街並みづくり事業	地域創生部 地域創生課 (各支所)	歴史の残る街並み景観の保全や活用方法の検討、また、地域の特性を活かした地域活性化を図る。(山方地域・美和地域・御前山地域)	街並み成立の背景や歴史、民家調査等の協力

文化財等の保存活用に関連する常陸大宮市教育振興基本計画掲載の事業 (令和元年度～令和5年度)

基本目標・施策等		事業名	事業内容	実施主体	連携可能な内容		
基本目標1 学校教育の質の向上	基本施策1 子どもの力や可能性を伸ばす	施策1・1 学力の向上	①学校経営に郷育導入事業	学校経営に郷育を取り入れることで、郷育の考えの重点化と子どもの歴史から学ぶ姿勢を育てる。	学校 行政(学校教育課)と地域が支援	専門職員をゲストティーチャーとして派遣 講師紹介等	
			②郷育立市づくり地域力活用基礎学力支援推進事業	郷育立市構想を受けて、市の誇りである高齢者等を地域サポーターとして活用し、小学校の補充的な学習の場において、児童の基礎学力の向上を図る。	市民 学校・行政(学校教育課)が協力	講師紹介や関連資料等の提供	
基本目標2 家庭教育・社会教育の充実	基本施策4 次世代育成を支える	施策4・1 子育て環境の充実	①お宝発見事業	市内小学4年生以上40名を募集し、年間6回市内の「誇れるもの」を対象に、仲間づくりや様々な体験活動を実施し、自主性や社会性を身に着けるとともに、郷土学習の機会を提供する。	行政(生涯学習課) 大学生ボランティアや高校生会と連携	専門職員の派遣や企画の提案	
			施策5・1 地域住民と学校の連携	①ゲストティーチャーの導入	授業時に、経験豊富な地域の人々や専門的な知識技能を持つ人々をゲストティーチャーとして招聘し、子どもたちの学びの輪と地域との交流を深める。	学校 地域と連携	ゲストティーチャーの紹介や企画の提案
				施策5・2 地域に生きる子供活動の推進	②地域行事への参加促進	地域の行事に積極的に参加し、地域の多くの人々とコミュニケーションをとることで、地域に根付いた子どもを育成する。	地域住民
③地域文化の伝承	地域に伝わる伝統文化を地域の子として継承することで、地域の良さを知り、伝えることのできる子どもを育てる。	伝統文化連絡協議会 行政(文化スポーツ課)が支援	後継者育成のための補助及び外部補助金の斡旋 学校を通じての参加者募集の支援				

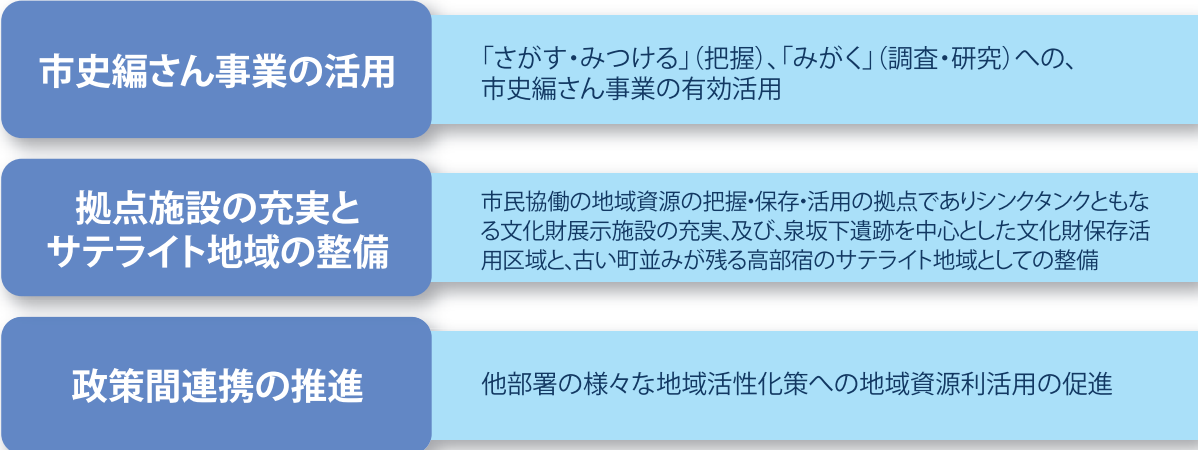
基本目標・施策等		事業名	事業内容	実施主体	連携可能な内容		
基本目標3 21世紀に生きる郷土教育、国際・情報教育の展開	基本施策7 郷土(原点)学習の展開を図る	施策7・1 郷土の歴史学習の推進	①社会科副読本の編さんと活用	小学校3・4年生を対象に社会科副読本を編さんし、授業で活用することで郷土の歴史を学び、郷土を愛する心を養う。	小学校3・4年生担当教諭 地域郷土史研究家等が協力	素材の提案、資料の提供等	
			②郷土読本の活用	郷土で誇れるものやかけがえのないものをまとめた郷土読本を作成して小学3年生から中学3年生に配布し、授業等に活用して郷土理解の深化に努める。	行政(文化スポーツ課)が作成 学校が主体となって活用	配布及び改訂	
			③郷土の素材の教材化推進	数多くある郷土の素材を教材化し、授業に取り入れることで、郷土学習の深化を図る。	教職員	素材の提案等	
			④郷育立市事業の活用	郷土の偉人について伝記を作成し、児童生徒に配布することで、郷土学習の一助とする。	行政(企画政策課)が作成	偉人の選択と資料の提供、 現在とのつながり	
	郷土の「人・もの・こと」から学ぶ	施策7・2	①郷土の「人・もの・こと」の収集	郷土にある「人・もの・こと」に係る郷土学習をとおして、また様々な郷土の行事に参加し、郷土の大切なものの収集に努める。	学校・児童・行政(文化スポーツ課) 市民の協力	祭礼行事等の情報提供、 資料の調査・収集・保存・記録	
			②公民館講座等歴史講座の充実	公民館等で、古文書講座や歴史講座を開催し充実させることで、郷土理解を深める。	行政(生涯学習課)	専門職員の講師派遣、素材・資料の提供等	
			③郷土学習の展開	学校教育の中に、郷土学習を積極的に取り入れ、郷土の「人・もの・こと」から学ぶ。	教職員 市民の協力	素材や資料の提供、 人材の紹介、 解説や体験等による授業協力	
	「生きる力」に	施策7・3	①郷育の推進	郷育を学校、家庭、地域、行政が一体となって推進することで、広義のコミュニケーション能力や子どもの「生きる力」を育成する。	市全体 (行政、学校、地域、 各種団体等)	文化財等を活用した、 子どもを巻き込んだ まちづくり活動の 提案・創出・推進	
	基本目標4 郷土の文化やスポーツの推進	基本施策9 文化の保全・伝承と創造の推進・充実に努める	施策9・1 文化の保全・伝承と活用	①先人顕彰事業	雪村顕彰会等、郷土の偉人を顕彰する団体を支援し、郷土を発信することに努める。	雪村顕彰会 行政(文化スポーツ課)が支援	当地で生まれたとされる戦国期の水墨画家 雪村周継の周知拡大
				基本施策10 スポーツ・レクリエーションの推進	施策10・1 スポーツ・レクリエーションの推進	①生涯スポーツ・レクリエーションの振興・普及	市民一人ひとりのスポーツ・レクリエーションニーズに対応した行事を幅広く展開し、生涯スポーツ・レクリエーション社会の実現に努める。

2. 地域資源の保存・活用に関する措置

文化財行政が目指す目標や理想の姿は全国共通ですが、第1章で見たように市の姿や文化財、歴史文化は固有のものです。当地域計画では、市の実情に即した具体的な措置を示して文化財行政のロードマップとし、事業の実施には文化庁の補助金や地方創生の交付金等の積極的な活用を図ります。

また、今期地域計画における、関連文化財群及び文

化財保存活用区域も含めた措置の柱を以下の3つとし、重点事業を、市民協働の地域資源の把握・保存・活用及び情報発信の拠点でありシンクタンクともなる文化財展示施設の充実、及び、泉坂下遺跡を中心とした文化財保存活用区域と、古い町並みが残る高部宿のサテライト地域としての整備の具体化とします。



これらの措置のすべてに市民が楽しんで深くかわり、地域活性化のモデルとなる地区が生まれることを推進します。

地域資源の保存・活用に関する措置 ※措置の内容の()内はP92～96に示した政策間連携可能な事業 “重”は総合計画重点事業、“教”は教育振興基本計画掲載事業を参照

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
あつめる・まもる・みがく									
H-1	地域住民及び郷土史研究団体による情報提供	市郷土史研究団体	市民	—	■	■	■	■	
	古文書や市の歴史文化の特徴を示す資料の収集	市	市民	市単費	■	■	■	■	
	資料館・文書館・市史編さんでの速やかな調査	市市史編さん委	市民	市単費	■	■	■	■	
H-4	文化財種別と指定基準表の作成	市市文保審	—	市単費	■				
H-5	文化財保護指導委員の設置による文化財見守り活動の実施	市	—	市単費	■				
	登録・指定文化財所有者等で連絡協議会を結成し意見交換や修復計画の検討	市所有・管理者	—	市単費		■	■	■	

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
H-6	文化財補助金交付要綱の所有者負担割合等の見直し及び文化振興基金の文化財修復への活用の検討	市	—	市単費					
H-7	伝統文化連絡協議会をはじめとする市民相互の協力	伝統文化連絡協議会 市民	市	市ほか					
	伝統文化伝承者間の連携や学生等ボランティアの協力、及び、児童・生徒の地域行事への参加促進等の推進 (重No.24、重No.70、教5-2-①、教5-2-②)	市 大学 学校 市民	市	市ほか					
H-8	和紙のA4サイズの裁断、OA機器への対応等現代生活にあった製品の開発(重No.71)	伝統技術保持者 市民	市	市 国補助金					
H-9	関係課窓口にてフローチャートのシートを備える等開発に伴う埋蔵文化財包蔵地確認届出の義務周知の徹底	市	—	市単費					
	埋蔵文化財包蔵地マップの更新	市	—	市単費					
H-10	地域住民や文化財保護指導委員による恒常的な文化財の巡視	文化財保護 指導委員 市民	—	市単費					
H-11	文化財リストと被災時の連絡網を消防や警察に提供するとともに、自主防災組織にも配布し地域文化財への対応を喚起(重No.37)	市	消防 警察 市民	市単費					
	文化財被災を想定した地域住民と文化財所有者による防火訓練と文化財の巡視(重No.36)	市、消防 所有・管理者	市民	市単費					
H-12	文化財レスキューを行っている茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク(茨城史料ネット)との連携	市 茨城史料ネット	市民	市ほか					
H-13	指定文化財所在施設への確実な消火器の配備と必要に応じた防犯カメラの設置(重No.55)	所有・管理者 市	—	所有者 市					
H-14	廃校等を収蔵庫として整備し集約	市	—	文化庁 補助金、市					
H-15	指定文化財・古文書・考古資料・所蔵民具等の汎用性の高い分類表や入力シートの作成と、データの一元化及び効率化	市	—	市単費					
H-16	調査報告書の作成による記録保存	市	市民	市単費					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
H-16	用具や文書、古記録・写真等 関連資料の収集による保存	市	市民	市単費					
	実施・復元可能な芸能や行事等を 映像として記録保存	市	市民	文化庁補助金、 地域創造等 補助金、市					
H-17	市史編さん事業の活用と研究機関・ 専門家等との連携体制の構築	市、 市史編さん委	研究機関等	市単費					
H-18	廃校施設等を収蔵庫(上記H-14) 兼用の埋文整理施設として整備	市	—	文化庁補助金、 市					
しる・しらせる・つかう									
K-1	様々な世代への周知と特産品の購買意識向上を図るため ひたちおみやコレクション(みや・コレ)のカード化と、 市特産品等購入者への配布	市	道の駅等 市特産品 取扱所	市単費					
K-2	展示資料の劣化防止も兼ねた常設展 示資料の定期的な入れ替えと企画展 の実施	市	—	市単費					
	民具展示見学や年中行事等映像鑑賞の 高齢者の回想法への活用などを民間施 設等に提案(重No33)	市	介護施設等	—					
K-3	道の駅などを会場とした、成果品を持ち 帰ることのできる、和紙などの地域資源 に関連した体験教室等の開催	保存団体 市	—	参加者自己負担 保存団体、市					
K-4	初めての人の参加を容易にする「入門 編」講演会・講座等の創設	市	市史編さん委、 専門家	市単費					
	スポーツや郷土食等と見学会を組み合 わせるなど、参加者の裾野の拡大を図る イベントの創設	市	関係市民 団体	参加者自己負担 市					
K-5	資料館利用ガイド「授業に役立つ資料 館」の利活用促進と、教職員との意見交 換会の実施	市 学校	市民	市単費					
	郷土学習授業での歴史等専門職員の協 力や、写生会会場・歩く会のコースへの地 域資源の利活用の推進(教1-1-①)	市 学校	—	市単費					
	様々な授業での「みや・コレ」カードの 作成や、市史編さん事業への協力推進	市 学校	市民	市単費					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
K-5	地域の歴史文化に詳しいゲストティーチャーの紹介や企画の協力(教5-1-①)	学校 市	市民	市単費					
	社会科副読本の編さん等、郷土教育の教材への身近な地域資源の導入及び利活用の強化、推進((教7-1-①、教7-1-②、教7-1-③、教7-2-③)	学校 市	—	市単費					
K-6	県教委実施の「いばらきっ子郷土検定」、市教委刊行の「ふるさと検定問題集」を有効活用した周知	学校 市	—	—					
	身近に使用する文房具等に、伝えたい郷土の歴史文化を印刷して配布	市	学校	市単費					
K-7	文化財等の説明であることが明瞭な統一されたデザインによる説明板の設置	市	—	市単費					
K-8	福祉部局や観光部局等、他の部署が作ったサイトへも掲載を依頼するなどの積極的利用による様々な人々への情報発信(重No15)	市	市民	市単費					
	市や関連団体HP及び概説書やパンフレット等の周知ツールの多言語化	市	—	文化庁補助金 市					
K-9	地域活性化活動に対し活用可能な有形文化財、祭礼、伝統的産品等、地域資源の提示と、連携可能な地域振興に取り組む住民、企業を支援する事業の積極的な活用(重No44、重No57、重No58、重No62、重No76)	市	市民	市単費					
K-10	他地域の優れた伝統技術も参考とした特産品の加工や現代生活に適合した新商品の開発の推進(重No71)	伝統技術保持者 事業者	市	市単費					
	道の駅や温泉施設のレストラン等での提供や販売、ふるさと納税返礼品での活用検討(重No69)	伝統技術保持者 市 事業者	—	市単費					
	食や買い物、体験、景観、温泉などと組み合わせた文化財等を巡るコースの創設やモニターツアーの実施の検討(重No63、重No75、重No79)	市	市民	市単費					
K-11	秋に実施している文化財の特別公開の充実と、公開地の花や紅葉の見頃などに合わせた季節公開の検討	市	所有・管理者	市単費					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
K-11	城跡や酒蔵・庭園等での作品展示などのユニークベニューを検討(重No.25)	芸術家	所有・管理者	市ほか					
	道の駅や市主催のイベント等での民俗芸能の公開	市 伝統文化 連絡協議会	—	市単費					
	受付や案内等のボランティアを配置するなどの、所有者等の負担軽減	市	茨城大学 市民	市単費					
	スタンプラリーの実施や、温泉施設や道の駅等も加えたモデルコース設定や地域住民との交流機会の創出等による見学者増加の推進	市 事業者	所有・管理者	市単費					
K-12	相談窓口を設けるとともに、文化財行政担当部署による適切・定期的な管理・監督を行う	市	関係市民 団体	市単費					
総合的な事項									
S-1	メノウや漆、那須楮の生産地として一体の太子町や、再葬墓が所在する県内自治体と連携した調査やイベント等の開催	市 関係自治体	市民	市 関係自治体					
S-2	文化財の保存活用に適切な施設と体制を有し、製品開発のコンセプトに地域の歴史文化との関連を加えて独自性を出すなど、地域資源を有効に利活用し、地域活性化に資するシンクタンクとしての役割も担う施設整備の推進	市	市民	地域創生 推進交付金 市 文化庁補助金					◎
S-3									
S-4									
S-5	行政・市民及び外部協力者や機関・企業等も視野に入れた体制の構築	市	—	市単費					

3. 関連文化財群の把握・保存・活用に関する措置

常陸大宮市の歴史文化の特徴を備えた8つの関連文化財群に関する、把握・保存・活用の措置は下記の表のとおりです。

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
① 東日本の弥生時代解明のカギをにぎる再葬墓									
1	中台遺跡の発掘と報告書の刊行	市	土地所有者 市史編さん委	文化庁補助金、 市					
2	県立歴史館所蔵遺物の調査及び撮影・ 実測	市史編さん委	県立歴史館	市単費					
	小野天神前遺跡の発掘と報告書の刊 行	市	土地所有者 市史編さん委	文化庁補助金 市					
3	重要文化財指定土器の計画的修復の 実施	市	—	文化庁補助金 市					
	未指定遺物の修復計画立案と実施	市	—	民間補助金 市					
4	国重文の保存展示に適した設備を備え た施設の整備	市	—	地方創生 推進交付金 文化庁補助金 市					◎
5	文化財保存活用区域及び文化財展示 施設のサテライト地域としての整備を 検討	市	市民	地方創生 推進交付金 文化庁補助金 市					◎
	再葬墓が営まれたエリアや、埋葬状態 をわかりやすく示したVRやARの製作と 活用	市	—	文化庁補助金 市					
6	商標登録済の人面付土器「いずみ」を 商品のパッケージやキャラクターとし て有効活用した周知(重No73)	市、 民間業者	—	市ほか					
7	史跡のボランティアガイドの養成など、 愛護団体「泉坂下遺跡をまもる会」との 連携	泉坂下遺跡を まもる会 市	—	会員年会費 市					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
② 江戸時代初期の水戸藩の食糧増産巨大プロジェクト 久慈川と那珂川に築造された三大江堰									
1	旧遺構に関する地元住民への聞き取り調査	市史編さん委 市	市民	市単費					
2	道の駅に近接する旧水路と周辺災害防備林を環境整備することで、散策や見学を促し、周知に資する(重No80)	大賀地域 活性化協議会 市	市民	市単費					
3	積極的に文化財指定を図るとともに、デジタルデータ化を進めて記録として保存する	市	所有者	市単費					
4	授業での利用も念頭においた、子どもにもわかりやすいパンフレット等の作成、配布	市	学校	市単費					
③ 棚倉構造線形成期に続く地殻変動に由来する産物「メノウ」									
1	諸沢・北富田地域の採掘坑・採掘跡の分布調査	市史編さん委	地権者 市民	文化庁 補助金、市					
	地元に残っていない関連する古文書を、藩側の資料も視野に入れて所在を調査	市史編さん委	市民 徳川ミュージアム	市単費					
2	地球科学・歴史・民俗など、他分野にわたる総合的調査研究を実施して、史跡指定を検討	市史編さん委	市民	市単費					
3	大子町との連携して、採掘跡の分布調査を行い、保存活用の基礎資料とする	市 大子町	市民	市 大子町					
4	周辺日帰り温泉施設等と組み合わせた採掘坑の見学地としての環境整備(重No75)	市	地権者 地質専門家	市ほか					
5	民間に呼びかけ、市内産物のメノウを使った商品等の開発を推進(重No71)	企業 市民	関連団体	市単費					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
④ 佐竹氏の攻防と市内に残る中世城郭跡及び関連資料									
1	地域住民と協働による小場城、長倉城、高沢館、氷之沢館等の環境整備及び調査(重No76)	市民	市	市単費					
2	社寺所蔵品や調査が不足している地域の石造物等関連文化財の悉皆調査	市 市史編さん委	市民	市単費					
3	森林組合等関係団体への包蔵地マップ等資料の配布と、城跡保存の協力を要請	市	—	市単費					
4	地元住民による保存団体等の結成を図り、自発的な環境保全等、保存活動を促進する	市民	—	—					
5	茨城大学や茨城中世史研究会等の専門家との連携による史料収集及び研究	市史編さん委	秋田県立 公文書館ほか	市単費					
6	城跡をつなぐ駅伝等、多彩なイベントの創出を検討(重No76)	市、市民	茨城城郭研究会 茨城大学	市ほか					
7	わかりやすい説明看板の設置と城跡に関するパンフレット等の作成	市、市民 茨城城郭研究会	茨城大学 市史編さん委	市単費					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
⑤ 災い来るな! 災厄払う六字様行事とオカシマサマ									
1	報告書の刊行と市史民俗編への反映	市 市史編さん委	市民	市単費	■	■			
2	継続に必要な、行政で提供・協力可能な事物を地元と協議し、連携して行事の存続を図る	伝承者 市	—	—	■	■	■	■	
	用具や関連資料の収集	市	市民	—	■	■	■	■	
3	現行のYoutubeや様々な施設での映像の公開、祭礼についての展示等を実施	市	市民	市単費	■	■	■	■	
	道の駅等で伝承地区住民が参加者を募って、行事を実施し、ふるさとの特徴ある年中行事の周知を図る	市民	道の駅等	—		■		■	
	SNSによる祭礼行事の説明・映像及び実施日・会場等の情報発信	市	市民	市単費	■	■	■	■	
⑥ 農村文化の総合芸術 組立舞台と山車・屋台									
1	調査が不足している御前山・緒川・山方地域での分布調査	市史編さん委 市	市民	市単費	■				
2	屋号や伝承、資料の墨書等をもとにした彫物大工、紺屋等の職人に関する聞き取り調査の実施	市史編さん委 市	市民	市単費	■				
3	国長の組立舞台及び舟生・西野内・下檜沢等の人形浄瑠璃道具の詳細調査と報告書の刊行	市 市史編さん委	市民	市単費		■			
4	財源や修理方法等を地元住民と綿密に協議して修理を検討(重No.44)	市	市民	市 地域住民	■	■	■		
5	祭礼等公開の日時・場所・アクセス方法等をSNS等で周知し見学者の増加を図る	市、市民	—	—	■	■	■	■	
	毎年秋に行っている文化財特別公開への参加を図る	市 所有・管理者	市民	市単費		■		■	
6	作品の一部を意匠化するなどして、ロゴやグッズに活用し、優れたセンスや技を周知する	市、市民	—	市単費		■	■	■	

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
⑦ 紙がもたらした経済力と文化を伝える高部宿									
1	関連民具などの一層の収集を図って、国登録有形民俗文化財「常陸大宮及び周辺地域の和紙製造用具と製品」を充実させる	市史編さん委 市	市民	市単費					
2	栃木県側や江戸紙問屋等の、紙流通に係る広域な関係資料調査の実施	市史編さん委 市	関係機関 市民	市単費					
3	建造物の専門家による民家調査と、積極的な文化財登録・指定の申請を検討	ヘリテージ マネージャー 市	所有・管理者 市民	文化庁補助金 市					◎
4	楮産地、紙漉村、紙問屋等を結ぶ「紙の道」に関する道標等、各種調査の実施	市史編さん委 市	市民	市単費					
5	廃校等に日光の遮断や急激な温湿度変化の防止、棚の設置等の改装を施し、定期的な巡視を行う	市	—	文化庁補助金 市ほか					
6	地元住民と連携して民家の傷み具合の調査、及び高部宿町並み整備の方向性について検討	市 所有・管理者 森と地域の 調和を考える会	市民	文化庁補助金 市					◎
7	絵画や文書の裏打ち、襖、壁紙等、文化財保存修復素材としての活用の検討(重No71)	本西の内紙 保存会 事業者	市	市単費					
	A判にカットしてOA機器に対応させる等、現代的な使い方への提案や周知活動の実施(重No71)	本西の内紙 保存会 事業者	市	市単費					
	友好都市となっている大館市の曲げわっぱや、織物、編み物等、他地域の伝統工芸品等とのコラボの可能性を検討(重No63)	本西の内紙 保存会 事業者	市	市単費					
8	調査成果に関する報告書の刊行	市史編さん委 市	市民	市単費					
9	道の駅等を会場として気軽に参加できる各種体験教室を開催し、西の内紙の丈夫さや、吸水性、風合いを理解するとともに親しみを持ってもらう	本西の内紙 保存会	道の駅	参加者自己負担 保存会					
10	文化財展示施設のサテライト地域として、観光資源化も視野に整備を検討	所有・管理者 地域住民 市	市民	文化庁補助金 市					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
⑧ 6カ寺もの二十四輩寺院及び関連資料と文化財									
1	専門家との連携による総合的把握調査の実施	市史編さん委 市	関連寺院	市単費					
2	専門家による文化財の現状調査と住職等との修理に関する協議の実施	各寺院・門徒 市	各分野専門家	—					
3	パンフレットやSNSでの周知、及びデザインを統一した看板等を設置(重No75)	市 各寺院	—	市、 各寺院					
4	秋に実施している文化財特別公開の活用と、開祖の命日等の定期的な公開を提案	各寺院	各門徒 市	市 見学科					
5	観光施設と組合わせた6寺院巡拝ツアーの創出や、各寺の聖徳太子像を使ったご朱印の作成等、門徒等団体客の誘致を検討(重No79)	寺院連合 門徒	市	市 各寺院					
	体づくりと巡拝を組み合わせた巡拝ウォーキング等の実施による歴史への関心の拡大	健康推進団体 スポーツ団体 市	各寺院	市 主催団体 参加者					

4.文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置

文化財保存活用区域の課題は、P63及び表65-1の「地域資源の保存・活用に関する課題」と多くが重複しますが、ここではP85～90に記した3つの文化財保存

活用区域の各課題に対する措置を、下記に表として示します。

課題No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
① 上野・村田地区 岩崎用水ライン文化財保存活用区域 ～泉坂下遺跡の周辺散歩で常陸大宮の5,000年をタイムトリップ!～									
1	歴史民俗資料館・文書館及び市史編さん事業での調査・研究の実施	市 市史編さん委	市民	市単費					
2		市 市史編さん委	市民	市単費					
3	歴史民俗資料館の企画展等での公開と、施設整備後の新施設への寄託替えを図る	市 地元住民	県立歴史館	—					
4	学校教育や公民館活動等での見学会や学習会の開催	学校 地域住民	市 専門家	—					
5	存在や場所を知ることで、日常の散歩等で異常がないかを確認するなどの注意を喚起	地域住民	市	—					
	泉坂下遺跡をまもる会など地域住民を中心としたガイドの育成	地域住民	市	—					
6	泉坂下遺跡の史跡整備との連動、及び文化財展示施設のサテライト地域としての位置付けを明確に示す	市 泉坂下保存活用整備委	—	—					
	学校教育での利用や健康づくり・スポーツイベントとのコラボなど、参加者や利用法を想定した整備を図る	市	学校 市民団体	市ほか					
7	統一性のあるデザインで、内容もわかりやすい案内板等の設置	市	岩崎江堰土地改良区 市民	市ほか					
	駐車場などの付帯施設の整備	市	地域	市ほか					
	定期的な除草などの環境整備	市民 市	—	—					
8	紙ベースとSNSによる魅力的な周知	市	市民	市単費					
	健康づくり活動団体等へのウォーキングでの利用をすすめる、歴史文化への興味拡大を図る	市 市民団体	—	—					
	コースが市街地に近いことを活用したウォーキングとカフェやレストランとの組み合わせの提言	市 民間業者	—	市ほか					

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
② 高部宿を中心とした文化財保存活用区域 ～中世の面影残す山中の町並み～									
1	専門家による建造物等の調査を実施し町並みを構成する建物を特定する	市	ヘリテージ マネージャー 所有・管理者	市ほか					◎
2	市史編さん事業等で研究の深化を図る	市 市史編さん委	所有・管理者 地域住民	市単費					
3	積極的な文化財登録・指定を行うとともに、計画的な修理・修繕を図る	市 文保審 所有・管理者	地域住民	文化庁補助金 県 市					◎
4	調査結果を踏まえ、専門家と地元住民とともに整備方針やコンセプトを調整	市 所有・管理者	専門家 地域住民	—					
5	地域で維持管理する仕組みを作るとともに、修復等に地域創生交付金等の活用を検討し所有者の負担軽減を図る	市 所有・管理者 森と地域の調和 を考える会	地域住民	地域創生交付金 文化庁補助金 県、市					
6	道路を管理する県・市の部局等及び地元の要望を調整し整備計画を立てる	県 市	所有・管理者 地域住民	県 市					
7	電線の地下埋設や消火設備等の整備を検討	市	地域住民	市ほか					
8	文化財集中曝涼等での公開だけでなく、花や紅葉の見頃に一定期間の公開を実施するなど無理なく機会を増やして行く	所有・管理者 森と地域の調和 を考える会	地域住民 市民	市 見学料					
9	リノベーションを施し、ガイダンス・休憩施設としての利用や、店舗等としての利用者や移住者の募集を検討(重No45)	市 所有・管理者	地域住民	地域創生交付金 市ほか					
10	所有者や地域住民の意向を尊重した連携と、地域住民が主体となった管理運営団体の結成を図る	所有・管理者 森と地域の調和 を考える会	地域住民 市	—					◎
11									

課題 No.	措置の内容	取組主体	支援・協力	財源	事業期間				今期 重点
					R2~3	~R5	~R7	~R9	
③ 南郷道 ～水戸と奥州をつなぐもうひとつの道～									
1	関連古文書等の調査や地域の古老等への聞き取り調査を実施	市 市史編さん委	地域住民	市単費					
2									
3	保存範囲の確定と市の文化的景観としての選定を検討	市	地域住民	—					
4	近隣住民への注意喚起とともに、防犯カメラ等の設置を検討(重No55)	市 地域住民	—	市					
5	周辺環境に配慮したデザインの誘導看板等の設置と地域住民と連携した環境整備を図る	市 地域住民	—	文化庁補助金 市					
6	関係自治体と共催の関連イベント等の企画	市 関係自治体	市民	文化庁補助金 市					
7	紙ベースとSNSによる魅力的な周知	市	市民	文化庁補助金 市					
8	学校教育でのふるさとのお宝発見や歩く会、マラソン大会、写生会等での活用を図る	学校	市 市民	—					
	健康づくり活動団体等へのウォーキングや駅伝コースとしての利用をすすめ、歴史文化への興味拡大を図る	市 市民団体	—	—					

第6章 推進体制と地域計画の進捗管理

1. 推進体制

本地域計画の推進体制は次の通りです。計画推進の中で、市の文化財保護指導委員の設置や文化財保存活用支援団体の指定について法整備を含めて検討するとともに、市内外の研究者・研究機関・企業等との

連携を図って地域計画協議会の実行力を高め、また文化財の被災に備えた茨城史料ネットとの連携を深めて、様々な世代の市民と協働の体制づくりを段階的に進めていく方針です。

<p>常陸大宮市</p> <p>教育委員会事務局 文化スポーツ課 文化・スポーツグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 文化財の保存活用に関する事業・市史編さん事業、スポーツの振興に関する事業 ・職員 / 6名 (全員事務吏員 うち埋蔵文化財を扱う職員1名、近代史専攻市史編さん担当職員1名、民俗学専攻職員1名) <p>教育委員会事務局 文化スポーツ課 歴史民俗資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 考古・歴史・民俗に関する資料収集、調査、保存、公開、教育普及 ・職員 / 2名 (全員事務吏員) <p>教育委員会事務局 文化スポーツ課 文書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 行政文書及び歴史資料の収集、整理、保存、研究、公開 ・職員 / 2名 (全員事務吏員 うち近世史専攻職員1名) <p>教育委員会事務局 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 学校教育に関する事業及び教育委員会の運営 <p>教育委員会事務局 生涯学習課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 生涯学習に関する事業及び公民館・図書館の管理運営と文化センター等の管理 <p>政策審議室 企画政策課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 市の政策の企画に関すること <p>地域創生部 地域創生課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 地域創生に関する事業 <p>市民生活部 市民協働課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 市民との協働や茨城大学との連携に関する事業 <p>産業観光部 農林振興課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 農林の振興に関する事業 <p>産業観光部 商工観光課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容 / 商工業及び観光に関する事業 <p>その他地域資源の保存活用の推進で連携可能な部署</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策審議室 秘書広聴課、市民創生部 山方・美和・緒川・御前山支所、市民生活部 安全まちづくり推進課、保健福祉部 こども課・長寿福祉課、建設部 都市計画課、消防本部
<p>茨城県</p> <p>茨城県教育庁総務企画部文化課、県警大宮警察署(小瀬、高部、野口、諸沢、山方駐在所、東富町交番)</p>
<p>関係研究機関</p> <p>茨城大学人文社会科学部・教育学部、茨城県立歴史館</p>

常陸大宮市文化財保護審議会
<ul style="list-style-type: none"> ・審議事項 / 市文化財の指定・解除に関する調査及び審議 ・委員 11 名（うち歴史 1 名、考古 1 名、民俗 1 名、工芸 2 名、自然 2 名）
常陸大宮市文化財保護指導委員
※設置を検討
常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会
<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 / 常陸大宮市文化財保存活用地域計画の策定及び進行管理・改正 ・委員 / 16 名（うち歴史 1 名、建造物 1 名、工芸 2 名、伝統文化伝承者 2 名、県文化課 1 名、学校教育関連 1 名、市行政関連部署 5 名）
泉坂下遺跡保存活用整備委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 / 泉坂下遺跡の保存と有効な活用について協議 ・委員 / 11 名（うち学識経験者 6 名、地域住民 3 名、教育関係者 2 名）
常陸大宮市史編さん委員会専門部会
<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 / 常陸大宮市史刊行を目的とした調査・研究・執筆 ・部会員 / 60 名（考古・歴史・民俗・自然の専門家）
文化財レスキュー団体
・茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク
その他民間団体
<p>常陸大宮市伝統文化連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市指定無形民俗文化財保持団体を中心とした相互協力団体（西塩子の回り舞台保存会他 15 団体） <p>森と地域の調和を考える会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財等地域資源を活用した美和地域住民有志による地域活性化活動（一般社団法人）茨城建築士会ヘリマネ茨城協議会県北グループ ・主に県北在住のヘリテージマネージャーの団体 <p>各地域の郷土史研究団体（大宮郷土研究会、山方郷土史クラブ、緒川文化研究会、御前山郷土史研究会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 / 郷土の歴史・文化の調査及び記録等 <p>泉坂下遺跡をまもる会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉坂下遺跡の周知活動

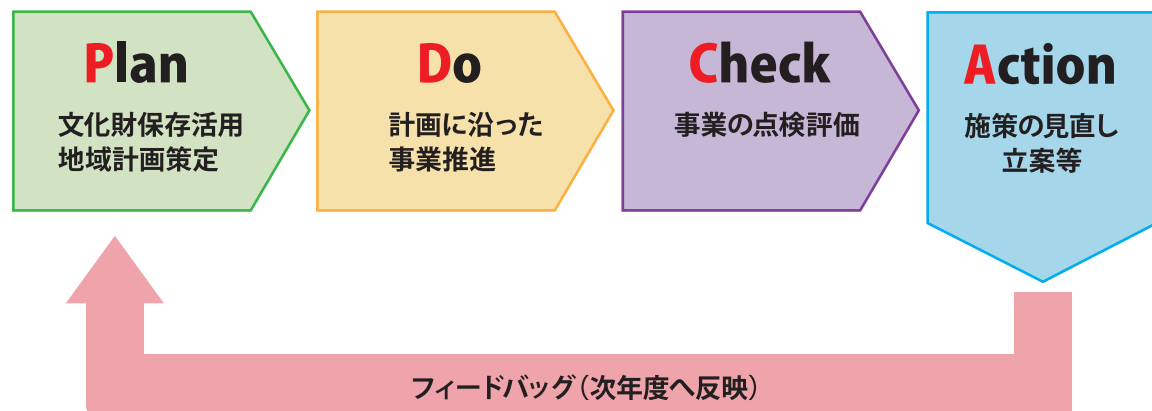
2. 計画の進捗管理と自己評価の方法

計画の進捗管理及び効果等を検証するための自己評価の方法として、重点事業について、毎年、KPIを設定した事務事業評価書(表114-1)を用い、自己評価を実施して、下記のようにPDCAサイクルマネジメントに

よる進行管理を行います。

なお、KPI(Key Performance Indicator)の設定にあたっては、客観的な成果を示す指標を用いますが、事業の進行に伴い、設定対象は変化します。

図113-1 計画の進捗管理と自己評価の方法



◆短期サイクル(1年)

文化財行政主管課が主体となって行う事業については、毎年目標値を定めて年度末に自己評価を行うとともに、事前に地域計画協議会で選択した2ないしは3事業について評価表を作成します。他部署が実施主体となっている総合計画の重点事業は、毎年担当部署が作成している事業評価表を資料として、ともに地域計画協議会にかけて点検評価を実施し、施策の見直しや新規事業等について協議します。また、事前に選択した事業のうち、少なくとも1事業は、教育委員会の外部評価委員会による評価も受けることとします。

◆中期サイクル(4年)

【前期計画】 令和2年～5年を前期計画期間とし、令和2年から3年間に実施した事業の進捗・評価等を参考として、令和5年度中に後期計画(改訂版)の作成を行います。

【後期計画】 令和6年～9年を後期計画期間として、改訂された後期地域計画に基づき事業を進めるとともに、前期同様、評価や見直し等を実施し、令和9年度作成予定の次期地域計画に反映させます。

◆長期サイクル(8年)

総合計画の基本計画と連動して8年間とした第1期地域計画を総合的に評価・点検した結果と、令和9年に始まる次期総合計画基本計画の施策の大綱等に基づき、令和10年度から10年間の第2期地域計画を令和9年度に作成します。

表114-1

整理番号	令和 年度事務事業評価書(令和 年度事業)			※表面
事務事業名			担当部課グループ	
予算コード		予算事業名		
根拠法令・条例等				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 毎年(事業開始年度 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)			
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 委託(指定管理会) <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他			

1 事務事業の現状把握 [PLAN/DO]

(1)事業の目的・内容

事業の目的	
事業の対象	
手段 (具体的な取組内容)	
意 図 (上位基本事業への貢献)	

KPI

(2)指標値(KPI/Key Performance Indicator)・事業費及び財源内訳

指 標 名		単 位	前年度	評価年度	令和 年度	備 考	
活動指標	目標値		0.0	0.0	0.0		
	実績値		0.0	0.0	0.0		
	達成度	%	0.0	0.0	0.0		
成果指標	目標値		0.0	0.0	0.0		
	実績値		0.0	0.0	0.0		
	達成度	%	0.0	0.0	0.0		
事業費及び財源内訳	年度別決算・予算	単 位	前年度 (実績)	評価年度 (実績)	令和 年度 (予算額)	令和 年度 (予算見込額)	令和 年度 (予算見込額)
	事業費	千円	0	0	0	0	0
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	0	0	0	0	0	

(3)目標の達成状況説明

--

※裏面

(4)事務事業の環境変化

①この事務事業を開始したきっかけ	
②事務事業を取り巻く状況の変化(開始時期と比べてどう変わったか。対象や根拠法令など)	
③この事務事業に対して市民・議会・事業対象者等からの意見や要望など	

2 事務事業の執行状況評価 [CHECK]

① 妥当性評価	事業の必要性	<input type="checkbox"/> A 必要性の高い事務事業である <input type="checkbox"/> B 社会情勢の変化や国の制度見直しなどから必要性の低い事務事業である <input type="checkbox"/> C 国・県の制度改正や目標の達成状況などから必要性のない事務事業である
	この事務事業は市民等が必要とする事務事業ですか。	
	市関与の必要性	<input type="checkbox"/> A 市関与の必要性が高い事業である <input type="checkbox"/> B 今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である <input type="checkbox"/> C 今後は民間・国・県が主体的に行うべき事業である
	この事務事業を市が行う必要がありますか。民間、国・県の関与を拡大できませんか。	
② 有効性評価	事業の成果	<input type="checkbox"/> A 期待したとおりの成果がある(今後向上の見込みがある) <input type="checkbox"/> B 期待したほどの成果が見られない <input type="checkbox"/> C 成果が少なく今後も向上の見込みがない
	この事務事業を実施することによって、目標とする成果がありましたか。	
③ 効率性評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> A 事業を推進する上で、事業費を削減できない <input type="checkbox"/> B 事業を推進する上で、事業費を削減できる余地がある <input type="checkbox"/> C 事業を推進する上で、事業費を削減できる
	この事務事業を推進する上で、コストを削減できますか。	
④ 公平性評価	受益者負担	<input type="checkbox"/> A 受益者負担を求めるものではない <input type="checkbox"/> B 受益者負担を見直す余地はない <input type="checkbox"/> C 受益者負担を見直す余地がある
	この事務事業は受益者負担の見直しや受益者負担を求めるものですか。	

3 評価結果の総括と今後の方針 [ACTION]

	総合評価	<input type="checkbox"/> A 必要性・効果が高い <input type="checkbox"/> B 必要性・効果がある <input type="checkbox"/> C 必要性・効果がない
今後の方針	方向性	<input type="checkbox"/> A 拡充 <input type="checkbox"/> B 現行どおり <input type="checkbox"/> C 見直し <input type="checkbox"/> D 縮小 <input type="checkbox"/> E 廃止・休止
	取組内容(改善内容)	

卷末資料

1. 文化財把握調査表
2. 指定文化財一覧表
3. 未指定文化財調査表
4. 埋蔵文化財包蔵地一覧表
5. ハザードマップと指定文化財分布図
6. 地域計画作成に係る資料

1.文化財把握調査表

【国による調査】

種別	報告書名	発行年	発行機関	掲載された市域の文化財
無形民俗	日本民俗地図Ⅰ～Ⅷ	1969～1972	文化庁	小舟地区の年中行事や風俗習慣
記念物	天然記念物緊急調査 植生図・主要動植物地図 8茨城県	1971	文化庁	三浦杉（小田野）、長倉の榎（長倉枯死）
史跡	全国遺跡地図 茨城県	1980	文化庁	美和地域5、山方地域11、緒川地域5、大宮地域99、御前山地域11 計131遺跡
民俗	全国の地芝居（地歌舞伎）調査報告書	2015	文化庁	西塩子の回り舞台
無形	伝統工芸用具・原材料に関する調査事業	2018	文化庁	那須櫓、漆

【茨城県による調査】

種別	報告書名	発行年	発行機関	掲載された市域の文化財
史跡	茨城県古墳総覧	1959	県教育委員会	小祝古墳（小祝 糠塚か）、無名円墳（野口）
民俗	県内民俗資料緊急調査報告書	1971	県教育委員会	※地図上に示すのみ
民俗	茨城県民俗分布図 解説書	1971	県教育委員会	※地図上に示すのみ
民俗	県北農山村地区民俗資料緊急調査報告書	1974	県教育委員会	上檜沢仲平、氷之沢表郷、西野内塙、長田、上小瀬岩倉、那賀上台、小野、岩崎、野田鴨内、下伊勢畑葛野
記念物	茨城県遺跡地名表	1974	県教育委員会	御前山地域10、大宮地域49、山方地域7、緒川地域4、美和地域6 計76遺跡記載
有形	茨城県の民家 茨城県民家緊急調査報告書	1976	県教育委員会	岡崎三男家（美和地域）消滅か
有形	茨城県の近世社寺建築	1979	県教育委員会	佐伯神社・吉田神社・寿命寺（御前山地域 寿命寺焼失）、甲神社・鹿島神社・羽黒鹿島神社・素鷲神社・松吟寺（建替）・法専寺・誕生寺（建替）・常弘寺（大宮地域）、鷺子山上神社・諏訪神社・吉田八幡神社・静神社・鹿嶋神社（2社）・照願寺・善徳寺・満福寺（美和地域）、立野神社・吉田鹿島神社・三輪神社・鹿島神社・江畔寺（建替）・阿弥陀院（緒川地域） ※太字は重要建築
民俗	茨城の無形民俗文化財	1982	県教育委員会	緒川祭囃子（上小瀬）
有形	茨城県関係古代金石文資料集成―墨書・筭書―	1985	県立歴史館	一騎山遺跡（下村田）、上村田遺跡（上村田）、鷹巣遺跡（鷹巣）、源氏平遺跡（小野）、小野中道遺跡（小野）
記念物	重要遺跡調査報告書Ⅰ	1982	県教育委員会	鷹巣遺跡・犬追遺跡（鷹巣）、下坪遺跡（上大賀）、十三塚古墳群（野上）、鷺子下郷遺跡（鷺子）、忍野遺跡（小田野）、陣向・梶内遺跡（那賀）
記念物	重要遺跡調査報告書Ⅱ（城館跡）	1985	県教育委員会	長倉城跡（長倉）、野口城跡（野口）、前小屋城跡（泉）、宇留野城跡（宇留野）、部垂城跡（北町）、小場城跡（小場）、御城館跡・竜谷城跡（山方）、鳥子城跡（鷺子）、小田野城跡（小田野）、上桧沢城跡（上桧沢）、那賀城跡（那賀）、小瀬城跡（上小瀬）
記念物	重要遺跡調査報告書Ⅲ	1986	県教育委員会	西塙遺跡（野口）、梶巾遺跡（小祝）、小野天神前遺跡（小野）、南皆沢古墳群（山方）、御領平遺跡（高部 湮滅）
民俗	茨城の民謡 民謡緊急調査報告書	1987	県教育委員会	田植え歌、稲刈り節、麦打ち歌、あめ屋歌、馬方節、盆踊り歌、だいや福、まじないことば、子守り歌、お正月を待っている歌、お手玉歌、まりつき歌、羽根つき歌、縄飛び歌

民俗	茨城の諸職―諸職関係民俗文化財調査報告書―	1989	県教育委員会	紙すき、蒔絵（照田）、蒔縮工（小貫）、船大工（小貫）、剥製（諸沢）、硯工（山方）、かき屋（油河内）、唐箕（上小瀬）、鷺子彫（鷺子）
有形	茨城県における古代瓦の研究	1994	県立歴史館	鷹巣瓦窯跡（鷹巣）
民俗	茨城県の民俗芸能―茨城県民俗芸能緊急調査報告書―	1996	県教育委員会	西野内・舟生人形芝居、鷺子祇園囃子、東野の歌舞伎、西金砂神社祭囃子、下伊勢畑の歌舞伎、ほか各地域の祭囃子
有形	茨城の仏像―茨城県内社寺所蔵美術工芸品の調査研究―	1997	県立歴史館	満福寺（上検沢）薬師如来坐像、阿弥陀院（園長）阿弥陀如来及両脇侍像
記念物	茨城県遺跡地図（改訂版）	2001	県教育委員会	
有形	茨城の三十六歌仙絵	2001	県立歴史館	甲神社（下町）三十六歌仙絵
有形	茨城の形象埴輪―県内出土の形象埴輪の集成と調査研究―	2004	県立歴史館	一騎山4号埴輪（市歴史民俗資料館）
天然記念物	茨城県自然博物館第4次総合調査報告書 八溝山地・久慈川を中心とする県北西地域の自然	2007	県自然博物館	市内数か所の関東ローム層中のテフラ、鷺子山・尺丈山・青森山周辺地域（鷺子・高部・上検沢）、諸沢の椎管束植物、市域の非椎管束植物、哺乳類・爬虫類・両生類・淡水魚類・昆虫・土壌生物
有形	茨城県の近代化遺産 茨城県近代化遺産（建造物）総合調査報告書	2007	県教育委員会	花の友酒造・旧高部郵便局・平塚家住宅・間宮家住宅（高部）、常陸大宮駅舎（南町）、小場・辰ノ口・岩崎江塚、小田野橋（小田野）、小町橋（上小瀬）、小瀬橋（上小瀬）、山方宿・下小川・玉川村駅待合室等施設
民俗	鹿島信仰の諸相	2008	県立歴史館	オカシマサマ行事
民俗	茨城県の祭り・行事 茨城県祭り・行事調査報告書	2010	県教育委員会	西金砂神社小祭礼、六字様ほか
有形	茨城の狛犬―県内狛犬の集成と調査研究―	2011	県立歴史館	甲神社（下町）木造狛犬、佐伯神社（野口）木造狛犬
史跡	茨城県歴史の道調査事業報告書（近世編Ⅲ） 岩城相馬道・棚倉道・南郷道・那須道・宇都宮道・飯沼道	2015	県教育委員会	南郷道、那須道
有形	茨城県近代和風建築総合調査報告書	2017	県教育委員会	滋賀家住宅（鷺子）
有形	（未指定文化財調査票）	2000	—	大宮地域の彫刻を中心とした未指定文化財
有形	（未指定文化財調査票）	2004	—	山方地域の彫刻を中心とした未指定文化財
有形	（未指定文化財調査票）	2004	—	美和地域の彫刻を中心とした未指定文化財
有形	（未指定文化財調査票）	2004	—	緒川地域の彫刻を中心とした未指定文化財
有形	（未指定文化財調査票）	2003	—	御前山地域の彫刻を中心とした未指定文化財

文書目録

地区名	目録名	発行年	発行機関	備考
野口	関沢賢家文書目録（一）	1985	県立歴史館	歴史館に寄贈
野口	関沢賢家文書目録（二）	1986	県立歴史館	歴史館に寄贈
長倉	大森恭平家文書目録	2013	県立歴史館	歴史館に寄託
野口	皆川啓家文書目録	2013	県立歴史館	歴史館に寄託
金井	赤上家文書目録	2013	県立歴史館	歴史館に寄託
長倉	西田二郎家文書目録	2013	県立歴史館	歴史館に寄託
野口平	野口平区有文書目録	2013	県立歴史館	歴史館に寄託

発掘調査報告				
地域名	報告書名	発行年	発行機関	備 考
大宮	茨城県大宮町小野天神前遺跡〈資料編〉	1977	県立歴史館	出土品歴史館蔵
大宮	茨城県教育財団文化財調査報告書110集 下村田遺跡	1996	県教育財団	出土品常陸大宮市に移管
大宮	茨城県教育財団文化財調査報告書260集 上岩瀬富士山遺跡	2006	県教育財団	出土品常陸大宮市に移管

【旧町村及び市が行った調査】

種別	報告書等の名	発行年	発行機関	備 考
無形	西ノ内紙	1965	山方町	
有形	神社棟札調査書	1988	緒川村教委	
有形民俗	ふるさとの民俗	1989	御前山村教委	
有形民俗	ふるさとの野仏たち	1991	緒川村教委	
有形	久慈川畔で生まれた明治の文人画家 野澤白華	1991	野澤白華実行委員会	展示図録
無形民俗	大宮町の民話	1992	大宮町教委	
有形民俗	報告書 西塩子の回り舞台	1994	大宮町歴史民俗資料館	
有形民俗	おおみやの野仏とその祈り	1995	大宮町歴史民俗資料館	石仏・石塔悉皆調査
有形民俗	ふるさとの文化財めぐり—御前山村の碑文—	1995	御前山村教委	
有形	大宮の考古遺物	1995	大宮町歴史民俗資料館	展示図録
無形民俗	御前山村郷土誌史料第五集 ふるさとの昔ばなし	1998	御前山村教委	
有形民俗	大宮町の絵馬	1999	大宮町歴史民俗資料館	絵馬・奉納額悉皆調査
有形民俗	山方の石仏石塔	1999	山方町教委	石仏・石塔悉皆調査
無形民俗	大宮町の年中行事 DVD「大宮町の年中行事」「大宮の祇園」「大宮町の講」とも	2000	大宮町歴史民俗資料館	
無形民俗	DVD葉タバコの栽培—黄色種つくば1号と水府—	2001	大宮町歴史民俗資料館	
有形	水戸藩利水史料集—永田茂衛門父子の業績と三大江堰—	2002	大宮町教委	
有形民俗	下小瀬の歌舞伎舞台	2003	緒川村教委	
有形民俗	図録 下楯沢宿里の歌舞伎舞台（模）道具	2004	美和村教委	
無形民俗	DVD常陸大宮市のまつりと行事	2009	市歴史民俗資料館	小田野の火伏せ、妙蓮寺のお会式、入本郷のゴダチ、野口館の念仏講、十二所神社の九頭祭、六字様、西金砂神社小祭礼—諸沢地区の対応—
有形民俗	門井の舞台—御前山地域門井地区に残る組立式舞台の道具—	2010	市歴史民俗資料館	
史跡	水戸と奥州をつなぐもうひとつの道 南郷道	2014	市歴史民俗資料館	展示図録
無形民俗	DVD那珂川のササブネをつくる—舟大工・峯岸進の技術—	2015	市教委	
無形民俗	DVD 那珂川の鮭漁「イクリ網漁」と「オトリ網漁」—常陸大宮市野口の漁師・茂垣徳一の技術—	2016	市教委	
有形	常陸大宮の棟札1	2018	市文書館	

有形	常陸大宮の樺札2	2018	市文書館	
史跡	(中世城郭一覧表)	2018	作成 市教委	
有形	(岡山酒造建造物調査)	2019	作成 ヘリマネ 県北グループ	平成30年度(2018)歴文構想策定事業で調査
無形民俗	(大字別聞き取り調査)	2019	市教委	平成30年度(2018)歴文構想策定事業で調査

史料集・文書目録

地域名	目録等名	発行年	発行機関	備 考
大宮	大宮町古文書史料集(一)	1997	町歴史民俗資料館	
大宮	水戸藩利水史料集—永田茂衛門父子の業績と三大江塚—	2002	町教委	
大宮	常陸大宮市史料目録(一)	2007	市教委	
美和	美和村史料所在目録(一)	1987	村史編さん委	
美和	美和村史料所在目録(二)	1987	村史編さん委	
美和	美和村史料所在目録(三)	1989	村史編さん委	
美和	美和村関係「いはらき」新聞記事 標題索引目録	1989	村史編さん委	
美和	美和村史料 近世村絵図	1996	村史編さん委	
美和	常陸大宮市近世史料集(一)美和 地域編Ⅰ	2009	市歴史民俗資料館	
美和	常陸大宮市近世史料集(二)美和 地域編Ⅱ	2011	市歴史民俗資料館	
美和	常陸大宮市近世史料集(三)美和 地域編Ⅲ	2013	市歴史民俗資料館	
美和	常陸大宮市近世史料集(四)美和 地域編Ⅳ	2014	市歴史民俗資料館	
美和	常陸大宮市近世史料集(五)美和 地域編Ⅴ	2015	市文書館	
美和	常陸大宮市近世史料集(六)美和 地域編Ⅵ	2015	市文書館	
緒川	史料所在目録	不明	村教委	
緒川	那珂郡緒川村旧八里村役場史料目録	不明	不明	
御前山	御前山村古文書目録	2004	村教委	
御前山	御前山村郷土誌資料第三集 ふる さとの地名と古文書	1996	村教委	
御前山	常陸大宮市近世史料集(七)御前 山地域編Ⅰ	2016	市文書館	

発掘調査報告等

地域名	報告書名	発行年	発行機関	備 考
大宮	常陸一騎山	1974	町教委	
大宮	富士山遺跡調査報告書Ⅰ	1979	町教委	
大宮	常陸鷹巣遺跡(第1次調査)	1983	町教委	
大宮	茨城県梶巾遺跡	1985	町教委	
大宮	常陸源氏平	1985	町教委	
大宮	常陸鷹巣遺跡	1987	町教委	
大宮	上村田小中遺跡	1988	町教委	

大宮	諏訪台遺跡	1991	諏訪台遺跡発掘調査会
大宮	図録 大宮の考古遺物	1995	町歴史民俗資料館
大宮	常陸大宮 坪井上遺跡	1999	町教委
大宮	上宿上坪遺跡発掘調査報告書	2004	町教委
大宮	高ノ倉遺跡発掘調査報告書	2005	市教委
大宮	鷹巣原遺跡発掘調査報告書	2007	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書	2008	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書—第2次調査Ⅰ—	2009	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書—第2次調査Ⅱ—	2009	市教委
大宮	函報泉坂下遺跡	2012	市教委
大宮	赤岩遺跡発掘調査報告書Ⅰ	2012	市教委
大宮	鷹巣戸内遺跡発掘調査報告書	2013	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2013	市教委
大宮	石沢台遺跡発掘調査報告書	2013	市教委
大宮	赤岩遺跡Ⅱ・三美中道遺跡Ⅰ発掘調査報告書	2013	市教委
大宮	泉坂下遺跡発掘調査報告書Ⅱ	2013	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書Ⅳ	2014	市教委
大宮	北原遺跡発掘調査報告書Ⅰ	2014	市教委
大宮	滝ノ上遺跡発掘調査報告書Ⅰ	2014	市教委
大宮	泉坂下遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2014	市教委
大宮	三美中道遺跡Ⅱ・滝ノ上遺跡Ⅱ発掘調査報告書	2015	市教委
大宮	泉坂下遺跡発掘調査報告書Ⅳ	2015	市教委
大宮	石沢台遺跡発掘調査報告書Ⅱ	2016	市教委
大宮	北原遺跡発掘調査報告書Ⅱ	2016	市教委
大宮	泉坂下遺跡発掘調査報告書Ⅴ	2017	市教委
大宮	上ノ宿遺跡発掘調査報告書Ⅴ	2017	市教委
大宮	石沢台遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2017	市教委
大宮	滝ノ上遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2017	市教委
大宮	滝ノ上遺跡発掘調査報告書Ⅳ	2017	市教委
山方	江下山古墳墳丘確認実測調査	1997	町教委
緒川	本郷遺跡発掘調査報告書	1986	村教委
緒川	松原遺跡	1992	村教委
御前山	西塙遺跡発掘調査報告書1	2009	市教委
御前山	西塙遺跡発掘調査報告書2	2009	市教委
御前山	山根遺跡発掘調査報告書	2014	市教委

自治体史				
旧自治体	刊行物	巻数	発行年	発行機関
大宮町	大宮町史	1	1958	大宮町長
大宮町	大宮町史	1	1977	大宮町史編さん委員会
大宮町	大宮町史 史料集	1	1980	大宮町史編さん委員会
山方町	山方町誌 上巻	1	1976	山方町誌編さん委員会
山方町	山方町誌 下巻	1	1982	山方町誌編さん委員会
美和村	美和村史	1	1993	美和村史編さん委員会
緒川村	小瀬村史	1	1956	小瀬村役場
緒川村	八里村郷土誌	1	1956	八里村郷土誌編さん委員会
緒川村	緒川村史	1	1982	緒川村史編さん委員会
御前山村	御前山郷土誌	1	1976	御前山郷土誌編さん委員会
御前山村	御前山郷土誌 改訂版	1	1990	御前山郷土誌編さん委員会

【研究機関・郷土史研究団体・個人等が行った調査・記録】

種別	報告書等名	発行年	作成団体・著者	備考
無形民俗	古種の素人が描く明治、大正、昭和の思い出	1975	会沢忠	自ら体験した生活の記憶画
無形民俗	昔の生活と風俗・美和村の民俗調査資料	1977	美和村郷土文化研究会	
無形民俗	那珂郡美和村民俗調査報告	1979	茨城高等学校史学部	
無形民俗	タバコ峠民俗探訪記	1979	飯村尋道	
無形民俗	一語り継ぎたいー改訂 奥久慈の秘話（親から子へ子から孫へ）	2000	堀江文男	北富田在住の堀江氏が地域で採話した民話集
無形民俗	一語り継ぎたいー続 奥久慈の秘話（親から子へ子から孫へ）	2000	堀江文男	北富田在住の堀江氏が地域で採話した民話集
無形民俗	奥久慈の秘話（最終編）ー親から子へ、子から孫へー	2005	堀江文男	北富田在住の堀江氏が地域で採話した民話集
	小祝クラブ創設20周年記念誌 小祝の今昔	2001	小祝クラブ	小祝地区の歴史・民俗の記録
無形民俗	風流火消	2006	野上伝統文化の会	隠陽神社祭礼に出た火消行列の記録
考古	泉坂下遺跡発掘調査報告書	2011	鈴木素行編・著	
その他	大宮町の地名ー市民による旧大宮町域の地名調査の報告ー	2010	大宮郷土研究会	
	おがわの文化1~33	1965~2018	緒川郷土文化研究会	
	大宮郷土研究1~20	1997~2016	大宮郷土研究会	
	山方の歴史散歩 創刊号~11	2002~2012	山方郷土史クラブ	
有形	鎮座千二百年記念 鷲子山上神社 諸像調査報告書	2007	鷲子山上神社宮司 長倉樹	
有形ほか	鎮座千二百年記念誌 鷲子山上神社	2007	鷲子山上神社宮司 長倉樹	
名勝	「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」文化財庭園保存技術研修報告書ー岡山家住宅庭園ー	2019	文化財庭園保存技術者協議会	株式会社環境事業計画研究所
有形民俗	路傍の石仏ー一庵郷地区を歩いてー		飯村尋道	

令和2年3月現在

2. 指定文化財一覧表

No.	区分	名称	所有者・管理者	指定等年月日	所在地(旧)	備考
国指定重要文化財						
1	有形 考古資料	茨城県泉坂下遺跡出土品	常陸大宮市	H29.9.15	中富町1097-14	一括
国指定史跡						
2	記念物 史跡	泉坂下遺跡	常陸大宮市	H29.10.13	泉字坂下894ほか	
国選択無形文化財						
3	無形 工芸技術	西の内紙	個人(3名)	S52.6.1		全員故人
国登録有形文化財						
4	有形民俗 建造物	間宮家住宅主屋	個人	H15.7.1	高部	1棟
国登録有形民俗文化財						
5	民俗文化財 有形民俗	常陸大宮市及び周辺地域の和紙生産用具と製品	(管)市歴史民俗資料館	H25.3.012	中富町1087-14	253点
茨城県指定文化財						
6	有形 建造物	鷺子山上神社本殿(附棟札2枚)随神門(附棟札1枚)	鷺子山上神社	H2.1.25	鷺子3627-1	
7	有形 彫刻	聖徳太子立像	照願寺	S33.7.23	鷺子2236	
8	有形 彫刻	木造阿弥陀如来脇侍三尊像	阿弥陀院	S47.12.18	国長833-1	
9	有形 彫刻	木造阿弥陀如来立像	常弘寺	S47.12.18	石沢1467	
10	有形 彫刻	木造聖徳太子立像	常弘寺	S47.12.18	石沢1467	
11	有形 工芸品	能面	甲神社	H4.1.24	下町221	6面
12	有形 歴史資料	佐竹義昭奉加帳	甲神社	H8.1.25	下町221	
13	有形 考古資料	坪井上遺跡出土硬玉製大珠	常陸大宮市	R1.12.26	中富町1087-14	7点
14	無形 無形	西の内紙(手漉和紙)	個人・本西の内紙保存会	個人H19.11.15登記埋蔵品 団体H25.1.21追加指定	舟生・諸沢	個人 R2.2.17死亡
15	民俗文化財7 有形民俗	西塩子の回り舞台	西塩子の回り舞台保存会	H11.11.25	西塩子	一式
16	民俗文化財8 有形民俗	ささら獅子頭	(管)市歴史民俗資料館	H16.11.25	(下町)	3点
17	記念物 天然記念物	三浦杉	吉田八幡神社	S6.12.4	小田野173	2株
18	記念物 天然記念物	鏡岩	常陸大宮市	S11.4.17	照山1586	
19	記念物 天然記念物	鷺子山上神社のカヤ	鷺子山上神社	H10.1.21	鷺子3627-1	
市指定文化財						
20	有形 建造物	諏訪神社本殿	諏訪神社	S54.9.1	高部2034	
21	有形 建造物	那賀 鹿島神社本殿	鹿島神社	S56.3.25	那賀65-1	
22	有形 建造物	稲荷山松吟寺山門	稲荷山松吟寺	S57.12.24	下町207	
23	有形 建造物	鹿嶋神社本殿	鹿嶋神社	S61.12.1	氷之沢226	
24	有形 建造物	鹿嶋神社本殿	鹿嶋神社	S61.12.1	下檜沢3621	
25	有形 建造物	満福寺薬師堂山門	満福寺	S61.12.1	上檜沢112	
26	有形 建造物	吉田八幡神社本殿	吉田八幡神社	S61.12.1	小田野173	
27	有形 建造物	善徳寺本堂	善徳寺	H3.5.1	鷺子1731	
28	有形 建造物	天満神社本殿	天満神社	H8.3.15	長倉1020	
29	有形 建造物	佐伯神社本殿	佐伯神社	H12.3.28	野口2011	
30	有形 絵画	親鸞聖人一代絵巻	照願寺	S54.9.1	鷺子2236	4巻
31	有形 絵画	板戸絵	蒼泉寺	H1.2.28	長倉1747	
32	有形 絵画	格天井の絵画	蒼泉寺	H1.2.28	長倉1747	
33	有形 絵画	釈迦涅槃図	蒼泉寺	H6.3.16	長倉1747	
34	有形 絵画	釈迦涅槃図	長源寺	H16.4.27	野田2023	
35	有形 彫刻	東正親世音像	(管)茨城県立歴史館	S50.4.10	(泉)	
36	有形 彫刻	了譽聖岡禪師座像	誕生寺	S54.5.29	上岩瀬381	
37	有形 彫刻	空智上人坐像	三浦神社	S54.9.1	小田野1732	
38	有形 彫刻	不動明王立像	三浦神社	S54.9.1	小田野1732	
39	有形 彫刻	薬師如来坐像	満福寺	S54.9.1	上檜沢112	

40	有形	彫刻	聖徳太子像(孝養像)	(管)市歴史民俗資料館	S56.5.1	(山方北皆沢)	
41	有形	彫刻	如来像	(管)市歴史民俗資料館	S56.5.1	(山方北皆沢)	
42	有形	彫刻	子安地藏尊	諸沢地区上山区	S56.5.1	諸沢上山	
43	有形	彫刻	馬頭観音木像	北野五所神社	S61.12.22	小倉10	
44	有形	彫刻	聖徳太子立像	(管)市歴史民俗資料館	H1.2.28	(野口)	
45	有形	彫刻	欄間の彫刻	蒼泉寺	H1.2.28	長倉1747	
46	有形	彫刻	江畔寺地藏菩薩坐像	江畔寺	H9.1.8	上小瀬2247	
47	有形	彫刻	狛犬	佐伯神社	H12.3.28	野口2011	
48	有形	彫刻	七面大明神	妙蓮寺	H12.3.28	松山890-1	
49	有形	彫刻	阿弥陀如来(座像)	正覚寺	H12.3.28	長倉896	
50	有形	彫刻	山車	鹿島神社	H16.8.25	野田1295	
51	有形	彫刻	木造釈迦如来坐像	市歴史民俗資料館	H24.4.25	(氷之沢)	
52	有形	彫刻	木造聖徳太子立像(南無仏太子)	市歴史民俗資料館	R1.7.5	(八田)	
53	有形	彫刻	木造狛犬	市歴史民俗資料館	R1.7.5	(長倉愛宕神社)	1対
54	有形	彫刻	木造宝冠釈迦如来坐像	(管)市歴史民俗資料館	R1.7.5	(北垣子)	
55	有形	工芸品	五輪塔	常安寺	S55.3.1	山方662	
56	有形	工芸品	刀一振	甲神社	S55.12.15	下町221	
57	有形	工芸品	剣一振	甲神社	S55.12.15	下町221	
58	有形	工芸品	鍬(兜)一具	個人	S55.12.15	北町	
59	有形	工芸品	わに口	個人	S57.2.1	国長	
60	有形	工芸品	軍記	(管)茨城県立歴史館	H23.11.25	(宇留野日向神社)	2握
61	有形	典籍	大般若波羅蜜多經	(管)市文書館	S61.12.21	(小倉)	全600巻 鉄鋼版
62	有形	古文書	検地帳	個人	H1.12.20	下檜沢	
63	有形	古文書	下檜沢宗旨御改帳	個人	H1.12.20	下檜沢	2冊
64	有形	古文書	千田御検地水帳	(管)市文書館	H13.1.31	(千田)	
65	有形	古文書	立原家文書3通・2巻	個人	R1.7.5	野上	
66	有形	考古資料	弥生時代(十王台式)壺	(管)茨城県立歴史館	S60.9.26	(小祝)	
67	有形	考古資料	弥生時代(十王台式)壺	(管)市歴史民俗資料館	S60.9.26	(小祝)	
68	有形	考古資料	硬玉製大珠	個人	H7.10.24	東富	1点
69	有形	考古資料	烙印・「丈」墨書土器	市歴史民俗資料館	H7.10.24	中富町1087-14	
70	有形	考古資料	山方遺跡出土旧石器石核石鏃	(管)市歴史民俗資料館	H23.11.25	(山方)	2点
71	有形	歴史資料	源氏系図	甲神社	S55.12.15	下町221	卷子
72	有形	歴史資料	諏訪神社棟札	諏訪神社	S61.12.1	高部2034	5枚
73	有形	歴史資料	板碑	個人	H6.3.16	野口	
74	有形	歴史資料	馬頭観音	常陸大宮市	H8.3.15	上伊勢畑1228-1	2基
75	有形	歴史資料	掛玉鯛口	(管)市歴史民俗資料館	H12.3.28	(門井)	
76	有形	歴史資料	青い目の人形(クリッシー) ※附着替え2ほか	(管)市歴史民俗資料館	H23.7.25	中富町1087-14	
77	民俗文化財	有形民俗	花立峠道標	高部地区大貝地区	S54.9.1	高部	
78	民俗文化財	有形民俗	花輪組の屋台	花輪組運営委員会	S61.12.1	鷺子2381-1	
79	民俗文化財	有形民俗	下小瀬歌舞伎舞台一式	市歴史民俗資料館	H13.1.31	(下小瀬)	
80	民俗文化財	有形民俗	門井の舞台	門井地区民俗資料保存会	H21.11.25	門井1372	一式
81	民俗文化財	無形民俗	緒川祭囃子	緒川祭囃子保存会	S57.2.1	上小瀬下郷	
82	民俗文化財	無形民俗	上岩瀬祭ばやし	上岩瀬祭ばやし保存会	S58.9.8	上岩瀬	
83	民俗文化財	無形民俗	六字様	前屋大貝六字様保存会	S59.3.24	小舟前屋・大貝	
84	民俗文化財	無形民俗	西野内祇園囃子	西野内祇園囃子保存会	S61.12.10	西野内	
85	民俗文化財	無形民俗	諸沢西金砂祭囃子		S61.12.10	諸沢	
86	民俗文化財	無形民俗	明神ばやし	明神ばやし保存会	H4.4.24	下町	
87	民俗文化財	無形民俗	鷺子祭囃子	鷺子祭囃子保存会	H15.4.24	鷺子	
88	民俗文化財	無形民俗	西金砂神社小祭礼における諸沢の祭礼習俗	西金砂神社諸沢氏子	H27.3.16	諸沢	

89	民俗文化財	無形民俗	那珂川流域を中心とした川舟の造船技術	個人	H28.12.26	長倉	
90	記念物	史跡	小祝糠塚古墳	小祝区	S51.1.31	小祝	
91	記念物	史跡	八田雷神山横穴墓	八田区	S51.5.10	八田	
92	記念物	史跡	高部景義墓	個人	S54.9.1	高部	
93	記念物	史跡	江戸新五郎墓	個人	S54.9.1	鷺子	
94	記念物	史跡	親鸞聖人見返りのさくら	照願寺	S54.9.1	鷺子2236	
95	記念物	史跡	水戸藩西郡鳥子奉行所跡	個人	S61.12.1	鷺子	
96	記念物	史跡	百観音	個人複数	H6.3.10	那賀2438ほか	
97	記念物	史跡	雪村筆洗いの池	常陸大宮市	H6.6.27	下村田	
98	記念物	史跡	山方江下山古墳	個人	H7.3.24	山方	
99	記念物	史跡	時雍館跡	常陸大宮市	H8.3.15	野口1337	
100	記念物	史跡	包塚古墳	個人	H9.1.8	那賀	
101	記念物	史跡	野田市場古墳	個人	H12.12.26	野田	
102	記念物	史跡	野口城跡	個人複数	H15.9.28	野口1198ほか	
103	記念物	史跡	長倉城跡	個人複数	H15.9.28	長倉1832-1ほか	
104	記念物	天然記念物	江畔寺のイチョウ	江畔寺	S51.2.1	上小瀬2247	
105	記念物	天然記念物	甲神社御神木	甲神社	S51.3.19	下町221	
106	記念物	天然記念物	カヤの木	蜜蔵院	S55.5.1	山方225	
107	記念物	天然記念物	二股竹	甲神社	S55.12.15	下町221	
108	記念物	天然記念物	カヤの木	個人	S56.5.1	山方北皆沢	
109	記念物	天然記念物	大げやき	個人	S56.5.12	北町	
110	記念物	天然記念物	はげの木	個人	S56.12.14	盛金	
111	記念物	天然記念物	八房梅	個人	S56.12.14	盛金	
112	記念物	天然記念物	えのみ	個人	S57.3.18	辰ノ口	
113	記念物	天然記念物	吉岡の榎	個人	S62.7.11	小瀬沢	
114	記念物	天然記念物	鹿子の木	月読神社	S63.12.1	松之草208	
115	記念物	天然記念物	鹿嶋神社の大杉	鹿嶋神社	H1.12.20	氷之沢	
116	記念物	天然記念物	諏訪神社の御神木	諏訪神社	H1.12.20	高部2034	
117	記念物	天然記念物	志殿杉	個人	H6.3.16	上伊勢畑	
118	記念物	天然記念物	漆の木	個人	H16.6.28	山方	
119	記念物	天然記念物	北富田の大漆	個人	H29.6.29	北富田	
120	有形	彫刻	木造狛犬	甲神社	R2.7.6	下町221	1対
121	有形	工芸品	銅製華鬘	阿弥陀院	R2.7.6	国長833-1	2枚
122	有形	工芸品	銅製十一面観音懸仏	桧山青山観音堂	R2.7.6	桧山	
123	記念物	天然記念物	ナウマンゾウ臼歯化石(左上顎)	市歴史民俗資料館	R2.7.6	(西塩子所賞)	
その他							
124	歴史の道百選		南郷道(和田、籠、盛金峠)		R1.10.29	野上、山方、盛金	
125	ふるさと文化財の森		家和楽漆林	(管)奥久慈漆生産組合	(申請中)	家和楽	

3. 未指定文化財調査表

地域	所属者	所在	分類	名称	員数	寸法(cm)	住所	時代	材質技法	
1	大宮	甲神社	神庫	彫刻	狛犬	2		下町219	江戸時代後期	木造 古色 彫眼 内くりなし
2	大宮	甲神社	拜殿	絵画	三歌聖図	3	内 縦 61.0 横 81.5 外 縦 69.8 横 90.3	下町219	江戸時代	木版(杉か) 彩色
3	大宮	甲神社	拜殿	絵画	三十六歌仙絵	36	四枚枠：外寸 縦64.0×横182.5 内寸 縦 56.0×42.3 (1枚) 二枚枠：外寸 縦63.0×横92.5 内寸 縦55.0×横41.5 (1枚)	下町219	江戸時代	杉板
4	大宮	東蓮院	庫裏	彫刻	菩薩立像(月光菩薩立像)	1	全高 49.0	北町127	15~16世紀	木造 古色 彫眼
5	大宮	東蓮院	本堂	彫刻	十二神符立像	12	像高 21.5前後 全高 27.0前後	北町127	江戸時代	木造 古色 彫眼
6	大宮	東蓮院	本堂	絵画	釈迦涅槃図	1	縦118.5 横132.3	北町127	明治13年(1880)	紙本 着色
7	大宮	東蓮院	本堂	書・墨書	般若心経(伝空海筆)	1	縦 22.1 横33.8	北町127	不明	紙本 墨書
8	大宮	西方寺	本堂	彫刻	阿弥陀如来三尊坐像	3	座高58.0 胸厚 19.5 膝高 48.5 頂一帯 23.0 腹厚 22.0 膝奥 48.0 面長 15.0 面幅 14.0 面奥 17.0 光背高 112.0 耳高 17.0 台座高 46.0(現状) 観音菩薩 像高37.5 全高83 勢至菩薩 像高 37.0 全高 85	北町102	室町時代後期	木造 寄木 肉身部漆箔 衣部彩色 玉眼(脇侍は漆箔)
9	大宮	西方寺	本堂	彫刻	法然上人坐像	1	座高 40.5	北町102	江戸時代	木造 寄木造 彩色 玉眼
10	大宮	西方寺	本堂	彫刻	阿弥陀如来立像	1	座高 66.0 全高109.0	北町102	江戸時代	木造 彫眼 肉身部金泥 衣部古色
11	大宮	西方寺	愛宕山堂	彫刻	勝軍地藏	5	座高(中尊)15.0 全高 26.5	北町102	江戸時代	木造 彩色 彫眼
12	大宮	西方寺	本堂	絵画	阿弥陀来迎図	1	横25.7×縦48.2	北町102	室町時代	紙本 着色
13	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(馬と雀)	1	外寸 縦72.0(最大値)×横46.3 内寸 縦70.2(最大値)×42.1 61.5(最大値)	西堀子1722	不明	
14	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(馬と波)	1	外寸 縦60.3×横90.3 内寸 縦 50.8×横80.7	西堀子1722	明治30年(1897)	
15	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(花鳥図)	1	外寸 縦 69.8×横89.7 内寸 縦 61.1×横80.0	西堀子1722	明治15年(1882)	
16	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(宇治川の先陣)	1	外寸 縦46.4×横58.4 内寸 縦 38.0×横49.5	西堀子1722	明治36年(1903)	
17	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(歌仙絵馬)	1	外寸 縦60.4×横177.8 内寸 縦 55.5×横173.0	西堀子1722	江戸時代(幕末)	
18	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(美濃鳴尊八坂大蛇退治)	1	外寸 縦60.5×横178.0 内寸 縦 55.8×横178.5	西堀子1722	江戸時代(幕末)	
19	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(歌仙絵馬)	1	外寸 縦60.3×横178.0 内寸 縦 55.4×横173.2	西堀子1722	江戸時代(幕末)	
20	大宮	羽黒鹿島神社	本殿	有形文化財	絵馬(馬と鹿)	1	外寸 縦92.5×横124.5 内寸 縦 81.3×横112.2	西堀子1722	明治33年(1900)	
21	大宮	個人蔵		絵画	松平雪江筆起江氏の肖像	1	縦102.3 横30.7	西堀子586	江戸時代後期	絹本 着色
22	大宮	法専寺	本堂	彫刻	観音聖人坐像	1	像高40.9	東野921	室町時代	木造 玉眼 肉身部古色 衣文部古色
23	大宮	法専寺	本堂	彫刻	明法房上人坐像	1	像高 46.0	東野921	室町時代	木造 玉眼 肉身部古色 衣文部古色
24	大宮	法専寺	本堂	彫刻	阿弥陀如来立像(本尊)	1	全高 69.5 像高 38.8	東野921	江戸時代初期	木造 玉眼 肉身部：金泥 布部：漆箔の上に、近代に金泥を塗る

25	大宮	法華寺	宝物殿	彫刻	阿弥陀如来立像	1	像高 65.5 胸厚9.7 頂-額11.5 腹厚 10.9 面長7.7 肘張 19.5 面幅 6.9 袖張 19.0 面高(現状) 7.4 耳張 8.6	東野921	南北朝時代末 -室町時代 (16世紀初め)	木造 前後ぼぎ 削首 玉眼 肉身部金箔 布 部漆箔
26	大宮	法華寺	収蔵庫	彫刻	聖徳太子立像(孝養 像)	1	像高 66.2	東野921	室町時代(16 世紀)	木造 彩色 彫琢
27	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	聖徳太子立像(孝養 像)	1	縦106.5 横48.8	東野921	江戸時代前期	絹本 着色
28	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	蓮如上人画像	1	縦91.9 横35.5	東野921	室町時代	絹本 着色
29	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	六字名号	1	縦89.5 横27.3	東野921	16~17世紀か	紙本に金定書きした絹 本を張り付ける(地は 紙本だが、書の部分 は絹本)
30	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	阿弥陀如来画像	1	縦116.7 横43.5	東野921	室町時代~江 戸時代初期	紙本 着色
31	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	六字名号	1	縦49.2 横22.1	東野921	江戸時代	紙本 墨書
32	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	阿弥陀如来立像	1	縦73.8 横30.7	東野921	室町時代	絹本 着色
33	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	六字名号	1	縦50.2 横22.1	東野921	江戸時代	紙本 木版
34	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	七高相御影	1	縦106.5 横48.8	東野921	江戸時代前期	絹本着色
35	大宮	法華寺	宝物殿	絵画	井内道海の図	1	縦57.5 横38.4	東野921	江戸時代	絹本着色
36	大宮	法華寺	宝物殿	書	和讃	1	(短書) 縦19.5 横15.6 (和 讃) 縦25.0 横14.7	東野921		絹本墨書
37	大宮	個人蔵	大宝院	彫刻	不動明王立像	1	像高37.0	北塚子572	江戸時代後期	木造 古色 彫琢
38	大宮	個人蔵	大宝院	彫刻	地藏菩薩半跏像	1	像高(座高)30.5 全高(頭から足 まで)37.0	北塚子572	江戸時代後期	木造 彩色 玉眼 玉 眼
39	大宮	常弘寺	本堂	彫刻	關山慈喜坐像	1	座高27.9	石沢1467	江戸時代前半	木造 杉材-木造 彫・彫彫 肉身部・彩 色 衣文部・彩色
40	大宮	常弘寺	本堂	絵画	阿弥陀如来画像	1	縦86.0×横36.5	石沢1467	室町時代(戦 国期)	絹本着色
41	大宮	常弘寺	本堂	絵画	高僧蓮坐像	1	縦77.8×横37.8	石沢1467	室町時代(戦 国期)	絹本着色
42	大宮	常弘寺	本堂	絵画	聖徳太子像(位 懸 形御影)	1	縦26.7×横10.8	石沢1467	江戸時代前期	紙本着色
43	大宮	常弘寺	本堂	絵画	六字名号(寺住 蓮 如上人筆)	1	縦25.9×横10.5	石沢1467	時代不明(近 世か)	紙本墨書
44	大宮	常弘寺	本堂	絵画	親鸞聖人画像	1	縦90.5×横45.4(現状)	石沢1467	江戸時代	絹本着色
45	大宮	常弘寺	本堂	絵画	聖徳太子(孝養)図	1	縦106.5×横45.3	石沢1467	近世後半	材質:絹本 技法: 着色
46	大宮	常弘寺	本堂	絵画	高僧蓮坐像	1	縦106.8 横45.3	石沢1467	近世後半	絹本 着色
47	大宮	常弘寺	本堂	絵画	本如上人像	1	縦106.7 横45.5	石沢1467	江戸時代後半	絹本 着色
48	大宮	常弘寺	本堂	絵画	法然上人画像	1	縦79.8 横44.2	石沢1467	江戸時代後半	絹本 着色
49	大宮	常弘寺	本堂	古文書	徳川光圀書状	1	縦18.6 横50.9	石沢1467	江戸時代	紙本 墨書
50	大宮	一心院	本堂	彫刻	阿弥陀如来坐像及び 同脇侍立像	3	座高 阿弥陀 55.3 観音56.2(現 状) 勢至 63.7	小野602	江戸時代	木造(寄木造) 玉眼 嵌入 現状の彩色後補
51	大宮	個人蔵	庭の岡	彫刻	不動明王立像	1	座高 39.5	小野685	江戸時代	木造 一木造 具墨彩 色 玉眼
52	大宮	個人蔵		書跡	大阿闍梨助言法印・黒沢 ときの俳句及び和歌	1	大阿闍梨助言法印・黒沢 及び和歌 縦82.3 横32.9 裏面に黒沢とき書状(享 永六年)あり 縦23.9 横40.0	小野685		紙本 墨書

53	大宮	個人蔵		工芸	法鏡貝	2	大 縦34.4 小縦27.4	小野685	江戸時代	
54	大宮	個人蔵		彫刻	阿弥陀如来立像	1	像高 18.6	小野689	江戸時代	木造 (一木造) 古色彫刻
55	大宮	個人蔵		古文書	六字名号地藏菩薩蓮坐像一巻 弘法大藏正教血盆疑一括	2	六字名号地藏菩薩蓮坐像一巻 縦6.9 弘法大藏正教血盆疑一括 縦7.4	小野689	大正4年(あるいは江戸時代か)	紙本 木板
56	大宮	個人管理	観音堂	彫刻	如来立像	1	像高39.7 台座高18.1	下村田	江戸時代	木造一木 彫刻 彩色
57	大宮	個人管理	観音堂	彫刻	如来坐像	1	像高(現状) 17.5	下村田	不明	木造 彫刻 素地
58	大宮	個人管理	観音堂	彫刻	誕生釈迦仏	1	全高(指先まで) 17.1	下村田	天保7年(1836)	銅造
59	大宮	個人管理	観音堂	工芸品	鏡?	1	直径 25.5 深さ6.4	下村田		銅造
60	大宮	個人管理	観音堂	工芸品	鏡	1	全高(約) 58.5 直径32.5	下村田	宝暦9年(1759)	銅造
61	大宮	個人蔵		工芸品	版木(弘道館記)	1	縦152.0 横56.7	上町367-4	近代	
62	大宮	個人蔵		工芸品	版木(朝山庵・藤田東湖書)	1	縦131.0 横35.1	上町367-4	近代	
63	大宮	高長寺	本堂	彫刻	阿弥陀如来立像	1	像高76.5 胸厚12.0 頂一帯13.5 像厚13.6 指長11.0 面幅9.5 面奥11.5 裾幅22.0 耳径11.5 台座高43.0 全高149.2	慶長918	室町時代(16世紀)	木造 漆箔 玉眼 寄木か
64	大宮	高長寺	本堂	彫刻	文殊菩薩立像	1	像高53.0 全高94.5	慶長918	江戸時代	木造 漆箔(吹き付け) 玉眼
65	大宮	高長寺	本堂	彫刻	百寶菩薩立像	1	像高 52.5 全高96.5	慶長918	江戸時代	木造 漆箔(吹き付け) 彫刻
66	大宮	高長寺	本堂	彫刻	地藏菩薩坐像(踏下像)	1	全高44.0 像高(座高) 25.5 頂一足先34.5	慶長918	江戸時代(18~19世紀)	木造 彫刻 肉身部金泥 布部漆箔
67	大宮	高長寺	本堂	彫刻	観音菩薩立像	1	全高42.5 像高(29.5)	慶長918	江戸時代中期~19世紀	木造 彫刻 肉身部金泥 布部漆箔
68	大宮	高長寺	本堂	彫刻	阿彌陀(彌室仏)	1	全高53.0 像高38.0	慶長918	江戸時代	木造 一木 内割りなし 彫刻 古色
69	大宮	高長寺	本堂	絵画	地獄図	1	縦147.9 横73.6	慶長918	近代	紙本 着色
70	大宮	小倉区	御倉	絵画	釈迦涅槃図	1	縦158.0 横131.9cm	小倉1941	享保4年(1719)	紙本 着色
71	大宮	個人蔵		書	大般若経	不明	縦26.8 横(表紙) 9.5 (一般文) 38.0	富岡242	江戸時代	紙本木板 折帖 表紙も版 紙を染めているか
72	大宮	個人蔵		彫刻	五智如来	1	全高(中央の仏像) 19.5 各尊の全高 11.0	下岩瀬121-1	江戸時代(像は元禄以前)	(像・光背) 木造 素地 (台座・雲) 木造 漆箔 (厨子) 木造 黒漆塗り 四面観音開き
73	大宮	個人蔵		絵画	釈迦十六尊神図	1	縦154.1 横98.9	下岩瀬490-1	江戸時代前半(寛政よりは前)	絹本着色
74	大宮	五大尊	本堂	彫刻	五大尊像	5	座高①不明 ②不明 ③34.7 ④40.4 ⑤35.0	下岩瀬1146-1	江戸時代前半	木造 古色 彫刻
75	大宮	五大尊	本堂	彫刻	弘法大師像	1	総高40.5	下岩瀬1146-1	江戸時代前半	木造 古色 彫刻
76	大宮	個人蔵		彫刻	投行者半跏像	1	像高39.5	下岩瀬850-1	江戸時代末期	木造 素地(彩色残る) 彫刻
77	大宮	個人蔵		書	桂昌院・明徳院位牌	1	全長48.1 横幅(最大) 16.5	上岩瀬933	宝永2年(1705)	木に漆塗り 金箔
78	大宮	誕生寺	本堂	彫刻	阿弥陀如来立像	1	像高75.2	上岩瀬381	江戸時代(元文年間か)	木造 肉身部金泥 衣部漆箔(昭和40年代の修理)
79	大宮	誕生寺	本堂	彫刻	善導上人坐像	1	座高3.8	上岩瀬381	江戸時代後半	木造 彩色 玉眼

80	大宮	誕生寺	本堂	彫刻	法然上人坐像	1	坐高39	上岩瀬381	江戸時代後半	木造 彩色 玉眼
81	大宮	誕生寺	本堂	彫刻	不動明王立像	1	全高32.5 像高26.0	上岩瀬381	江戸時代	木造 黄地 彫眼
82	大宮	誕生寺		彫刻	了誓上人坐像	1	像高40	上岩瀬381	江戸時代中期	木造 古色 玉眼
83	大宮	誕生寺	庫裏	絵画	八字名号	1	縦33.3 横11.1	上岩瀬381	不明	紙本 墨書
84	大宮	誕生寺	庫裏	絵画	八字名号	1	縦23.2 横9.2	上岩瀬381		紙本 墨書
85	大宮	誕生寺	庫裏	古文書	覚(常澄明科寄附金定書)	1	縦38.3 横53.2	上岩瀬381	嘉永7年(1854)	紙本 墨書
86	大宮	誕生寺	庫裏	古文書	了誓上人御名號寄附之事	1	縦38.3 横53.2	上岩瀬381	元文4年(1739)	紙本 墨書
87	大宮	誕生寺	庫裏	古文書	相渡中一通之事	1	縦29.9 横40.8	上岩瀬381	元文4年(1739)	紙本 墨書
88	大宮	誕生寺	庫裏	古文書	誕生寺之儀	1	縦16.8 横46.6	上岩瀬381	宝永3年(1706)	紙本 墨書
89	大宮	種生院	本堂	工芸品	銅口	1		泉76	江戸時代前半	
90	大宮	種生院	資料館	書跡	附紙金字妙法蓮華經第五卷	1	縦23.6 横法量せず	泉76	室町時代-江戸時代	紙本 金泥
91	大宮	種生院	三蔵山堂内	彫刻	三蔵法師坐像か	1	像高38 最大幅3.1 寄木造り	泉76	江戸時代	
92	大宮	種生院	三蔵山堂内	彫刻	如來立像	1	像高13 安置台の像のみ11 最大幅4.5(蓮台) 木造 一木造り	泉76	不明	
93	大宮	大宮六区(下町)	歴史民俗資料館	有形民俗資料	木造獅子頭	3頭	①高(全体)19.4 幅23.0 奥21.0 ②高(全体)16.3 幅19.5 奥17.0 ③高(全体)15.5 幅19.3 奥17.2	下町	室町時代後半	
94	山方	本泉寺	本堂	彫刻	木造唯門房坐像	1頭	像高50.0	野上	室町時代後期	寄木造 彩色(大方剥落して古色) 彫眼
95	山方	本泉寺	本堂	彫刻	木造阿弥陀如來立像	1頭	像高44.0	野上	室町時代前期	一木造 内身部金泥造り
96	山方	本泉寺	本堂	彫刻	木造如來立像	1頭	像高34.7	野上	江戸時代前期	寄木造り 漆箔 玉眼
97	山方	本泉寺	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1頭	像高12.3	野上	江戸時代後期	一木造 古色
98	山方	本泉寺	本堂	絵画	絹本着色七高僧蓮坐像	1幅	縦111.5 横51.6	野上	江戸時代末 嘉永4年(1851)	絹本着色
99	山方	本泉寺	本堂	絵画	絹本着色聖徳太子立像(孝養太子像)	1幅	縦111.8 横51.3	野上	江戸時代末 嘉永4年(1851)	絹本着色
100	山方	本泉寺	本堂	絵画	絹本着色観音聖人坐像	1幅	縦95.3 横45.2	野上	江戸時代末	絹本着色
101	山方	本泉寺	本堂	絵画	絹本着色雲梯上人画像	1幅	縦106.5 横48.2	野上	江戸時代末 嘉永4年(1851)	絹本着色
102	山方	本泉寺	本堂外	工芸品	銅梵鐘	1口	総高52.2 口径30.4	野上	江戸時代	鍍銅製
103	山方	本泉寺	本堂	古文書	紙本着書観音寺号家督願書	1幅	縦40.0 横29.7	野上	年代不詳	
104	山方	本泉寺	庫裡	歴史資料	本泉寺関係版木	7枚	縦37.0 横9.8(最大) 縦7.9 横6.0(最小)	野上	江戸時代	各一材製
105	山方	本泉寺	庫裡	歴史資料	本泉寺宝物目録版木	1枚	縦21.2 横36.0	野上	江戸時代	一材製
106	山方	山王神社	本殿覆屋	彫刻	木造風神雷神立像	2頭	像高 56.0(雷神) 54.8(風神)	山方	江戸時代前半~中期	各一木造 黄地 彫眼 眼と牙に顔彩彩色(雷神)
107	山方	山王神社	本殿覆屋	工芸品	木造龍頭	1頭	縦高22.3(現状) 面奥10.5	山方	江戸時代前半~中頃	一木造 黄地 彫眼
108	山方	諸沢上山区	阿弥陀堂	彫刻	木造弘法大師坐像	1頭	像高30.5	諸沢上山	江戸時代前期から中期	一木造 彩色 彫眼
109	山方	諸沢上山区	阿弥陀堂	彫刻	木造童子形立像	1頭	(現状) 像高15.5	諸沢上山	江戸時代後半	一木造 彩色(大方剥落) 黄地

110	山方	諸天上山区	阿弥陀堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	像高21.8	諸天上山	江戸時代中頃	一木 髹漆具彫 肉身 部漆地 衣部彩色(現 状古色) 彫痕
111	山方	諸天上山区	阿弥陀堂	絵画	厨子内部板絵(木造 阿弥陀如来像)	1面	(現状) 像高15.5 (現状) 篇幅 11.0	諸天上山	江戸時代前半	杉板上に紙貼着色
112	山方	諸天上山区	阿弥陀堂	工芸品	銅梵鐘	1口	口径29.9 高さ50.4	諸天上山	天明2年 (1782)	鉄製
113	美和	清福寺	本堂	彫刻	木造弘法大師坐像	1軀	像高37.7	下増沢	江戸時代半ば ~後半	寄木造 彩色(近年の 修理による補彩) 玉 眼(玉眼も修理か)
114	美和	清福寺	本堂	彫刻	木造興教大師坐像	1軀	像高 38.0	下増沢	江戸時代半ば ~後半	寄木造 彩色(近年の 修理による補彩) 玉 眼(玉眼も修理か)
115	美和	清福寺	本堂	彫刻	木造大日如来坐像 (金剛界大日如来)	1軀	像高(26.0) (目測)	下増沢	江戸時代半ば ~後半	寄木造か 肉身部金泥 塗 衣部漆箔(ともに 近年の修理による補 彩) 玉眼
116	美和	個人蔵		考古	三角縁神獣鏡	1面	径 10.3	上増沢850	古墳時代	銅
117	美和	個人蔵		工芸品	轆に松沢湖図刷	1面	径7.4	上増沢850	室町時代	銅
118	美和	個人蔵		考古	土俵	1個	形高11.0	上増沢850	縄文時代	
119	美和	個人蔵		考古	弥生式土器	1個	高さ 23.2 口径 13.6	上増沢850	弥生時代	
120	美和	個人蔵		考古	須恵器自然釉横瓶	1個	現状の高さ 14.0 最大径13.5	上増沢850	古墳時代	
121	美和	仲河戸地区	高部 仲河戸	絵画	紙本着色地藏菩薩並 びに十王図	11幅	縦96.0 横47.2	高部仲河戸	江戸時代中期 ~後期	
122	美和	水之沢区	鹿嶋神社 本殿	絵画	「絵馬」紙貼着色額 真経仗の図か	1面	縦60.3 横98.0	水之沢	明治時代	桐材
123	美和	水之沢区	鹿嶋神社 本殿	建造物	木造「水之沢村山願 書」銘札	1枚	縦75.2 横28.8	水之沢	江戸時代後半 から末	一材製
124	美和	善徳寺	本堂	彫刻	木造普念仏坐像	1軀	像高35.8	箕子	江戸時代初期	寄木造 肉身部彩色 (現状下地を表す) 衣部古色(ともに当初 彩色か) 玉眼
125	美和	善徳寺	本堂	彫刻	木造観賢聖人坐像	1軀	像高目測41.0	箕子	江戸時代前期 ~中期	寄木造 古色 彫痕
126	美和	善徳寺	本堂	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1軀	像高52.7	箕子	室町時代末 戦国期	寄木造 肉身部金泥塗 衣部漆箔 玉眼
127	美和	善徳寺	太子堂	彫刻	木造聖徳太子立像 (孝養太子堂)	1軀	像高101.2	箕子	室町時代末戦 国期	寄木造 彩色 肉身部 衣部ともに現状補彩
128	美和	善徳寺	太子堂	彫刻	木造聖徳太子立像	1軀	像高13.3	箕子	江戸時代半ば ~後半	一木造 古色 彫痕
129	美和	善徳寺	本堂	絵画	紙本着色明和上人坐 像	1幅	目測 縦106.0 横48.0	箕子	江戸時代末期	
130	美和	善徳寺	本堂	絵画	紙本着色聖徳太子立 像(孝養太子像)	1幅	縦102.0 横48.2	箕子	明治時代	
131	美和	善徳寺	本堂	絵画	紙本着色浄土七高僧 蓮坐像	1幅	縦101.5 横47.6	箕子	明治時代	
132	美和	善徳寺	本堂	工芸品	銅梵鐘	1口	口径34.0 高さ54.0	箕子	元文2年 (1737)	鉄製
133	美和	熊鷹寺	本堂	彫刻	木造念佛屋坐像(熊 鷹寺開基)	1軀	像高57.8	箕子	江戸時代初め	一木造 現状古色(当 初彩色) 彫痕
134	美和	熊鷹寺	本堂	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1軀	(目測) 像高78.0	箕子	鎌倉時代末か 南北朝時代	寄木造 漆箔 玉眼
135	美和	熊鷹寺	本堂	彫刻	木造冥顕道尊者坐像 (伝)	1軀	(現状) 像高68.7	箕子	室町時代	一木造 漆地 彫痕
136	美和	熊鷹寺	本堂	絵画	紙本着色聖徳太子立 像(孝養太子堂)	1幅	縦109.5 横49.7	箕子	江戸時代後半	
137	美和	熊鷹寺	本堂	絵画	紙本着色蓮和上人坐 像	1幅	(目測) 縦115 横56	箕子	明治時代	

138	美和	龍眼寺	本堂	工芸品	銅製花瓶	1対	高さ30.6 口径29.5	簗子	江戸時代後半	
139	美和	龍眼寺	本堂	工芸品	銅梵鐘	1口	高さ52.5 口径 30.5	簗子	江戸時代中頃	銅製
140	美和	龍眼寺	本堂	工芸品	鍍宝珠	6個	高さ31.0 最大径14.7	簗子	明治時代	銅製
141	美和	小田野区	三浦神社	彫刻	木造如来立像	1尊	像高68.0	小田野	平安時代12世紀前半	一木造 当初の彩色が現状大方剥落して黄地彫痕
142	美和	小田野区	三浦神社	彫刻	木造仏像残部	1拵		小田野	室町時代か	
143	美和	小田野区	三浦神社	工芸品	木造春日彫子	1基	全高113.0	小田野	室町時代前半	
144	美和	小田野区	三浦神社	工芸品	大般若經	1括	縦26.2	小田野	江戸時代前半	紙本版本
145	緒川	歴史民俗資料館(大岩区旧蔵)	大宮館	工芸品	銅梵鐘	1口	総高60.3 口径32.5	大岩	元禄9年(1696)	銅製
146	緒川	大岩地区	大岩公民館	絵画	紙本着色地蔵菩薩半跏像	1幅	縦60.7 横29.4	大岩2088	江戸時代後半～末	
147	緒川	西横地区	代表者宅	絵画	紙本着色地蔵菩薩半跏像	1幅	縦28.8 横12.4	上小瀬	江戸時代末～明治	版本
148	緒川	西横地区	代表者宅	絵画	紙本着色地蔵菩薩並びに十王図	11幅	(地蔵) 縦82.0 横33.6 (十王図) 縦82.5 横33.6	上小瀬	江戸時代後半～末	
149	緒川	市教委	緒川総合センター	工芸品	銅双雀籠文敷	1面	径9.7	上小瀬1259	室町時代	銅製 柄を亀形に表す
150	緒川	市教委	緒川総合センター	工芸品	銅杖杖柄籠	1面	径15.3	上小瀬	江戸時代中頃から後半	銅製 「天下一言文作」の銘あり 稍欠失
151	緒川	個人蔵		書部	紙本書 漢詩藤田東湖等	1幅	縦1m20.8 横56.0	上小瀬5185	江戸時代後半	
152	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高25.8	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 古色 彫痕
153	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造如来坐像	1尊	像高 16.6	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 古色(当初彩色か) 彫痕
154	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高 13.3	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 古色 彫痕
155	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造如来立像	1尊	像高8.4	国長834	室町時代末～江戸時代初め	一木造 漆箔(大方剥落し古色) 彫痕
156	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	総高17.2	国長834	室町時代	一木造 黄地 彫痕が全体に磨滅甚し
157	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高 18.9	国長834	江戸時代前半	一木造 黄地 彫痕 両手首・両足先各欠失
158	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高 18.4	国長834	江戸時代前半	一木造 黄地 彫痕 両手首・両足先各欠失
159	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造如来立像	1尊	像高15.6	国長834	江戸時代前半～中頃	一木造 肉身部漆箔 衣部漆箔。彫痕
160	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造釈迦如来坐像	1尊	像高 23.6 総高35.7	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造(岩座・蓮華座・本体と共彫り) 彩色(大方剥落) 彫痕
161	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造聖徳太子立像(孝養太子像)	1尊	像高39.9	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 漆箔 彫痕
162	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造不動明王立像	1尊	像高40.5	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 彩色(剥落多し) 面部を削いで玉眼(玉眼欠失)
163	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高47.2	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 肉身部漆箔 衣部古色(共に大方剥落して黄地) 彫痕
164	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高42.5	国長834	室町時代末～江戸時代初め	一木造 彩色(大方剥落して黄地) 彫痕
165	緒川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1尊	像高42.2	国長834	室町時代末(戦国期)	一木造 彩色(大方剥落して黄地) 彫痕 両手首・両足先各欠失

166	麓川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造菩薩立像	1躯	現状像高35.6	国長834	室町時代末 (戦国期)	一木造 彩色(大方割落して素地)彫刻
167	麓川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造毘沙門天立像	1躯	像高60.7	国長834	室町時代後半	一木造 彩色(大方割落して素地)彫刻
168	麓川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	1躯	像高22.8	国長834	江戸時代初め ～前半	一木造 肉身部金泥塗衣部古色(当初彩色か)面部を削いで玉眼
169	麓川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造薬師如来坐像	1躯	像高12.8	国長834	室町時代末 (戦国期)	彩彫・蓮華座・本体共彫り 彩色(割落して古色)彫刻
170	麓川	阿弥陀院	本堂	彫刻	木造如来坐像	1躯	像高19.9	国長834	室町時代後半	一木造 古色(当初彩色か)彫刻
171	麓川	阿弥陀院	本堂	絵画	紙本着色釈迦涅槃図	1幅	縦1m19.4 横71.4	国長834	江戸時代前半 ～中頃	
172	麓川	阿弥陀院	本堂	絵画	紙本着色十王図	10幅	各縦80.4 各横34.8	国長834	江戸時代後半	
173	麓川	阿弥陀院	本堂	工芸品	銅板華鬘	1面	径23.4 縦(吊環つき)24.2	国長834	室町時代末 永禄12年 (1569)	銅板切り出し 各吊環付き 紙止め
174	麓川	阿弥陀院	本堂	工芸品	銅板華鬘	1面	径23.3 縦(吊環つき)24.4	国長834	室町時代末 元亀4年 (1573)	銅板切り出し 各吊環付き 紙止め
175	御前山	檜山地区	妙蓮寺	絵画	紙本着色釈迦涅槃図	1幅	縦201.5 横139.7	檜山	幕末	紙本着色
176	御前山	檜山地区	妙蓮寺	工芸品	金銅板製御幣	1基	現状総高60.0	檜山	江戸時代後半	金銅板製
177	御前山	檜山地区	妙蓮寺	古文書	寺名木札	1枚	縦23.0 横66.1	檜山	江戸時代後半	木製
178	御前山	檜山地区	妙蓮寺	彫刻	釈迦・多宝如来并坐像(三尊本尊)	2躯	釈迦像高18.0 多宝像高17.4	檜山	江戸時代後半	各寄木造 漆箔 玉眼
179	御前山	檜山地区	妙蓮寺	彫刻	木造 日蓮聖人坐像	1躯	像高42.5	檜山	幕末	寄木造 彩色 玉眼
180	御前山	檜山地区	妙蓮寺	彫刻	木造鬼子母神立像	1躯	像高36.5 全高47.2	檜山	江戸時代後半 ～末	一木造 極彩色 面部玉眼はめ込み
181	御前山	檜山地区	妙蓮寺	彫刻	木造日蓮上人坐像	1躯	像高21.3	檜山	江戸時代半ば ～後半	寄木造 彫箔 彩色
182	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	木造大元修理菩薩坐像	1躯	目測 像高45.0	長倉	江戸半ば～後半	
183	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	木造達磨大師坐像	1躯	目測 像高35.0	長倉	江戸半ば～後半	
184	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	木造堂山禪師坐像	1躯	像高43.5	長倉	江戸後半	
185	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	木造道光禪師坐像	1躯	像高41.5	長倉	江戸後半	
186	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	木造聖観音菩薩坐像	1躯	像高37.5	長倉	江戸時代前半	寄木造 肉身部金泥塗衣部漆箔 玉眼
187	御前山	善泉寺	本堂	彫刻	銅像誕生釈迦仏立像	1躯	像高12.8 総高16.9	長倉	江戸時代後半	本体 台座一併
188	御前山	善泉寺	薬師堂	彫刻	木造薬師堂如来立像	1躯	像高65.0	長倉	室町時代前半	一木造 肉身部金泥塗衣(修理時の補彩)衣部古色 彫刻
189	御前山	善泉寺	薬師堂	彫刻	木造日光菩薩立像	1躯	像高34.5	長倉	江戸時代前半	寄木造 肉身部金泥塗衣(修理時の補彩)衣部漆箔 玉眼
190	御前山	善泉寺	薬師堂	彫刻	木造如来立像	1躯	像高33.8	長倉	江戸時代前半	一木造 肉身部金泥塗衣部古色 彫刻
191	御前山	善泉寺	薬師堂	書跡	大般経全巻	3箱	縦26.7	長倉	江戸時代	紙本着色
192	御前山	善泉寺	山門	歴史資料	木造南嶽山扇額	1面	縦70 横180(目測)	長倉	江戸時代前半	
193	御前山	野口上宿区	不動尊堂	彫刻	木造不動明王及二童子立像	3躯	(像高) 不動明王75.5 持持羅童子(像高) 制住羅童子55.3	野口上宿	江戸時代後半	各一木造 極彩色(割落多し)頭部首飾を設け面部を削って玉眼

194	御前山	野口上宿区	不動尊堂	彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	像高36.5		野口上宿	江戸時代前半	一木造 黒地 彫刻 両足先欠失
195	御前山	野口上宿区	不動尊堂	彫刻	木造天部形立像	1軀	現状の像高21.0		野口上宿	江戸時代	一木造 古色 彫刻 両肘先 両足先欠失
196	御前山	野口上宿区	不動尊堂	彫刻	木造如来立像	1軀	像高16.0 全高20.7		野口上宿	江戸時代前半 ～中頃	一木造 古色 彫刻 本体・台座共彫り。左 手首欠失
197	御前山	個人蔵	命願寺	彫刻	木造不動明王立像	1軀	像高61.2		野口若宮	室町時代前半	一木造 彫刻 黒地 (当初彩色及び漆箔)
198	御前山	個人蔵	命願寺	彫刻	木造如意輪観音坐像	1軀	像高17.0		野口	江戸時代中ば ～後半	一木造 彫刻 古色 (当初彩色)
199	御前山	個人蔵	命願寺	彫刻	木造聖徳太子立像 (孝養太子像)	1軀	像高34.5		野口	江戸時代前半	一木造 彫刻 彩色
200	御前山	個人蔵	命願寺	彫刻	木造阿弥如来立像	1軀	像高31.5		野口若宮	江戸時代前半 ～中頃	一木造 漆箔 (大方割 落) 面部両耳前より 短いで玉眼
201	御前山	個人蔵	命願寺	彫刻	木造阿弥如来立像	1軀	像高48.6		野口若宮	江戸時代前半 ～中頃	寄木造 肉身部金泥塗 り 衣部漆箔 玉眼
202	御前山	個人蔵	命願寺	絵画	紙本着色観音聖人座 面像	1幅			野口若宮	江戸時代末	
203	御前山	佐伯神社		有形民 俗資料	木造天刻蓮	1面	面長39.5 面幅29.4 面高34.0		野口	江戸後半 文政 6年(1823)	一木造 朱漆塗り 鼻 先に材附ぎ付け 上下 の面に漆箔積 毛欠失
204	御前山	佐伯神社		彫刻	木造不動明王及二童 子立像	3軀	不動明王 像高42.0 持錫童子 25.3 刺多迦童子25.5		野口	江戸時代中頃 から後半	各一木作り 現状古色 (当初彩色) 面部を 短いで玉眼
205	御前山	佐伯神社		彫刻	木造水月観音菩薩坐 像	1軀	像高42.5		野口	室町時代末期	寄木造 彩色 (現状割 落して古色) 玉眼
206	御前山	佐伯神社		彫刻	木造聖徳和衣像	1軀	像高35.2 膝張28.0 膝高20.0		野口	室町時代後半 ～末	一木造 肉身部漆箔 衣部古色 (当初彩色) 彫刻
207	御前山	佐伯神社		絵画	紙本着色歡喜天立像	1軀	歡喜天全高6.0 扇子全高13.4		野口	江戸時代後半	
208	御前山	佐伯神社		彫刻	銅像誕生釈迦仏立像	1軀	像高10.7 総高現状16.5		野口	江戸時代末	台座・本体一铸
209	御前山	佐伯神社		工芸品	銅造佛鏡	1面	全長50.6 径41.5		野口	江戸時代後半	
210	御前山	市教委 郷土資料 展示室		彫刻	木造青雲金剛立像	1軀	像高現状39.7		野口	江戸時代前半 ～中頃	一木造 黒地 彫刻
211	御前山	市教委 郷土資料 展示室		彫刻	木造恵比寿・大黒天 立像	2軀	恵比寿全高21.9 大黒天全高20.0		野口	江戸時代後半	一木造 古色 彫刻
212	御前山	金井地区	薬師堂	彫刻	木造聖徳和衣坐像及 び四肘侍立像日光普 賢	3軀	木尊像高80.8 日光普賢 (現状) 37.8 月光普賢42.5		金井	江戸時代中頃 ～後半	各一木作り 黒地 (当 初彩色) 彫刻
213	御前山	金井地区	薬師堂	彫刻	木造十二神将立像	12軀	像高33.5 総高34.0		金井	江戸時代半ば ～後半	各一木造 黒地 (当初 彩色) 彫刻
214	御前山	金井地区	薬師堂	彫刻	木造誕生釈迦仏立像	1軀	像高 14.3 総高18.3		金井	江戸時代後半 から末	一木造 黒地 彫刻
215	御前山	金井地区	薬師堂	彫刻	木造菩薩立像	1軀	像高23.8		金井	江戸時代中頃 ～後半	一木造 黒地 (当初彩 色) 彫刻
216	御前山	個人管理 (子安地 蔵堂)	長源寺 (子安地 蔵堂)	絵画	紙本着色地藏菩薩並 童子図	1幅	縦123.8 横53.5		野田	江戸時代半ば ～後半	
217	御前山	個人管理	長源寺 (子安地 蔵堂)	彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	像高74.7		野田	江戸時代半ば	寄木造 玉眼 肉身部 金泥塗 衣部彩色 (髷 部分は彩色)
218	御前山	個人管理	長源寺 (子安地 蔵堂)	彫刻	木造如意輪観音坐像	1軀	現状18.3		野田	江戸時代中頃	一木造 彫刻 黒地 (当初彩色)

4. 埋藏文化財包藏地一覽表

所在地(埋藏地番号)	種別	名称	時代	所在地(埋藏地番号)	指定	状況
大宮地域						
大001	集落跡	地殿神社遺跡	縄・古・奈/平	東野字坂ノ上3081外	無	畑・神社・宅地
大002	集落跡	八幡山遺跡	縄・奈/平	小堀字稲荷森6946外	無	畑
大003	集落跡	富士山遺跡	縄	田子内町字富士山3376-1外	無	大宮高校敷地・山林
大004	集落跡	東平遺跡	縄・奈/平	上大賀字東平881外	無	畑
大005	集落跡	坪井上遺跡	縄・弥・古・奈/平	下村田字坪井2379他	無	畑・宅地・大型店舗
大006	集落跡	高ノ倉遺跡	縄・弥・古・奈/平	小野字南高ノ倉2167外	無	畑
大007	集落跡	堀中遺跡	縄・弥・古・奈/平	小坂字堀中261外	無	畑・学校敷地(大賀小学校)
大008	集落跡	関平遺跡	縄・弥・古・奈/平	若林字関平1370外	無	畑・宅地
大009	集落跡	三美中遺跡	縄・弥・古・奈/平	三美字中道755外	無	畑
大010	集落跡	廣美原遺跡	縄・奈/平	廣美字原1396外	無	畑・宅地
大011	集落跡	宮中遺跡	縄・奈/平	下町1490-1外	無	畑・宅地
大012	集落跡	三美根平遺跡	縄・古	三美字根平92外	無	畑
大013	集落跡	小野天神前遺跡	縄・弥・奈/平	小野字天神前2848-1外	無	畑
大014	集落跡	泉沢A遺跡	縄	三美字富士2342-1	無	畑
大015	集落跡	下坪遺跡	縄・奈/平	上大賀字下町676	無	山林・畑
大016	集落跡	引田遺跡	奈/平	石沢字引田前131-1	無	畑
大017	集落跡	北村田遺跡	縄・奈/平・中世	上村田字経ノ内1295-1	無	畑
大018	集落跡	曾又八田遺跡	縄・奈/平	八田字榎木田2238-1	無	畑
大019	集落跡	西坪井遺跡	弥・古・奈/平	下村田字西坪井324外	無	畑・宅地
大020	集落跡	泉沢B遺跡	縄	三美字菟田2442外	無	梅林
大021	古墳群	岩崎古墳群	古	岩崎字岩花811-1外	無	山林・墓地・宅地
大021-1	古墳	岩崎古墳群第1号墳	古	那珂郡大宮町岩崎字岩花811-1	無	宅地
大021-2	古墳	岩崎古墳群第2号墳	古	岩崎字後原851	無	墓地・原野
大021-3	古墳	岩崎古墳群第3号墳	古	岩崎字岩花935	無	畑
大021-4	古墳	岩崎古墳群第4号墳	古	岩崎字後原934	無	山林
大021-5	古墳	岩崎古墳群第5号墳	古	岩崎字後原944	無	山林・墓地
大021-6	古墳	岩崎古墳群第6号墳	古	岩崎字後原940	無	山林・墓地
大022	古墳群	糠塚古墳群	古	小祝字原道東212-14外	無	山林
大022-1	古墳	糠塚古墳群第1号墳	古	小祝字原道東212-14	無	山林
大022-2	古墳	糠塚古墳群第2号墳	古	小祝字原道東212-17	無	山林
大022-3	古墳	糠塚古墳群第3号墳	古	小祝字原180-21	無	山林
大023	古墳群	廣美古墳群	古	廣美字宮下687外	無	宅地・畑
大023-1	古墳	廣美古墳群第1号墳	古	廣美字宮下687	無	宅地
大023-2	古墳	廣美古墳群第2号墳	古	廣美字宮下704	無	畑
大023-3	古墳	廣美古墳群第3号墳	古	廣美字宮下715	無	畑
大023-4	古墳	廣美古墳群第4号墳	古	廣美字宮下806	無	畑
大024	古墳群	松吟寺古墳群	古	下町207外	無	神社境内(松吟寺・甲神社)
大024-1	古墳	松吟寺古墳群第1号墳	古	下町207	無	松吟寺境内
大024-2	古墳群	松吟寺古墳群第2号墳	古	下町221、221-1	無	甲神社境内
大024-3	古墳群	松吟寺古墳群第3号墳	古	下町208、220	無	墓地・原野
大024-4	古墳	松吟寺古墳群第4号墳	古	下町204-1	無	墓地
大024-5	古墳	松吟寺古墳群第5号墳	古	下町205	無	墓地
大024-6	古墳	松吟寺古墳群第6号墳	古	下町3962	無	墓地
大025	古墳群	富士権現古墳群	古	野中町字富士山3376-1外	無	山林・大宮高校敷地
大025-1	古墳	富士権現古墳群第1号墳	古	野中町字富士山3430	無	大宮高校敷地
大025-2	古墳	富士権現古墳群第2号墳	古	野中町字富士山3042	無	大宮高校敷地
大025-3	古墳	富士権現古墳群第3号墳	古	野中町字富士山3098-2	無	山林

大025-4	古墳	富士権現古墳群第4号墳	古	八田字若女2038-1	無	山林
大025-5	古墳	富士権現古墳群第5号墳	古	八田字坂下2041-1	無	山林
大026	古墳群	富士山古墳群	古	下村田字富士山東604外	無	山林
大026-1	古墳	富士山古墳群第1号墳 (五所見神社墓舎内)	古	上岩瀬字上富士1665	無	山林
大026-2	古墳	富士山古墳群第2号墳	古	上岩瀬字上富士	無	
大026-3	古墳	富士山古墳群第3号墳	古	下村田字東坪593-2	無	山林
大026-4	古墳	富士山古墳群第4号墳	古	下村田字東坪	無	宅地
大026-5	古墳	富士山古墳群第5号墳	古	上岩瀬字下地内	無	宅地
大026-6	古墳	富士山古墳群第6号墳	古	上岩瀬字下地内	無	宅地
大026-7	古墳	富士山古墳群第7号墳	古	下村田字富士山東604	無	山林
大027	古墳群	一輪山古墳群	古・奈/平	下村田字一輪山2350外	無	大宮工業高校敷地・山林
大027-1	古墳	一輪山古墳群第1号墳	古	下村田字一輪山	無	山林
大027-2	古墳	一輪山古墳群第2号墳	古	下村田字一輪山	無	大宮工業高校敷地
大027-3	古墳	一輪山古墳群第3号墳	古	下村田字一輪山	無	大宮工業高校敷地
大027-4	古墳	一輪山古墳群第4号墳	古	下村田字一輪山	無	大宮工業高校敷地
大027-5	古墳	一輪山古墳群第5号墳	古	下村田字一輪山	無	大宮工業高校敷地
大028	古墳群	根本古墳群	古	根本字根本上651-1	無	山林・宅地・寺域
大028-1	古墳	根本古墳群第1号墳	古	根本字根本上656-1	無	宅地
大028-2	古墳	根本古墳群第2号墳	古	根本字根本上	無	山林
大029	古墳	瀬ノ上遺跡	縄・奈/平	三美字高野戸797	無	畑
大030	集落跡・墓跡	上岩瀬富士山遺跡	弥・古・奈/平	上岩瀬字下地内589-7	無	山林
大031	集落跡	後原遺跡	縄・奈/平	岩崎字後原902-1	無	畑
大032	集落跡	宿東遺跡	弥・古・奈/平	小祝字宿東301-1	無	畑
大033	集落跡	上坪遺跡	旧・縄・奈/平	濃美字宮下814	無	畑
大034	集落跡	廣果戸内遺跡	旧・奈/平	廣果字境910	無	宅地・畑
大035	集落跡	根本遺跡	奈/平	泉字宮南809-1	無	畑
大036	集落跡	上小原遺跡	縄・奈/平	北塩子字船内168-2	無	畑・山林・宅地
大037	城館跡	前小原館跡	奈/平・中世	泉字上ノ寺76	無	境内・畑・山林・宅地
大038	城館跡	宇留野城跡	中世	宇留野字御城300-2	無	畑・山林・宅地
大039	城館跡	高ノ倉城跡	縄・古・奈/平・中世	小野字高ノ倉2320-1	無	畑
大040	城館跡	那島城跡	中世	北塩子古城116	無	学校・宅地・山林・墓地
大041	城館跡	小堀城跡	中世	小堀字本城1095	無	畑・宅地
大042	瓦葺跡	廣美瓦葺跡	奈/平	廣美字原1383	無	山林
大043	集落跡	小貝野遺跡	奈/平	北塩子字狭田1070	無	畑
大044	集落跡	大宮自然公園遺跡	縄・奈/平	石沢字原の石60-2	無	公園・畑
大045	集落跡	賀家遺跡	縄・古・奈/平	上村田字賀家1758-3	無	畑
大046	集落跡	小堀中坪遺跡	弥・奈/平	小堀字中坪5928	無	畑
大047	集落跡	小野中道遺跡	縄・弥・古・奈/平	小野字中道2934	無	畑
大048	集落跡	飯田A遺跡	奈/平	小祝字飯田1728	無	畑
大049	集落跡	三栗遺跡	縄・奈/平	若林字三栗82-1	無	畑
大050	集落跡	諏訪台遺跡	縄	廣美字諏訪台1948-1	無	運動公園・神社境内
大051	集落跡	大坂平B遺跡	奈/平	廣美字大坂平2662-1	無	畑
大052	集落跡	向山遺跡	縄・奈/平	小祝字向山1333-3	無	山林
大053	集落跡	町宮牧場内遺跡	縄	八田字貝付621	無	牧場
大054	集落跡	北平遺跡	縄・古・奈/平	若林字北平1433	無	畑
大055	集落跡	東原遺跡	縄・奈/平	東野字東原4960-1	無	畑
大056	集落跡	小中遺跡	奈/平	上村田字小中943	無	畑・宅地・グラウンド
大057	集落跡	待合遺跡	縄・奈/平	北塩子字待2193	無	畑
大058	集落跡	後田B遺跡	縄	小祝字後田1370	無	山林
大059	集落跡	赤岩遺跡	縄・弥・古・奈/平	三美字八幡701	無	畑

大060	集落跡	大迫遺跡	縄	廣瀬字大迫2700-1	無	畑
大061	集落跡	榎塚遺跡	弥・奈/平	小祝字榎塚207	無	畑
大062	集落跡	中富遺跡	縄・奈/平	中富町字西町1023-1	無	畑
大063	集落跡	塚ノ上遺跡	奈/平	八田字塚ノ上1066-2	無	畑
大064	集落跡	八田桑原遺跡	奈/平	八田字桑原949-1	無	畑
大065	集落跡	袖ヶ台遺跡	古・奈/平	袖ヶ台町3339-3	無	畑
大066	集落跡	井原松遺跡	縄・奈/平	小祝字井原松951	無	畑
大067	集落跡	原坪遺跡	縄・奈/平	小祝字原坪1066外	無	畑・宅地
大068	集落跡	石幸遺跡	奈/平	小倉字石の内1606	無	畑・宅地
大069	集落跡	台坪遺跡	奈/平	榎原字台坪883-1	無	畑
大070	集落跡	春日神社前遺跡	古・奈/平	泉字堂館825	無	畑
大071	集落跡	堂山A遺跡	弥・古・奈/平	下村田字上ノ内2179	無	畑
大072	集落跡	前三ヶ尻A遺跡	縄・奈/平	上村田字三ヶ尻1806-1	無	畑
大073	集落跡	後三ヶ尻A遺跡	奈/平	上村田字三ヶ尻1495	無	畑
大074	集落跡	後三ヶ尻B遺跡	縄・奈/平・中世	上村田字三ヶ尻1650	無	畑
大075	集落跡	熊の石遺跡	奈/平	石沢字熊の石2009-1	無	畑・宅地
大076	集落跡	額山A遺跡	奈/平	石沢字額山650-2	無	畑
大077	集落跡	額山B遺跡	縄・奈/平	石沢字額山555	無	畑
大078	集落跡	大坂平A遺跡	奈/平	廣瀬字大坂平2258-2	無	畑・山林
大079	集落跡	純賢遺跡	縄・奈/平	純賢町2980-1	無	畑・宅地
大080	集落跡	館内遺跡	縄・奈/平・中世	北畑字字館内124	無	畑
大081	集落跡	塚の内遺跡	奈/平	照田字塚の内	無	畑
大082	集落跡	廣瀬原B遺跡	奈/平・中世	廣瀬字原1265	無	畑・宅地
大083	集落跡	西沢遺跡	縄・奈/平	小祝字前林1334-3	無	畑
大084	集落跡	中丸遺跡	縄・奈/平	小祝字前林1311	無	畑・牛舎
大085	集落跡	東野仲坪遺跡	古・奈/平	東野字天神1892	無	畑
大086	集落跡	前坪遺跡	古・奈/平	若林字南平709-1	無	畑・宅地
大087	集落跡	中坪遺跡	縄・奈/平	三美字小林1024	無	畑
大088	集落跡	馬場先遺跡	縄・古・奈/平	小祝字馬場先272	無	畑
大089	集落跡	下小場遺跡	縄・奈・古・奈/平・中世・近世	小場字下小場6634	無	畑
大090	集落跡	大塚遺跡	縄・奈/平	栄町字大塚1296-1	無	畑
大091	横穴墓群	南神山横穴群	古	八田字南神山1772-11	無	山林
大092	古墳	袖ヶ台古墳	古	袖ヶ台3340-1	無	公園
大093	塚群	井原松塚群	近世	小祝字井原松951	無	山林
大094	集落跡	上塚ノ上坪井遺跡	縄・古・奈/平・中世	字畑野字上坪193	無	畑
大095	集落跡	西原遺跡	縄・奈/平・中世	八田字西原672-1	無	畑
大096	集落跡	河井台遺跡	奈/平	廣瀬字河井台2116	無	畑
大097	集落跡	田子内遺跡	奈/平	田子内町3026-8	無	畑・宅地
大098	集落跡	山根遺跡	時期不明	小倉字天神前5	無	梅林
大099	集落跡	見沼遺跡	奈/平・中世	袖ヶ台町字見沼796	無	畑・宅地
大100	塚群	菅又塚群	中世	若林字菅又1919-1	無	山林
大101	集落跡	源氏平遺跡	縄・奈/平	小野字源氏平1736	無	工場(生田遺留)
大102	集落跡	居合遺跡	奈/平	小野字居合1235-5	無	工業団地(アスク)
大103	塚群	源氏平塚群	近世	小野字源氏平1714	無	水戸支那工業団地(宇田遺留)
大104	埴輪跡	岩瀬城跡	縄・奈/平・中世	上岩瀬字御城331	無	墓地・宅地・畑
大105	集落跡	本宮遺跡	縄・古・奈/平	下岩瀬字本宮1390	無	宅地・畑
大106	古墳群	小塚新町古墳群	古	小塚字新町638	無	畑・山林
大107	塚群	念仏塚	近世	下村田字久保田168	無	畑
大108	集落跡・塚	前坪遺跡	縄・近世	若林字南平702-5	無	畑・墓地・山林
大109	塚群	唐木田二ツ塚	近世	八田字唐木田2245	無	宅地

大110	集落跡	堂山B遺跡	奈/平	下村田字芳ノ入2260	無	畑
大111	集落跡	高野A遺跡	奈/平	上村田字仲丸2083	無	畑
大112	集落跡	高野B遺跡	奈/平	上村田字仲丸2072	無	畑
大113	集落跡	古宿遺跡	縄・古・奈/平	小堀字古宿295	無	畑・宅地
大114	集落跡	小堀向山遺跡	奈/平	小堀字向山6520	無	畑
大115	集落跡	北村田B遺跡	奈/平・中世	上村田字蟹ノ内1312	無	畑
大116	集落跡	松吟寺遺跡	縄・奈/平・中世	下町字柳189	無	畑・宅地・墓地
大117	集落跡	上ノ宿遺跡	縄・奈/平	宇留野字見光前3070	無	畑・宅地
大118	集落跡	仲下遺跡	縄・古・奈/平・中世	宇留野字久弥374-1	無	畑・宅地
大119	集落跡	駄木所遺跡	奈/平	泉字駄木所303-2	無	畑
大120	集落跡	泉坂下遺跡	縄・弥・奈/平・中世	泉字坂下917-1	無	畑・水田
大121	集落跡	根木後坪遺跡	奈/平	根木字後坪618	無	畑・宅地
大122	集落跡	念仏塚遺跡	古	下村田字久保田187	無	畑
大123	集落跡	上高作遺跡	縄・奈/平	上村田字上高作361	無	畑・宅地
大124	集落跡	六丁遺跡	奈/平	石沢字六丁1575-8	無	畑
大125	集落跡	轟助下遺跡	縄	轟助字轟助下1708-1	無	畑
大126	集落跡	京塚遺跡	弥・奈/平	小沢字京塚91-1	無	畑
大127	集落跡	下地後遺跡	奈/平	上大賀字下地後83	無	畑
大128	塚群	岩花塚群	近世	飯阿郡大吉町岩崎字後原918	無	畑
大129	集落跡	岩花遺跡	奈/平	岩崎字岩花824	無	畑
大130	集落跡	仲之内遺跡	縄・奈/平・中世・近世	東野字仲ノ内1715-1	無	畑・宅地
大131	集落跡	高渡遺跡	縄・奈/平	高渡町2458	無	畑・果樹園
大132	集落跡	姥賀東遺跡	古・奈/平	姥賀町518	無	畑
大133	集落跡	北原遺跡	奈/平	岩崎字北原744	無	畑
大134	塚群	一の沢塚群	近世	三美字田倉1621-1	無	山林
大135	集落跡	河岸遺跡	奈/平	上岩瀬字岩井戸987	無	畑・宅地
大136	集落跡	上岩瀬中坪遺跡	古・奈/平	上岩瀬字中坪320	無	畑・宅地
大137	集落跡	前三ヶ京B遺跡	奈/平	上村田字三ヶ京1733-2	無	畑
大138	五塚跡	前山五塚跡	奈/平	三美字前山2285-2	無	山林
大139	横穴墓群	岩穴横穴墓群	古	八田字岩穴2033-1	無	山林
大140	塚群	三美の書鏡	中世	三美字八幡708	無	畑
大141	集落跡	泉沢C遺跡	弥	三美字泉沢2385-1	無	畑・果樹園
大142	塚群	富岡七ツ塚群	近世	富岡字上山2056-1	無	山林
大143	集落跡	八田向原 遺跡	奈/平・中世	八田字向原470-1	無	畑
大144	城跡跡	東野城跡	中世	東野字高新谷寺内2,686外	無	山林 水田 畑 宅地 墓地
大145	集落跡	石沢台遺跡	縄・奈/平・中世・近世	石沢字台1716番地1外	無	山林 畑地 宅地 道路
大146	集落跡	石沢ホリ内遺跡	縄・弥・奈/平	石沢字ホリ内1934-1外	無	畑地 宅地
大147	集落跡	根木向坪遺跡	古・弥/平 近世	根木字向坪183-1外	無	畑地 水田
大148	集落跡	小堀ヘグリ遺跡	奈/平	小堀5423番地外	無	水田 水田
大149	集落跡	小堀上平遺跡	奈/平	小堀5425番地外	無	山林
大150	集落跡	小堀仲戸遺跡	奈/平	小堀5061-1外	無	山林・畑地
大151	集落跡	小堀寺前遺跡	奈/平	小堀5165-1外	無	宅地・畑地
大152	集落跡	小堀中平遺跡	奈/平	小堀5223-1外	無	宅地・畑地
大153	城跡跡	小倉館跡	中世	小倉	無	宅地・畑地
大154	城跡跡	高渡館跡	中世	高渡町	無	宅地・畑地
大155	城跡跡	石沢館跡	中世	常陸大宮市石沢1706-3外	無	宅地・畑地・山林・自然環境
大156	集落跡	上村田江ノ上遺跡	古・奈/平	常陸大宮市上村田1402-1外	無	墓地
大157	集落跡	下村田新屋遺跡	弥・古・奈/平	常陸大宮市下村田1898外	無	神社・畑・水田・宅地
大158	生産遺跡	岩崎遺跡	近世・近代	常陸大宮市岩崎字牛壁640-2外	無	河川・河原

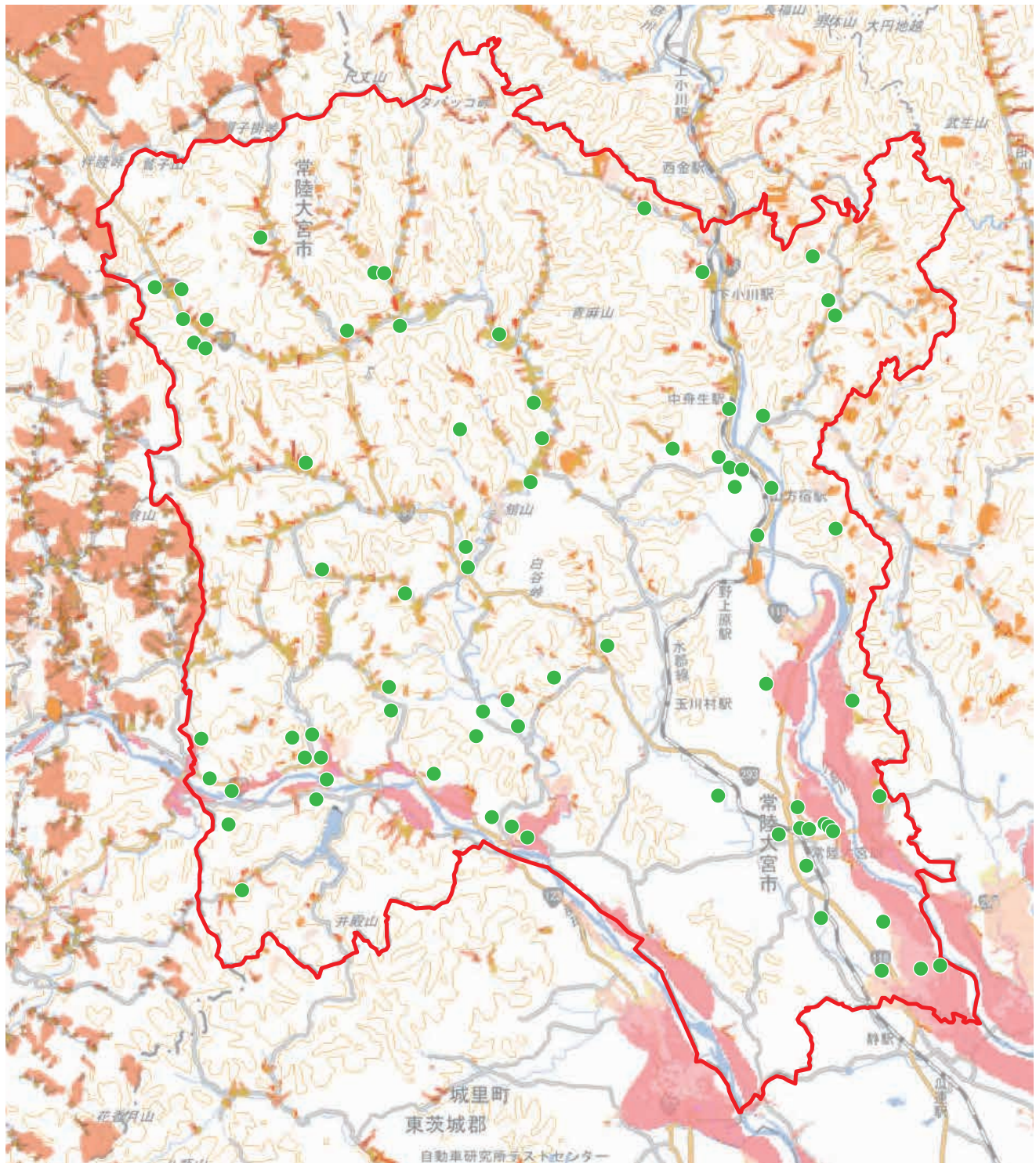
山方地域						
山001	包蔵地	小貫遺跡	縄・弥	小貫字仲合	無	畑
山002	包蔵地	西野内遺跡	縄・弥	西野内字台	無	畑
山003	塚	十三塚	中世	野上西ノ坪	無	畑・山林
山004	古墳群	南宮沢古墳群	古	山方字南宮沢	無	山林
山005	城郭跡	御城郭跡	中世	山方字館	無	畑
山006	城郭跡	竜ヶ谷城跡	中世	山方字芝	無	山林
山007	包蔵地	山方宿遺跡(中台遺跡)	弥	山方字台ノ内2,464	無	畑
山008	包蔵地	後野遺跡	縄	盛金字後野	無	畑
山009	包蔵地	小瀬遺跡	縄	舟生字小瀬	無	畑
山010	城郭跡	古館城跡	中世	西野内字古館	無	山林
山011	包蔵地	山方遺跡	旧・縄・弥	山方字駒形平	無	畑
山012	包蔵地	相付遺跡	縄	諸沢字相付	無	畑・宅地
山013	包蔵地	柳畑遺跡	縄・弥	宇家和菜字柳畑	無	畑
山014	包蔵地	芝遺跡	縄・弥	山方字芝	無	畑
山015	包蔵地	舟生間遺跡	縄・弥	舟生字西坪	無	畑
山016	包蔵地	小屋場遺跡	弥	野上字小屋場	無	畑
山017	包蔵地	元倉遺跡	縄・弥	野上字元倉	無	畑
山018	古墳	江下山古墳	古	山方3420	無	山林
山019	塚	屋塚	中世	野上字西の坪	無	山林
山020	包蔵地	古館里ノ内遺跡	縄・弥	西野内字古館	無	宅地・畑
山021	集落跡	長沢柳木倉遺跡	縄	長沢字柳木倉1038-1	無	
山022	塚群	野上行塚群	中世・近世	野上字行屋1728-5外	無	
山023	塚群	野上向大林A塚群	中世・近世	野上字向大林2242-1外	無	
山024	塚群	野上向大林B塚群	縄・中世・近世	野上字向大林2200-1外	無	
山025	包蔵地	野上向大林遺跡	縄・古・弥/平	野上字向大林2242-1	無	
山026	包蔵地	野上柳遺跡	旧・縄・古・弥/平・中世・近世	野上字柳2860	無	
山027	塚群	野上上ノ原塚群	近世	野上字上ノ原2143-1外	無	
山028	塚群	野上上町塚群	近世	野上字上町774外	無	
山029	集落跡・包蔵地	野上経塚遺跡	旧・弥/平・中世・近世	野上字経塚1250外	無	
山030	塚群	山方角ノ木戸塚群	近世	山方字角ノ木戸5731外	無	
山031	塚群	山方山口塚群	近世	山方字山口5531外	無	
山032	城郭跡	諸沢館	中世	諸沢字長久保4856-1	無	
山033	包蔵地	山方八幡平遺跡	旧	山方字八幡平	無	
山034	城郭跡	野上小屋場遺跡	中世	野上字小屋場882外	無	
山035	包蔵地	山方高山遺跡	旧	山方字高山2189-1外	無	
美和地域						
美001	包蔵地	小田野中郷遺跡	縄・弥/平・中世・近世	小田野字前平2020番地外	無	畑、宅地
美002	包蔵地	鷺子下郷遺跡	縄・中世	鷺子字清水844番地1外	無	畑
美003	包蔵地	忍野平遺跡	縄	小田野字忍野22番地外	無	学校用地
美004	包蔵地	高部字御領平	縄・弥/平・中世	高部字御領平434番地外	無	畑・原野・稲穂地
美005	包蔵地	下櫛沢遺跡	縄・中世	下櫛沢字館1800番地外	無	畑、原野
美006	包蔵地	下櫛沢遺跡	縄	下櫛沢字上左衛4,119番地外	無	畑、稲穂地、山林
美007	包蔵地	笹山遺跡	縄・中世・近世	永之沢字笹山2,927番地外	無	畑、原野
美008	包蔵地	久保遺跡	縄・中世・近世	永之沢字上久保448番地外	無	畑、山林、宅地、稲穂地
美009	包蔵地	六反遺跡	縄・中世・近世	永之沢字荒屋1523番地	無	畑
美010	包蔵地	東原遺跡	縄・弥/平・中世	下櫛沢字東原871番地外	無	畑、稲穂地、山林
美011	包蔵地	原地遺跡	縄・弥/平・中世・近世	上櫛沢字上原2,456番地外	無	畑、原野
美012	包蔵地	高岡遺跡	縄・中世	上櫛沢字高岡2184番地外	無	畑
美013	包蔵地	大坪A遺跡	縄・近世	上櫛沢字大坪652番地外	無	畑、台地

美014	包蔵地	上の台遺跡	縄、近世	上檜沢字大曲上ノ台1,310番地外	無	畑
美015	包蔵地	諏訪遺跡	縄、奈/平・中世・近世	高部字諏訪前2,038番地1外	無	畑
美016	包蔵地	花輪遺跡	縄、近世	鷺子字城地2221番地2外	無	畑
美017	城館跡	水之沢館跡	中世	水之沢字番所内入644番地外	無	山林
美018	城館跡	下檜沢館跡	中世	下檜沢字館1032番地外	無	山林
美019	城館跡	上檜沢館跡(黄書城跡)	中世	上檜沢字館234番地外	無	山林
美020	城館跡	高部館跡	中世	高部字郡山4,007番地外	無	山林
美021	城館跡	小田野館跡	中世	小田野字館内1872番地外	無	山林
美022	城館跡	河内館跡(鷺子館跡)	中世	鷺子字岡根1598番地5他	無	山林
美023	城館跡	高沢館跡(鷺子館跡)	中世	鷺子字高沢2126番地1外	無	山林
美024	包蔵地	白打遺跡	中世	鷺子字白打2756番地1	無	畑
美025	包蔵地	五科内遺跡	縄、奈/平・中世	鷺子字五科内2562番地1外	無	畑、宅地
美026	包蔵地	額月遺跡	縄、中世・近世	鷺子字額月1729番地	無	宅地
美027	包蔵地	春丸遺跡	中世	鷺子字春丸1465番地3外	無	畑
美028	包蔵地	三神館遺跡	中世	鷺子字三神館619番地外	無	畑
美029	包蔵地	柳平遺跡	縄、中世・近世	小田野字柳平2370番地1外	無	畑
美030	包蔵地	田嶋遺跡	中世	高部字田嶋2142番地1	無	畑
美031	包蔵地	大片平日遺跡	縄	上檜沢字大片平696番地外	無	畑
美032	包蔵地	坪遺跡	奈/平・近世	上檜沢字坪585番地	無	畑
美033	包蔵地	森之下遺跡	中世	下檜沢字森之下2485番地1	無	畑
美034	包蔵地	明地知遺跡	縄、中世	水之沢字明地知1358番地外	無	畑
美035	包蔵地	山口遺跡	縄、中世・近世	水之沢字山口2558番地外	無	畑
美036	包蔵地	野沢遺跡	縄、中世・近世	水之沢字野沢1805番地1	無	畑
美037	その他	鷺子館遺跡 (小戸遺跡群(行所跡))	近世	鷺子字中屋1835番地	441.13.1 村指定	山林
美038	城館跡	高部内館跡	中世	高部字内館5337外	無	
美039	城館跡	下檜沢内館跡	中世	下檜沢字上左寄77-1外	無	
龍川地域						
龍001	包蔵地	神向館内遺跡	縄	那賀字神向509、字館内548外	無	畑
龍002	包蔵地	上ノ台遺跡	縄	上小瀬字川西上ノ台2290-1外	無	畑
龍003	集落跡	本郷遺跡	縄	上小瀬字本郷仲原2800外	無	畑
龍004	城館跡	那賀城跡	中世	那賀字御城667外	無	畑
龍005	集落跡	松原遺跡	縄、奈/平	上小瀬字松原1885外	無	国立小瀬高等学校、松原、グラウンド
龍006	包蔵地	川崎遺跡	縄、古	下小瀬字川崎1229外	無	畑芝刈り場
龍007	包蔵地	国長平遺跡	縄	国長字平1238外	無	畑、池、窪地
龍008	包蔵地	堂ノ入遺跡	縄、古	国長字堂ノ入289外	無	畑
龍009	包蔵地	上の平遺跡	縄	小舟字上の平2711外	無	畑
龍010	包蔵地	四方木平遺跡	縄	上小瀬字四方木平3489外	無	畑、窪地
龍011	包蔵地	豆入平遺跡	縄	上小瀬字豆入平2687外	無	畑、びわ湖
龍012	城館跡	川崎城跡	中世	下小瀬字川崎1184外	無	畑、
龍013	城館跡	小瀬館跡	中世	上小瀬字館1259外	無	飲食センター・村立龍川中学校
龍014	城館跡	小舟城跡	中世	小舟字青山1943外	無	山林
龍015	城館跡	大岩城跡	中世	大岩字小沼向1634-1	無	山林
龍016	城館跡	小瀬城跡	中世	上小瀬字本越2248	無	山林
龍017	城館跡	高部城跡	中世	上小瀬字高部5520外	無	山林
龍018	古墳	包塚古墳	古	那賀字原沢404	無	山林
龍019	塚群	那賀川向塚群	近世	那賀字川向2438	無	
龍020	城館跡	川崎内館跡	中世	下小瀬字湖山1021外	無	
龍021	城館跡	油河内館跡	中世	油河内字松葉1056-4外	無	
龍022	城館跡	国長八幡館跡	中世	国長字八幡583外	無	

創約山地域						
御001	集落跡	大倉遺跡	旧・縄・奈/平	長倉字長倉57外	無	宅地・畑
御002	集落跡	大倉山遺跡	縄・中世	長倉104	無	畑
御003	集落跡	大沢前橋跡	縄・中世・近世	長倉689外	無	畑・宅地
御004	集落跡	北城遺跡	縄・奈/平・中世・近世	長倉814外	無	畑・宅地
御005	集落跡	張沢遺跡	縄・奈・古・奈/平	長倉893-1外	無	宅地・畑
御006	城館跡	長倉城跡	中世	長倉1832-1外	無	山林・宅地・寺域
御007	集落跡	高畑遺跡	縄	野田990外	無	畑・栗畑・宅地
御008	集落跡	市之沢遺跡	奈/平	野田555外	無	畑・宅地
御009	集落跡	長倉河原前遺跡	縄・奈/平・中世・近世	長倉1220外	無	畑・工場
御010	集落跡	横倉東遺跡	奈/平・近世	長倉1250-1外	無	畑
御011	集落跡	横倉西遺跡	縄・奈/平	長倉1422-1外	無	畑
御012	包蔵地	前原遺跡	縄・中世	長倉1450-1外	無	畑・宅地
御013	集落跡	中横倉遺跡	縄・奈/平	長倉1517-1外	無	畑・荒地
御014	集落跡	茂畑遺跡	奈/平	野田681外	無	畑・宅地
御015	城館跡	野田古城	中世	野田2431外	無	山林
御016	塚	野田市場塚	時期不明	野田445	無	墓地・原野
御017	集落跡	前原遺跡	縄・奈/平・中世・近世	野田453-1外	無	畑・宅地
御018	集落跡	網内遺跡	奈/平・中世・近世	野田1493外	無	畑
御019	集落跡	網川遺跡	縄	野田3141外	無	栗畑
御020	集落跡	上ノ内遺跡	縄・奈/平	野田1565外	無	畑
御021	集落跡	榎下遺跡	縄・奈/平・中世	長倉1303外	無	畑
御022	包蔵地	大岩寺遺跡	奈/平	長倉1788-8外	無	畑・宅地
御023	集落跡	表原遺跡	縄・奈/平・中世	中屋14-1外	無	畑・墓地・宅地
御024	集落跡	中郎遺跡	縄・奈/平	中屋373-1外	無	畑
御025	包蔵地	木和戸内遺跡	中世	中屋675-1外	無	畑
御026	集落跡	西ノ内遺跡	縄・奈/平・中世	秋田1036-1外	無	畑・宅地
御027	包蔵地	坂本遺跡	縄	秋田1158	無	畑
御028	集落跡	三尺遺跡	奈/平	秋田438-1外	無	畑・宅地
御029	集落跡	大村遺跡	奈/平	松山426外	無	畑
御030	城館跡	松山古城	中世	松山514	無	山林
御031	集落跡	卜ヶ前遺跡	縄・古・奈/平	松山116-16外	無	畑
御032	包蔵地	横峰遺跡	奈/平	松山138-1	無	畑・水田
御033	集落跡	切払遺跡	縄・中世	上伊勢畑1107外	無	畑・雑草地
御034	集落跡	志取遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑109-1外	無	畑
御035	集落跡	白馬東遺跡	縄	上伊勢畑181-11-1外	無	畑・一部宅地
御036	集落跡	白馬西遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑204-3外	無	畑
御037	集落跡	厚遺跡	縄・奈/平・中世	上伊勢畑310-2外	無	畑・一部宅地
御038	集落跡	古内遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑735-2外	無	畑・一部宅地
御039	集落跡	唐沢遺跡	縄・奈/平・中世・近世	上伊勢畑783-1外	無	畑
御040	集落跡	根引遺跡	縄・奈/平・中世・近世	上伊勢畑796外	無	畑
御041	集落跡	岩戸遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑870外	無	畑・宅地
御042	集落跡	中郎大平遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑347外	無	畑・雑草地・宅地
御043	集落跡	相川畑遺跡	縄・奈/平	上伊勢畑1518-1外	無	畑
御044	集落跡	高内遺跡	縄・奈/平・中世・近世	上伊勢畑87-2外	無	畑・宅地
御045	包蔵地	沼ノ上遺跡	奈/平	上伊勢畑271-1外	無	畑
御046	集落跡	相吉沢遺跡	縄	上伊勢畑283-1外	無	畑・宅地
御047	集落跡	西宮遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑2143-4-1外	無	畑・宅地
御048	集落跡	大沼前遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑2039-2外	無	(森)畑
御049	集落跡	大谷遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑2080-1外	無	畑
御050	集落跡	川畑遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑1977-2外	無	畑・宅地・道路

0051	包蔵地	相川小久保A遺跡	奈/平	下伊勢畑2744-1外	無	畑
0052	包蔵地	相川小久保A遺跡	奈/平	下伊勢畑2794-1	無	畑
0053	包蔵地	相川阿波ヶ峰遺跡	奈/平	下伊勢畑2853-2	無	水田
0054	生産遺跡	赤穴山相川分工場跡外1	近世	下伊勢畑2203-1	無	水田
0055	集落跡	海坂遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑760-1外	無	畑・宅地・道路
0056	城館跡	夏宮城跡	中世	下伊勢畑2355-1外	無	キャンプ場・山林
0057	集落跡	下伊勢畑・畑内遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑1040-1外	無	畑
0058	集落跡	大栗遺跡	奈/平	下伊勢畑978外	無	畑・宅地
0059	集落跡	古御所遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑267-1外	無	
0060	包蔵地	基野遺跡	奈/平	下伊勢畑231外	無	畑
0061	集落跡	中平遺跡	縄・奈/平	下伊勢畑136-1外	無	畑
0062	集落跡	秋崎遺跡	縄・奈/平	門井1349-1外	無	畑
0063	集落跡	井戸上遺跡	縄・奈/平・中世・近世	門井1212-2外	無	畑・山林・宅地
0064	集落跡	清水遺跡	奈/平	門井1276外	無	畑
0065	集落跡	森前遺跡	縄・奈/平	門井166-1外	無	畑・宅地
0066	集落跡	下平造添遺跡	奈/平	門井604外	無	畑・宅地
0067	古墳	榎内古墳	古	野口平554-1	無	畑
0068	古墳	京極内古墳	古	野口平68-1外	無	
0069	集落跡	山根遺跡	弥・古・奈/平	野口平554-1外	無	畑・宅地・道路
0070	包蔵地	片々田遺跡	奈/平	門井550-1	無	畑
0071	集落跡	中島遺跡	古・奈/平	野口平1552-2外	無	畑
0072	包蔵地	成井遺跡	奈/平	野口平1043外	無	畑
0073	集落跡	岡原遺跡	縄・古・奈/平	門井113外	無	畑・宅地
0074	集落跡	矢口遺跡	縄・奈・奈/平	野口平160外	無	畑
0075	集落跡	八幡遺跡	奈/平	野口456-1外	無	畑・宅地
0076	館跡	川野辺城跡(野口城跡)	中世	野口1211-1外	無	畑・山林
0077	集落跡	御城遺跡	奈/平	野口1211-1外	無	畑
0078	集落跡	荒遺跡	奈/平	野口1178外	無	畑・宅地
0079	集落跡	内古屋遺跡	奈/平・中世・近世	野口1331-1外	無	畑・宅地
0080	集落跡	内原遺跡	縄・古・奈/平・近世	野口1318-1外	無	畑・山林
0081	集落跡	西場遺跡	縄・古・奈/平・中世・近世	野口1900-1外	無	畑・宅地
0082	集落跡	若宮戸遺跡	縄・奈/平	野口1886-1外	無	畑
0083	集落跡	若宮遺跡	縄・奈/平	野口2271-4外	無	畑
0084	集落跡	上宿遺跡	縄・奈/平	野口1502-4外	無	畑・宅地
0085	集落跡	上川新遺跡	奈/平	野口2528-1外	無	畑・水田
0086	塚跡	高塚塚	時期不明	野口1657-1外	無	畑・宅地
0087	集落跡	津波東遺跡	縄・奈/平	野口3343-1外	無	畑・水田
0088	集落跡	津波西遺跡	縄・奈/平	野口3229-1-1外	無	畑
0089	包蔵地	畑内東遺跡	奈/平	野口3280-1外	無	畑
0090	集落跡	(畑内) 駒場遺跡	縄・奈/平	野口3615-1外	無	畑
0091	集落跡	畑内西ノ内遺跡	縄・奈/平	野口3284-1外	無	畑
0092	集落跡	金井大平遺跡	縄・奈/平	金井877-1外	無	畑
0093	塚	八幡塚	時期不明	野口地内	無	畑
0094	その他	時鐘館址	近世	野口1337	H8.3.15 指定	野口小学校用地
0095	その他	駒場の板碑	中世	野口3626-2	H6.3.16 指定	畑
0096	城館跡	野口甲館跡	中世	野口平字仲嶋456外	無	山林
0097	城館跡	遊替(鎌貝)館址	中世	長倉1572-1外	無	山林
0098	城館跡	關川館跡	中世	野田字小屋1901外	無	
0099	城館跡	大穴館跡	中世	長倉字藤部676外	無	
0100	城館跡	伊勢畑南夏宮跡	中世	下伊勢畑2419	無	

5. ハザードマップと指定文化財分布図



- (国土交通省 重ねるハザードマップに加筆)
- 指定文化財 ●
 - 土石流 ■
 - 急傾斜の崩壊 ■
 - 洪水浸水想定区域
 - 0.3m~0.5m ■
 - 1.0m~3.0m ■
 - 3.0m~5.0m ■

6. 地域計画作成に係る資料

◆作成及び認定経過

年 月 日	内 容
平成30年度	(常陸大宮市歴史文化基本構想策定に向け、常陸大宮市歴史文化基本構想策定委員会の開催及び関連調査を実施)
令和元年 8月2日	第1回常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会
9月13日	文化庁との協議(第1回)
10月10日	第2回常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会
11月27日	文化庁との協議(第2回)
令和2年 1月16日	第3回常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会
1月17日	常陸大宮市文化財保護審議会に提出、協議
1月24日	常陸大宮市教育委員会1月定例会に提出、協議
2月3日	庁議に提出、協議
2月10日～ 3月10日	パブリック・コメント実施
3月下旬以降	文化庁との協議 ※新型コロナウイルス感染拡大のためメールでの協議・指導
7月3日	常陸大宮市文化財保存活用地域計画の認定申請書提出
7月17日	文化審議会文化財分科会に諮問・答申 同日認定

◆常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱

平成31年3月29日
教育委員会訓令第2号

(設置)

第1条 文化財保護法(昭和25年法律第214号。以下「法」という。)第183条の9

第1項の規定に基づき、常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議及び検討を行う。

- (1) 法第183条の3第1項の規定に基づき作成する常陸大宮市文化財保存活用地域計画(以下「地域計画」という。)の作成及び変更に関すること。
- (2) 地域計画の実施に係る連絡調整を行うこと。

(組織)

第3条 協議会は、委員25名以内をもって組織し、次に掲げる者の中から教育長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 伝統文化に携わる者
- (3) 市民
- (4) 教育関係者
- (5) 市職員
- (6) 県職員
- (7) 文化財保存活用支援団体の代表
- (8) その他教育長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1名を置く。

- 2 会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、委員の中から会長が指名する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が必要に応じて招集し、その議長となる。ただし、委員の委嘱又は任命後最初に開催される会議は、教育長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、教育委員会事務局文化スポーツ課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営その他必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この訓令は、令和元年7月1日から施行する。

◆令和元年度 常陸大宮市文化財保存活用地域計画協議会委員

◎会長 ○副会長

選出区分	氏名	所属等
学識経験者	長谷川 幸介	県生涯学習・社会教育研究会長
学識経験者	高橋 修	茨城大学人文社会学部教授、市史編さん委員長
学識経験者	菊池 健策	東京文化財研究所客員研究員
学識経験者	川崎 純徳	市泉坂下遺跡保存活用整備検討委員会委員長
学識経験者	井坂 残米	市文化財保護審議会長
学識経験者	梶 ひろみ	茨城建築士会ヘリマネ茨城協議会県北グループ
伝統文化に携わる者	辻 徹	漆芸家
伝統文化に携わる者	大貫 孝夫	市伝統文化連絡協議会長
伝統文化に携わる者	菊池 三千春	本西の内紙保存会長
市民	龍崎 眞一	森と地域の調和を考える会代表
市民	野上 公雄	文化財展示施設整備検討委員会委員長
市民	○佐藤 隆男	市区長会長
教育関係者	後藤 孝行	市教育研究会社会科教育研究部長
教育関係者	◎上久保 洋一	前市教育長
県職員	市村 志保	教育庁総務企画部文化課長
市職員	佐藤 浩之	政策審議室政策審議監
市職員	堀江 信宏	政策審議室企画政策課長
市職員	山崎 泰光	地域創生部地域創生課長
市職員	内田 英徳	市民生活部市民協働課長
市職員	坏 裕志	産業観光部農林振興課長
市職員	河西 徹	産業観光部商工観光課長

常陸大宮市文化財保存活用地域計画

計画認定 令和2年7月17日

常陸大宮市教育委員会 文化スポーツ課

〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL.0295-52-1111(代表)

<https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>

